



日中韓近代初期文学の関連様相研究－明治小説の伝播と受容を中心に－

竇，新光

(Degree)

博士（文学）

(Date of Degree)

2019-03-25

(Date of Publication)

2021-03-25

(Resource Type)

doctoral thesis

(Report Number)

甲第7356号

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/D1007356>

※ 当コンテンツは神戸大学の学術成果です。無断複製・不正使用等を禁じます。著作権法で認められている範囲内で、適切にご利用ください。



博 士 論 文

平成 30 年 12 月 10 日

日中韓近代初期文学の関連様相研究 ー明治小説の伝播と受容を中心にー

神戸大学大学院人文学研究科

博士課程後期課程

文化構造専攻 中国・韓国文学

竇 新光

論文の内容の要旨

本論文は、日中韓三国の近代初期文学の関連様相を探るため、1895年から1919年までの中国と韓国における日本明治期小説の伝播と受容について、東アジアの視座から、比較文学の研究方法により、総合的に考察するものである。まず日中韓作品の書誌情報を全面的に調査し、明治小説の全般的な伝播状況を概観する巨視的考察を行ったうえで、代表的な四作品『不如帰』『鉄世界』『佳人之奇遇』『金色夜叉』のそれぞれの受容の様相を重点的に検討する微視的考察を行った。

第一部では、1895年から1919年にかけて中国・韓国に受容された明治小説の日本語版、中国語版、韓国語版の書誌情報に関する調査と収集を行い、初めての三国間における東アジア近代翻訳文学目録である「明治小説の中国語韓国語の翻訳・翻案作品目録（1895－1919）」を作成し（巻末附録参照）、それに基づいて明治小説の全般的な伝播状況を検討した。その統計によると、1895年から1919年までの間に中国・韓国に伝播された明治小説作品は総405点であった。そのうち、347点の明治小説が中国に受容された結果370点の中国語翻訳が出版され、120点の明治小説が韓国に受容された結果136点の韓国語翻訳・翻案が出版された。また、中国・韓国に受容された総405点の明治小説のうち、原作が日本作品であるのは約3割、西洋原作で日本語に翻訳・翻案された作品は約7割を占めていることが明らかになった。中国・韓国に受容された明治小説のジャンルは多い順に、歴史・伝記小説、探偵・裁判小説、科学・冒険小説、政治・外交小説、家庭・言情小説、戦争・軍事小説である。中国・韓国に受容された主要な明治小説の作者は、黒岩涙香、徳富蘆花、押川春浪、菊池幽芳、巖谷小波、渋江保、森田思軒、百島冷泉である。明治小説を翻訳した主要な中国の訳者は、陳景韓、包天笑、呉禱、商務印書館編訳所、梁啓超である。明治小説を翻訳・翻案した主要な韓国の訳者としては、崔南善、趙重桓、朴容喜、李相協、李海朝、玄公廉、閔濬鎬が挙げられる。また、この時期の東アジア三国間における明治小説伝播の経路は、「中国語←日本語→韓国語」、「日本語→中国語→韓国語」、「日本語→中国語」、「日本語→韓国語」の四つに分類できることがわかった。加えて、この時期の明治小説受容作品数の変遷について、中国では1898年～1901年の萌芽期、1902年～1909年の隆盛期、1910年～1919年の低迷期と推移し、韓国では1895年～1904年の萌芽期、1905年～1915年の隆盛期、1916年～1919年の低迷期と推移したことも明らかにした。

第二部では、「中国語←日本語→韓国語」の例として『不如帰』を取り上げ、中韓両国における受容の様相について考察した。『不如帰』は、徳富蘆花の代表作であり、日清戦争前後の日本社会を背景に、伝統的家族制度に翻弄された夫婦、武男と浪子の悲劇を描いた家庭小説・戦争小説である。1898年～1899年に『国民新聞』に連載され、1900年に民

友社より出版されると、明治末までに 118 刷りを記録した明治期最大のベストセラーである。『不如帰』は、20 世紀初頭の中韓両国でも大きく注目され、多様な翻訳と翻案が現れた（中国語翻訳：林紓・魏易『不如帰』1908 年、韓国語翻訳：趙重桓『不如帰』1912 年、韓国語翻案：鮮于日『杜鵑聲』1912 年、韓国語翻案：金宇鎮『榴花雨』1912 年）。近代初期の日中韓三国の読者が、武男と浪子の近代的で清純な夫婦愛に新鮮さと魅力を感じたのに加え、封建的な家族制度のしがらみに引き裂かれた二人の愛情の悲劇に深く理解・共鳴したため、『不如帰』が越境して東アジア全域で広く受容されたと推察される。一方、受容の際に発生した変容の様相も看過できない。日中韓のテキストの比較を通して、作中の日清戦争観と儒教倫理観の扱われ方に相違が存在することがわかった。特に前者の場合、中国のテキストでは「国恥」とされる日清戦争を巡って真剣な反省が付け加えられているが、韓国のテキストでは「痛史」とされる日清戦争への直視を回避するような描写がなされている。つまり、中国の訳者・読者は作中の日清戦争の叙述と戦争小説的な側面をも重要視したが、韓国の訳者・読者は作中における男女の愛情の叙述と家庭小説的な側面にのみ注目した点で受容が異なると指摘した。

第三部では、「日本語→中国語→韓国語」の例として『鉄世界』を取り上げ、日中韓の重訳に見られる受容の変遷様相について考察した。『鉄世界』は 1887 年、森田思軒がフランス作家ベルヌの原典を英語訳本から日本語に重訳した小説で、仏独戦争後にフランス人の医学士が建設した理想都市「長寿村」とドイツ人の化学士が建設した鋼鉄都市「鍊鉄村」の対立と衝突が描かれている。日本語に翻訳される際に、大幅な改変が加えられた。森田思軒はその翻訳を通して、従来の小説の陳腐さへの批判とベルヌ小説の斬新さへの称賛を展開した。このことから、『鉄世界』は日本において主に「新しい小説」、「新小説」として受容されたのである。1903 年、包天笑は『鉄世界』を日本語訳本から中国語に重訳した。包天笑は、科学文明の啓蒙と輸入という明確な目的を持ち、「科学小説」という角書（副題）を新設し、科学用語の翻訳と科学知識の伝達を重要視した。このことから、『鉄世界』は中国において主に「科学小説」として受容されたと捉えられる。一方、1908 年に李海朝は『鉄世界』を中国語訳本から韓国語に重訳した。韓国語訳『鉄世界』は、「科学小説」と標榜したものの、実のところ作中の科学知識の翻訳は積極的に行われていない。『鉄世界』は、亡国の危機感が募る日韓併合前夜の韓国において、作中の反侵略的な内容・思想の方が重要視され、主に「政治小説」として受容されたのであらうと指摘した。『鉄世界』が東アジアで三回もの重訳が行われた背景には、近代初期の日中韓三国の科学への共通の関心を反映しているが、さらなる比較の結果、日本は文学革新、中国は科学啓蒙、韓国は政治闘争の価値に注目していたという三ヶ国の着眼点の相違が明らかになった。

第四部では、「日本語→中国語」の例として『佳人之奇遇』を取り上げ、中国における受容と韓国における不受容の様相について考察した。『佳人之奇遇』は、柴四朗の自伝的

な作品で、1885 年から 1897 年にかけて全 16 巻で刊行された。憂国の志士である主人公東海散士の政治活動を叙述した作品であり、日本の国権の守衛と拡張を主張するとともに、愛国主義の精神を宣揚し、帝国主義的傾向を内包した、明治日本で最も広く読まれた政治小説である。1898 年、中国の戊戌変法に失敗した梁啓超は、日本亡命の際に『佳人之奇遇』を偶然に読み、政治小説が自国の民衆への政治啓蒙の有効な手段であるという啓発を受けてすぐ翻訳に着手すると、同年、中国語訳文を『清議報』に連載し始めた。梁啓超の中国語訳『佳人奇遇』は、作品の愛国主義の精神を優先に強調すると同時に帝国主義的な側面を弱め、中国に不利な政治見解を改削するという批判的受容を行った結果、中国で多くの読者を得た。一方、1885 年、韓国の甲申政変に失敗して日本に亡命した金玉均は、柴四朗に訪問され、『佳人之奇遇』（初編）を読んで跋文まで書いたが、政治小説を通して自国の民衆への政治啓蒙を推進することに考え至らなかった。明治政治小説のほかの代表作『経国美談』『雪中梅』が韓国語に翻訳・翻案されており、また中国語訳『佳人奇遇』を連載した『清議報』が韓国の多くの知識人に愛読されていた事実からも、『佳人之奇遇』が韓国でよく知られていたことを推知できる。加えて、本論では『佳人之奇遇』が韓国に受容されなかった理由を解明するため、開化期韓国国内の政治的状況の下、作中の主人公が日本人であり、「国賊」金玉均が肯定的に描写されており、帝国主義的な対韓策が露骨に主張されていることの敏感性を検討した。『佳人之奇遇』に対しては、中国では作品の愛国主義の側面が注目され、肯定的な認識が主流であった一方、韓国では作品の帝国主義の側面が注目され、否定的な認識が主流であったと言える。

第五部では、「日本語→韓国語」の例として『金色夜叉』を取り上げ、その韓国における受容と中国における不受容の様相について考察した。『金色夜叉』は、尾崎紅葉の代表作で、資本主義が急速に台頭する 1890 年代の日本社会を舞台に、金銭問題により別れた貫一とお宮の悲恋を描き、愛の重要性と金の虚無性を力説する家庭小説である。1897 年から 1902 年まで『読売新聞』に連載され、1898 年から巻を分けて出版され、『不如帰』と並ぶ明治のベストセラーとなった。1913 年、『金色夜叉』は趙重桓により『長恨夢』という題目で韓国語に翻案され、韓国で多くの読者の涙を誘った。日本人の貫一とお宮の物語から韓国人の守一と順愛の物語へ翻案される際、愛と金の衝突や男女の三角関係はそのまま訳されている反面、ヒロインを貞潔固守の伝統的女性へ回帰させるなど、韓国読者が受け入れやすいような改作が加えられている。筆者の調査によると、近代中国においては『金色夜叉』に関連した記録が数件しか見当たらないことから、受容に至らず冷遇されたであろうことが窺える。『金色夜叉』が近代中国に受容されなかった理由を解明するため、『金色夜叉』と当時中国で流行していた「言情小説」を比較分析し、女性像・啓蒙性・金銭問題・暴力描写などの諸側面における両者の異質性を検討した。『金色夜叉』で描かれている近代的な恋愛物語は、日本ではそれほどの抵抗感なく受け入れられた一方、韓国で

は部分的に改作されながら受け入れられ、中国では完全に受け入れられなかったという受容の「段差」が見られると指摘した。

結論部分では、近代初期の日中韓三国における文学関係の緊密性と文学交渉の活発さを再び強調し、日本・中国・韓国がその中で果たしたそれぞれの役割を評価するとともに、本研究で見えてきた中国と韓国における明治小説受容の類似点と相違点をまとめ、今後の課題を提示した。

目 録

序 論	11
1. 問題の提起	11
2. 先行研究の検討	12
3. 本研究の視点と方法	16
 第一部 日中韓作品の数値分析に見る明治小説の伝播状況	18
第1章 近代初期東アジアにおける明治小説の伝播状況の概観	18
第1節 データの把握：東アジアの視座による明治小説伝播の目録	18
1. 日本、中国、韓国学界における近代（翻訳）文学の既存の目録	18
2. 筆者による「明治小説の中国語韓国語の翻訳・翻案作品目録（1895－1919）」	21
第2節 統計的概観：総量・源流・小説ジャンル・日本作家・中韓訳者	22
1. 中韓両国に伝播された明治小説の総量と源流	23
2. 中韓両国に偏重された明治小説のジャンル	24
3. 中韓両国に重要視された明治小説の日本作者	25
4. 明治小説の受容を主導した中国と韓国の訳者	27
第3節 四つの類型：東アジアにおける明治小説伝播の展開経路	28
1. 類型①：中国語←日本語→韓国語	29
2. 類型②：日本語→中国語→韓国語	29
3. 類型③：日本語→中国語	30
4. 類型④：日本語→韓国語	30
第2章 中韓両国の萌芽・隆盛・低迷における明治小説受容の数量的推移	31
第1節 近代初期中国における明治小説受容の数量的推移	31
1. 近代初期中国における明治小説の翻訳作品の年度別一覧	31
2. 中国の萌芽期（1898～1901）、隆盛期（1902～1909）、低迷期（1910～1919）	34
第2節 近代初期韓国における明治小説受容の数量的推移	36
1. 近代初期韓国における明治小説の翻訳作品の年度別一覧	36
2. 韓国の萌芽期（1895～1904）、隆盛期（1905～1915）、低迷期（1916～1919）	38
第3節 明治小説受容の量的推移の中国韓国比較分析	40
1. 1900年代の明治小説受容：中国の迅速性と韓国の遅延性	40
2. 1910年代の明治小説受容：中国の数量激減と韓国の方向転換	42
 第二部 20世紀初頭の東アジアにおける『不如帰』の共鳴と越境	44
第1章 『不如帰』の登場と中韓両国における伝播	44
第1節 明治日本における最大のベストセラー：徳富蘆花作『不如帰』	44
1. 明治の人気作家徳富蘆花	44
2. 蘆花の代表作『不如帰』：武男と浪子の悲劇	45
3. 「明治期最大のベストセラー」の成立	47
第2節 近代中国における林紘訳『不如帰』及び反響	48
1. 林紘：清末民初の「訳界之王」	48
2. 林紘の中国語訳『不如帰』の概要	49
3. 清末中国における林訳『不如帰』の反響	50

第3節 近代韓国における『不如帰』の多様な翻訳と翻案	52
1. 趙重桓の翻訳本『불여귀 (不如歸)』	52
2. 鮮于日の翻案本『두견성 (杜鵑聲)』	54
3. 金宇鎮の翻案本『유화우 (榴花雨)』	55
第2章 日中韓における『不如帰』で現れた日清戦争観の相違	56
第1節 日本『不如帰』：日清戦争を支持・応援する日本社会像	56
1. 戦時の日本の一般大衆：想像と声援	56
2. 軍人崇拜の高まり	58
3. 前線将兵の沈勇さとユーモア精神	59
4. 戦争の暗部が隠蔽される物語構造	60
第2節 中国『不如帰』：翻訳を通じて行われる日清戦争の反省	61
1. 真相の追究：海戦過程の再現	62
2. 敗因の反省：武器・戦術・指揮	63
3. 戦後の方策の反省：軍事人材育成の提唱	66
第3節 韓国『不如帰』：日清戦争「痛史」への直面回避	67
1. 翻案本における日清戦争の背景の不在	67
2. 翻訳本における日清戦争の叙事の弱化	68
第3章 日中韓における『不如帰』で現れた儒教的倫理観の比較	70
第1節 「忠誠」の意識：中国語版と韓国語版における弱化	70
1. 国家への忠誠：「神州」の訳され方	71
2. 国君への忠誠：「天皇」の訳され方	71
第2節 「孝道」の意識：中国語版と韓国語版における強化	73
1. 「孝道」としての「職分」の強調	73
2. 「不幸」から「不孝」への改変	75
第3節 「婦道」の意識：中国語版と韓国語版における強化	77
1. 「夫属我也」の繁子への否定	77
2. 「為婦之道」の浪子への肯定	79
第三部 『鉄世界』の重訳に見る日中韓の受容の変遷	82
第1章 ベルヌ小説の移入：森田思軒の日本語訳『鉄世界』	82
第1節 明治日本の「翻訳王」森田思軒	82
1. 漢文力・英語力を磨く少年・青年期の森田思軒	82
2. 専門翻訳小説家として活躍する森田思軒	83
第2節 森田思軒訳『鉄世界』の発表及びその翻訳の底本	84
1. 新聞連載と単行本：森田思軒訳『鉄世界』の発表	84
2. 英語から日本語へ：『鉄世界』の一回目の重訳	85
第3節 森田思軒訳『鉄世界』における改削	86
1. 作品名の改変、目次の再編、挿絵の消去	86
2. 友情・愛情・家庭の不在、プロットの簡略化	89
第4節 日本『鉄世界』の性格：「新小説」としての受容	90
1. 「世間ノ群小説ガ陳々腐々相因」：従来の小説の陳腐さへの批判	90
2. 「二千年来小説天地ノ窠臼ヲ一掃」：ベルヌ小説の斬新さへの称賛	92
3. 森田思軒：『鉄世界』の翻訳者から「新小説」の命名者へ	94
第2章 科学啓蒙の重視：包天笑の中国語訳『鉄世界』	95

第1節 清末民初期中国の翻訳小説家包天笑.....	95
1. 包天笑の生涯の概観.....	95
2. 包天笑の翻訳小説の業績.....	96
第2節 包天笑訳『鉄世界』の発表及びその翻訳の底本.....	97
1. 単行本出版：包天笑訳『鉄世界』の発表と伝播.....	97
2. 日本語から中国語へ：『鉄世界』の二回目の重訳.....	98
第3節 中国『鉄世界』の性格：「科学小説」としての受容.....	101
1. 「科学小説鉄世界」：「科学小説」という角書の新設.....	101
2. 「輸入文明思想最為敏捷」：科学文明啓蒙への強調.....	102
3. 「生名詞略附小注以期醒目」：科学知識翻訳への重視.....	105
4. 「使吾国民皆有忍耻之芸術」：科学の力への崇拜.....	106
第3章 救国思想の喚起：李海朝の韓国語訳『鉄世界』.....	108
第1節 開化期韓国の新小説家李海朝.....	108
1. 李海朝の生涯の概観.....	108
2. 李海朝の創作活動と翻訳活動.....	109
第2節 李海朝訳『鉄世界』の発表及びその翻訳の底本.....	110
1. 単行本出版：李海朝訳『鉄世界』の発表と伝播.....	110
2. 中国語から韓国語へ：『鉄世界』の三回目の重訳.....	111
第3節 韓国『鉄世界』の性格：政治小説としての受容.....	115
1. 作中の科学的な要素の弱化：科学知識の消極的な翻訳.....	115
2. 作中の政治的な要素の強化：愛国主義と反侵略の精神.....	117
3. 石版画表紙に潜在する意味：危機感の伝達、救国心の喚起.....	118
4. 韓国『鉄世界』の最終的運命：日帝による「禁書」処分.....	120
第四部 『佳人之奇遇』に見る愛国主義と帝国主義の間.....	122
第1章 国権主義の宣揚：柴四朗の政治小説『佳人之奇遇』.....	122
第1節 明治の国権主義政治家柴四朗.....	122
1. 柴四朗の生涯の概観.....	122
2. 柴四朗の思想：「愛国」、「憂国」、「国権」.....	123
第2節 柴四朗の国権小説『佳人之奇遇』.....	124
1. 『佳人之奇遇』の内容：憂国の志士「東海散士」の政治活動.....	124
2. 『佳人之奇遇』の主題：国権守衛から伸張へ、「愛国主義から帝国主義へ」.....	126
第3節 明治政治小説の代表作としての成立.....	127
1. 明治日本における『佳人之奇遇』の伝播：初版・再版・通俗版.....	127
2. 明治日本における『佳人之奇遇』の反響：「洛陽紙價忽騰貴」の盛況.....	128
第2章 啓蒙の新手段：梁啓超の中国語訳『佳人奇遇』及び反響.....	129
第1節 梁啓超：清末中国の啓蒙思想家.....	129
1. 日本亡命（『佳人之奇遇』翻訳）以前の梁啓超.....	129
2. 日本滞在期（『佳人之奇遇』翻訳以後）の梁啓超.....	130
第2節 梁啓超の中国語訳『佳人奇遇』.....	131
1. 梁啓超と『佳人之奇遇』の「奇遇」：啓蒙新手段の発見.....	131
2. 批判的な受容：梁啓超訳『佳人奇遇』における改削と加筆.....	135
第3節 近代中国における梁訳『佳人奇遇』の反響.....	139
1. 近代中国における梁訳『佳人奇遇』の伝播：連載・初版・再版.....	140

2. 近代中国における梁訳『佳人奇遇』の評判：異口同音の好評	141
第3章 政治の大禁忌：近代韓国における『佳人之奇遇』の不受容	143
第1節 近代韓国人と『佳人之奇遇』の間：受容に至らない接触	143
1. 金玉均と『佳人之奇遇』の「奇遇」：「政治小説」への無感覚	143
2. 『清議報』（梁訳『佳人奇遇』登載）の近代韓国における伝播	146
3. 近代韓国における政治小説の受容：『経国美談』と『雪中梅』の場合	148
第2節 近代韓国の政治的状況と『佳人之奇遇』の不受容	151
1. 甲申政変後韓国政治の禁忌：『佳人之奇遇』で肯定的に描かれた金玉均像	151
2. 日清戦争後韓国政治の禁忌：『佳人之奇遇』の帝国主義的な対韓策	153
第五部 『金色夜叉』における近代的恋愛物語の日中韓の段差	158
第1章 明治のベストセラー：尾崎紅葉の『金色夜叉』の大衆的人気	158
第1節 文豪の大作『金色夜叉』の登場	158
1. 尾崎紅葉：硯友社の主将・総帥、明治の文豪	158
2. 紅葉文学の集大成『金色夜叉』：貫一とお宮の悲恋	159
3. 『金色夜叉』の主題：「愛」の重要性和「金」の虚無性の力説	160
第2節 近代日本における『金色夜叉』の大衆的成功	162
1. 連載時の盛況：読者たちの熱狂	162
2. 単行本の刊行：繰り返される重版	163
3. 演劇化の推進：日本全土への拡散	164
4. 『金色夜叉』の絵、歌謡、映画	165
第2章 感涙の名作の成立：趙重桓の韓国語翻案『長恨夢』の成功	166
第1節 翻案者趙重桓の業績と翻案作『長恨夢』の内容	166
1. 趙重桓：韓国初の専門翻案作家、明治家庭小説の受容の主導者	166
2. 『長恨夢』翻案の動機（「精神的食糧」を）と原則（「朝鮮のもの」へ）	168
3. 『長恨夢』翻案における踏襲（大筋・骨格）と改作（貞潔固守・大団円）	171
第2節 近代韓国における『長恨夢』の伝播と反響	173
1. 『長恨夢』の発表と伝播：多様なジャンルによる拡散	173
2. 『長恨夢』の評判と反響：感涙の名作の成立	175
第3章 言情小説との異質性：近代中国における『金色夜叉』の不受容	177
第1節 近代中国人と『金色夜叉』：受容に至らなかった接触の記録	177
1. 康有為：清末における紅葉作品の流入（1897年）	177
2. 呉禱：中国初の紅葉作品の翻訳（1906年）	178
3. 陸鏡若：受容に至らなかった『金色夜叉』上演（1910年）	179
4. 周作人：中国初の『金色夜叉』の紹介（1918年）	180
5. 豊子愷：中国初の『金色夜叉』の閲読記録（1921年）	181
第2節 言情小説との異質性：『金色夜叉』の近代中国における不受容の理由	181
1. 清末民初期中国における言情小説の繁栄	182
2. 中国言情小説と『金色夜叉』の女性像：「賢妻良母」への提唱と背戾	183
3. 中国言情小説と『金色夜叉』の啓蒙性：「自由結婚」の追求と「悪果」	184
4. 『金色夜叉』と中国言情小説の金銭観：金銭問題の強調と不在	185
5. 『金色夜叉』と中国文学の暴力描写：男が女を殴る場面の注目と違和感	186
結 論	189

参考文献	195
附録：「明治小説の中国語韓国語の翻訳・翻案作品目録（1895-1919）」	215

序 論

1. 問題の提起

19 世紀末期から 20 世紀初期にかけた東アジアの日本・中国・韓国では、翻訳文学運動が展開され、世界文学の自国への移入が盛んに行われていたことはよく知られている。当時の日本と西洋、中国と西洋、韓国と西洋の間の文学関係は、それぞれ 3 国の学界で重要な関心事として研究されてきた。しかし、この時期の東アジア内部の文学関係、即ち日中韓三国の文学がお互いにどのような交渉状況と影響関係にあったのかは、まだ十分に論じられていないと言えよう。

日清戦争（1894－1895）以後、自国の危機を痛感した中韓両国の知識人たちは、明治維新の成功と日清戦争の勝利を収めて「先進国」として東アジアで浮上した日本の強大さを認識し、救国と民衆啓蒙のために、各分野の日本語書籍の翻訳を開始・推進した。そのうち、文学（特に小説）の政治的・社会的効用に注目が集まり重要視されていた。1870 年代後半からいち早く西洋文学を摂取した日本は、1890 年代後半の中韓両国にとって、世界文学受容の重要な窓口・近道と見なされるようになった。地理的位置関係に加えて、漢字という共通の言語がそれを容易にしたのであった。

韓国は 1895 年『유옥역전』(訳者不明)¹を、中国は 1898 年『佳人奇遇』(梁啓超訳)²を起点として、日本から文学（小説）作品を受け入れ始めた。明治小説³、即ち明治期（1868－1912）の日本で発表された小説作品（日本人の創作作品と日本語訳の西洋作品）は、翻訳や翻案⁴を通して、清朝末期・中華民国初期の中国と旧韓末期・日帝統治初期の韓国

¹ 日本語底本：井上勤訳、『全世界一大奇書：原名アラビヤナイト』、東京：報告堂、1884 年。

² 日本語底本：柴四朗著、『佳人之奇遇』、東京：博文堂、1885 年－1897 年。

³ 本研究で使用している用語「明治小説」は、明治時代（1868－1912）の日本で発表された日本語の小説を指す表現であり、厳密な学術的概念・用語ではない。また、本研究の「明治小説」は、日本人が創作した日本小説のみならず、日本人が翻訳・翻案した西洋小説をも含めている。「明治小説」の表現を使用した主な論著を挙げると、つぎのようなものがある。魚返善雄、「稗史小説と明治小説」、『国文学解釈と鑑賞』15(5)、1950 年 5 月；柳田泉、「明治小説のモデルについて」、『国文学解釈と鑑賞』15(7)、1950 年 7 月；吉田精一、「明治小説の展望」、『明治大正文学研究』(5)、1951 年 4 月；佐伯彰一、「小説概念の変化—明治小説の獲得と喪失」、『国文学解釈と鑑賞』25(1)、1960 年 1 月；木村毅、「明治小説の雌蕊・尾崎紅葉の金銭感覚」、『国文学：解釈と鑑賞』31(1)、1966 年 1 月；村中淑子、「明治小説にみる京方言：清水紫琴「心の鬼」(明治 30 年)を資料として」、『現象と秩序』(2)、2015 年 3 月；杉原志啓著、『波瀾万丈の明治小説』、東京：論創社、2018 年 6 月；夏曉虹、「梁啓超与日本明治小説」、『北京大学学報（哲学社会科学版）』1987 年第 5 期、1987 年；高西峰、「中日近現代小説中知識分子的自我救贖——明治小説与「五四」小説比較」、『貴州社会科学』2015 年第 2 期、2015 年。

⁴ 翻訳と翻案は、外国文学を受け入れる際の二つの基本的方法である。翻案は、原作の大筋を移植しながら、主人公と舞台を自国人と自国に置き換える点で翻訳と区別され、翻訳と創作の中間の形態であると考えられる。「翻訳」と「翻案」の用語は、研究者の異なる観点により使用され、また曖昧に使用されることが多く、現在はまだ統一されていない状況であるが、本研究では明確に区分して使用したい。本研究は、混乱を避けるため、原作の主人公と舞台を自国人と自国に置き換えた場合だけを「翻案」とし、

に数多く伝播・受容され、中韓両国に多大な影響を与えた。そして 1919 年前後¹には、中国と韓国における近代文学の成立及び翻訳文学理念の成熟などにより、両国における日本（語）文学の受容は新たな段階に転換していく。従って、1895 年から 1919 年までは、20 世紀中国と韓国における日本（語）文学受容の重要な初期段階と見なすことができよう²。

この期間に、明治小説が翻訳や翻案を通して中国と韓国に大量に伝播・受容された第一の要因は、中韓両国からの留学生の増加、日本語に通じる翻訳人員の増加であると言える。それを取り巻くところの交通機関、印刷技術、ジャーナリズム（新聞・雑誌）、出版業などの社会情勢の進化も、言うまでもなく見逃してはならないことである。日本から中韓への小説作品の伝播は、近代初期における東アジアの文学交流の主流と特徴であった。

本研究は、1895 年から 1919 年にかけて中国と韓国における明治小説の伝播・受容を対象とし、日中韓三国の近代初期文学の関連様相（関連性・共通性・異質性）を探ることを目的としている。

2. 先行研究の検討

近代初期の中国と韓国における明治小説の伝播と受容、日中韓近代初期文学の關係に関する先行研究は、主に日中や日韓の二国の視点から行われてきた。

日中二国の視点からの近代初期（清末民初）中国における明治小説の伝播・受容に対する研究は、長い期間多数の日中比較文学の研究者により為され、既に多く蓄積されている。王曉平著『近代中日文学交流史稿』（長沙：湖南文芸出版社、1987 年）は、初めて日中近代文学交流の歴史を体系的に論述した先駆的な研究書である。その後中国で出版された日中近現代文学關係の研究書は、張福貴・靳叢林著『中日近現代文学關係比較研究』（長春：吉林人民出版社、1999 年）、王向遠著『二十世紀中国的日本翻譯文学史』（北京：北京師範大学出版社、2001 年）、方長安著『選択・接受・転化：晚清至 20 世紀 30 年代初中国文

以外の場合を全て「翻訳」とする。特に、自国の読者が覚えやすいように原作の外国人主人公に自国風の名前を付け、ただ人名を変えた場合について、主人公・舞台の自国人・自国への置き換えが実に発生していないため、筆者はそれを「翻案」ではなく、（初期段階の未熟な）「翻訳」と見なす。まだ検討する余地があるが、本研究では「翻訳」と「翻案」の使用についてこのような分け方で統一させている。

¹ 1919 年は、中国と韓国の近現代翻訳文学史においてよく大きな分水嶺と転換点とされる。例えば、郭延礼氏は中国「近代翻訳文学の萌芽期・発展期・隆盛期」を、金秉喆氏は韓国「開化期の翻訳文学・「泰西文芸新報」までの翻訳文学」を、1919 までと同様に規定している。

郭延礼、『中国近代翻訳文学概論』、武漢：湖北教育出版社、1997 年、p22；金秉喆、『韓國近代翻譯文學史研究』、서울：乙酉文化社、1975 年、p10。

² 王向遠氏は、20 世紀中国における日本文学翻訳の歴史について、「清末民初の日本文学翻訳（1898～1919）」、「二十・三十年代の日本文学翻訳（1920～1936）」、「戦争時期の日本文学翻訳（1937～1949）」、「建国後三十年間の日本文学翻訳（1949～1978）」、「改革開放以後の日本文学翻訳（1979～2000）」と五つの段階に分け、1919 年以前の清末民初期を一つ目の段階と規定している。また、「五四（1919 年）前後は、20 世紀中国文学の重要な転換点であるのみならず、中国の日本文学翻訳の重要な転換点でもある」と指摘している。

王向遠、『二十世紀中国的日本翻譯文学史』、北京：北京師範大学出版社、2001 年 3 月、p41。

学流変与日本文学関係』(武漢：武漢大学出版社、2003年)、王志松著『小説翻訳と文化建構：以中日比較文学研究為視角』(北京：清華大学出版社、2011年)などがある。日本でも、齋藤希史著『漢文脈の近代：清末＝明治の文学圏』(名古屋：名古屋大学出版会、2005年)、康東元『日本近・現代文学の中国語訳総覧』(東京：勉誠出版、2006年)などの重要な著作がある。しかし上記の研究書では、大体19世紀後半から20世紀前半ないし後半にかけての長い範囲を取り扱っており、近代初期(清末民初)の状況についてはその一部として取り扱われている。李艶麗著『晚清日語小説訳介研究(1898－1911)』(上海：上海社会科学院出版社、2014年)は、1898年戊戌変法から1911年辛亥革命までという清朝最後の14年間に絞り、この時期の中国における日本語小説(日本語創作小説と日本語訳西洋小説)の翻訳について詳しく考察している。梁艶著『清末民初における欧米小説の翻訳に関する研究－日本経由を視座として－』(福岡：花書院、2015年)は、清朝末期・民国初期を取り扱い、中国における日本語訳西洋小説の重訳について数名の西洋作家の作品を中心に考察した。日本学者樽本照雄氏は、清末民初期中国の翻訳小説の日本語底本を多く考証・究明し、その成果を収めた彼の『清末民初小説目録』¹と一連の論文²は、この領域の研究に大きな貢献をした。また、そのほかの研究者による研究論文も多く見られ³、清末民初期中国における明治小説翻訳の研究は活発に行われてきた。

日韓二国の視点からの近代初期(開化期・旧韓末期・日帝統治初期)韓国における明治小説の伝播・受容に対する研究は、多くの日韓比較文学の研究者により進められてきた。金秉喆氏は、『韓國近代翻譯文學史研究』(서울：乙酉文化社、1975年)で、近代韓国の多くの翻訳小説の日本語底本について膨大な資料調査を通して考証・究明し、後続の研究の基礎を築いた。その後、翻案小説も対象に加えられ、近代初期韓国における明治小説の伝播・受容の研究は深化してきた。その代表的な博士論文・単行本研究書には、慎根梓著『韓日 近代文學의 比較研究』(서울：一潮閣、1995年)、韓光洙の『日本近代小説の韓国における翻案に関する研究：『己が罪』『金色夜叉』『捨小舟』について』(日本専修大学博士論文、1995年)、布袋敏博(ほか)著『近代朝鮮文学における日本との関連様相』(東

¹ 樽本照雄編、『清末民初小説目録』、清末小説研究会・中国文芸研究会、1988年(初版)。初版後は補完されつつ、2002年に『新編増補清末民初小説目録』と題して中国の齊魯書社より出版され、2018年にネットで第10版(電子版)が公開されている。清末民初中国小説の研究分野で広く注目されてきた欠かせない重要な文献である。

² 例えば、樽本照雄、「清末民初の翻訳小説——付：日本語経由の欧米漢訳小説一覧」、『大阪経大論集』第47巻第1号(通巻第231号)、1996年5月15日；樽本照雄、「包天笑翻訳原本を探求する」、『清末小説から』第45号、1997年4月1日；樽本照雄、「魯迅「造人術」の原作」、『清末小説』第22号、1999年12月1日；樽本照雄、「航海少年」原作探索」、『清末小説から』第59号、2000年10月1日；樽本照雄、「清末民初の翻訳小説と日本」、『図説翻訳文学総合事典』第5巻、東京：大空社・ナダ出版センター、2009年11月などある。

³ 例えば、王凌、「晚清日本文学翻訳論考」、『日本文学刊』(05)、1986年；康東元、「清末における日本近代文学作品の翻訳と紹介：日本文芸の中国における受け入れ方(1)」、『図書館情報メディア研究』第2巻第1号、2004年；付建舟、「清末民初日語文学的漢訳与中国文学的現代転型」、『外国文学評論』(04)、2009年などある。

京：緑蔭書房、1998年）、金順植著『韓日 近代小説의 比較文學的 研究』（서울:태학사、1998年）、金允植著『韓日 近代文學의 關聯樣相 新論』（서울:서울大學校出版部、2001年）、洪善英の『越境する人と文化：一九一〇年代の韓国における日本文学・演劇と「翻案」』（日本筑波大学博士論文、2002年）、大村益夫著『朝鮮近代文学と日本』（東京：緑蔭書房、2003年）、朴珍英著『翻譯과 翻案의 時代』（서울:昭明出版、2011年）、權丁熙著『『호토토기스』의 變容:日本과 韓國에서의 텍스트의 “翻譯”』（서울:昭明出版、2011年）、권문경の『구로이와 루이코（黒岩淚香）의 受容과 1910年代 韓國의 翻案小説』（韓國仁荷大學校博士論文、2014年）などある。朴珍英氏は、韓国 1900年代～1910年代の翻訳・翻案小説を体系的に論述する上記の著書『翻譯과 翻案의 時代』のほか、『翻案小説語辭典』（서울:現實文化、2008年）を編集し、『一齋 趙重桓 翻譯小説 不如歸』（서울:報告社、2006年）、『韓國의 翻案小説（全 10 卷）』（서울:現實文化、2007年）、『新文館 翻譯小説 全集』（서울:소명出版、2010年）など、日本語から翻訳・翻案された韓国近代初期の多くの小説作品のテキストに対して現代韓国語の校閲・出版を行い、この分野の文献整理及び研究に大きく貢献した。また、近年は翻訳・翻案小説のケーススタディー論文も持続的に出現している。

以上の日中や日韓二国視点からの研究は、現在までの近代初期の東アジア文学関係研究の慣例・主流となってきたと言える。その研究成果は、第三の国の伝播状況が看過されているが、東アジア（日中韓）の幅広い視座から明治小説の伝播・受容をより立体的に考察するのに重要な参考資料となると思われる。

日中韓三国の視点、即ち東アジアの全体的視点からの近代初期における明治小説の伝播と受容の研究は、早い時期に偶に概論的に提起されることがあったが¹、長い間重要視されず、その本格的な成果は 20 世紀末・21 世紀初頭になってから現れたのである。

1999 年、松尾洋二は、「梁啓超と史伝—東アジアにおける近代精神史の奔流」²という論文で、中国梁啓超により執筆された西洋人物題材の 3 種の歴史・伝記小説が日本語から翻訳され、また韓国語に重訳された様相について検討し、明治小説伝播の研究の東アジア（日中韓）の視座を初めて示した。2003 年、權보드래は、「韓國・中國・日本의 近代的文學概念 및 文學語 形成 (1) —小説『不如歸』의 創作 및 翻譯・翻案 樣相을 中心으로」³という論文で、徳富蘆花の『不如歸』の中国における林紓の翻訳本と韓国における鮮于日の翻案本を同時に視野に入れて検討し、この領域の初期の成果を出した。

¹ 例えば、金允植・金炫共著『韓國文學史』（1973年初版）の第3章第5節「開化期小説」で、「日本と中国での小説の変遷の過程を同時に把握しなければならない」と指摘された。金允植・金炫共著、『韓國文學史』, 서울:民音社, 2008 年版, p158。

² 松尾洋二、「梁啓超と史伝—東アジアにおける近代精神史の奔流」、狭間直樹編『梁啓超：西洋近代思想受容と明治日本』、東京：みすず書房、1999 年。

³ 權보드래, 「韓國・中國・日本의 近代的文學概念 및 文學語 形成 (1) —小説『不如歸』의 創作 및 翻譯・翻案樣相을 中心으로」, 『大東文化研究』(42), 2003 年。

その後、日中韓三国を全て視野に入れて明治小説の伝播を研究する論文は散見されてきた。例えば、三枝壽勝の「쥘 베른(Jules Verne)의 『십오소호걸(十五小豪傑)』의 翻譯 系譜—文化的 受容과 變容—」(『사이(SAI)』第4號、2008年)、田島哲夫の「〈國恥傳〉原本 研究—『日本政海新波瀾』,『政海波瀾』, 그리고〈國恥傳〉간의 比較를 中心으로—」(『現代文學의 研究』第40號、2010年)、강현조의「翻譯小説 『紅寶石』 研究: 日本小説『新聞賣子』 및 中國小説『電術奇談』과의 聯關性을 中心으로」(『國語國文學』第159號、2011年)、윤영실의「東亞細亞 政治小説의 한 樣相: 『瑞士建國志』 翻譯을 中心으로」(『상허學報』第31號、2011年)、文大一の「中韓政治小説訳介的異同: 以中韓訳本『經国美談』比較為中心」(『東方論壇』第6号、2012年)、강현조의「韓國 近代 初期 翻譯, 翻譯小説의 中國, 日本文學 受容 樣相 研究: 1908年 및 1912-1913年の 單行本 出版 作品을 中心으로」(『現代文學의 研究』第46號、2012年)、徐黎明の「翻譯・政治・政治小説: 略論『瑞士建國志』在東亞的翻譯与伝播」(『翻譯史研究』第5輯、2015年)、孫成俊の「近代 東亞細亞의 愛國談論과 『愛國精神談』」(『概念과 疏通』第16號、2015年)などが出ている。

特に2012年、盧連淑のソウル大学博士学位論文『20世紀初 韓國文學에서의 政治敍事 研究: 韓・日・中에 流通된 텍스트를 中心으로』¹と孫成俊の成均館大学博士学位論文『英雄敍事의 東亞細亞 受容과 重譯의 原本性: 西歐 텍스트의 韓國的 再脈絡化를 中心으로』²は、近代初期東アジア全域で流通していた政治小説と歴史・伝記小説について詳しく考察し、この研究領域の重要性を浮き彫りにするのに大きな意味を持つ成果である。また、田明の「愛國啓蒙期 中譯本政治小説의 韓國的 變容樣相—玄公廉의 『回天綺談』과 『經国美談』을 中心으로」(仁荷大學校碩士論文、2012年)、柴琳の「日本政治小説『經国美談』在中韓兩國的接受」(山東大学碩士論文、2017年)など数種の修士論文も出されている。この領域の単行本研究書はまだ見られない。

日中韓三国の視点から明治小説の近代初期における伝播・受容を考察する研究は、その歴史が比較的短く、最近20年、特に最近10年間、集中的に増えてきたのである。この間に出現した上述の約20本の論文からは、この研究領域の重要性・必要性・可能性・

¹ この博士学位論文の一部として発表された論文は、次のようになっている。盧連淑, 「20世紀初 東亞細亞에 流通된 『經国美談』 比較考察: 玄公廉의 『經国美談』을 中心으로」, 『語文研究』37(4), 2009年; 盧連淑, 「20世紀初 東亞細亞 政治敍事に 나타난 「愛國」의 樣相」, 『韓國現代文學研究』(28), 2009年; 盧連淑, 「20世紀初 韓中日 政治敍사와 近代의 政治的想像 (1): 韓中日에 通用된 시바시로(柴四郎)의 텍스트를 中心으로」, 『韓國現代文學研究』(33), 2011年; 魯連淑, 「20世紀初 韓中日에 通用된 政治的 텍스트의 屈折 樣相 考察-시부에 다모즈(澁江保)의 텍스트를 中心으로-」, 『國際語文』(53), 2011年12月。

² この博士学位論文の一部として発表された論文は、次のようになっている。孫成俊, 「國民國家와 英雄敍事: 『伊太利建國三傑傳』의 서발동작(西發東着)과 그 意味」, 『사이間 SAI』(3), 2007年11月; 孫成俊, 「近代 東亞細亞의 크롬웰 變奏: 英雄 談論, 英國 政體, 프로테스탄티즘」, 『大東文化研究』(78), 2012年6月; 孫成俊, 「英雄敍事의 東亞細亞的 再脈絡化: 코슈트진(傳)의 地域間 意味 偏差」, 『大東文化研究』(76), 2011年12月。

将来性が確認できる。しかし、現在までの研究は、日中韓三国の近代初期文学の関連性・類似性・相違性を把握するのに十分とは言えない。研究の数量が少ないのは言うまでもないが、未だに検討されていない重要な作品も多く残っているのである。さらに、先行研究は殆ど日中韓三国における共通の作品、日本から中国にも韓国にも伝わった作品のみ注目されており、日本から中国に伝わったが韓国に伝わらなかった、或いは韓国に伝わったが中国に伝わらなかった作品に関する比較考察は全くなされていない。先行研究は断片的であり、個別的な作品に対する研究が多く、底本・訳本関係の確認やテキストの対照など基礎的な研究にとどまる場合も多い。日中韓三国の視点からのこの分野の研究の殆どが韓国と中国の学界で行われており、残念ながら日本の学界では同様な研究が殆ど見られない状況である¹ことを付け加えておきたい。

3. 本研究の視点と方法

本研究は、上述した先行研究の成果を受け入れたうえで、近代初期の中国・韓国における明治小説の伝播・受容に対して、東アジア（日中韓）の視点から、比較文学の研究手法で、全面的で総合的に、さらに詳しく深く考察を行うものである。筆者が究極的に目指すのは、明治小説の伝播・受容の過程に見られる日中韓近代初期文学の関連性・共通性・相違性を探究することである。

本研究は、日中韓三国を念頭に、これまで個別に研究されてきた中国における明治小説受容と韓国における明治小説受容を同時に視野に入れ、それぞれの様相を対照・比較するものである。本論文は、比較文学の諸研究方法（伝播考証・影響分析・比較考察など）を総合的に運用する。日本語原作について検討したうえで中国・韓国における伝播・受容を考察し、原文と訳文の対照、訳者の意図、読者の反応、伝播の範囲、受容の様相、変容の様相、中国と韓国の比較などを重要視する。現在までの研究で手を付けられていない「未翻訳」「不受容」の現象に対する検討も試みる。

本研究は、巨視的考察と微視的考察に分けて論述する。巨視的考察では、作品情報を全面的に調査し、この時期の明治小説の全般的な伝播状況を検討する。微視的考察では、数種の代表的な作品を選定し、それぞれの伝播・受容の過程を詳しく追跡する。

後述するが、筆者は近代初期の東アジアにおける明治小説の伝播・受容について、その展開の経路により、「中国語←日本語→韓国語」、「日本語→中国語→韓国語」、「日本語→中国語」、「日本語→韓国語」という四つの類型に分類している。このような四つの類型を

¹ 明治文学に対する日本の学界での比較文学的な研究は、主に西洋文学から受けた影響を中心になされており、同時代の中韓文学に与えた影響については比較的疎略にされてきたと言えよう。従って本研究を日本で行うことは意義あると考えられる。

基本にして、日本の創作作品と日本語訳の西洋作品を含めること、できるだけ多様なジャンル（政治小説・科学小説・家庭小説・戦争小説など）と多様な日本作家の作品を扱うこと、当時における影響力が比較的に大きかった作品であること、1900年代中国・韓国に受容された作品と1910年代中国・韓国に受容された作品を含めること、翻訳作品も翻案作品も取り扱うこと、先行研究で考察の余地を大きく残していることなどを総合的に兼ね合い、最終的に『不如帰』『鉄世界』『佳人之奇遇』『金色夜叉』という四つの作品を選んだ。この四つの代表的な作品に対する重点的な考察を通して、近代初期中国・韓国における明治小説の伝播・受容の様々な側面の問題に触れて検討することができると思われる。

本研究は、次のような体系を設定し、具体的に論述を展開していきたい。第一部「日中韓作品の数値分析に見る明治小説の伝播状況」では、1895年から1919年にかけて中国と韓国に受容された明治小説の日本語版、中国語版、韓国語版の書誌情報を徹底的に調査・収集し、「明治小説の中国語韓国語の翻訳・翻案作品目録」を作成し、それに基づき、明治小説の全般的な伝播状況（作品の総量と源流、小説のジャンル、主要な日本作者と中韓訳者、経路の類型、受容作品数の推移・変遷など）について検討する。第二部「20世紀初頭の東アジアにおける『不如帰』の共鳴と越境」では、「中国語←日本語→韓国語」類型に属する『不如帰』（徳富蘆花作、1898—1899）という家庭小説・戦争小説の中国・韓国受容の様相を重点的に考察する。中国における翻訳本（林紓『不如帰』1908年）、韓国における翻訳本（趙重桓『不如帰』1912年）と翻案本（鮮于日『杜鵑声』1912年、金宇鎮『榴花雨』1912年）を紹介し、三国のテキストの比較を行い、作中の日清戦争観と儒教倫理観の相違について検討する。第三部「『鉄世界』の重訳に見る日中韓の受容の変遷」では、「日本語→中国語→韓国語」類型に属する『鉄世界』（森田思軒訳、1887年）というベルヌ小説の日本・中国・韓国受容の様相を重点的に考察する。日本森田思軒の訳本『鉄世界』（1887年）、中国包天笑の訳本『鉄世界』（1903年）、韓国李海朝の訳本『鉄世界』（1908年）のお互いの底本関係を確認し、それぞれの受容の性格について検討する。第四部「『佳人之奇遇』に見る愛国主義と帝国主義の間」では、「日本語→中国語」類型に属する『佳人之奇遇』（柴四朗作、1885年—1897年）という政治小説の中国受容の様相と韓国不受容の様相を考察する。梁啓超の中国語翻訳『佳人奇遇』（1898年—1900年）について詳しく検討し、『佳人之奇遇』が韓国でどのくらい知られていたかを調査し、韓国に受容されなかった理由を分析してみる。第五部「『金色夜叉』における近代的恋愛物語の日中韓の段差」では、「日本語→韓国語」類型に属する『金色夜叉』（尾崎紅葉作、1897年—1902年）という家庭小説の韓国受容の様相と中国不受容の様相を考察する。趙重桓の韓国語翻案『長恨夢』（1913年）について詳しく検討し、さらに『金色夜叉』の中国での認知度を調査し、中国に受容されなかった理由を分析してみる。結論の部分では、本論の各部分から得た観点たちを総括し、今後続けて研究すべき課題を提示する。

第一部 日中韓作品の数値分析に見る明治小説の伝播状況

本部では、1895年から1919年まで中韓両国に受容された明治小説の日本語版、中国語版、韓国語版の基本情報について全面的な調査と収集を行ない、その結果として筆者により作成された「明治小説の中国語韓国語の翻訳・翻案目録（1895－1919）」に基づき、そこから算出されたデータを分析し、明治小説の全般的な伝播状況を把握していく。

第1章 近代初期東アジアにおける明治小説の伝播状況の概観

本章は、近代初期東アジアにおける明治小説の全般的な伝播状況について、データ分析を通して概観する。日中韓作品の情報収集の方法と過程を紹介した上で、どれほどの明治小説が中韓両国に受容されたのか、どのような明治小説が中韓両国に受容されたのか、どのような日本作家が多く選ばれたのか、どのような訳者が明治小説受容を主導したのか、明治小説の伝播が三ヶ国間でどのような経路で展開されたのかに対して、主として数量的分析をしていきたい。

第1節 データの把握：東アジアの視座による明治小説伝播の目録

1. 日本、中国、韓国学界における近代（翻訳）文学の既存の目録

日本の学界では、明治時代の文学作品と西洋文学の翻訳作品に関する統計作業が積極的に行われてきた。その成果には、村上浜吉編『明治文学書目』（1976年）¹、早稲田大学図書館編『明治期刊行物集成（文学・言語編）総目録』（1996年）²、木村毅・斉藤昌三編『西洋文学翻訳年表』（1933年）³、柳田泉編『明治初期翻訳文学年表』（1935年）⁴、国立国会図書館編『明治・大正・昭和翻訳文学目録』（1959年）⁵、田熊渭津子編「明治

¹ 村上浜吉編、『明治文学書目』、東京：鳳書房、1976年。

² 早稲田大学図書館編、『明治期刊行物集成（文学・言語編）総目録』、東京：雄松堂、1996年。

³ 木村毅・斉藤昌三編、『西洋文学翻訳年表』、東京：岩波書店、1933年。

⁴ 柳田泉編、『明治初期翻訳文学年表』、東京：春秋社、1935年。

⁵ 国立国会図書館編、『明治・大正・昭和翻訳文学目録』、東京：風間書房、1959年。

翻訳文学年表」(1972 年)¹、川戸道昭編『明治期翻訳文学総合年表』(2001 年)²、川戸道昭・榊原貴教編「明治期の訳者別翻訳年表」(2009 年)³などがある。明治文学の中国への伝播状況をまとめたものも少数ながら存在する。実藤恵秀編『中訳日文書目録』(1945 年)⁴は、20 世紀前半、「文学・語学」を含めた十一部門の日本書籍の中国語訳単行本を対象に、日本著者名・中国語訳書名・中国人訳者名・発行所・刊行年・定価などの書誌情報を収録している。樽本照雄編『清末民初小説目録』(1988 年初版～2018 年第 10 版)⁵は、清末民初期の中国小説を全面的に網羅する集大成の目録であり、日本語から訳出された翻訳小説である場合、その日本語底本について貴重な提示を加えている。康東元編『日本近・現代文学の中国語訳総覧』(2005 年)は、20 世紀における日本文学の中国語翻訳作品の書誌情報を収録したものである。近代韓国への明治文学の伝播状況を統計する目録は、日本の学界には未だ出現していないようである。

中国の学界では、近代小説と翻訳小説に関する統計作業が重要視され、積極的に行われてきたと言える。その主な成果には、孫楷第編『中国通俗小説書目』(1933 年)⁶、阿英編『晚清劇曲小説目』(1954 年)⁷、賈植芳・俞元桂編『中国現代文学総書目』(1993 年)⁸、王継統・夏生元編『中国近代小説目録』(1998 年)⁹、劉永文編『晚清小説目録』(2008 年)¹⁰、劉永文編『民国小説目録』(2011 年)¹¹、鄧集田編「晚清民国時期文学書籍出版情況表(1902－1949)」(2012 年)¹²、北京図書館編『民国時期総書目(外国文学巻)』(1987 年)¹³などがある。また、2002 年に齊魯書社から出版された日本学者樽本照雄の『新編増補清末民初小説目録』¹⁴は、集大成の成果として中国学界の注目を受けている。日本

¹ 田熊渭津子編、「明治翻訳文学年表」、木村毅編『明治翻訳文学集』、東京：筑摩書房、1972 年。(巻末に収録)

² 川戸道昭編、『明治期翻訳文学総合年表』、東京：大空社、2001 年。

³ 川戸道昭・榊原貴教編、「明治期の訳者別翻訳年表」、『図説翻訳文学総合事典』、東京：大空社・ナダ出版センター、2009 年。(第 4 巻の巻末に収録)

⁴ 実藤恵秀編、『中訳日文書目録』、東京：国際文化振興會、1945 年。

⁵ 樽本照雄編、『清末民初小説目録』、清末小説研究会・中国文芸研究会、1988 年初版。この目録は、初版後に補完されつつ、2002 年に『新編増補清末民初小説目録』と題して中国で出版され、2018 年にネットで第 10 版(電子版)が公開されている。

⁶ 孫楷第編、『中国通俗小説書目』、北平国立北平図書館、1933 年；北京作家出版社、1957 年。

⁷ 阿英編、『晚清劇曲小説目』、上海：文藝聯合出版社、1954 年。

⁸ 賈植芳・俞元桂編、『中国現代文学総書目』、福州：福建教育出版社、1993 年。

⁹ 王継統・夏生元編、『中国近代小説目録』、南昌：百花洲文芸出版社、1998 年。

¹⁰ 劉永文編、『晚清小説目録』、上海：古籍出版社、2008 年。

¹¹ 劉永文編、『民国小説目録』、上海：古籍出版社、2011 年。

¹² 鄧集田編、「晚清民国時期文学書籍出版情況表(1902－1949)」、鄧集田著『中国現代文学出版平台(1902－1949)：晚清民国時期文学出版情況統計与分析』、上海：上海文芸出版社、2012 年。

¹³ 北京図書館編、『民国時期総書目(外国文学)』、北京：書目文献出版社、1987 年。

¹⁴ 樽本照雄編、『新編増補清末民初小説目録』、済南：齊魯書社、2002 年。

文学の翻訳作品を対象にした目録には、つぎのようなものがある。譚汝謙編『中国訳日本書総合目録』（1980年）¹は、「文学類」を含め、1660年から1978年にかけての数世紀間の日中両国間の各分野の書籍翻訳の書目を収録している。東北師範大学外国問題研究所日本文学研究室編「五四運動以来日本文学研究与翻訳目録」（1982年）²は、五四運動（1919年）以後の中国における日本文学研究と翻訳作品を収録している。王向遠著『二十世紀中国的日本翻訳文学史』（2001年）の巻末に収められている「二十世紀中国的日本文学訳本目録（1898-1999）」³は、20世紀（1898-1999）中国における日本文学の翻訳作品の単行本を扱い、日本作家名・中国語訳本名・中国人訳者名・出版社・出版年などの書誌情報を収録している。李艶麗著『晚清日語小説訳介研究（1898-1911）』（2014年）の巻末に収められている「晚清日語小説翻訳書目録（1898-1911）」⁴は、「晚清中国における日本語小説の翻訳作品合計201種を網羅的に収録したもので、中国語訳本のみならず、日本語底本ないし西洋の原典の情報まで提示しており、同分野の研究者にとっては大いに参考価値がある」⁵資料である。

韓国の学界では、近現代小説の書誌情報を網羅する成果として、河東鎬編「開化期小説의 書誌的 整理 및 調査」（1977年）⁶、金允植編『韓国現代文学年表（1900-1987）』（1988年）⁷、權寧珉編『韓国現代文学作品年表（1894-1975）』（1998年）⁸、宋河春『韓国近代小説辞典（1890-1917）』（2015年）⁹などが挙げられる。韓国近代の翻訳小説に対する調査と統計は、その先駆者ともいえる金秉喆の功績が大きい。金秉喆が編著した「西洋文学翻訳年表（1895-1950）」（1975年）¹⁰、『西洋文学翻訳論著年表（1895-1945）』（1978年）¹¹、『韓国世界文学文献書誌目録総覧（1895-1987）』（1992年）¹²、『世界文学翻訳書誌

¹ 譚汝謙編、『中国訳日本書総合目録』、香港：香港中文大学出版社、1980年。

² 東北師範大学外国問題研究所日本文学研究室編、「五四運動以来日本文学研究与翻訳目録」、『日本文学』創刊号、1982年。

³ 王向遠編、「二十世紀中国的日本文学訳本目録（1898-1999）」、王向遠著『二十世紀中国的日本翻訳文学史』、北京：北京師範大学出版社、2001年。（巻末に収録）

⁴ 李艶麗編、「晚清日語小説翻訳書目録（1898-1911）」、李艶麗著『晚清日語小説訳介研究（1898-1911）』、上海：上海社会科学院出版社、2014年。（巻末に収録）

⁵ （拙稿）寶新光、「書評：李艶麗著『晚清日語小説訳介研究（1898-1911）』」、『日本研究』第54号、2017年5月、p243。

⁶ 河東鎬、「開化期小説의 書誌的 整理 및 調査」、『東洋學』（7）、1977年。

⁷ 金允植、『韓国現代文學年表（1900-1987）』、서울:文學思想社、1988年。

⁸ 權寧珉、『韓国現代文學作品年表（1894-1975）』、서울: 서울大學校出版社、1998年。

⁹ 宋河春、『韓国近代小説辭典（1890-1917）』、서울:高麗大學校出版部、2015年。

¹⁰ 金秉喆、「西洋文學翻譯年表（1895-1950）」、『韓国近代翻譯文學史研究』、서울:乙酉文化社、1975年。

¹¹ 金秉喆、『西洋文學翻譯論著年表』、서울:乙酉文化社、1978年。

¹² 金秉喆、『韓國世界文學文獻書誌目錄總覽』、서울:檀國大學校東洋學研究所、1992年。

目録総覧（1895-1987）』（2002年）¹などは、韓国近代以来の西洋文学の翻訳作品を網羅・収録している。金秉喆の統計目録について、朴珍英氏は「中国と日本文学の翻訳を軽視し、（略）翻案小説を排斥した点において残念」²と指摘している。韓国における日本文学の翻訳作品の統計目録は、1945年から2005までの期間を扱う「日本文学翻訳60年書誌目録」（2012年）³があるが、1945年以前の日本文学翻訳の統計目録は未だ出現していないようである。近代韓国における中国文学の翻訳作品の統計目録は少なく、管見では張魯鉉の論文（2012年）に付記された「国権喪失以前中国媒介翻訳叙事目録」と「国権喪失以後中国媒介翻訳小説目録」⁴しか見当たらない。

日本、中国、韓国の学界における近代文学・翻訳文学の既存の目録を検討すると、それぞれ作成言語、収録対象・年代範囲の設定、情報項目の細かさ、資料調査の徹底性などが異なっている。明治小説の日本原作と中韓訳本の書誌情報は、これら既存の諸目録に散在しており、お互いに繋がれていない状況である。日中韓近代初期文学の関連様相、中韓両国における明治小説の伝播と受容の全般的実態を把握するため、これら既存の日中韓三国の近代（翻訳）文学目録を総合・整理して、東アジアの視点から新しい明治小説の伝播目録を専門的に作成する必要があると考えられる。

2. 筆者による「明治小説の中国語韓国語の翻訳・翻案作品目録（1895-1919）」

筆者は、前述した各国の近代（翻訳）文学の既存の目録を参照した上で、現在までの日中、日韓、中韓間の近代翻訳文学分野の研究論文も参考にし、また図書館やデータベースを利用してできる限り作品の原本を確認し、明治小説の日本語原作と中国語訳本、韓国語訳本の書誌情報について徹底的に調査と収集を行い、本博士論文の附録として「明治小説の中国語韓国語の翻訳・翻案作品目録（1895-1919）」を作成した。

本目録の収録作品の範囲は、1895年から1919年までの中国・韓国が日本から受け入れた明治小説の日本語版、中国語版、韓国語版である。この明治小説は、日本明治時代（1

¹ 金秉喆、『世界文学翻譯書誌目録總覧』、서울:國學資料院、2002年。

² 朴珍英、『翻譯과 翻案의 時代』、서울:昭明出版、2011年、p24。原文:「중국과 일본문학의 번역을 경시하고, ... 번안소설을 배제한 점에서 아쉬움을 남겼다.」

³ 尹相仁(外)、「日本文学翻譯60年書誌目録(1945-2005)」、『日本文学翻譯60年:現況과 分析(1945-2005)』、서울:昭明出版、2012年。

⁴ 張魯鉉、「近代轉換期 中國 媒介 翻譯文學의 現況과 様相」、『國際語文』第56輯、2012年、pp326-327、pp333-334。

868 年～1912 年)¹の創作作品だけではなく、西洋小説の翻訳翻案作品も含めている。西洋小説の翻訳翻案作品の場合、その西洋原作の情報も提示している。

本目録の収録情報の項目は、「番号」「伝播ケース」「国別」「発行年月日」「作品題目」「作品性格」「分類」「経路」「作者・訳者」「掲載誌・出版社」「出版地」「定価」「分量」「文体」「再版状況」などを設定し、できる限り収録情報の完全性を確保するようにしている²。

本目録は、日本語版の発表年代の順番で整理されている。原則として、各作品の発表年代を「月日」まで示し、陽暦に統一している。作品の題目は、略名ではなく、発表当時の題目のまま収録している。作品の内容については、「政治小説」「科学小説」「家庭小説」のように、できる限り発表時の角書（副題）、広告の中での紹介、後の研究者の評価などで使用された表現で提示している。各作品は「創作」「翻訳」「翻案」と区別し、それを「分類」欄に示している。各翻訳・翻案作品の直接な受容源流については、「英→日」「日→中」「日→韓」のように「経路」欄に示している。作者名と訳者名は、後世によく用いられたものを記している。各作品の出版地についても調査した結果を明記している。

また、本目録は各作品の単行本のみならず、新聞・雑誌連載本の情報も収録している。数種の訳本が存在する場合は、「①、②」のように区別している。

筆者は、以上の基準で、1895 年から 1919 年まで中国・韓国に伝播された明治小説の日本語版、中国語版、韓国語版の書誌情報に対して徹底的な調査を行い、「明治小説の中国語韓国語の翻訳・翻案作品目録（1895－1919）」を作成した。調査でまとめた収録情報には、まだ究明されていない出版物が存在すると思える。しかし現時点では、本目録は、明治小説の全体的な伝播状況を把握するに十分寄与するものであると確信している。

第 2 節 統計的概観：総量・源流・小説ジャンル・日本作家・中韓訳者

本節では、筆者により作成された「明治小説の中国語韓国語の翻訳・翻案作品目録（1895－1919）」を基にして、明治小説の全般的な伝播状況と主な特徴を分析していく。

¹ 1912 年（明治天皇治世）後の数年間の少数の作品も適切に収録されている。

² 紙面上の制限により、附録では「出版地」欄までの情報を示している。

1. 中韓両国に伝播された明治小説の総量と源流

筆者のまとめた目録によれば、1895年から1919年までの25年間、中国や韓国に受容された明治小説の作品数は、合計405点である¹。平均すると毎年16.2点の作品が日本から中国や韓国へ伝播された。そのうち、347点の明治小説が中国に受容されて370点の中国語翻訳が出現し、120点の明治小説が韓国に受容されて136点の韓国語翻訳・翻案が出現した。中国の明治小説移入作品数は、韓国そのものの約3倍となっている。

これら中国や韓国に受容された405点の明治小説のうち、日本の創作作品、いわゆる日本のオリジナル作品は130点(32.1%)であり、日本語に翻訳・翻案された西洋作品は275点(67.9%)である。日本のものは約3割、西洋のものは約7割である。これは、当時中韓両国が日本を通して日本文学のみならず、西洋文学をも大量に受け入れていたことを示している。中国に受容された347点の明治小説を見ると、日本の創作作品が126点(36.3%)で、日本語訳の西洋作品が221点(63.7%)である。韓国に受容された120点の明治小説を見ると、日本の創作作品が27点(22.5%)で、日本語訳の西洋作品は93点(77.5%)である。

中国や韓国に受容された405点の明治日本で発表された小説の原典の国別の内訳は、多い順に次のようになっている。

- 1位：日本の作品（130点）
- 2位：イギリスの作品（76点）
- 3位：フランスの作品（54点）
- 4位：アメリカの作品（41点）
- 5位：ロシアの作品（23点）
- 6位：ドイツの作品（11点）

これらのほかに、ギリシア、スペイン、イタリア、中東の作品や、原作不明の作品もあるが、最も多く受け入れた西洋文学は、イギリス、フランス、アメリカの作品である。

¹ ちなみに、1895年から1919年まで、明治小説が中国や韓国に受容された伝播ケースは402件である。明治小説の作品数(405点)が伝播ケース数(402件)を超えている理由は、数点の明治小説が一つの作品として訳出されるケースがあるからである。例えば、韓国の趙重桓は、尾崎紅葉が書いた『金色夜叉』(1897-1902)と小栗風葉が書いた『金色夜叉終篇』(1909)を『長恨夢』(1912)に翻案した。この場合、伝播ケース1件、明治小説作品数2点と計算した。また、日本語原作が既に究明されているケースは352件、日本語原作が未だ究明されていないケースは50件存在している。一部の中国語訳本や韓国語訳本では日本原著者の氏名のみ、或いは日本から訳出したとのみ提示しているので、その具体的な底本・原作について調査してみたが、究明することができなかった場合があるからである。

近代初期の中国と韓国にとって、明治の日本は日本文学と西洋文学を提供する空間であったと言える。

2. 中韓両国に偏重された明治小説のジャンル

近代初期の東アジアでは、多様な小説ジャンルが新たに登場した。当時の小説は、「政治小説」、「外交小説」、「科学小説」、「冒険小説」、「歴史小説」、「歴史伝記小説」（主に韓国で使用される）、「探偵小説」（中国では「偵探小説」と称される）、「裁判小説」、「家庭小説」、「言情小説」（主に中国で使用される）、「戦争小説」、「軍事小説」、「社会小説」、「教育小説」、「地理小説」、「理想小説」、「宗教小説」、「義侠小説」などに細分化されていた。これら小説ジャンルの多くは、明治日本で作られ、その後中韓両国に導入されたものである。この点について、王向遠は「20 世紀初頭の中国新小説の主要な小説題材分類の概念は、殆ど日本文壇が西洋小説を翻訳する際に創製した漢字語概念を襲用した」¹と述べ、近代初期の中国小説のジャンルに与えた日本の深い影響を指摘している。この判断は、20 世紀初頭の韓国文壇の状況にも合致するとされている。

中国と韓国は日本からどのようなジャンルの作品を多く受け入れたのかを、その数量で示してみた。

- 1 位：歴史・伝記小説（101 点/24.9%）
- 2 位：探偵・裁判小説（70 点/17.3%）
- 3 位：科学・冒険小説（62 点/15.3%）
- 4 位：政治・外交小説（45 点/11.1%）
- 5 位：家庭・言情小説（36 点/8.9%）
- 6 位：戦争・軍事小説（24 点/5.9%）

日本や西洋諸国の近代の亡国史、独立史、建国史、革命史、民権運動史とその中の愛国者・民族の英雄を題材として取り扱う政治色の強い作品（歴史・伝記小説、政治・外交小説、戦争・軍事小説）が最も数多く 180 点（44.4%）伝播されていることから、近代初期の中韓両国は、国家（民族）の独立、政治制度の改良、愛国（救国）思想の政治的

¹ 王向遠、『日本文学漢訳史』、銀川：寧夏人民出版社、2007 年、pp27～28。原文：「20 世紀初中国新小説的主要の小説題材分類概念，幾乎全部襲用了日本文壇在翻譯西洋有關小説題材類型時所創制的漢字概念。」

啓蒙の目的を持って明治小説の受容を行なったことがわかる。当時斬新的であった探偵・裁判小説（70点）、科学的想像を取り扱う科学・冒険小説（62点）などがそれに次ぐが、それは近代的法律制度と科学文明への両国の関心の反映であろう。男女の愛情を取り扱う家庭・言情小説（36点）も見られるが、明治文壇の自然主義文学や西洋の世界名作などの純文学作品は少ないことが判明した。

中国に受容された347点の明治小説をジャンル別に見ると、1位が歴史・伝記小説77点（22.2%）、2位が探偵・裁判小説68点（19.6%）、3位が科学・冒険小説53点（15.3%）、4位が政治・外交小説46点（13.3%）、5位が戦争・軍事小説26点（7.5%）、6位が家庭・言情小説24点（6.9%）である。

韓国に受容された120点の明治小説をジャンル別に見ると、1位が歴史・伝記小説49点（40.8%）、2位が民話・寓話小説18点（15%）、3位が政治・外交小説13点（10.8%）、4位が家庭・言情小説12点（10%）、5位が科学・冒険小説類11点（9.2%）、6位が探偵・裁判小説5点（4.2%）となっている。

近代初期の中国と韓国の受容は、歴史・伝記小説の数がどちらも1位である。政治・外交小説の順位・比重にも差は少ない。探偵・裁判小説と科学・冒険小説の順位・比重については、中国が上位にある。民話・寓話小説と家庭・言情小説の順位・比重については、韓国が上位にある。

3. 中韓両国に重要視された明治小説の日本作者

近代初期の中韓両国は日本から405点の明治小説を受け入れたが、具体的にどのような日本作者の作品を好んで受け入れたのかを検証する。

1位は黒岩涙香の作品、39点である。黒岩涙香（1862－1920）は、西洋小説を100点以上も翻訳・翻案し、西洋文学の日本受容に大きく貢献した翻訳・翻案小説家である。中韓に受容された彼の39点の作品は、創作小説『無惨』を除き、全て翻訳・翻案小説であり、またその大半が西洋の探偵小説である。中国はこの39点の黒岩涙香の作品を全て受け入れた。韓国は黒岩涙香の7点の作品を受け入れた。

2位は徳富蘆花の作品、22点である。徳富蘆花（1868－1927）は、代表作『不如帰』で名を馳せた明治時代の人気作家・翻訳家である。この22点は、『不如帰』を含めた2

点の創作小説以外は翻訳小説であり、またその多くが西洋外交小説の翻訳作品である。中国はこの 22 点の徳富蘆花の作品を全て受け入れた。韓国は、徳富蘆花の 6 点の作品を受け入れた。

3 位は押川春浪の作品、14 点である。押川春浪（1876－1914）は、「日本 SF 界の祖」と呼ばれる明治時代の科学・冒険小説作家である。この 14 点の作品は、翻訳小説 1 点以外は彼の創作小説である。中国はこの 14 点の押川春浪の作品を全て受け入れた。韓国は全く受け入れなかった。

4 位は菊池幽芳の作品、12 点である。菊池幽芳（1870－1947）は、明治時代の家庭小説作家の一人である。この 12 点の作品は、彼の代表作『己が罪』『乳姉妹』のほかは翻訳小説であった。中国はこの 12 点の菊池幽芳の作品を全部受け入れており、韓国は 3 点を受け入れている。

同じ 4 位は巖谷小波の作品、12 点である。巖谷小波（1870－1933）は、明治時代の先駆的な児童文学作家である。この 12 点の作品は彼の「日本お伽噺」、「世界お伽噺」シリーズに収められたものである。中国は、6 点の巖谷小波の作品を受け入れた。韓国は、7 点の巖谷小波の作品を受け入れた。

5 位は渋江保の作品、11 点である。渋江保（1857－1930）は、明治時代の翻訳家・小説家である。この 11 点の作品は、代表作『食人国探検』以外、西洋歴史伝記類の翻訳（編訳）作品である。中国は、9 点の渋江保の作品を受け入れた。韓国は、6 点の渋江保の作品を受け入れた。

6 位は森田思軒の作品、10 点である。森田思軒（1861－1897）は、「明治の翻訳王」と呼ばれる翻訳専門の小説家である。この 10 点の作品の多くは、フランスの小説でその英語版の重訳である。中国は、9 点の森田思軒の作品を受け入れた。韓国は、3 点の森田思軒の作品を受け入れた。

7 位は百島冷泉の作品、9 点である。百島冷泉（1880－1965）は、明治時代の翻訳小説家である。この 9 点の作品は、『ロビンソン漂流記』のほかは主にロシアの作家トルストイの小説の翻訳である。中国は、百島冷泉の作品を受け入れなかった。韓国は、この 9 点の百島冷泉の作品を全て受け入れた。

夏目漱石（1867－1916）、森鷗外（1862－1922）、幸田露伴（1867－1947）、国木田独歩（1871－1908）、山田美妙（1868－1910）など明治文壇の重要な作家の作品は、この時期（1895 年～1919 年）には中国と韓国に受容されなかったのである。押川春浪の作品は例

外的であるが、当時の中韓両国では日本人による西洋文学の翻訳・翻案作品の方が受け入れられていたのである。

4. 明治小説の受容を主導した中国と韓国の訳者

ここでは中国と韓国で明治小説を翻訳・翻案した訳者について検討したい。

まず中国の訳者をその翻訳数で比較してみる。

1位は陳景韓で、38点の翻訳作品を出している。陳景韓（1878－1965）は、浙江省松江県に生まれ、筆名は冷・冷血・不冷などで、『申報』『時報』の主筆を務めたジャーナリストである。1899年～1902年、陳景韓は日本の早稲田大学に留学している。

2位は包天笑で、23点の翻訳作品を出している。包天笑（1876－1973）は、江蘇省蘇州府呉県に生まれ、本名は包公毅、筆名は天笑・天笑生などで、ジャーナリスト、翻訳家、小説家である。包天笑は日本に留学した経験がない。

3位は呉禱で、21点の翻訳作品を出している。呉禱（1880？－1925？）、浙江省錢塘県（今の杭州）に生まれ、字は丹初、号は宣中、清末の翻訳家である。「呉禱は日本留学を経験しなかった。（略）上海で日本語を学び、日本語文献を読みこなす能力を身につけた」¹と推測される。

4位は商務印書館編訳所で、13点の翻訳作品を出している。商務印書館編訳所は、上海商務印書館が1902年に社内で設立した専門的な翻訳機関である。

5位は梁啓超で、9点の翻訳作品を出している。梁啓超（1873－1929）は、広東省新会県に生まれ、字は卓如・任甫、号は任公・飲冰室主人で、思想家、政治家、文学者、学者である。1898年～1912年、梁啓超は日本に亡命した。

次に韓国の訳者をその作品数で並べてみる。

1位は崔南善で、22点の翻訳作品を出している。崔南善（1890－1957）は、漢城府に生まれ、字は公六、号は六堂で、ジャーナリスト、文学者である。1904年～1908年、崔南善は日本の東京府立第一中学校・早稲田大学に留学した（一時帰国している）。

2位は趙重桓で、6点の翻訳・翻案作品を出している。趙重桓（1884－1947）は、漢城府に生まれ、号は一齋で、専門翻訳・翻案作家である。1907年～1910年、趙重桓は東京

¹ 沢本香子、「書家としての呉禱」、『清末小説』第32号、2009年12月、p110、p111。

の日本大学に留学した。

3位は朴容喜で、5点の翻訳作品を出している。朴容喜（1885－1947）は、京畿道交河郡に生まれ、教育家である。1902年～1913年、朴容喜は日本の第一高等学校・東京帝国大学に留学した。

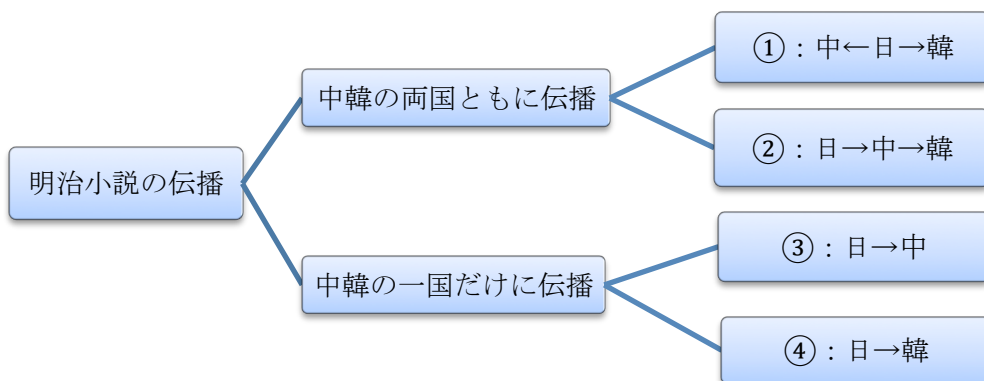
4位は李相協で、4点の翻訳翻案作品を出している。李相協（1893－1957）、漢城府に生まれ、号は何夢、筆名は白岳山人で、『毎日申報』『東亜日報』の編集長を務めたジャーナリストである。1909年～1912年、東京の慶應義塾に留学した。

5位は、李海朝、玄公廉、閔濬鎬の三人で、それぞれ3点の翻訳作品を出している。李海朝（1869－1927）は、京畿道抱川郡に生まれ、号は悦齋・怡悦齋・東濃、新小説作家であり、日本留学の経験はない。玄公廉（生没年不明）は、本籍は川寧玄氏、学部翻訳官・史学者玄采（1856－1925）の息子であり、青年時代に日本の慶應義塾に留学したことがあると推測される¹。閔濬鎬（1877－?）は、漢城府に生まれ、東洋書院を設立した出版人である。

上で述べてきたように、多くの訳者は日本留学の経験を持っている。この時期の中国と韓国の明治小説受容の主力は日本留学生であると言える。

第3節 四つの類型：東アジアにおける明治小説伝播の展開経路

近代初期の東アジア世界における明治小説の伝播経路を図示すると、以下のように四つの類型に分けられる。



¹ 布袋敏博、「二つの朝鮮語訳『経国美談』について」、『近代朝鮮文学における日本との関連様相』、東京：緑蔭書房、1998年、p40。

1. 類型①：中国語←日本語→韓国語

類型①は、明治小説が中国と韓国両国ともに受容されたことを示している。しかし、この受容は両国が独自に同様な明治小説作品を受け入れ、中韓の間に繋がりを持っていなかったことを明示しておかなければならない。筆者は、このような明治小説の伝播を「中国語←日本語→韓国語」と分類する。

この時期の 402 件の伝播ケースの中で、類型①に属するケースは 20 件であり、5%を占めている。代表的な事例を挙げると、太平三次の翻訳科学小説『海底旅行』（1884 年）は、1902 年に中国語に、1907 年に韓国語に翻訳されている。末広鉄腸の代表作・政治小説『雪中梅』（1886）は、1903 年に中国語に翻訳され、1908 年に韓国語に翻案された。徳富蘆花の代表作『不如帰』（1898－1899）は、1908 年に中国語に翻訳され、1912 年に韓国語に翻訳・翻案されている（『不如帰』については本論文の第二部でまた詳しく考察する）。この類型は、受容作品の選択における中国と韓国の共通性を示していると思われる。

2. 類型②：日本語→中国語→韓国語

類型②は、明治小説がまず中国語に翻訳され、その中国語訳がさらに韓国語に重訳されたことを示している。韓国は明治小説を日本語から直接的にではなく、その中国語版を通して間接的に受け入れ、中国語版が日本語原作と韓国語訳本の媒介となったのである。筆者は、このような明治小説の伝播を「日本語→中国語→韓国語」と分類する。

この時期の 402 件の伝播ケースの中で、類型②に属するケースは 29 件、7.2%を占めている。代表的な事例を挙げると、矢野龍溪の代表作・政治小説『経国美談』（1883）は、1900 年～1901 年に中国語に翻訳され、1908 年に中国語版を通して韓国語に重訳された。徳富蘆花の翻訳伝記作品『ローラン夫人の伝』（1893）は、1902 年に『羅蘭夫人伝』と題して中国語に翻訳され、それが 1907 年に中国語版を通して韓国語に重訳された。それから、森田思軒の翻訳科学小説『鉄世界』（1887）は、1903 年に中国語に翻訳され、次に 1908 年に中国語版を通して韓国語に重訳された（『鉄世界』については本論文の第三部で詳しく考察する）。この類型は、中国と韓国における明治小説受容の間の繋がりを示している

と言える。

3. 類型③：日本語→中国語

類型③は、明治小説が中国に受容されたが、韓国に受容されなかったことを示している。筆者は、このような明治小説の伝播を「日本語→中国語」と分類する。

この時期の 402 件の伝播ケースの中で、類型③に属するケースは 285 件で、70.9%を占めている。代表的な事例を挙げると、『武侠の日本』(1902)、『武侠艦隊』(1904)『新造軍艦』(1904) など押川春浪の 14 点作品は、中国に受容されたが、韓国には全く受容されなかった。松井松葉の『虚無党奇談』(1903) などの「虚無党小説」に類する作品も同様であった。柴四朗の代表作・政治小説『佳人之奇遇』(1885－1897) は、1898 年～1900 年に中国語に翻訳されたが、韓国語には翻訳も翻案もされなかった（『佳人之奇遇』については本論文の第四部で詳しく考察する）。この類型は、中国の明治小説受容の独自性を示していると言えよう。

4. 類型④：日本語→韓国語

類型④は、明治小説が韓国に受容されたが、中国に受容されなかったことを示している。筆者は、このような明治小説の伝播を「日本語→韓国語」と分類する。

この時期の 402 件の伝播ケースの中で、類型④に属するケースは 68 件であり、16.9%を占めている。代表的な事例を挙げると、昇曙夢により訳された寓話小説『クルロイフ譬喩譚』(1907) は、1910 年に韓国語に訳出されたが、中国には受容されなかった。村上静人により訳されたトルストイの小説『復活』(1914) は、1914 年と 1918 年に 2 回も韓国語に翻訳されたが、中国には受容されなかった。尾崎紅葉の代表作・家庭小説『金色夜叉』(1897－1902) は、1913 年に韓国語に翻案されたが、中国には受容されなかった（『金色夜叉』については本論文の第五部で詳しく考察する）。この類型は、韓国の明治小説受容の独自性を示していると言えよう。

第2章 中韓両国の萌芽・隆盛・低迷における明治小説受容の数量的推移

本章では、1895年から1919年までの25年間、中国と韓国における明治小説受容の推移・変遷を、その量的な視点から検討していきたい。

第1節 近代初期中国における明治小説受容の数量的推移

1. 近代初期中国における明治小説の翻訳作品の年度別一覧

前述したように、1895年から1919年まで、中国や韓国に受容された明治小説の作品数は合計405点である。そのうち、347点が中国に受容され、370点の中国語訳本が現れた。この370点の中国語訳本は、初版の年度順で並べると、つぎのようになっている。各訳本の書誌情報は本博士論文の附録に詳細に収録されているため、ここでは各訳本のタイトルだけを提示する。（複数の訳者が同じタイトルで翻訳している場合があるので、タイトルの重複がある）

1898年(1点)：

『佳人奇遇』

1899年(1点)：

『東郷平八郎評傳』

1900年(4点)：

『經國美談』『貞徳傳』『埃及近世史』『法國革命史』

1901年(6点)：

『日本維新英雄兒女奇遇記』『福澤諭吉』『伊達邦成傳』『累卵東洋』『波蘭衰亡戰史』『十五小豪傑』

1902年(28点)：

『意大利建國三傑傳』『羅蘭夫人傳』『匈加利愛國者噶蘇士傳』『彼得大帝』『俄大彼得帝傳』『德相俾斯麥傳』『光緒帝』『泰西政治學者列傳』『普奧戰史』『義大利獨立戰史』『意大利建國史』『希臘獨立史』『飛獵濱獨立戰史』『比律賓志士獨立傳』『菲律賓志士獨立傳』『埃及近世史』『日本維新活歴史』『日本維新慷慨史』『愛國精神談』『瑞士建國誌』『殖民偉績』『海上大冒險談』『二勇少年』『俄皇宮中之人鬼』『百合花』『海底旅行』『世界末日記』『離魂病』

1903 年(84 点)：

『拿破崙傳』『拿破倫』『克林威爾傳』『鐵血宰相俾斯麥傳』『鐵血宰相』『戈登將軍』『林肯傳』『米利堅大統領麥荊來』『華盛頓』『華盛頓』『納爾遜傳』『漢民拔』『亞歷山大』『世界十二女傑』『惹安達克』『達爾文』『成吉思汗傳』『成吉思汗少年史』『日本維新百傑傳』『中江篤介傳』『吉田松陰』『三十三年落花夢』『西鄉隆盛』『伊藤博文』『鄭成功』『岳飛』『曾國藩』『孫逸仙』『楊貴妃』『瑞西獨立警史』『義大利獨立戰史』『意大利獨立史』『美國獨立戰史』『法國革命戰史』『佛國革命戰史』『印度蚕食戰史』『埃及近世史』『特蘭斯法爾』『英國革命戰史』『西里但普法戰爭筆記』『回天綺談』『雪中梅』『花間鶯』『政海波瀾』『星球遊行記』『東洋之佳人』『極樂世界』『未來戰國志』『美風吹雲錄』『遊俠風雲錄』『奪嫡奇案』『遊皮』『美人手』『格兒奇特』『攝魂花』『專制虎』『人外境』『大村善亮』『関口太三郎』『松野貫一』『月界旅行』『地底旅行』『空中旅行記』『鐵世界』『電術奇談』『胡蝶書生漫遊記』『空中飛艇』『白絲線記』『返魂香』『窮皇案』『外交家之狼狽』『少年軍(一)』『少年軍(二)』『少年軍(三)』『明日之戰爭』『海外天』『北冰洋冒險得新地記』『苦學生』『愛美耳鈔』『警世奇話』『俄国情史』『哀塵』『恨海春秋』『狐狸夢』

1904 年(52 点)：

『黃金血』『毒美人』『美人狩』『火裏罪人』『俠戀記』『三縷髮』『聖人歟盜賊歟』『黃面』『血手印』『假死偽葬』『郵書之奇禍』『金剛石之頸鏈』『籤票』『金網』『萬金之革帶』『塔尖之自縊』『郵票毒』『誘拐公司』『異形之腕』『復仇』『暗殺黨』『石炭窟中之偵探』『試金室之秘密』『波斯剪』『埃及妃』『一條鞭』『三刺客』『瑪瑙印』『易兒說』『紅花球』『谷間鶯』『珊瑚美人』『回頭看』『加須克夫』『綺羅沙夫人』『環遊月球』『千年後之世界』『秘密使者』『未來日俄戰爭小說』『新舞台(一)』『鬼婿』『製造書籍術』『波蘭衰亡史』『多情之豪傑』『秘密囊』『啞旅行』『無名之英雄』『巴黎之秘密』『食人會』『蓬艾怪談』『義勇軍』『白格』

1905 年(27 点)：

『銀行之賊』『指環黨』『決闘會』『母夜叉』『雙金球』『新蝶夢』『銀山女王』『白雲塔』『造人術』『黑行星』『法螺先生譚』『法螺先生統譚』『俄宮怨』『俄國俠客談虛無黨奇話』『賣國奴』『新舞台(二)』『枕戈記』『俄探』『兒童修身之感情(馨兒就學記)』『醉人妻』『懺情記』『小公子』『俾斯麥之狼狽』『巴黎繁華記』『村學究』『火車客艙』『錯恨』

1906 年(35 点)：

『寒桃記』『車中毒針』『血手痕』『莫愛雙麗傳』『妖塔奇談』『地中秘』『一捻紅』『大地球未來記』『秘密電光艇』『造人術』『新魔術』『澳州歷險記』『大魔窟』『絕島英雄』『虞美』

人』『世界上尤物之西施』『花笑翁』『舌切雀』『斥候美談』『英雄兒女』『苦海余生說』『俠黑奴』『血簍衣』『双美人』『鉄仮面』『大除夕』『理想美人』『寒牡丹』『美人煙草』『鉄窓紅淚記』『新黄梁』『山家奇遇』『灯台卒』『秋雲嬢』『土裏罪人』

1907 年(36 点)：

『偵探奇譚』『劇場大疑獄』『色媒圖財記』『橘英男』『虛無党真相』『航海少年』『朽木舟』『食人國』『美人島』『美人島』『世界一周』『雪子娘』『鴛盟離合記』『五里霧』『銀紐碑』『機器妻』『鬼士官』『逸犯』『新舞台(三)』『武俠艦隊』『遼陽投筆記』『五色石』『桃太郎』『蟹之仇討』『飛行記』『薄命花』『棲霞女俠小傳』『白絲巾』『俄滅波蘭記』『滑稽旅行』『黑衣教士』『袖中劍』『憂患余生』『乞食女兒』『王妃怨』『破産』

1908 年(24 点)：

『女偵探』『決闘(金裏罪人)』『棠花怨』『天際落花』『幻夢奇冤(血指印)』『古王宮』『女海賊』『爆烈弾』『俄国皇帝』『殺人公司』『花間鶯』『模範町村』『不如歸』『空谷蘭』『世界末日記』『空中戦争未来記』『空中軍艦』『地獄村』『偽電案』『英徳戦争未来記』『厭世之富翁』『女學生旅行』『拿破倫帝後之臨終』『梅花落』

1909 年(14 点)：

『女露兵』『旅順土牢之勇士』『武俠艦隊』『旅順實戰記(肉弾)』『英徳戦争未来記』『無人島大王』『美人島』『奇冤案』『龍宮使者』『虛無党奇談』『英雄兒女傳略』『寫真帖』『生計』『千古之波音』

1910 年(8 点)：

『秘密党魁』『富者與貧民』『破天荒』『怪人鐵塔』『心』『六號室』『最貧者』『怪人』

1911 年(8 点)：

『埋石棄石記』『三十三年落花夢』『豪俠姻緣錄』『百合魔』『你往何處去』『動物之同盟罷工』『決闘』『非洲石壁』

1912 年(6 点)：

『夜叉美人』『賊中賊』『苦兒流浪記』『外交秘事』『結核菌物語』『機器妻』

1913 年(8 点)：

『禽獸會議人類攻撃記』『俠女郎』『少年囚』『苦情緣』『色界魔』『大復讐』『拊髀記』『怪僧蹤』

1914 年(7 点)：

『疑案』『水樓記』『地下戦争』『世界發展俱樂部』『莽和尚』『袁世凱正傳』『六尺地』

1915 年(8 点)：

『女偵探（上）』『女偵探（下）』『古井之屍』『秘密怪洞』『無人島』『鑽崇』『獄中皇帝』
『瓊島仙葩』

1916 年(5 点)：

『吳田博士偵探案』『乳姉妹』『生命保険』『老將愛國談』『此一票』

1917 年(3 点)：

『歐洲政界之女傑』『潛艇戦争』『羅袴相思記』

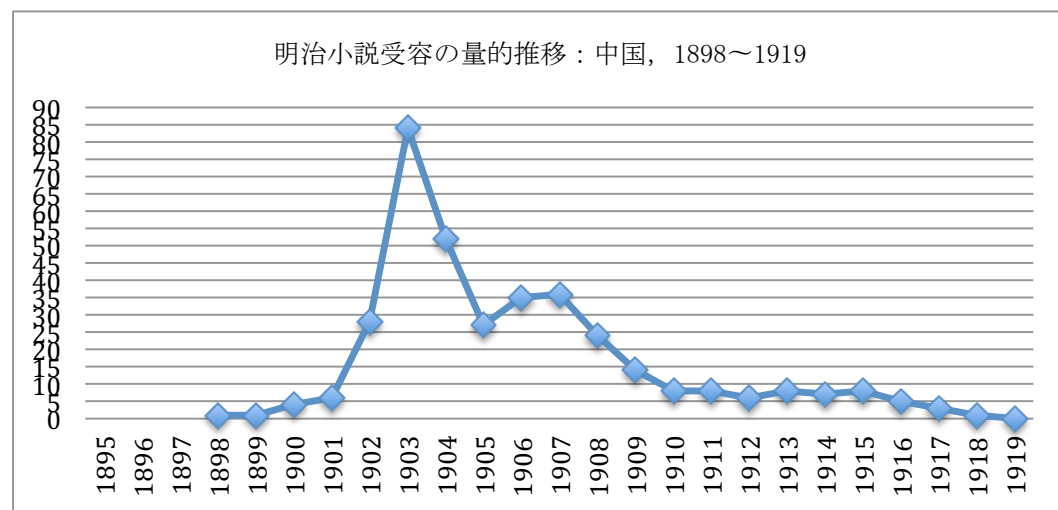
1918 年(1 点)：

『小小的一個人』

1919 年(0 点)：

2. 中国の萌芽期（1898～1901）、隆盛期（1902～1909）、低迷期（1910～1919）

1898 年から 1919 年まで、中国に受容された明治小説の中国語訳本数は 370 点、平均毎年 16.8 点、毎月 1.4 点が現れる。無論、この期間の中国の明治小説受容は一直線に進められていたのではない。年度別の中国語訳本数は、1898 年 1 点、1899 年 1 点、1900 年 4 点、1901 年 6 点、1902 年 28 点、1903 年 84 点、1904 年 52 点、1905 年 27 点、1906 年 35 点、1907 年 36 点、1908 年 24 点、1909 年 14 点、1910 年 8 点、1911 年 8 点、1912 年 6 点、1913 年 8 点、1914 年 7 点、1915 年 8 点、1916 年 5 点、1917 年 3 点、1918 年 1 点、1919 年 0 点、不明 4 点である。これらの推移を分かりやすくするため、下グラフを作成した。



グラフの推移から、近代初期中国の明治小説受容を四つの時期に分けられると考える。

第 1 期：1898 年～1901 年、萌芽期

第2期：1902年～1905年、隆盛期（前期）

第3期：1906年～1909年、隆盛期（後期）

第4期：1910年～1919年、低迷期

中国の明治小説受容の始まりは、1898年である。この年、戊戌変法に失敗した政治家・啓蒙思想家梁啓超は日本に亡命し、明治政治小説『佳人之奇遇』を中国語に翻訳し、『佳人奇遇』と題して『清議報』に連載を始める。1898年から1901年まで、翻訳作品が毎年になんとなく増加するが、全体的な数（4年間合計12点）は非常に少ないため、筆者はこの時期を明治小説受容の「萌芽期」と称したい。この段階の受容作品は、主に政治小説、日本や西洋の歴史・伝記小説である。

1902年に入り、翻訳作品数が急速に増加する。1903年に頂点に達し、年間84点の翻訳作品数を記録する。その後の1904年と1905年は、翻訳作品数が減少するものの、比較的により多くの数値を維持している。1902年から1905年までの4年間、平均毎年47.8点の翻訳作品が登場する。筆者は明治小説受容の「隆盛期（前期）」と称している。この段階の受容作品の内容を見ると、政治小説と歴史・伝記小説が依然として大きな比重を占めている一方、科学小説、冒険小説、外交小説、軍事小説、探偵小説、家庭小説、教育小説なども登場し始め、小説ジャンルの多様化が見られる。

1905年を転換点として翻訳作品数は再び増加する。そして1907年に2度目の頂点に達する（1年間36点）。その後は減少したが、1909年までは年10点以上の翻訳作品数を維持している。1906年から1909年までの4年間、前の段階ほど盛んではないが、平均毎年27.3点の相対的多数の翻訳作品が登場する。筆者はこの時期を明治小説受容の「隆盛期（後期）」と称している。この段階の受容作品の内容を見ると、政治・外交小説と歴史・伝記小説が少なくなり、探偵小説などほかのジャンルの作品が増えていることがわかる。

1910年から、年翻訳作品数は10点以下に下落し、再び増加することがなかった。1910年から1919年までの10年間、平均毎年5.4点の翻訳作品を見る。筆者はこの時期を明治小説受容の「低迷期」と称している。

第2節 近代初期韓国における明治小説受容の数量的推移

1. 近代初期韓国における明治小説の翻訳作品の年度別一覧

前述したように、1895年から1919年まで、中国や韓国に受容された明治小説の作品数は合計405点であるが、そのうち、120点が韓国に受容され、136点の韓国語訳本が現れた。この136点の韓国語訳本は、初版の年度順で並べると、つぎのようになっている。前節と同様に、各訳本の書誌情報は本博士論文の附録に詳細に収録されているため、ここでは各訳本のタイトルだけを提示する。前節同様、複数の訳者による異なる訳本があるので、同じタイトルが書かれている場合がある。

1895年(2点)：

『유옥역傳』 『拿破崙傳』

1896年(2点)：

『紀文傳』 『이습 이야기 (新訂尋常小學)』,

1897年(0点)：

1898年(0点)：

1899年(2点)：

『波蘭末年戰史』 『美國獨立史』

1900年(1点)：

『法國革新戰史』

1901年(0点)：

1902年(0点)：

1903年(0点)：

1904年(2点)：

『經國美談』 『日露戰記』

1905年(4点)：

『埃及近世史』 『波蘭末年史』 『伊太利建國아마치傳』 『日本豪傑桃太郎傳』

1906 年(6 点)：

『비스마르크清話』『비스마-ㄱ傳』『클럼비스傳』『讀意大利建國三傑傳』『愛國精神談』
『一捻紅』

1907 年(19 点)：

『크롬웰傳』『伊太利建國三傑傳』『華盛頓傳』『羅蘭夫人傳』『比斯麥傳』『彼得大帝傳』
『시씨-傳』『五偉人小歷史』『法皇拿巴倫傳』『俾斯麥傳』『瑞士建國誌』『瑞士建國誌』『愛
國精神談』『愛國婦人傳』『國恥傳』『意大利獨立史』『比律賓戰史』『海底旅行奇譚』『이솝
스寓話抄譯』

1908 年(27 点)：

『伊太利建國三傑傳』『彼得大帝傳』『聖彼得大帝傳』『華盛頓傳』『美國故大統領까뮈일
트傳』『拿破崙戰史』『나폴레온大帝傳』『哥崙布傳』『페터大帝』『普魯士國厚禮斗益大王
七年戰史』『哥利米亞戰史』『經國美談』『回天綺談』『愛國精神』『愛國精神談』『雪中梅』
『賣國奴』『禽獸會議錄』『俄皇宮中의人鬼』『俾斯麥의狼狽』『白絲線』『美利堅의愛國幼
年會』『羅賓孫漂流記』『巨人國漂流記』『鐵世界』『伊太利少年』『이솝의 이야기』

1909 年(11 点)：

『페수다롯지傳』『마제란傳』『大統領테아스氏의鐵血的生涯』『까리발떡』『小說美國獨
立史』『로빈슨無人絕島漂流記』『小人國漂着觀光錄(葛利寶遊覽記)』『사랑의 勝戰』『祖
孫三代』『어른과 아해』『꽃에 關한 童話』

1910 年(9 点)：

『린커언의 人物과 밋 그事業』『나의 平生』『(톨쓰토이)小傳』『ABC 契』『너의 이웃』
『茶館』『한 사람이 얼마나 땅이 있어야 하나』『小說世界歷史』『쿠루이로프譬喻談』

1911 年(2 点)：

『富蘭克林傳』『伊蘇普의 空前格言』

1912 年(13 点)：

『不如歸』『杜鵑聲』『榴花雨』『雙玉淚』『再逢春』『불상한 동무』『자랑의 단추』『萬
人契』『指環黨』『十五小豪傑』『鋼鐵大王傳』『顯微鏡』『朴天南傳』

1913 年(11 点)：

『紅寶石』『嘘風扇이 冒險奇談 (1-19)』『嘘風扇이 冒險奇談 (20-22)』『長恨夢』『寶環緣』『누구의 罪』『桃李園』『神泣驚天萬古奇談』『三寸舌 (上)』『검둥의 설음』『寓意談』

1914 年(5 点):

『飛鳳潭』『斷腸錄』『貞婦怨』『너 참불상타』『更生』

1915 年(6 点):

『續編長恨夢』『제임쓰 와트』『頓基浩傳奇』『캔터베리記』『書籍製造法』『人力車꾼』

1916 年(3 点):

『海王星』『夜半의 警鍾』『人生!!』

1917 年(4 点):

『紅淚』『더러운 面包』『紅淚池』『偉人된 컨』

1918 年(3 点):

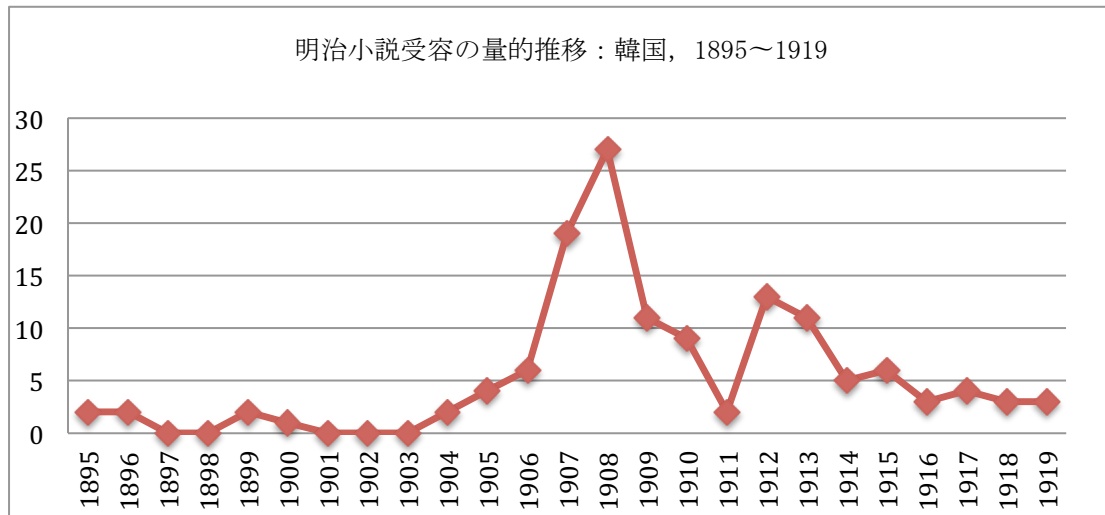
『哀史』『海棠花』『하느님은 眞理를 보신다마는 기다리신다』

1919 年(3 点):

『虛榮』『密會』『사랑하는 벗에게』

2. 韓国の萌芽期 (1895～1904)、隆盛期 (1905～1915)、低迷期 (1916～1919)

1895 年から 1919 年まで、韓国に受容された明治小説の韓国語訳本数は 136 点、平均毎年 5.4 点が出現する。年度別の韓国語訳本数は、1895 年 2 点、1896 年 2 点、1897 年 0 点、1898 年 0 点、1899 年 2 点、1900 年 1 点、1901 年 0 点、1902 年 0 点、1903 年 0 点、1904 年 2 点、1905 年 4 点、1906 年 6 点、1907 年 19 点、1908 年 27 点、1909 年 11 点、1910 年 9 点、1911 年 2 点、1912 年 13 点、1913 年 11 点、1914 年 5 点、1915 年 6 点、1916 年 3 点、1917 年 4 点、1918 年 3 点、1919 年 3 点、不明 1 点である。これらの推移を分かりやすくするため、筆者は下グラフを作成した。



上グラフが示しているように、近代初期韓国の明治小説受容の量的変遷は、中国と同様に四つの段階を経たと言えよう。

第1期：1895年～1904年、萌芽期

第2期：1905年～1910年、隆盛期（前期）

第3期：1912年～1915年、隆盛期（後期）

第4期：1916年～1919年、低迷期

韓国の明治小説受容の始まりは、1895年である。この年、井上勤の『全世界一大奇書（原名アラビヤナイト）』が『유옥역傳』と題して韓国語に翻訳され、これは近代韓国における明治（翻訳）文学受容の嚆矢とされている。しかし、1895年から1904年までの10年間、翻訳作品数は合計9点のみであり、2点を越えた年がない。また1897年、1898年、1901年、1902年、1903年には翻訳がなかった。筆者はこの時期を明治小説受容の「萌芽期」と称している。この段階の受容作品は、主に政治小説、歴史・伝記小説、民話・寓話小説である。

1905年に入ってから、翻訳・翻案作品数は本格的に増加し始め、1908年に頂点（27点）に達する。その後は減少したが、1910年までは年9点以上を維持している。平均毎年12.7点の翻訳・翻案作品が現れた1905年から1910年までの6年間を筆者は明治小説受容の「隆盛期（前期）」と称している。この段階の受容作品は、政治小説と歴史・伝記小説が多数を占めており、民話・寓話小説も翻訳されている一方、科学小説、冒険小説、教育小説など新しい類型の小説も翻訳され始めた。

1911年に翻訳作品数は例外的に急減したが、1912年から著しく増加し、同年に2回目の頂点（13点）に達する。1915年までは年5点以上を維持している。1912年から1915年の4年間、平均毎年8.8点の翻訳翻案作品が現れ、筆者はこの時期を明治小説受容の「隆盛期（後期）」

と称している。この段階の受容作品は、政治性の強い政治小説と歴史・伝記小説は殆どなくなり、家庭小説の受容が増加している。

1916 年から、翻訳・翻案作品数は年 5 点以下に下落し、再び増加しなかった。1916 年から 1919 年まで、平均毎年 3.3 点の翻訳・翻案作品が現れ、筆者はこの時期を明治小説受容の「低迷期」と称している。

また、1895 年から 1919 年まで、韓国における明治小説受容作品の総数は中国より少ないが、1895 年、1896 年、1899 年、1908 年、1910 年、1912 年、1913 年、1915 年、1917 年、1918 年、1919 年など、韓国の受容作品数が中国を超えた年度もあることが確認できた。

第 3 節 明治小説受容の量的推移の中国韓国比較分析

1895 年から 1919 年まで、中韓両国における明治小説受容の量的推移には共通点がある。両国の受容は 1890 年代後半に開始されたが、その受容作品数に萌芽期、隆盛期、低迷期と称することができる変動を示し、そしてその隆盛期には大きいピークと小さいピークが現れ、興隆が前期と後期の 2 回見られる点で一致している。

中韓両国における明治小説受容の量的推移の相違点により注目に値すると考えられる。1900 年代と 1910 年代の状況に分けて詳しく検討しよう。

1. 1900 年代の明治小説受容：中国の迅速性と韓国の遅延性

まず中国と韓国の明治小説受容の隆盛期の相違について考えてみる。中国は 1903 年に、韓国は 1908 年に 1 回目のピークを迎え、時間的に 5 年の差が存在する。また、中国は 1907 年に、韓国は 1912 年に 2 回目のピークを迎え、ここにも同様に 5 年の時間差が存在する。中国の明治小説受容は 1898 年から開始し、間もなく隆盛期に入り、頂点（1903 年）に至るまで 5 年しかかかっていない。韓国の明治小説受容は 1895 年から始まるが、長い萌芽期を経て、頂点（1908 年）に至るまで 13 年もかかっている。

韓国人の日本留学の嚆矢は、「一八八一年に紳士遊覧団の随行員として来日した俞吉濬、柳定秀、尹致昊の三人が残留して慶應義塾と同人社で学んだこと」¹とされる。一方の中

¹ 波田野節子、『韓国近代作家たちの日本留学』、東京：白帝社、2013 年、pp3～4。

国人の日本留学は、日清戦争直後の 1896 年、13 人の中国留学生が日本に派遣され、東京高等師範学校に入学したのが最初である¹。留学生は明治小説受容の主力であると考えられるが、その日本への派遣は、韓国は中国より 15 年も早かったのである。韓国の日本への留学生派遣が中国より早かったのに、明治小説受容において順序が逆転したのは、どこに理由があるのだろうか。

中国と韓国両国の明治小説受容の初期段階では、政治性の強い政治・外交小説と歴史・伝記小説が中心であった。それらの殆どが日本や西洋諸国の近代の亡国史、独立史、建国史、革命史、民権運動史で、その中の愛国者や・民族の英雄を題材として取り扱うものである。

中国がこのような明治小説に関心を示したのは日清戦争の敗戦（1895 年）の直後、最初の中国語訳が出現したのは戊戌変法の失敗（1898 年）の直後、翻訳の隆盛期に入ったのは八国聯軍侵華戦争（1900 年）の直後である。このように、中国の初期段階の明治小説受容の発生と隆盛は、当時の重大な政治的事件からの強い影響を受けていたのである。特に、中国を半植民地社会に転落させ²、強烈な民族的危機感を募らせることになった 1900 年の八国聯軍侵華戦争は、中国の明治小説受容の推移に大きな影響を与えた出来事であった。

韓国の場合、明治小説の翻訳に関心を寄せ始めたのは中国と同じ日清戦争終結（1895 年）以後である。日本とロシアの帝国主義の狭間にあった韓国は、1897 年に独立国家であることを明示する措置として「大韓帝国」に国号を変更した。韓国にとって、この時期は希望と危機を同時に感じられる複雑な時期であったと言える。このような複雑で微妙な政治的状況のもと、韓国の明治小説受容は長い萌芽期（1895 年～1904 年）を経るのである。日露戦争終結（1905 年）後の「日韓交渉条約」（乙巳条約、1905 年 11 月）により、韓国は外交権を奪われ、日本の「保護国」、事実上の半植民地社会となる。亡国の危機感が充満する状況のもとで、韓国の明治小説受容は急速に増加し始め、すぐ隆盛期に入り、1908 年に頂点に達したのである。

中国での八国聯軍侵華戦争（1900）と韓国での日韓乙巳条約締結（1905 年）には 5 年の差があるが、これが両国の明治小説受容の隆盛期出現の差となっている。このように、

¹ 上垣外憲一、『日本留学と革命運動』、東京：東京大学出版会、1982 年、p65。

² 李時中・鄭兆安編、『中国革命史』、長沙：湖南大学出版社、1989 年、p47。原文：「八国聯軍侵華戦争、中国完全淪為半植民地半封建社会。」

1900年代の明治小説受容の経過は、当時それぞれの政治的状況から大きな影響を受けているのである。

2. 1910年代の明治小説受容：中国の数量激減と韓国の方向転換

1910年代に入ると、中国と韓国の明治小説受容の量的推移は異なる様相を見せる。

中国の場合、1900年代の盛んな受容状況と反対に、1910年代は長い低迷期に陥り、明治小説受容の活力を大幅に失ったと言えよう。1910年代の毎年平均の翻訳作品数は、1900年代の31点から5.4点に下降している。

韓国の場合、1910年代になると、1911年に一時的に激しく減少したが、すぐ2回目のピークを迎えて隆盛期の後期を迎えた。韓国1910年代の翻訳・翻案作品数は、年平均5.8点であり、中国1910年代の5.4点より多く、1910年、1912年、1913年、1915年、1917年、1918年、1919年に同年の中国の翻訳作品数を超えている。また、韓国1910年代前半の隆盛期後期の翻訳・翻案作品点数は1900年代後半の隆盛期前期ほど多くないが、分量（単行本の頁数・新聞連載の回数）が増加している¹。

近代初期の中国の明治小説受容は、1900年代に集中しており、1900年代と1910年代の間に大きな差が見られる。しかし、近代初期の韓国の明治小説受容は、1900年代と1910年代が大きく変わらず、1910年代に入ってもある程度の翻訳・翻案作品数を保ち続けていた。

1910年～1911年の間、中国と韓国ではそれぞれ政権の変動が発生した。中国では清王朝を打倒して中華民国を樹立させる辛亥革命が1911年に起こり、韓国では日本の植民地支配の下に置かれる日韓併合が1910年に進められた。このような政治的状況の激変は、中国と韓国の明治小説受容の上述の変遷に大きな影響を及ぼした。

中国1911年の辛亥革命では、国権の保全（独立）と民権の実現（民主）といった政治的な成果が収められた。このような背景の下、政治的目標の一時的な達成により、改良派と革命派に属する知識人と日本留学生など中国1900年代の明治小説受容の主要な訳者たちは、それまで大きな比重を占めていた政治性の強い作品（政治・外交小説、歴史・伝記小説など）を日本から導入する必然性がなくなった。さらに、欧米への留学生の増加の結

¹ 朴珍英、『翻譯과 翻案의 時代』、서울:昭明出版、2011年、pp121～122。

果、西洋の言語に精通して直接西洋から文学受容を行える訳者の増加により¹、日本（日本語）という経路と媒介に対する依存度が大幅に下降した。中国の外来（西洋）文学受容における日本（日本語）という経路への依存性が低下したのである。中国 1910 年代の全体的な翻訳小説（受容経路の区分なし）は続けて増加しており²、その詳細を見ると、日本語経由の翻訳小説のみが減少していたのである。

1910 年の日韓併合により、韓国は国権を喪失し（植民地化）、日本帝国の武断統治のもとに置かれ、他国との直接な交流が更に減らされ、外国文学受容における日本（日本語）という経路と媒介へと依存度がさらに強まることになる。日本（日本語）以外は選択肢がなくなったのである。これは、韓国 1910 年代に明治小説（日本小説と日本語訳西洋小説）の翻訳・翻案作品数が大きく減少しなかった理由の一つであろう。

また、朝鮮総督府による厳しい検閲制度が全面的に実施され始めたことにより、1900 年代のような政治性の強い作品（政治・外交小説、歴史・伝記小説など）は続けて翻訳出版することができなくなったため、1911 年には翻訳作品数が急減した。このような状況のもと、韓国の明治小説受容は政治と関係ない家庭小説などへ方向転換を余儀なくされる。韓国は 1910 年代に多数の明治日本の家庭小説を受け入れるようになった。その受け入れ方を見ると、殆ど「翻訳」ではなく、主人公を韓国人に置き換える「翻案」であった³。これは、文学受容の際における日帝への無言の抵抗であると言えるかもしれない。このように、1910 年代に入って韓国の明治小説受容は、政治的な作品から非政治的な作品へ、翻訳から翻案へと方向を転換したのである。

¹ 中国で、1890 年代後半～1900 年代、日本留学・日本語勉強・日本書翻訳のブームが起きた重要な理由の一つは、西洋の言語に精通する訳者が当時非常に少ないため、日本（日本語）が西洋文明摂取の効率的な近道と見なされたからである。

² 王虹、「データから見る清末民初と明治の翻訳文学」、『多元文化』第 7 号、2007 年 3 月、p58。原文：「樽本氏が提供するデータに基づけば民国初期に刊行された翻訳小説の情勢も把握できる。1912 年に民国が成立した後、翻訳小説の出版点数は徐々に上昇する。特に 1913 年から 1915 年前後までは翻訳小説の数はほぼ一直線で回復し、1915 年に刊行された翻訳小説の数は清末の最高点 1907 年の数を大幅に越えた。」

³ 권정희, 「日本文學의 翻案: 메이지 家庭小説은 왜 翻譯이 아니라 翻案으로 受容되었나」, 『亞細亞文化研究』(12), 2007 年。原文：「1910 年代의 狀況 속에서 翻譯보다는 翻案이 日本文學의 受容의 主流을 形成해 나갔다.」

第二部 20世紀初頭の東アジアにおける『不如帰』の共鳴と越境

『不如帰』は、明治時代の作家徳富蘆花（1868～1927）が1898年から1899年まで『国民新聞』に連載し、1900年に民友社から出版された作品である。日清戦争前後の日本社会を背景に、当時の家族制度に翻弄される夫婦、武男と浪子の悲劇を描いた小説である。明治期最大のベストセラーといわれる。『不如帰』は1908年に中国に受容され、翻訳家林紓により中国語訳『不如帰』が上海の商務印書館から出版された。中国で大きな反響を呼び起こし、再版を繰り返した。『不如帰』は1912年に韓国に受容され、趙重桓の翻訳本『불여귀（不如歸）』、鮮于日の翻案本『두견성（杜鵑聲）』、金宇鎮の翻案本『유화우（榴花雨）』がこの年に出版された。本部では、近代初期の東アジアにおける『不如帰』の受容の様相について詳しく考察していく。

第1章 『不如帰』の登場と中韓両国における伝播

第1節 明治日本における最大のベストセラー：徳富蘆花作『不如帰』

1. 明治の人気作家徳富蘆花

徳富蘆花（1868～1927）は、明治時代に『不如帰』で名を馳せた人気作家で、思想家・ジャーナリストの徳富蘇峰（1863～1957）の弟である。

徳富蘆花は、明治元年（1868年）、肥後国（熊本県）に生まれた。本名は健次郎、号は蘆花。1878年（10歳）、兄の蘇峰に伴われて京都に行き、同志社に入学。1882年（14歳）、兄の設立した大江義塾に入る。1885年（17歳）、熊本のメソジスト教会で受洗。1886年（18歳）、同志社に再入学。1888年（20歳）、熊本英学校の教員となる。1889年（21歳）、東京に行き、兄蘇峰の経営する民友社に入り、校正・翻訳のかたわら文筆活動を開始。1890年（22歳）、蘇峰が創刊した『国民新聞』に移り、海外事情の紹介と翻訳などを担当し、トルストイに傾倒していく。1894年（26歳）、原田愛子と結婚。1898年（30歳）、長編小説『不如帰』を『国民新聞』に連載を開始し（翌年に完結）、一気に人気作家となる。

その後、1900年（32歳）、随筆集『自然と人生』を民友社より出版。1903年（35歳）、

国家主義的傾向を強める兄蘇峰と絶縁し、『黒潮』を自費刊行。1906年（38歳）、妻とともに外遊し、ロシアでトルストイを訪問し、帰国後に『順礼紀行』を刊行。1910年（42歳）、「大逆事件」の被告幸徳秋水らの死刑判決に反対。1914年（46歳）、山本久栄との自身の過去の恋愛を題材にした『黒い眼と茶色の目』を刊行。1919年（51歳）、妻と共に世界一周の旅に出る（翌年帰国）。1921年（53歳）、世界旅行の経験をまとめた『日本から日本へ』を刊行。1925年（57歳）より、最後の大作となる自伝的著述『富士』（4巻）を刊行し始める。1927年（59歳）、蘇峰と再会・和解し、狭心病のため死去。

明治文壇における徳富蘆花の位置付けについて、伊藤整氏は『日本文壇史』で、「彼（徳富蘆花）が明治三十三年（1900年）に「不如帰」を出したとき、その人気は紅葉の「金色夜叉」に拮抗し、それからのちの「自然と人生」、「思出の記」、「黒潮」と続いて、蘆花は崇拜者のような熱心な読者を持っていた」¹と述べている。徳富蘆花はこのように創作の面において成功した明治時代を代表する通俗小説家、人気作家である一方、今まで十分に注目されてこなかったが、英語力の持ち主でもあり、『トルストイ』（民友社 1897年4月）、短編集『世界古今名婦鑑』（民友社 1898年4月）、『外交奇譚』（民友社 1898年10月）など、海外作品の紹介及び翻訳の面においても多くの業績を残している。

2. 蘆花の代表作『不如帰』：武男と浪子の悲劇

『不如帰』は、1898年11月29日から1899年5月24日にかけて『国民新聞』に連載され、翌年（1900年）1月15日には単行本として民友社より出版され、上篇7章・19回、中篇10章・24回、下篇10章・30回、総27章・73回で構成される長編小説である。各回に小題目が付けられていない。

『不如帰』の背景は、日清戦争（1894～1895）前後の日本である。その頃の日本は、重大な対外戦争の推進、軍国主義政策の盛行、軍人崇拜の高まり、家庭内の新旧思想の対立と軋轢、肺結核の蔓延などの問題が多く、このような当時社会の現実が『不如帰』に詳しく描写され反映されている。

1897年夏の一夕、神奈川県の下子の柳屋旅館に仮寓していた徳富蘆花は、その頃大山巖（1842～1916、陸軍大将）が後妻大山捨松（1860～1919、日本初の女子留学生）と再婚

¹ 伊藤整、『日本文壇史 17 転換点に立つ』、東京：講談社、2008年版、p14。

したこと、大山巖と前妻の間に生まれた長女信子（浪子のモデル）が肺結核で離縁されたことなどの話を、ある婦人から聞いた。これについて、徳富蘆花は1909年2月に書いた「第百版不如帰の巻首に」で、「不圖婦人が左る悲酸の事實譚を話し出された。最早其頃は知る人は知つて居たが自分にはまだ初耳の「浪子」の話である。（略）そこで話の骨に勝手な肉をつけて一篇未熟の小説を起草して国民新聞に掲げ、後一冊として民友社から出版したのが此の小説不如帰である」¹と回顧している。

『不如帰』の男主人公は、海軍少尉川島武男である。女主人公は、片岡毅陸軍中將の長女片岡浪子である。物語は、伊香保温泉旅行に來た新婚夫婦、武男と浪子の楽しい語らいから始まる。浪子は、幼時実母と死別し、のちに留学帰りの冷たい継母、自分に横恋慕する千々岩、気むずかしい姑に苦しんでいたが、武男との幸せな結婚生活を送っていた。しかし、二人の幸福な生活は長く続かなかった。浪子は肺結核になったのである。浪子は東京から逗子へ転地療養することになる。武男が海軍の勤務で遠洋航海に出ている留守中、浪子は家系の断絶を恐れる姑から離婚を強いられ、実家に帰らされる。帰国した武男は母親に激怒するが、折しも勃発した日清戦争にそのまま赴き、黄海海戦に参戦する。1894年9月、清国の北洋艦隊との惨烈な海戦に勝利を得たが、武男は重傷を負い、佐世保の海軍病院に収容される。1894年11月、武男は退院して艦隊に復帰し、日清戦争の戦場に戻る。1895年6月、武男は一時帰国する。別れ別れになった武男と浪子は、山科駅ですれ違う列車に乗っており、偶然にお互いを見かけた。瞬間の再会であったが、永遠の別れになってしまう。浪子の病状は悪化し続ける。7月7日、危篤状態に陥った浪子は、「最早——最早婦人なんぞに——生まれはしませんよ——苦しい」²と言い残して亡くなった。妻の死の4ヶ月後、台湾から帰国した武男は浪子の墓を訪れ、そこで片岡中將と会い、悲しみを分かち合うところで物語は終わる。

『不如帰』は、日清戦争前後の時代的背景のもと、愛し合いながらも封建的家族制度のしがらみにより引き裂かれてゆく浪子と武男の悲劇であり、一般的に明治家庭小説の代表作と位置付けられてきたが、戦争小説としての特徴も濃厚に持っているといえよう。

¹ 徳富蘆花、「第百版不如帰の巻首に」、『蘆花全集 第五巻』、東京：新潮社、1930年1月、pp4－5。

² 徳富蘆花著、『不如帰』、東京：民友社、1903年5月17日（29版）、p366。

3. 「明治期最大のベストセラー」の成立

『不如帰』刊行（1900 年 1 月）後の当時の評判について、徳富蘆花は下記のように回顧している。

二月に入ると、ぼつぼつ小説の反響があつた。気むづかしやで何でも難癖つけたがる日本新聞が、二號に涉つて懇篤な紹介をしてくれたは、よくよくの仔細がなくては叶はなかつた。（略）東京日日に桐谷君が「文章でなくて音楽である、其節奏に觸るる者、潸然として泣き、蕭然として自己を忘れる、殊に叙景の高雅は他に比を見ない」と書いた。（略）手が入らぬあたりにも、不如歸の評判は追々好かつた。M 朝報の S 君は、「九分の満足を以て讀過したり、深夜床上涕淚滂沱として巻を濕したり、斯くの如き好文字をつくる蘆花氏にして、何ぞ其姓名の寂寥たるや」と書いた。（略）子規門で一二を争ふ俳人の K 君がはがきをくれた。「最初一二頁讀むつもりなりしも、到頭徹夜讀了致し候。讀過の際、しばしば涙のこぼるるを覺えず、讀み終つて、純潔の血が湧く心地いたし候。小説に涙を落とす火鉢かな。」（略）好い家庭小説、健全で親子の間にも讀める、といふ一般評の中に、人物が類型的で、文章はリリカルだが、描寫は淺薄だ、といふ黒人評もあつたが、好評が普通で、婦人の感謝は一般であつた。¹

このように反響が大きく、単行本は急速に販売部数を伸ばし、初版 2 千部は一ヶ月で売り切れ、同年 3 月に再版、4 月に 3 版、2 年間で 1 万冊も売れた。1909 年までの 9 年間、単行本は 100 版を重ねている。「明治末までに百十八刷りに達する明治期最大のベストセラー」²となり、『不如帰』を読まなかった人がなかったほどであつた³。徳富蘆花が亡くなる 1927 年まで 190 回も再版され、50 万冊以上が売れたという超ロングセラーであつた。

『不如帰』の演劇化も進められた。1901 年 2 月、『不如帰』は高田実一座により大阪の朝日座で初演され、熱烈な歓迎を受けて、明治末年までに 100 回以上上演され、新派劇の主要な演目の一つとなった。

多数の画家によって『不如帰』の絵が描かれ、『不如帰』の挿絵などに使用された。『不如帰』の歌も作られ流行した。また、映画も制作され上映された。それだけでなく、『不

¹ 徳富蘆花、『富士』（第二巻）、東京：福永書店、1926 年 2 月、pp376－377。

² 高橋修、「解題」、徳富蘆花『不如帰』、東京：岩波書店、2002 年版、p321。

³ 藤井淑禎、『不如帰の時代――水底の漱石と青年たち』、名古屋：名古屋大学出版会、1990 年、P57。

如帰』の続篇（後日談）、前篇（前日談）や外伝として創作された、いわゆる「不如帰もの」も多く出現した¹。「不如帰の時代」²と藤井淑禎氏が命名したように、『不如帰』は明治後期・大正前期の日本社会において大きな影響力を持ち続いていた。当時恋愛していた若い者たちはよく男は武男と、女は浪子と呼ばれたという³。片岡良一氏は、『不如帰』が尾崎紅葉の『金色夜叉』とともに近代日本の二大大衆小説であると指摘している⁴。

第2節 近代中国における林紓訳『不如帰』及び反響

1. 林紓：清末民初の「訳界之王」

中国語版『不如帰』の訳者林紓（1852～1924）は、清末民初期中国の古文家、翻訳家である。華麗な「文言文」（古文）を用いて外国小説を翻訳した第一人者であり、180余点の翻訳作品を出し、「訳界之王」⁵といわれた中国近代翻訳文学史の先駆者の一人である。嚴復（1854～1921）と共に「訳才並世数嚴林」⁶（嚴復と林紓は翻訳界の二大巨匠である）と称される。

林紓は1852年、福建省閩県（福州）に生まれた。原名は群玉、字は琴南、号は畏廬・冷紅生など。20歳になるまでに2千巻以上の古典書籍を読み、古文の基礎を築いた。1882年（30歳）、郷土に合格し、挙人となる。その後、数回上京して礼部の会試に失敗したため、文学に専念することになる。1899年（47歳）、中国初の西洋小説の翻訳本『巴黎茶花女遺事』（原作：フランス作家小デュマの『椿姫』）を刊行し、洛陽の紙価を高め、中国全土を風靡した。

その後、林紓は正式に翻訳小説家として活動を開始し、『伊索寓言』（1903年）、『黒奴吁天録』（1905年）、『迦因小伝』（1905年）、『拿破侖本紀』（1905年）、『魯浜遜漂流記』（1905

¹ 例えば、なにがし著、『後の不如帰』、東京：紅葉堂、1908年3月3日；青木若菜著、『前篇不如帰：未婚時代の武男と浪子』、東京：博盛堂、1913年1月20日；菱花生著、『不如帰外伝：片岡浪子』、東京：東盛堂、1913年10月15日。

² 藤井淑禎、『不如帰の時代—水底の漱石と青年たち』、名古屋：名古屋大学出版会、1990年。

³ 江川瀾、「暢銷書不如帰的背後的故事」、『深圳特区報』、2011年1月25日、C04版。

⁴ 片岡良一、『『金色夜叉』と『不如帰』の大衆性』、『片岡良一著作集』第5巻、東京：中央公論社、1979年、p109。

⁵ 譚正壁編、『中国文学史大綱（改訂本）』、上海：光明書局、1932年、p149。

⁶ 林紓への康有為の1912年の詩句である。朱曉惠・庄恒愷、『林紓：近代中国訳界泰斗』、福州：福建人民出版社、2016年、p82。

年)、『拊掌録』(1907 年)、『不如帰』(1908 年)、『三千年艶屍記』(1910)、『羅刹因果録』(1914 年)、『想夫憐』(1920 年)、『魔俠伝』(1922 年) など、総 180 余点の翻訳小説を出版していく。林紓の中国語訳『不如帰』は、1908 年に上海の商務印書館から出版された。『不如帰』は、林紓が訳出した翻訳作品の中で、唯一の日本小説である。

林紓は、自身が外国語を解さないため、外国語に通じた助手(王寿昌、魏易など)が原文を口頭で説明するのを聞きながら、その内容を中国文言文(古文)で筆記する「口述筆授」という独特な方式で翻訳を行った。彼の翻訳小説は、「林訳小説」と称され、清末民初期中国の多くの知識人たちに愛読されていた。

2. 林紓の中国語訳『不如帰』の概要

林紓が『不如帰』を翻訳した理由は、武男と浪子の愛情に感動し、またこの作品の社会的役割を認めたからである。林紓は序文の冒頭で「小説之足以動人者、無若男女之情。(略)顧以為家庭之勸懲、其用意良也」¹(小説が人を感動させる理由には男女の愛情に及ぶものがない。(略)家庭の勸懲においてその意図が良いと思う)と述べているのである。

林紓が『不如帰』を翻訳したもう一つの動機は、日清戦争(1894～1895)の真相を中国の読者に伝えようとしたことにある。日清戦争の敗戦は、常に近代中国の知識人らの注目と反省の的であった。林紓は愛国心が強く、それに自分の親戚も甲午海戦で戦死したため、日清戦争に対して敏感になっていた。林紓は翻訳の序文で、『不如帰』が「夾叙甲午戰事甚詳」²(日清戦争のことを非常に詳しく叙述している)と強調しているのである。

林紓は、助手の魏易(1880～1930)と一緒に、『不如帰』の日本語原典と英訳本を同時に参照しながら翻訳した。林紓の中国語訳が出る数年前、既に塩谷栄と E.F. Edgett による『不如帰』の英語訳『*Nami-ko*』は、米国ボストンの H.B. Turner 出版社(1904 年)と日本東京の有楽社(1904 年)から出版されていた。林訳『不如帰』は英語訳本から翻訳されたというのが一般的な説³であったが、底本問題に関する近年の研究⁴で、林紓は日本語原著をも手に入れ、十分な参照をしたことが明らかになった。

¹ 林紓・魏易訳、『不如帰』、北京：商務印書館、1981 年版、p1。

² 林紓・魏易訳、『不如帰』、北京：商務印書館、1981 年版、p1。

³ 中村忠行、「徳富蘆花と現代中国文学(一)」、『天理大学学報』1 卷 2・3 号、1949 年 10 月、p14。

⁴ 鄒波、「林紓轉譯日本小説『不如帰』之底本考證」、『復旦外國語言文學論叢』(2009 年秋季号)、上海：復旦大学出版社、2010 年、pp123-129。

英訳本の題目は女主人公浪子の名前を用いて「Nami-ko」となっているが、林紓の訳本の題目は原著の漢字表記と一致した「不如帰」となっている。英訳本の中の日本人名、地名、風物などは、英語で表記されて漢字表記がわかりにくい。林紓の訳本では、上記の名詞の漢字表記が日本原著と一致している。さらに重要なのは、林紓の訳本は英訳本の誤訳を直している箇所さえ見られることである。例えば、浪子の美貌を比喻するところ、原著では「月見草」となるが、英訳本では「daisy」（菊の花）と間違えて訳しており、林紓の訳本では原著と一致した「月見花」と直して訳している。これは、原著に対する緻密な参照がなかったら、不可能なことである。このように、林紓と助手魏易は日本語原著と英訳本を共に参照した上で『不如帰』を翻訳したと言える。

林訳『不如帰』は、中国の文言文（古文）で翻訳されている。体裁は、原著同様に 27 章で構成される。原著では各章の前に小題目が付けられていないが、林紓の訳本では、中国読者が理解しやすいように、つぎのような小題目を付けている。「第一章 度蜜月」、「第二章 叙浪子」、「第三章 采蕨」、「第四章 山木兵造別業」、「第五章 片岡子爵燕居」、「第六章 記武男之母」、「第七章 通書」、「第八章 武男燕居」、「第九章 山木燕客」、「第十章 女友談心」、「第十一章 逗子養疴」、「第十二章 讐復」、「第十三章 母子辯論」、「第十四章 山木訓女」、「第十五章 中將允婦」、「第十六章 浪子大婦」、「第十七章 武男見母」、「第十八章 鴨緑之戦」、「第十九章 戦余小紀」、「第二十章 武男養創」、「第二十一章 浪子凶死」、「第二十二章 耶蘇宣言」、「第二十三章 記旅順口事」、「第二十四章 武男帰朝」、「第二十五章 火車斗遇」、「第二十六章 浪子死訣」、「第二十七章 翁婿掃墓」。

3. 清末中国における林訳『不如帰』の反響

林訳『不如帰』は 1908 年 10 月 30 日、上海商務印書館から、「説部叢書」の第二集第 23 編として出版された。初版は大きな反響を呼び、1915 年 10 月 25 日までに 4 回再版された。また、1913 年 11 月、上海商務印書館の「小本小説叢書」にも収められ、1923 年 5 月までに 5 回再版された。さらに 1914 年 6 月、上海商務印書館の「林訳小説叢書」第 43 編として刊行され、後に数回再版された¹。このように、林訳『不如帰』は清末民初期の中国で再版を繰り返していたのである。

¹ 樽本照雄編、『清末民初小説目録 X』、清末小説研究会、2015 年、pp293～296 を参照。

『不如帰』は当時の中国で多くの読者に広く読まれていたが、その人気にともない、『不如帰』の後日譚なども中国に伝わった¹。また、『不如帰』の演劇も、劇団春柳社により数回上演され、1910年代の中国で歓迎された。

林紓は、訳本の初版の序文で、「私が[1908年までに]60種近い小説を翻訳したが、そのうち、最も悲しいものは『吁天録』、次は『茶花女』、その次はこの作品『不如帰』である」²と書き、『不如帰』を自分が翻訳した作品群の中で最も悲劇的な作品の三番目に置いている。

林訳『不如帰』が出版された翌年(1909年)、小説評論家蒋瑞藻(1852～1924)による『不如帰』の評が『小説月報』に掲載された。次の引用は蒋瑞藻が林訳『不如帰』を読んで受けた深い感銘を示している。

「余不通日文，不知日本小説何若？以譯就者論，『一捻紅』、『銀行之賊』、『母夜叉』諸書，均非上駟。前年購得小説多種，中有『不如歸』一書。余因其係日人原著，意未必佳。最後始閱及之。既終卷，覺其佳為諸書冠，恨開卷晚也。」³

拙訳：「私は日本語に通じないため、日本の小説がどうかは知らない。訳出されたものを以て論じれば、『一捻紅』、『銀行之賊』、『母夜叉』の諸書は全て優れた物ではない。前年、小説多種を購入した。中に『不如歸』の一書がある。私は、日本人の原著であることから、未だ必ずしも良い作品ではないだろうと思った。最後にしてそれを読み始めた。読み終わると、この書の佳にして諸書の冠たるを覚え、開巻の晩きを恨んだ。」

また、「国恥痴情兩淒絶，傷心怕讀不如帰」⁴(国恥と痴情、いずれも極めて悲しく、心が痛み、『不如帰』を読めない)という詩句が当時の中国で人口に膾炙したことから、『不如帰』の影響の大きさを窺える。

¹ 例えば、『後の不如帰』(なにがし著、紅葉堂、1908年)の中国語翻訳『後不如帰』(黄翼雲訳)は1915年6月27日に上海商務印書館より出版された。

² 林紓・魏易訳、『不如帰』、北京：商務印書館、1981年版、p1。原文：「余譯書近六十種，其最悲者，則『吁天録』，又次則『茶花女』，又次則是書也。」

³ 蒋瑞藻、「不如帰 第五十」、(蒋瑞藻著・蒋逸人整理)『小説考証』(下)、杭州：浙江古籍出版社、2016年、p485。

⁴ 藏暉楼主人、「読小説絶句二：不如帰」、『越報』(1)1909年、p80。

第3節 近代韓国における『不如帰』の多様な翻訳と翻案

1912年、『不如帰』の韓国語翻訳本と翻案本は3種類も出版された。趙重桓により翻訳された『불여귀 (不如歸)』、鮮于日により翻案された『두견성 (杜鵑聲)』、金宇鎮により翻案された『유화우 (榴花雨)』である。

1. 趙重桓の翻訳本『불여귀 (不如歸)』

1912年8月20日、趙重桓が翻訳した『불여귀 (不如歸)』(上篇・下篇2巻)は、東京の警醒社より刊行された。日本で印刷・出版され、その後韓国に輸送され、韓国で流通したのである。日韓併合(1910年)の2年後のことであった。

翻訳者の趙重桓(1884~1947)は、本博士論文の第五部第3章でまた詳しく説明するが、号は一齋、漢城(ソウル)に生まれ、韓国国内の京城学堂で日本語教育を受け、1907年から1910年まで日本に留学し、帰国後は『毎日申報』の記者として働きながら、明治日本の家庭小説を翻訳や翻案で韓国に導入した、韓国近代初期の翻訳・翻案作家である。『不如帰』は、彼が日本から韓国に導入した最初の作品であり、彼の翻訳・翻案家としての起点でもある。

趙重桓の翻訳本『불여귀 (不如歸)』の発行過程は、日本との関わりが深かった。初版の奥付には、発行者が福永文之助、印刷者が村岡平吉、印刷所が横浜福音印刷合資会社、発行所が東京警醒社書店と明記されている。出版後、朝鮮総督府機関紙である『毎日申報』に広告が載せられた(同年10月2日、11月16日)。また、『불여귀 (不如歸)』の韓国国内における発行は、朝鮮京城織居商店(発売元)、朝鮮京城三光組(総売捌所)、東洋書店、韓盛商会、匯東書院、美田商店、普及書館、其他京郷有名各書店が動員され、韓国全土にわたる巨大な流通網が作られた。日本側の積極的な支援は、『不如帰』作中で表現されている天皇制や天皇制的家父長制など「内地」(日本)の政治的支配理念を、小説の翻訳を通して朝鮮の民衆に植え付けようとしたからだろうと考えられる。

趙重桓は、『不如帰』の日本語原著(英訳本でなく)を底本に、純韓文(ハングル)に翻訳した。『불여귀 (不如歸)』の体裁は、上篇13章、下篇14章、原著同様に総27章で構成しており、各回には小題目が付けられず、「제일회 일」(第1回1)、「제일회 일」(第1

回 2) のように数字で表記している。

趙重桓は、『不如帰』を翻訳する同時に、演劇化の作業も進めていた。1912 年 3 月 29 日、趙重桓は京城で新派劇団文秀星を創立し、同日の夜、劇団の創立記念として演劇『불여귀(不如歸)』を韓国語で上演した。趙重桓自身も出演し片岡中将の役を演じた。演劇『불여귀(不如歸)』は同年 5 月 10 日に京城で再演されている。

趙重桓の『불여귀(不如歸)』が当時の読者にどのように受けとめられていたかについては、小説家崔獨鵬（1901～1970）の以下のような回顧談ある。

「나의 「로맨틱」 하든 시절을 적어보라구요. 네 분부대로 하지요. 제 1 기는요. 먼젓달 이엿든가 삼천리에 쓰인 나의 첫사랑 이야기가 잊지요. 앗다 그 玉丹인가라는 下婢와 「뿌렛토닉」 한 첫사랑을 하엿다는 그것 말이예요. 그것이 趙一齋의 長恨夢을 毎日申報를 통하야 본 바로뒤요. 春園의 無情을 보기 좀 前인가 보구먼요. 표지에 石竹花 한가지를 雅淡하게 그린 德富蘆花의 不如歸譯抄本을 再讀三讀하든 때도 그 전후인 듯 합니다.」¹

拙訳：「私のロマンチックな時期を書いてみるならば、四つの時期にしよう。第一期であるが、先月に『三千里』に載せた私の初恋の話があるだろう。玉丹かという下婢と初恋したとの話。それは趙一齋〔趙重桓〕の『長恨夢』を『毎日申報』を通して読んだ直後であった。春園〔李光洙〕の『無情』を読む前のものである。表紙に一本の石竹花を淡雅に描いた徳富蘆花の『不如歸』訳本を再読三読した頃もその前後のものである。」

崔獨鵬の若い頃の初恋の思い出話に『不如歸』の影響が語られているのである。初恋の時はちょうど趙重桓の『불여귀(不如歸)』を「再読三読」と夢中に読んでいた時期であったという。『不如歸』を読みながら初めて恋愛したのである。武男と浪子の清純な愛を謳歌する『不如歸』は、当時韓国の思春期の若者たちにどれほどの影響を与えたのかを、ここから窺える。

¹ 崔獨鵬、「上海 黄浦江畔의 散策」、『三千里』4（4）、1932 年 4 月、p85。

2. 鮮于日の翻案本『두견성 (杜鵑聲)』

鮮于日の翻案作『두견성 (杜鵑聲)』は、1912 年 2 月 20 日に上巻、同年 9 月 20 日に下巻、京城の普及書館から出版された。

翻案者鮮于日 (1880～1936) は大韓帝国期と植民地時代のジャーナリストである。平壤近くで生まれ、幼い時から漢文学を学び、また日本語を習得したと推測される¹。1906 年 (26 歳)、三和監理署 (韓国の開港場事務を管理する機関) の通訳官補に任命される。日韓併合 (1910) 前は『国民新報』、『帝国新聞』の記者であった。1912 年、徳富蘆花の『不如帰』を『두견성 (杜鵑聲)』として翻案出版する。1915 年～1918 年、朝鮮総督府機関紙『毎日申報』の編集人を勤める。三一運動 (1919) 後は『満州日報』を創刊し、1921 年に『朝鮮日報』の編集局長に任命される。在任時には親日的言論を多数発表した人物である。

鮮于日の翻案作『두견성 (杜鵑聲)』は、上巻 35 回・下巻 27 回、総 62 回で構成されている。各回に小題目が付けられず、「제일회」(第 1 回)、「제이회」(第 2 回)のようになり、純韓文 (ハングル) で翻案された。作品の背景は、日露戦争 (1904～1905) 前後の韓国社会に変更され、主要な登場人物は韓国人に変更されている。粗筋はつぎのようである。

韓国陸軍正尉李鵬男 (=武男) は、陸軍参長王昌東 (=片岡中将) の長女惠卿 (=浪子) と結婚するが、やがて見習い士官として日本の東京へ出発する。惠卿は幼い頃実母と死別し、冷たい継母、自分に横恋慕する趙哲九 (=千々岩) に苦しんでいたが、鵬男との幸せな結婚生活を送っていた。しかし、惠卿は肺結核になり、鵬男の留守中に姑に離縁を強いられた。帰国した鵬男はそれに怒るが、母に泣きつかれる。鵬男は激怒と失望で戦死を覚悟して日本海軍に従軍し、日露戦争に参戦する。艦上で勇敢に戦った鵬男は、負傷して日本へ後送され、その後再び戦場に戻る。戦争が終わると鵬男は帰国する。一方、病勢が悪化した惠卿は亡くなった。最後の場面では、鵬男は惠卿の墓を訪れ、そこで王参長と会い、愛する者を失った悲しみを分かち合う。若干の相違点が存在するが、全体的なストーリーは、日本原著と比べて、大きく脱することがない。『두견성 (杜鵑聲)』は、原著『不如帰』のプロットに忠実な翻案作であると言える。

¹ 1909 年、鮮于日が著述した『獨習國文日語自通』は広学書舗より出版された。

3. 金字鎮の翻案本『유화우 (榴花雨)』

もう一つ翻案本がある。1912年9月15日、金字鎮が翻案した『유화우 (榴花雨)』(上・下)は、京城の東洋書院から刊行された。

翻案者の金字鎮については、あまり知られていない。彼の号は華石散人とされる。『유화우 (榴花雨)』の他に、『花上雪』(東洋書院 1912年11月)という新小説も書いている。

『유화우 (榴花雨)』は、「小説叢書」第3集として出版された。回数の区分がなく、純韓文(ハングル)で翻案された。本文の分量は142頁であり(同年に出版された翻訳作『불여귀 (不如歸)』は279頁である)、大きく(特に結末部分)省略されている。

『유화우 (榴花雨)』の背景は前出の『두견성 (杜鵑聲)』と同様に日露戦争前後の韓国社会に変更され、登場人物も韓国人に置き換えられている。男主人公の崔栄鉉(=武男)は、日本海軍士官学校を経てロンドン海軍大学に留学し、卒業後は日本海軍中尉となる。女主人公の金雪貞(=浪子)は、金参判(=片岡中将)の長女で、京都女子高等学校に留学し、卒業後は韓国に戻る。栄鉉は休暇のついでに韓国の京城で雪貞と結婚する。しかし、雪貞は肺病になり、自分に横恋慕する姜雄範(=千々岩)の奸策で、姑から憎まれ追い出された。この頃、日露戦争が勃発し、栄鉉は参戦して戦闘中に負傷する。戦争が終わると、栄鉉は帰国して昇進する。ここまでは原作に沿っているが、最後は栄鉉が友人を通して、江原道の田舎で療養していて健康が回復した雪貞と再会したというハッピーエンドで物語が終わるのである。

以上のように、『不如歸』の3種類の韓国語翻訳(翻案)本の概要について述べてきた。そのうち翻訳本『불여귀 (不如歸)』の反響は比較的に大きく、それをきっかけとして家庭小説の翻訳・翻案のブームを引き起こした。外国の作品として一年内に三つの翻訳(翻案)本が一挙に韓国語で出版されたことは、韓国近代翻訳(翻案)文学史上において非常に稀な事例である。

『不如歸』が越境して20世紀初頭の東アジアで広く受容された理由は、近代に入ったところの日中韓の読者たちが、武男と浪子の近代的で清純な夫婦愛に新鮮さと魅力を感じたのに加えて、封建的な家族制度のしがらみに引き裂かれた二人の愛情の悲劇に深く理解・共鳴したからであろう。

第2章 日中韓における『不如帰』で現れた日清戦争観の相違

本章からは、日本、中国、韓国における『不如帰』のテキストの対照分析を通じて、その受容・変容の様相を考察していく。

日清戦争（1894～1895、中国では「甲午戦争」、韓国では「清日戦争」と呼称される）は、近代東アジアの情勢を激変させ、日清の両交戦国だけでなく、戦争の引鉄となり一部の戦場にもなった朝鮮にも大きな影響を与えた¹。『不如帰』は日清戦争について詳細な記述がなされており、作中の人物たちも当然ながら戦争の有為転変と無縁ではいられないように描かれている。藤井淑禎氏が『不如帰』という作品は十分戦争小説的であったと読むことも可能なのである²と指摘しているように、『不如帰』は戦争文学としての色彩を強く持っていると言える。日中韓の『不如帰』は、日清戦争についてどのように描いているか、その戦争観をテキストの対照分析を通して明らかにしたい。

第1節 日本『不如帰』：日清戦争を支持・応援する日本社会像

原著『不如帰』の中で日清戦争について多く述べているのは、下編一の一、一の一、一の一、一の一、一の一、下編二の一、二の一、二の一、二の一、下編六の一、六の一、下篇七の一である。もちろんこれ以外の部分でも、日清戦争について度々言及している。日清戦争期の日本社会の姿が、『不如帰』の中で生き生きと描写されているのである。

1. 戦時の日本の一般大衆：想像と声援

日清戦争直前の朝鮮情勢について、当時の日本人は「海内の注意一に朝鮮問題に集れる」³ほど高い関心を持っていた。中篇第3回、浪子と従姉妹の千鶴子の会話からは、開戦前から一般人が戦争について思いを巡らせていたことが読み取れる。

¹ 東アジア近代史学会編『日清戦争と東アジア世界の変容』（ゆまに書房、1997年）は近代東アジア世界に与えた日清戦争の影響について詳しく検討している。

² 藤井淑禎、『不如帰』徳富蘆花―戦争と愛と、『国文学解釈と教材の研究』36（1）、1991年、p62。

³ 徳富蘆花著、『不如帰』、東京：民友社、1903年5月17日（29版）、p213。

（浪子）「斯様に寝て居ると、ね、色々な事を考へるの。ほゝゝゝ、笑つちや嫌よ、此れから何年かたつてね、何處か外国と戦争が起るでせう、日本が勝つでせう、其様するとね、お千鶴さん宅の兄さんが外務大臣で、先方へ乗込んで媾和の談判をなさるでせう、其れから武男が艦隊の司令長官で、何十艘と云ふ軍艦を向ふの港に列べてね……」

（千鶴子）「其れから赤坂の叔父さんが軍司令官で、宅の阿爺が貴族院で何億萬圓の軍事費を議決さして……」

（浪子）「其様すると妾はお千鶴さんと赤十字の旗でも樹てゝ出かけるわ」¹

この会話は 1894 年 2 月 15 日、日清戦争勃発（1894 年 7 月）の半年前のものである。二人は専業主婦で、国家の対外重大戦争の機密を知るはずもなかっただろう。戦前の彼女らは、「何年かたつて……外国と戦争が起るでせう」と言つて対外戦争の発生を想像したり、「日本が勝つでせう」と言つて戦争の結果を予想したりして日本の開戦及び勝利を望む。また、「お千鶴さん宅の兄さん」、「武男」、「赤坂の叔父さん」、「宅の阿爺」も講和会議、海戦、国会審議に積極的に携わり、戦争の中で大きな役割をすることを想像している。その上、二人も自ら「赤十字」会に入り、間接的に戦争を支援したいと話している。気立ての優しい二人の女性は、悲惨な戦争を怖がるどころか、むしろ期待しているような印象を読者に与える。

浪子や千鶴子だけではなく、山木などの悪役も戦争を渴望している。次に挙げるのは中篇第 7 回、日清戦争勃発前、山木が自宅で朝鮮情勢の新聞記事を妻に聞かせている場面である。

（山木は）婢が持て来し新聞の號外洋燈の光にてらし見つ。「うゝ朝鮮か……東學黨ます——猖獗……なに清國が出兵したと……。さあ大分面白くなって来たぞ。此れで我邦も出兵する——戦争になる」²

一介の商人に過ぎない山木は、朝鮮情勢から判断して日本と清国が間もなく戦端を開くと確信している。更に、「大分面白くなって来たぞ」という発言と合わせ、日清戦争勃発前、一般の人々が戦争への憧憬ないしは渴望と熱情を持っていたことが読み取れる。

¹ 徳富蘆花著、『不如帰』、東京：民友社、1903 年 5 月 17 日（29 版）、p143。

² 徳富蘆花著、『不如帰』、東京：民友社、1903 年 5 月 17 日（29 版）、p197。

こうした風潮は、開戦後日本国内で積極的に行われた民衆の戦争支援活動に繋がっている。この一つの典型は下篇第2章である。ここでは、陸軍第二師団が広島に集結していた際、市民たちが出征を控えた将兵たちを自分の家に無料で泊まらせたり、一緒に軍歌を歌ったりする場面が描かれている。中国語訳者の林紓がこの場面について括弧書きで「足見日本人心上下如一（ここから日本人が上下一心であることがよくわかる）」¹と評したように、まさに挙国一致で戦争を迎えていたのである。

2. 軍人崇拜の高まり

『不如帰』は日清・日露戦争の戦間期という「あたかも日本帝国主義の昂揚を進める時期」²に書かれた作品であり、それ故に当時日本社会で高まっていた戦意高揚・軍人崇拜といった風潮の影響を受けている。

まず、男性登場人物たちの設定自体がそれに当てはまる。主だった男性登場人物たちのほとんどは軍人として設定されている。例えば、浪子の父の片岡は陸軍中将子爵、夫の武男は海軍少尉男爵、武男の従兄の千々岩は参謀本部の下僚であり、特に片岡中将と武男少尉は理想的な軍人像として造型されている。これは決して偶然ではなく、作者が明確な意図を持って設定したものと考えられる。それは主人公武男のモデルとなった三島弥太郎（1867～1919）は後に日本銀行の総裁になった経済人であるのに、小説では海軍士官になっている点に端的に現れている。盧花がモデルの身分をこのように軍人に変えたことは、「そのころの軍国調を思わせる一例」³だと指摘されている。軍人の物語を詳しく描いたこの作品の流行には、当時における軍人崇拜という社会の空気も重要な要素として作用していたと考えられる。

軍人崇拜の風潮の強い影響を受けていたのは大人に限らない。上篇第5回、片岡の八歳の息子毅一が父に学校の授業の話を聞かれた場面のこと。

水兵（毅一）は快然と笑みつゝ、「今日はね、阿爺、楠正行の話よ。僕正行ア大好き。正行とナポレオンは何方がエライの？」「何方もエライさ。」「僕アね、阿爺、正行ア好きだ

¹ 林紓・魏易訳、『不如帰』、北京：商務印書館、1981年版、p81。

² 神田重幸、『『不如帰』-夫婦愛、その理想と悲劇』、『国文学解釈と鑑賞』52（10）、1987年、p46。

³ 円地文子、『『不如帰』の主題』、『文学』（八）、1956年、p32。

けど、海軍が猶好きよ。阿爺さまが陸軍だから、僕ア海軍になるンだ。」¹

僅か八歳の子供が軍服を好み、楠正行（楠木正行、南北朝時代の武将）やナポレオン（1769～1821、革命期フランスの軍事家）などの人物に憧れ、将校になることを夢とする。そして「好き」「大好き」「偉い」などの言葉を何度も繰り返している。ここでの毅一の言葉からも、当時の軍人崇拜の風気的一端が感じられる。

3. 前線将兵の沈勇さとユーモア精神

下篇の第1章は作品中の最も長い章で、日清の主力海軍間で戦われた黄海海戦（1894年9月17日）の過程を、その前日から当日の海戦の終わりまで、日本聯合艦隊の立場から非常に詳しく述べている。この海戦の場面は経過に沿って4段階に渡って詳細に叙述され、その描写は史料の記録と驚くほど一致している。惨烈な海戦場面は、緊張感を感じさせるほど、詳細に書き込まれている。その一場面を見よう。

（定遠鎮遠二艦は）黒煙を噴き、白波を蹴り、砲門を開きて、咄々来つて我に迫らんとする状の、宛ながら悪獸なんどの来り向ふ如く、恐るゝとにはあらで一種己み難き嫌厭と憎悪の胸中に漲り出づるを覺へしなり。忽ち海上遥かに一聲の雷轟き、物ありグーンと空中に鳴をうつて、松島の大橋を掠めつゝ、海に落ちて、二丈ばかり水を蹴上げぬ。武男は後頂より脊髄を通じて言ふべからざる冷氣の走るを覺へしが、忽ち足を踏み固めぬ。他は如何にと見れば、砲尾に群がりし砲員の列一たびは揺きて、また動かず。艦いよ——進むで、三個四五個の敵弾つゞけざまに乱れ飛び、一は左舷に吊りし端艇を打碎き、他は渾て松島の四邊に水柱を蹴立てつ。²

しかし、清国海軍の恐ろしい攻撃を受けた日本艦隊の将兵たちは沈勇に応戦する。惨烈な戦争場面と対照的に、武男を含む日本聯合艦隊の将兵たちの沈勇さと愛国心が強調されている。戦いぶりの中でも特に印象が深いのは、激戦の場面でもユーモア精神を持っていることである。以下の二つの場面を見てみよう。

¹ 徳富蘆花著、『不如帰』、東京：民友社、1903年5月17日（29版）、pp58－59。

² 徳富蘆花著、『不如帰』、東京：民友社、1903年5月17日（29版）、pp252－253。

①左頬に痣ある一少尉は少軍醫の手をとり、「吾輩が負傷したら、何卒御手柔かにやつて呉れ玉へ。其賄賂だよ、此は」と四五度も打ふりぬ。呵々と笑へる一座は、また忽ち真面目になりつ。¹

②定遠鎮遠の何れか放ちたる大弾丸凄まじく空に唸りて、煙突の上二寸ばかり掠めて海に落ちたり。砲員の二三は思わず頭を下げぬ。分隊長顧みて「誰だ、誰だ、御辞儀をするのは？」武男を初め候補生も砲員もどつと笑ひつ。²

①はある少尉が戦闘前に軍医に賄賂を渡すと冗談を言う場面で、兵士たちの戦前の緊張が一時的ながら解きほぐされる。②はある分隊長が、砲撃を受けて思わず頭を下げる砲員の模様をお辞儀だと戯れる場面で、砲撃の恐怖感が解消されている。このように、作者は将兵たちの沈勇さとユーモア精神を描くことで、日本聯合艦隊将兵たちのプラスイメージを伝えている。

4. 戦争の暗部が隠蔽される物語構造

以上で『不如帰』のテキストに直接に表現されている日清戦争時の日本社会像の描写を検討してみた。このような『不如帰』の戦争叙事の陰には大きな矛盾が隠れている。換言すれば、『不如帰』には、戦争の暗部が隠蔽される物語構造が築かれているのである。

登場人物たちの生命や愛情にとって、日清戦争は運命の「妨げ」となっていると言える。まず、「何時魚の餌食になるか、裂弾、榴弾の的になるか分からない」³というように、武男たちは戦争で常に生命の危険に曝されている。そして中篇第6回、浪子を離縁させたがっている母と激しい議論をしているところでは、軍中の電報が届いたため、武男はまだ母を説得できないまま、急いで艦隊演習に赴いてしまう。また、中篇第9回、戦争直前の演習に赴いた武男の留守中に、浪子は姑から離縁を強いられてしまう。下篇、戦場で戦っている武男は、浪子が離縁を強いられたことを知ったが、それを解決しに家に帰ってくる

¹ 徳富蘆花著、『不如帰』、東京：民友社、1903年5月17日（29版）、p249。

² 徳富蘆花著、『不如帰』、東京：民友社、1903年5月17日（29版）、p254。

³ 徳富蘆花著、『不如帰』、東京：民友社、1903年5月17日（29版）、p121。

ことができない。そして下篇第10回、浪子の墓に来た武男は、悲しみに耐え、岳父の片岡中将与台湾の軍事を話そうと言いながら、物語は終わりを迎える。

日清戦争はこのように主人公らの運命の「妨げ」として何度も介入・登場するものの、戦争に対する批判どころか、反感や反省などの否定的意見は一切見あたらない。日清戦争は作中でマイナスの役割を果たしているのにも関わらず、作品のいずれの箇所でも戦争に反対するような発言・思考は全く呈されていないのである。疾病の悪化と家庭の圧力と戦争の推進の三者を、悲劇的な結末に導いた要素とまとめれば、前二者に対しては、武男は立ち向かえたものの、戦争の推進に対しては、武男は抵抗しないのみならず、愛情と戦争という二者選択を強いられると躊躇なく戦争を選択する。「この夫婦を大きな力で引き裂いていく」¹日清戦争は、「無批判・無抵抗であり、神聖不可侵のものとして作品内に君臨している」²のである。

このような矛盾を内包する物語構造や「恋愛小説が戦争小説に屈服する形」³から、愛情や家庭より戦争を優位に立たせ、日清戦争を肯定・支持する意識が読み取れる。この考え方は、徳富蘆花一人のものではなく、当時の日本において共通の認識でもあるだろう。

第2節 中国『不如帰』：翻訳を通じて行われる日清戦争の反省

『不如帰』は、近代中国に導入された際、作中の日清戦争に関する内容が最も重要視され、「戦争文学」の色彩が非常に鮮明になった。これは中国訳『不如帰』訳序の内容、小題目、括弧書きでの戦争評論の挿入などに見て読み取れる上、一見めだたない細部の変化からもうかがえる。

まず、訳序は、日清戦争の論述を中心に書かれており、『不如帰』を翻訳する動機や着眼点が述べられている。また目次では、「第十八章 鴨緑之戦」、「第十九章 戦余小紀」、「第二十三章 記旅順口事」のように、日清戦争を集中的に描写する章節毎に小題目を付けており、これは数字のみで章分けをする日本原著よりも日清戦争と作品の関係性を更に鮮明に中国の読者に印象づける。そして中国『不如帰』を通読すれば、括弧書きという形で挿入された、日清戦争に対する訳者の評論や感想も、多く存在していることがわかる。

¹ 神田重幸、『『不如帰』(徳富蘆花)--夫婦愛、その理想と悲劇』、『国文学解釈と鑑賞』52(10)、1987年、p44。

² 藤井淑禎、『『不如帰』徳富蘆花--戦争と愛と』、『国文学解釈と教材の研究』36(1)、1991年、p62。

³ 藤井淑禎、『『不如帰』徳富蘆花--戦争と愛と』、『国文学解釈と教材の研究』36(1)、1991年、p64。

また、訳本の細部から、中国版『不如帰』においては原典よりも日清戦争に関する描写の重要性が一層高まったことが読み取れる。例えば、原作で日清戦争を集中的に描写する下篇に入る直前、中篇最後の文章は、中国版では以下のように変更されている。

原著：我曹が次を逐ふて其運命を辿り来れる敵も、味方も、彼銷魂も、此怨恨も、暫し征清戦争の大渦に巻込れつ。¹

中国版：前書所叙瑣屑之事，可暫止勿言，而全国均注意于日清之戦矣！²

(拙訳：これまで述べてきた些細なことについては、暫く筆を擱いてもよいだろう。日本全国の耳目がすべて日清戦争に集まるようになった。)

この文章は、叙述の重点を、それまでの家庭の話からその後の戦争の話へ移行させる役割を果たしている。中国の訳本では、それまで述べられてきた家庭の話は重要でない「瑣屑之事（些細なこと）」だとされており、日清戦争の話は原著より一層強調されている。

中国語訳『不如帰』で、日清戦争がこれだけ重点的に描写されたのは、翻訳を通じて日清戦争に対する真剣な反省を行おうとする意識に基づくのではないかと考えられる。中国語訳『不如帰』で描かれている日清戦争への「真剣な反省」とは、浅いものから深いものまで、戦争の真相・戦敗の原因・戦後の方策という以下の三つの面で行われていると言える。

1. 真相の追究：海戦過程の再現

戦敗に多大な衝撃を受けた近代中国では、喧々囂々の議論が繰り広げられた。ところが実際には、日清戦争の詳しい経過と本当の状況に関しては諸説紛々の有り様であった。林紓は、戦争の真相を知らないままの「反省」は意味がない、本当に反省するためには、まず戦争の真相を明らかにしなければならない、と判断したのであろう。

例えば、清軍の敗因を軍隊の戦意の低さや戦闘からの逃避に帰す主張があった。

¹ 徳富蘆花著、『不如帰』、東京：民友社、1903年5月17日（29版）、p235。

² 林紓・魏易訳、『不如帰』、北京：商務印書館、1981年版、p76。

甲午戦事, 人人痛恨水師之不武, 望敵而逃。¹

拙訳：甲午戦事（日清戦争）について、人々は皆水師が戦おうとせず、敵を見て逃げたことを痛恨の極みに感じている。

しかし、林紓はそれが実情に合わない指摘する。

謂渤海之戰, 師船望敵而遁, 是又謬言。²

拙訳：渤海海戦で我が水師が敵を見て逃げたというのも真実の話ではない。

林紓はその根拠を『不如帰』から見つけたとしている。

今得是書, 則出日本名士之手筆。其言鎮定二艦, 当敵如鉄山；松島旗艦, 死者如積。吾国史家, 好放言。若文明之國則不然, 以觀戰者多。防為所譏, 措語不能不出於紀實。³

拙訳：今手に入れたこの本は、日本の名士が書いたものである。この本によれば、（清国の）鎮遠定遠二艦が鉄山のように敵と戦い、（日本の）松島旗艦は死屍累々たる様子であった。我が国の史家は誇張を好むが、（日本のような）文明の国はそうではなく、客観的に戦いを見るのが普通で、嘲られないよう、事実には則して言葉を使う。

林紓は、日清戦争を巡る諸説紛々の中、他国の記録物である『不如帰』の信憑性が高い理由を分析し、『不如帰』で記録されたように、海戦時の清国艦隊が逃げずに非常に勇猛に戦ったことこそが戦争の真相だと主張する。林紓は敗戦の真因を、「出於紀實（事実にして）」と日清戦争を記述した『不如帰』から探そうとしたのである。

2. 敗因の反省：武器・戦術・指揮

林紓は清国敗戦の原因については中国語訳『不如帰』において日本軍側の行動を詳しく観察・分析し、様々な面から反省を行っている。括弧書きの形式で頻繁に差し入れられて

¹ 林紓・魏易訳、『不如帰』、北京：商務印書館、1981年版、p80。

² 林紓・魏易訳、『不如帰』、北京：商務印書館、1981年版、p1。

³ 林紓・魏易訳、『不如帰』、北京：商務印書館、1981年版、p2。

いるその反省の内容は、武器（装備）から戦術（戦略）まで、様々な面に触れており、問題点がずばりと指摘されていると言えよう。

まず、武器・装備の面の欠点が指摘された。第 18 章「鴨緑之戦」、開戦前に武男の指揮下で砲員らが旗艦松島の速射砲を装填する場面では、次のような評論が括弧で挿入されている。

時吾国艦隊竟従部臣之令,省費不購一快砲,李文忠不能争也。¹

拙訳：当時我が清国の艦隊は部臣の命令に従って、ただ経費を抑えるだけのために、なんと速射砲を一門も購入しなかった。李鴻章は責任を逃れられない。）

ここで林紓は日本の軍艦と比較・対照して清軍の武器・装備の問題点を指摘している。即ち速射砲が全く配置されていなかったという点である。当時清の北洋艦隊に配備されていたのは、ほとんどが大口径の砲であった。大口径砲は、砲弾の装填速度が遅く、近距離の命中率が低いという欠点があり、速射砲を備え移動も速かった日本聯合艦隊と戦うのは非常に不利であった。

また、指揮の面での失策も多く指摘されている。以下のような評論が何回も挿入されている。

① 此足見丁汝昌之号令！²

拙訳：ここから丁汝昌の号令（の悪さ）がよく分る！

② 此足見丁汝昌之将令矣！³

拙訳：ここから丁汝昌の将令（の悪さ）がよく分る！

③ 日本変其陣法,而吾軍乃不变,竟以船舷受砲,故立敗。⁴

拙訳：日本は陣形を変えたのに、我が軍は変えようとせず、そのため船舷で砲弾を受けざるを得なくなって、たちまち負けてしまったのだ。）

北洋艦隊の総司令官の丁汝昌（1836～1895）提督は失策を繰り返した。このような指揮

¹ 林紓・魏易訳、『不如帰』、北京：商務印書館、1981 年版、p77。

² 林紓・魏易訳、『不如帰』、北京：商務印書館、1981 年版、p76。

³ 林紓・魏易訳、『不如帰』、北京：商務印書館、1981 年版、p79。

⁴ 林紓・魏易訳、『不如帰』、北京：商務印書館、1981 年版、p77。

の失策を導いた原因も以下のように括弧書きで指摘されている。

① 時吾国大将丁汝昌属兵事於漢納根, 漢納根不審兵事, 蓋一工匠也。¹

拙訳：当時我が清国大将丁汝昌は軍事をハンネケンに委任していた。しかし、ハンネケン（Von Hanneken、1855-1925、ドイツ陸軍将校）は兵事のことを知らない、一介の職人にすぎない。）

② 主将不知兵事, 故至於此。²

拙訳：主将たちが軍事を知らないからこうなってしまった。

北洋艦隊総司令官の丁汝昌は陸軍将校出身で、不案内な海戦については外国軍事顧問であったハンネケン（Von Hanneken、1855-1925、ドイツ陸軍将校）に頼っていた。しかし、ハンネケンも陸軍出身であり、旅順口と威海衛砲台を設計・建造するなど、彼の専門は軍事施設の構築であった。海軍の最高指揮官が海戦の素人だったため、必然的に失策を繰り返したのである。

軍隊内部の面の問題点も以下のように指摘されている。

① 若郎威里在者, 寧有此失！郎威里為劉步蟾所逐, 而将弁又相互疑貳, 安得不敗！³

拙訳：もしウィリアム・ラングがいれば、こんな失策があるわけがなかった。ラングは劉步蟾に締め出され、将校たちも互いに不信を抱いていたので、敗れないわけがなかったのである！

② 吾深恨郎威里之去, 已為海軍全毀之張本矣, 哀哉！⁴

拙訳：ウィリアム・ラングが去っていたのを非常に残念に思う。彼が去ったことは、海軍の壊滅に繋がった。悲しいかな！）

ここでは北洋艦隊内部の二つの矛盾が指摘されている。一つは清国将校と外国顧問の間の矛盾である。ウィリアム・ラング（William M Lang、1843-1906、英国海軍将校）は、1882年に来清し、北洋艦隊の創設と訓練に大きな貢献をしたが、清国将校から排斥を受け、1890年に帰国した。ラングが去った結果、清国は西洋の海軍装備を持っていたとはいえ、西洋の海戦理念と海軍将兵の軍事的素養を失ってしまった。もう一つの矛盾は、福建将校と非

¹ 林紓・魏易訳、『不如帰』、北京：商務印書館、1981年版、p77。

² 林紓・魏易訳、『不如帰』、北京：商務印書館、1981年版、p81。

³ 林紓・魏易訳、『不如帰』、北京：商務印書館、1981年版、p77。

⁴ 林紓・魏易訳、『不如帰』、北京：商務印書館、1981年版、p81。

福建将校の間の矛盾である。当時北洋艦隊の多くの将校は、福建省出身で、福州船政学堂の卒業である。彼らは非福建出身の将校たちとの仲が悪く、海戦時は各軍艦がそれぞれ勝手に戦い、統率のとれた作戦をとれなかった。

日本連合艦隊と鮮やかな対照を成している武器・装備の欠点、指揮の失策や将校の不和などの清国海軍の問題点は、『不如帰』の翻訳を通じて確認された。

3. 戦後の方策の反省：軍事人材育成の提唱

戦後の対策を検討する前に、まず失われた自信を取り戻さなければならないと、林紓は歴史上有名な逆転勝利の例を挙げて以下のように主張している。

知其所以致敗而变革之，仍可自立於不败。当時普奥二国大将，皆累敗於拿破侖，維其累敗，亦習知拿破侖用兵之奥妙。避其所長，攻其所短，而拿破侖敗矣。勾踐之於吳，漢高之於楚，非累敗而終収一勝之効耶！¹

拙訳：敗因を知りそれを改めれば、また不败の立場に立つことができる。その昔プロシアとオーストリア二国の大将は何度もナポレオンに敗北を喫したが、その過程でナポレオンの用兵の秘訣を知った。そしてナポレオンの長所を避け、短所を攻撃して、ナポレオンを負かしたのである。吳を負かした勾踐も、楚を破った漢高祖も、何度も負けてから遂に勝利を収めたのではなかったか！

そして戦後の根本的な改革については、武器・装備を巡る朝議²を批判しながら、「軍事的人材の育成」を強く主張している。

方今朝議，争云立海軍矣，然未育人材，但議船砲。以不習戰之人，予以精砲堅艦，又何為者？所願当事諸公，先培育人材，更積資為購船制砲之用，未為晚也。³

拙訳：現在朝廷の議論は、海軍増強案に傾きつつある。しかし、人材の育成がまだできていないのに、艦砲のことのみに議論している。海戦に慣れていない将兵に精密な大砲と堅

¹ 林紓・魏易訳、『不如帰』、北京：商務印書館、1981年版、p1。

² 張海栄、「甲午戦後改革大討論考述」、『歴史研究』（4）、2010年。

³ 林紓・魏易訳、『不如帰』、北京：商務印書館、1981年版、p1。

固な軍艦を任せることに果たして意味があるのだろうか？役人たちに言いたいのは、まず人材を育成して、資金を蓄積してから艦船や艦砲を購入しても遅くはないということだ。

林紓は『不如帰』を訳しながら、日清海軍将校の軍事的素養の大きな格差を感じ、将兵の軍事的素養が戦争の帰趨をいかに左右するかを深く認識している。それ故、林紓は人材育成の重要性と緊迫性を強調している。こうした林紓の主張については、更に十分な論述に基づいた現在の歴史研究も認めている¹。

第3節 韓国『不如帰』：日清戦争「痛史」²への直面回避

韓国版『不如帰』には3種類があるが、そのうち趙重桓の『불여귀(不如歸)』だけが翻訳本であり、鮮于日の『두견성(杜鵑聲)』と金宇鎮の『유화우(榴花雨)』の二つは翻案本である。韓国の『不如帰』翻訳・翻案本は、中国版のような訳序や括弧書きの挿入がないので、戦争認識は明確に現れていない。しかし、以下の点から、日清戦争という「痛史」への直面を回避するような意図が窺える。

1. 翻案本における日清戦争の背景の不在

韓国翻案本『두견성(杜鵑聲)』と『유화우(榴花雨)』は原作を基本的に踏襲しているものの、作中人物が朝鮮人に、舞台が朝鮮に変更されている。しかし、更に興味深いのは、これら二つの翻案本では日清戦争(1894～1895)が日露戦争(1904～1905)に置き換えられている点である。言い換えれば、韓国翻案本には、日清戦争は完全に不在なのである。

翻案本では、日露戦争勃発後、朝鮮の軍人である男性登場人物たち(『두견성(杜鵑聲)』: 李鵬男・趙哲九・王昌東、『유화우(榴花雨)』: 崔榮鉉)は、皆日本海軍に従軍し参戦すると設定される。しかし、近代初期の韓国史を考えれば、このようなプロットは「夢物語である」³と指摘される外ない。歴史的には、日露戦争と日清戦争のどちらにも朝鮮

¹ 葉春雷・盧飛、「甲午海戦中日指揮員素質之比較」、『軍事歴史』(2)、2009年。

² 「痛史」は「痛い歴史」の意味で、韓国開化期著名な啓蒙思想家朴殷植によって初めて提起された。朴殷植は、『韓国痛史』(1915年)で、日清戦争を含め、1864年から1911年まで、韓国の国権が喪失されていった近代史を「痛史」と称した。

³ 洪善英、「徳富蘆花『不如帰』と韓国の翻案小説との比較考察」、『日語日文学研究』(43)、2002年、p76。

の軍隊が直接参戦したり、或は日本軍に従軍したりすることはなかった。史実と異なる展開にするとしても原作のまま日清戦争を描く方が遥かに容易なのに、翻案本はわざわざ場面を日露戦争に置き変えており、この点は非常に興味深い。

この背景には、近代の韓国から見れば、日清戦争は日露戦争よりも遥かに微妙なテーマであることが関係しているのではないだろうか。日清戦争は朝鮮が直接の原因かつ戦地であり、この戦争に対しては敏感な認識が持たれていたと言えよう¹。しかし、日露戦争は朝鮮が導火線でもなく、戦場でもないの、朝鮮にとって比較的距離感がある戦争であった。韓国翻案本における戦争背景の変更に関わるのは、日清戦争に面と向き合うことを回避する傾向ではないかと考えられる。

2. 翻訳本における日清戦争の叙事の弱化

日清戦争という作中背景が変更されていない韓国語翻訳本『불여귀 (不如帰)』では、「戦争文学」の色彩が大きく弱化されている。先に引用した、日清戦争を集中的に述べる下篇直前の文章が、韓国語訳本でどう扱われているのかを見よう。

原著：我曹が次を逐ふて其運命を辿り来れる敵も、味方も、彼銷魂も、此怨恨も、暫し征清戦争の大渦に巻入れつ。²

韓国版：(訳されず)³

ここは、作中の人物たちの運命が日清戦争に翻弄される、作品と日清戦争の強い関連性を示す場面である。ところが韓国語訳本ではこの文章が省略されてしまい、中国語訳本と鮮やかな対照を成している。韓国語訳本で他に原作の文章を完全に省略したところがほとんどないという点を鑑みると、日清戦争との関連性を現すこの箇所が省略されたのは偶然のことではないと判断できる。ここからは、訳者が日清戦争と直面するのを忌避していた心

¹ 日清戦争を回避する韓国の歴史認識については、「清日戦争에 對한 韓日中 歴史認識 比較分析」(최혜영, 高麗大學校碩士論文, 2006 年)、「韓國人怎麼看甲午戰爭」(孫科志, 『東方早報』第 B 六版, 2014 年 4 月 22 日)などを参照されたい。韓国にとっては、日清戦争が「日清の角逐戦」であるのにも拘らず、「朝鮮の領土で展開され」てしまったことに、強い無力感が感じられる。そのため、韓国の歴史記述においては日清戦争自体についての言及が少なく、むしろ戦争のきっかけとなった朝鮮東学農民運動の過程と意義の方に焦点を当てて強調されてきた。

² 徳富蘆花著、『不如帰』、東京：民友社、1903 年 5 月 17 日 (29 版)、p235。

³ 趙重桓 譯, 朴珍英 編, 『불여귀(不如歸)』, 서울:報告社, 2006 年, p176。

理が読み取れる。

これに加えて、武男の軍人としてのイメージも弱められている。上篇第4回、山木が浪子と武男の結婚で悲しんでいる娘を慰める場面を見てみよう。

原著：「那様な微々した男に心中立——其れもさ此方ばかりで御相手なしの心中立するよりか」¹

韓国訳本：「그까짓 다케오상 같은 일개 선생을 가지고 그렇게 패념을 하지 말고」²

拙訳：「武男さんのような一介の書生をそんなに一途に思わないで」

海軍少尉である武男は軍人であるのに、韓国語訳本では「書生」と呼ばれ、軍人としてのイメージが薄められてしまっている。

日清戦争と朝鮮情勢について登場人物たちが議論する場面になると、韓国翻訳本は自国の立場のため原本の強過ぎる表現を弱化している。第7回、日清戦争勃発前、山木が自宅で朝鮮情勢の新聞記事を読んで妻に話している場面（この場面は二章でも引用した）は、韓国語版でどのように翻訳されたのかを見てみよう。

原著：「うゝ朝鮮か……東學黨ます——猖獗……なに清國が出兵したと……。さあ大分面白くなって来たぞ。此れで我邦も出兵する——戦争になる」³

韓国語版：「응, 조선에서 동학이 성해서……응, 청국이 군사를 파송하여……응……
옳지, 그럴 터이지. 우리나라에서도 군사를 내보내---인제 전쟁이 된다.」⁴

拙訳：うん、朝鮮で東学が盛んになり……うん、清国が出兵した……うん……そう、
そうなるぞ。我が国も出兵する——直ぐ戦争になる。

韓国の訳本では、二つの改変がなされている。一つ目は、「猖獗」という東学党を貶す言葉を、客観的な表現である「성하다(盛んだ)」に変えた点である。「東学農民戦争」、或は

¹ 徳富蘆花著、『不如帰』、東京：民友社、1903年5月17日（29版）、pp50-51。

² 趙重桓 譯,朴珍英 編,『불여귀(不如歸)』, 서울:報告社, 2006年,p51。

³ 徳富蘆花著、『不如帰』、東京：民友社、1903年5月17日（29版）、p197。

⁴ 趙重桓 譯,朴珍英 編,『불여귀(不如歸)』, 서울:報告社, 2006年,p153。

「東学農民運動」については、韓国でプラスの方向で認識されてきたので、「猖獗」のような表現は、韓国の訳者と読者にとって受け入れ難かったからであると考えられる。二つ目は、「大分面白くなって来たぞ」という日清戦争直前の情勢を語るセリフを、単純な推測を現す表現の「그럴 터이지 (そうなるぞ)」に変えた点である。「壬辰倭乱以降最大の民族災難」¹であった日清戦争が「面白い」という表現が、当時の韓国人を傷つけるのを懸念したからであろう。このように韓国翻訳本では、自国にとって心情的に好ましくない表現が大きく変更されている。

ここまで『不如帰』の日本語原著、中国語翻訳本、韓国語翻訳本及び翻案本のテキストを詳しく対照・分析してみると、『不如帰』の受容過程では、それぞれの立場の相違により、日清戦争の描き方及びそれに繋がる日清戦争への態度と認識においてそれぞれ大きく異なることが明らかとなった。

第3章 日中韓における『不如帰』で現れた儒教的倫理観の比較

本章は、前章に続き、作中の「家庭」における儒教的倫理観の要素に焦点を当てる。具体的には、君臣関係の「忠誠」、親子関係の「孝道」、夫婦関係の「婦道」を重要視する儒教の「三綱」倫理観が日本語原典から中国語版と韓国語版に至るまでどれほどの変容が生じたのかを検討してみたい。

第1節 「忠誠」の意識：中国語版と韓国語版における弱化

三綱倫理観の「君為臣綱」に基づけば、君主に対する臣民の「忠誠」が重要視されるが、実際には君主に対してだけでなく、国家も広義の「忠誠」の尽くす対象となる。『不如帰』の国家（日本）と国君（天皇）への「忠誠」意識は、日本原典と中韓の翻訳・翻案本で異なる表現がなされていることがテキストの対照からわかった。

¹ 孫科志、「韓国人怎麼看甲午戦争」、『東方早報』第B六版、2014年4月22日。

1. 国家への忠誠：「神州」の訳され方

まず、作中人物の国家（日本）への「忠誠」を現す愛国主義の表現は、中国語版と韓国語版で以下のようになっている。上篇第7回、海軍少尉武男のセリフである。（下線は筆者による。以下同。）

①日：連日の快晴にて暑気如燬、流石神州海国男子も少々避暑（略）¹

②中：雖吾輩海上人，亦不能耐此炎蒸。²

（拙訳：我々海上人もこのような蒸し暑さには絶えられない）

③韓：우리 같은 해국 남자도 건디기 어려운 때 많이 있습.³

（拙訳：我々海国男子も耐え難い時が沢山ある）

日本原典では、武男が「神州」＋「海国」＋「男子」と自称している。「神州」という表現には、日本への自負心や忠誠という主人公の意識が内包されている。しかし中韓版では、「神州」という言葉が削除され、武男は「海国」＋「男子」や「海上」＋「人」と自称しているのである。

2. 国君への忠誠：「天皇」の訳され方

更に天皇への「忠誠」に関しては、韓国語版は中国語版よりも著しく弱化させている。『不如帰』は、天皇を頂点とする明治日本の家族制度を積極的に表している作品である。例えば、上篇第5回、片岡家の飾り付けを描写する場面では「頭上には高く両陛下の御影を掲げつ」⁴と強調し、天皇への登場人物の「忠誠心」を窺わせている。

日中韓三国のテキストの差異を最も端的に示しているのは、中篇第6回、川島家が潰れるのを恐れる武男の母が、肺結核にかかった浪子と離婚するよう武男を説得する場面である。武男の母が川島家を守るのは、天皇への「忠誠」を極めて重んじている。以下は武男の母が武男に言ったセリフである。

¹ 徳富蘆花著、『不如帰』、東京：民友社、1903年5月17日（29版）、p86。

² 林紓・魏易訳、『不如帰』、北京：商務印書館、1981年版、p28。

³ 趙重桓 譯,朴珍英 編,『불여귀(不如歸)』, 서울:報告社, 2006年,p76。

⁴ 徳富蘆花著、『不如帰』、東京：民友社、1903年5月17日（29版）、p55。

①日：「卿に傳染る、子供が出来る、子供に傳染る……天子様からお直々に取立てゝ下さった此川島家も卿の代で潰れッしまいますぞ。」¹

②中：「……荷天皇賜爵於吾家, 遂聽之奄然夷滅歟?」²

(拙訳：天皇に爵位を与えられた我が家、そのまま潰れてよいわけがあるだろうか?)

③韓：「……너도 천은이 감축하여 벼슬까지 한 몸으로 네 대에 이르러서 조선 향화를 끊어 버리게 되면 어찌하자는 말이나」³

(拙訳：お前は、天恩を受け、爵位までいただいている。お前の代に至って祖先の跡継ぎを絶えさせてしまつてどうする?)

④韓：「……너의 아버지의 정력으로 이 집이 이만큼 되였다가 네 대에서 그만 망하고 말 터이나」⁴

(拙訳：お前のお父さんの頑張りでこの家は今のようになってきたが、お前の代で潰れさせてしまうのか?)

上の①は日本原典、②は中国翻訳本、③は韓国翻訳本、④は韓国翻案本である。ここで注意すべきなのは、「天皇」に対する呼び方の違いである。明治天皇は近代国家日本の絶対君主として国民から畏敬された。日本原作では、天皇への敬愛を現す言葉である「天子様」が用いられている。中国翻訳本では、「天子様」よりも客観的な呼び方である「天皇」という言葉に変更され、ただ客観的に日本国の国家元首を指すような感じとなっている。もし原作のように天皇への敬愛を表そうとするなら、中国語の「天子」や「陛下」といった尊称を使うこともできたはずである。韓国翻訳本では、天皇という主体を曖昧にする「天恩」が使われているが、この言葉にはそれが誰の「恩」であるのか、つまり「天」というのは神の世界の統治者のことを指すのか、あるいは人の世界の統治者のことを指すのかが明確にされていない。翻訳本と比べて更に自由に書くことができる韓国の翻案本では、(作中人物の)「父親」のことのみに置き換えられ、天皇だけではなく、政治との関連性でも消し去られている。

このように原作『不如帰』では君主や国家への作中人物の「忠誠」意識が明示されて

¹ 徳富蘆花著、『不如帰』、東京：民友社、1903年5月17日(29版)、p186。

² 林紓・魏易訳、『不如帰』、北京：商務印書館、1981年版、p58。

³ 趙重桓 譯, 朴珍英 編, 『불여귀(不如歸)』, 서울:報告社, 2006年, pp140~141。

⁴ 鮮于日, 『두견성(杜鵑聲)』(上)、京城：普及書院、1912年、p121。

いるが、中韓の翻訳・翻案本は、それを改変し、弱体化させている。それに際して中国翻訳本ではその表現が幾分客観的にされる一方で、韓国翻訳・翻案本では曖昧にされるか削除されているのである。

第2節 「孝道」の意識：中国語版と韓国語版における強化

三綱倫理観に基づいていえば、親子間の関係は「父為子綱」であり、父親に対する息子の「孝道」が極めて重要視される。一般的には「親子関係」は、父子・父女・母子・母女だけではなく、継父母と子女の関係や嫁姑の関係も含んでいる。「孝道」はこれらの親子関係すべてにおいて重要視されるのである。

原典『不如帰』では、主人公の武男と浪子が孝子として描かれている。例えば中篇第3回、西洋思想の影響を受け始めたところの明治社会でしばしば唱えられた「親子別居論」に対して、浪子は「若い者ばかりぢや我儘になるって、本當に其様ですよ、年寄を疎畧に思つちゃ済ないのね」¹と、嫁いびりに遭っているにもかかわらず、新婚夫婦が（義）父母と一緒に住むべきだという考えを示している。中韓版『不如帰』となると、その「孝」意識が一層強化されるようになる。

1. 「孝道」としての「職分」の強調

まず、上篇第7回、浪子が懸命に姑に仕えていることを手紙で武男に知らせる場面を見よう。

①日：御留守の事にも候へば何卒母上様の御機嫌に入候様にと心かけ居り参らせ候へ共不束の身は何も至り兼候事のみ馴れぬことゞて何角と失策のみいたし誠に困入り参らせ候。²

②中：至伏侍老姑，敢不尽職，惟自憾魯鈍，不能上慚老人之心。³

（拙訳：姑に仕えるのには心がけて職分を尽くそうとしてきたが、自分が魯鈍のため、姑の気持ちを寛がせてあげられないことを遺憾に思う。）

¹ 徳富蘆花著、『不如帰』、東京：民友社、1903年5月17日（29版）、p139。

² 徳富蘆花著、『不如帰』、東京：民友社、1903年5月17日（29版）、p91。

³ 林紓・魏易訳、『不如帰』、北京：商務印書館、1981年版、p29。

③韓：어머님께 아무쪼록 자식 된 직분을 다하러 하오나 본래 배우지 못한 몸이오
라 마음에 들지 못하는 일이 항상 많사오며.¹

(拙訳：母上にはぜひ子女としての職分を尽くそうとしてきたが、元々勉強が足りな
かったから満足させられないことは多い。)

中韓両国の翻訳本ともに孝道の強調を示す「職分を尽くす」という原典にはない表現を加えている。姑に仕えるのが自分の「職分」であるという意識を作中人物に持たせているのである。

また、このような「孝行」を行うのは、「職分」による強制的行為であるのみならず、それ以上の「真心」による自発的行為でもあるということが韓国の翻訳本では読み取れる。この点は上篇第6回、浪子が嫁いびりに遭いながらも姑に仕えることを述べる次の場面を見ると明らかである。

①日：良人（夫）の為には如何なる辛抱も楽しと思ひて、吾を捨てゝ姑に事へぬ。²

②中：浪子徳性佳，不尤不怨，仍循分以事其姑。³

(拙訳：浪子は人柄が良い、文句も言わない、相変わらず本分に従って姑に仕える)

③韓：나미코는 남편을 위하여서는 어떠한 고생이라도 낙으로 생각하고 그렇게 어려운 시어머니를 지성으로 섬기더라.⁴

(拙訳：浪子は夫のためにはいかなる辛抱も楽しいと思つて、そんなにも気難しい姑
に至誠をもって仕える)

浪子の姑に仕える行為の翻訳には微妙な相違がある。中国語版では浪子が「本分・義務」を尽くして姑に仕え、韓国語版では「至誠」を尽くして姑に仕えるのである。また姑についても「そんなにも気難しい」という修飾語を加え、浪子の「誠心誠意」を際立たせている。

¹ 趙重桓 譯、朴珍英 編、『불여귀(不如歸)』、서울:報告社、2006年、p79。

² 徳富蘆花著、『不如歸』、東京：民友社、1903年5月17日（29版）、p85。

³ 林紓・魏易訳、『不如歸』、北京：商務印書館、1981年版、p28。

⁴ 趙重桓譯、朴珍英編、『불여귀(不如歸)』、서울:報告社、2006年、p76。

2. 「不幸」から「不孝」への改変

韓国語版では原典にない「孝道」や「不孝」などの孝意識を表す表現が大量に出ている。まず、上篇第2回、継母に父と親しくすることを禁止された浪子の立場については以下のような変更が加えられている。

①日：あゝ（父母から）愛されぬは不幸なり、（父母を）愛することの出来ぬは猶更に不幸なり。¹

②中：長日悲不自勝。²

（拙訳：毎日悲しみに堪えない。）

③韓：사랑을 입지 못함도 불효요 사랑함을 얻지 못함도 더욱 불효이라.³

（拙訳：愛されないのも不孝であり、愛することの出来ないのも尚更に不孝である）

韓国翻訳本では、原典の孝道と関係ない表現である「不幸」が、孝道を表す表現である「不孝」に変更されている。「不幸」と「不孝」は意味の大きく異なる表現である。「不幸」は個人の権利が実現されていないことを強調するのに対し、「不孝」は個人が己の義務を果たしていないことを強調する。中国翻訳本には「不孝」が使われていない。「不孝」を二度用いている韓国翻訳本では、「孝道」が主人公の運命の見方の基準となっているのである。

また同じ上篇第2回、父の人知れぬ苦心を酌んだ浪子は次のように述べる。

①日：何卒身を粉にしても父上の御為にと心に思は溢るれど……⁴

②中：故力衛其父，幾於百死無惜。⁵

（拙訳：それで全力で父上に仕え、ひいては百回死んでも惜しまない。）

③韓：내 몸이 분골쇄신이 될지라도 아버님에게 극진히 효도를 다하여 아버님의 마음을 만분지일이라도 갚을까 하며⁶

（拙訳：自分の身を粉にしても父上に孝道を尽くし、父上の心に万分の一でも報いよ

¹ 徳富蘆花著、『不如帰』、東京：民友社、1903年5月17日（29版）、p16。

² 林紓・魏易訳、『不如帰』、北京：商務印書館、1981年版、p7。

³ 趙重桓譯、朴珍英編、『불여귀(不如歸)』、서울:報告社、2006年、p25。

⁴ 徳富蘆花著、『不如帰』、東京：民友社、1903年5月17日（29版）、p17。

⁵ 林紓・魏易訳、『不如帰』、北京：商務印書館、1981年版、p7。

⁶ 趙重桓譯、朴珍英編、『불여귀(不如歸)』、서울:報告社、2006年、p26。

うとして)

韓国版では原典の「父上の御為に」が「孝道を尽くす」に置き換えられ、「父上の心に報いる」という表現も加わっている。上篇第7回、浪子は姑に満足に尽くせていないことを手紙で次のように自責している。

①日：「わたくし事も今になりて色々勉強の足らざりしを憾み参らせ候。」¹

②中：「恨此前在家初不留意於瑣瑣者，及身為人婦，百無所能，滋可恨。」²

(拙訳：昔実家にいた時は細部に気を配らなかったので、嫁になってできないことが多くて悔やんでいる)

③韓：「어머님 마음을 편안히 하여 못 드리오니 자식 된 사람으로 불효 지극하오나 본래 어려서부터 배우지 못한 몸이오라 지금 이르러 후회 막급이오며」³

(拙訳：母上の気持ちを寛がせてあげられず、子女として不孝この上ない。もとより小さい時から色々勉強が足りず、今に至って後悔しても及ばない。)

勉強の足りないことを悔やむ浪子の気持ちは、韓国翻訳本では「不孝この上ない」となり、悔悟の情感が一段と強化されている。また下篇第9回、臨終間際の浪子は継母の手をとって次のように話しかけている。

①日：「阿母——御免——遊ばして」⁴

②中：「娘，兇行矣。」⁵

(拙訳：お母様、私は先に参ります。)

③韓：「어머니, 불효를……끼칩니다.」⁶

(拙訳：「お母様、不孝を……犯しました。)

継母に対し罪悪感を覚える浪子の気持ちは、韓国翻訳本では「不孝を犯した」という表現に変わり、自分の死が親不孝であるという考えを明示している。

¹ 徳富蘆花著、『不如帰』、東京：民友社、1903年5月17日(29版)、p92。

² 林紓・魏易訳、『不如帰』、北京：商務印書館、1981年版、p29。

³ 趙重桓譯、朴珍英編、『불여귀(不如歸)』、서울:報告社、2006年、p80。

⁴ 徳富蘆花著、『不如帰』、東京：民友社、1903年5月17日(29版)、p369。

⁵ 林紓・魏易訳、『不如帰』、北京：商務印書館、1981年版、p108。

⁶ 趙重桓譯、朴珍英編、『불여귀(不如歸)』、서울:報告社、2006年、p251。

このように「孝道」の側面において、日本原典ではある程度「孝」の意識が現れているが、強い表現ではない。それに対して中国語版と韓国語版では強化されている。特に韓国語版では、「孝」意識の表現が随所に見られ、更には「孝」意識と関係ないにもかかわらず「孝道」を現す表現に置き換えられている箇所もあり、中国語版よりも「孝」要素が一層強化されている。

第3節 「婦道」の意識：中国語版と韓国語版における強化

三綱倫理観の観点からいえば夫婦関係では「夫為婦綱」、「婦道」が重要視される。睦まじい夫婦関係のためには、妻が「賢妻（良妻）」¹とならなければならないのである。『不如帰』では片岡の後妻の繁子は西洋風の考えを持った人物として否定的に造型されている一方、武男の妻浪子は東洋の伝統的で理想的な「賢妻」として描かれている。

1. 「夫属我也」の繁子への否定

片岡の後妻で浪子の継母である繁子は、「早くより英國に留學して、男まさりの上に西洋風の染みしなれば、何事も先とは打て變りて」²、家族と観念上の衝突をする毎に「英國仕込の論理法もて滔々と言ひ捲」³る女性である。繁子は夫婦関係においても権利意識が強く、夫に対しては「従順」ではなく、「支配」できるようにしている。片岡は、妻の繁子の気迫に押されてしまう。このように西洋的平等意識が強い繁子は、主人公の浪子を酷く虐める人物として否定的に造型されている。

中国語版と韓国語版はこのような繁子に対して更に否定的な記述をしている。夫婦の地位の平等を唱え「女権」を主張する西洋の倫理観に対し、保守的な態度を示しているのである。まず、繁子が最初に登場する場面で、中国語版では「夫属我也」⁴（夫は私に属するもの）という原典にないセリフを繁子に言わせ、韓国語版では「성정이 팔팔하고」⁵（性質がせっかちで荒っぽい）」という表現を加えて繁子を紹介している。「夫属我也（夫は私

¹ 日本語では「良妻賢母」、中国語では「賢妻良母」、韓国語では「賢母良妻」が主に使用されている。

² 徳富蘆花著、『不如帰』、東京：民友社、1903年5月17日（29版）、p14。

³ 徳富蘆花著、『不如帰』、東京：民友社、1903年5月17日（29版）、p17。

⁴ 林紓・魏易訳、『不如帰』、北京：商務印書館、1981年版、p7。

⁵ 趙重桓訳・朴珍英編、『불여귀(不如帰)』、ソウル：報告社、2006年、p24。

に属するもの)」というセリフは、繁子の儒教的家門意識に欠けた個人主義的な夫婦観を示し、繁子のわがままな性格の表現である。「성정이 팔팔하고 (性質がせっかちで荒っぽい)」は、繁子の性格の悪さを端的に表現している。このように繁子に対して、中国語版と韓国語版は彼女の登場場面から否定的に捉えているのである。

繁子が夫を扱う態度、それに対する夫の反応を述べる箇所を対照してみよう。片岡が後妻の繁子の気迫に押された場面である。主人公浪子の立場から述べているので、引用文の「父」は片岡中将、「継母」は繁子である。

①日：父に對しても事毎に遠慮もなく語らひ論ずるを、父は笑ひて聞き流し「好々、乃公が負ぢや、負ぢや」と言はるゝが常なれど……¹

②中：継母之對其父，直抒己見，如發号令。父亦脱略者，則曰：汝較我為高……²
(拙訳：継母は父に対して自分の意見を直接述べ、まるで号令をかけるかのようである。父も聞き流して「あなたは僕より偉い……」)

③韓：부친에게 대하여서도 조금도 어려워하는 기색도 없이 흐르는 듯이 언문을 하면 부친은 내가 잘못하였다고 항복한다.³

(拙訳：父に対しても少しでも気兼ねする様子もなく論すと、父は俺が間違えていたと降伏する)

中国翻訳本では、「如發号令（まるで号令をかけるかのよう）」という原作にない文章を加えて、夫婦関係において継母の占めた優位を強調し、勝ち気で横暴なイメージを持たせている。韓国翻訳本では、片岡は後妻の繁子に対して「聞き流す」ではなく、「降伏する」のであり、「負けた」のではなく、「間違えていた」と断定的な書き方をしている。原典の「聞き流す」や「負けた」は、片岡が必ずしも自身の過ちと思わず、後にまた反論する可能性も残される表現である。しかし韓国語版の「降伏する」や「間違えていた」は、片岡が自身の過ちと認め、後にも反論できないという意味なので、更に惨めな印象を与えるのである。中国語版と韓国語版は、繁子の横暴さを否定的印象づけする点で共通が見られるのである。

¹ 徳富蘆花著、『不如帰』、東京：民友社、1903年5月17日（29版）、p14。

² 林紓・魏易訳、『不如帰』、北京：商務印書館、1981年版、p7。

³ 趙重桓譯、朴珍英編、『불여귀(不如歸)』、서울:報告社、2006年、p27。

2. 「為婦之道」の浪子への肯定

しかし、東洋の伝統的な「賢妻」であるべき浪子への肯定的描写については、韓国語版よりも中国語版のほうが更に強烈で鮮明である。上篇第4回、浪子を妻に望む千々岩が挙げた理由は次のように述べられている。

①日：三にはまた浪子の謹深く氣高きを好ましと思ふ念も雜りて¹

②中：尤重浪子之沈靜溫雅²。

(拙訳：浪子の静かさや優しさを特に重んじる)

③韓：셋째는 나미코의 위인이 단정 결백하며……³

(拙訳：三つには浪子の人柄が端正で潔白で……)

浪子の優しさは、原典では三つ目に挙げられた副次的な理由である（韓国語版も同様に引き継いでいる）が、中国翻訳本では最も重要な理由となっている。

また、中国語版では婦道を表す表現が多く出ている。上篇第6回、浪子が川島家に嫁いできた後の境遇に関して次のように述べられている。

①日：初々しさ恥しさの狭霧に朦朧とせし四邊の容子もやう——眼に分たるゝ様になりぬ。⁴

②中：然為時未久，則人地皆習，亦漸漸知為婦之道。⁵

(拙訳：それでも暫くして浪子は新しい人と場所に慣れ、次第に婦道がわかるようになった)

③韓：(なし)

①日：(なし)⁶

¹ 徳富蘆花著、『不如帰』、東京：民友社、1903年5月17日（29版）、p36。

² 林紓・魏易訳、『不如帰』、北京：商務印書館、1981年版、p13。

³ 趙重桓譯、朴珍英編、『불여귀(不如歸)』、서울:報告社、2006年、p40。

⁴ 徳富蘆花著、『不如帰』、東京：民友社、1903年5月17日（29版）、p79。

⁵ 林紓・魏易訳、『不如帰』、北京：商務印書館、1981年版、p26。

⁶ 徳富蘆花著、『不如帰』、東京：民友社、1903年5月17日（29版）、p80。

②中：繼母平日之訓迪，亦時時令效其所為，始克稱為婦道。¹

（拙訳：繼母は普段から浪子を訓戒し、常に自分の行いを真似させ、これこそ「婦道」と称する。）

③韓：（なし）

中国翻訳本では、「為婦之道」や「婦道」などの表現が直接用いられ、「婦道」が強調されていることが瞭然である。韓国翻訳本全篇でも浪子は賢妻として肯定的に描かれているが、中国語版ほどそのような表現が多用されていない。

このように、『不如帰』は浪子への肯定と繁子への否定を通して夫婦関係における東洋の伝統的な儒教倫理観を遵守している。中韓の翻訳本では、東洋の伝統的な「賢妻」・「婦道」の重視と西洋の新式の「女権」意識への反感を原典以上に強調しているのである。

以上で、『不如帰』の日本語原典と中国・韓国の翻訳本（翻案本）の儒教的倫理観の要素の扱われ方に存在する表現の差について検討してみた。中国語版と韓国語版では、原典中の忠誠意識が弱化され、孝道意識が強化され、婦道意識が強化されていることが明らかになった。中韓両国の『不如帰』の訳者と読者は、類似した伝統的な倫理観を持っていたと言えよう。

近代初期（1895年～1919年）の東アジアでは、大量な明治小説が越境して流通しており、中国と韓国の二国ともに受け入れられた作品も多く見られるが、『不如帰』のように日中韓の三ヶ国で大きな影響力を持ち得た作品は少なかった。この意味で、『不如帰』が東アジア文学史の観点から重要な作品であることは論を俟たない。『不如帰』がこのように20世紀初頭の東アジアで広く受容された理由は、儒教的倫理観と文化伝統を共有して近代社会に入ったところの日中韓の読者たちが、武男と浪子の近代的で清純な夫婦愛に新鮮さと魅力を感じた一方、封建的な家族制度のしがらみに引き裂かれた二人の愛情の悲劇に共感したからであろう。また、中国での『不如帰』受容においては作中の日清戦争関係の部分が強調されているが、韓国での『不如帰』の受容においてはこの部分が重要視されていない。韓国での『不如帰』の受容においては「孝」の意識が強調されていることが印象的である。中国は『不如帰』を「家庭小説＋戦争小説」として受け入れ、韓国は『不如

¹ 林紓・魏易訳、『不如帰』、北京：商務印書館、1981年版、p26。

帰』を主に「家庭小説」として受け入れ、両国の受容の性格に微妙な相違があると言えよう。

第三部 『鉄世界』の重訳に見る日中韓の受容の変遷

『鉄世界』は、「明治の翻訳王」と呼ばれる森田思軒（1861～1897）の翻訳作品である。原典は、フランスの科学小説作家 Jules Verne（1828-1905）が 1879 年に発表した『*Les Cinq Cents Millions de la Bégum*』（ベガンの五億フラン）である。1887 年、森田思軒はそれを英語訳本から重訳し、「鉄世界」と題して東京の集成社書店より出版した。1903 年、中国清末期の翻訳小説家包天笑（1876～1973）は、『鉄世界』を日本語訳本から重訳し、上海の文明書局より出版した。1908 年、韓国開化期の新小説作家李海朝（1869～1927）は、『鉄世界』を中国語訳本から重訳し、京城の匯東書館より出版した。本部では、近代初期の東アジアにおける『鉄世界』の伝播・受容の様相を詳しく考察していく。

第 1 章 ベルヌ小説の移入：森田思軒の日本語訳『鉄世界』

第 1 節 明治日本の「翻訳王」森田思軒

日本語版『鉄世界』の訳者森田思軒（1861～1897）は、「明治の翻訳王」と呼ばれる明治翻訳文学の先駆者である。森田思軒の生涯と翻訳の業績を見てみよう。

1. 漢文力・英語力を磨く少年・青年期の森田思軒

1861 年、森田思軒は備中国（岡山県）小田郡（笠岡市）に生まれた。本名は文蔵、筆名は思軒、別号は埜客・羊角山人・白蓮庵主人・紅芍園主人などである。1872 年（11 歳）、笠岡の啓蒙所で漢文の教育を受け、すぐ『西遊記』『三国志』を中国の原本で読めるようになる。1874 年（13 歳）、慶應義塾の大阪分校に入学し、初めて英語を学ぶ。1876 年（15 歳）、大阪分校長であった矢野龍溪について上京し、慶應義塾に編入学して英学に励む。成績が非常に優秀で、慶應義塾の本科第一等（最上級）に進級し、学内で注目されるほど抜群の英語力を身に付けた。1879 年（18 歳）、故郷の私塾興譲館に入って漢学を学び、漢詩や漢文に才能を見せ、興譲館第一の詩人と称される。1882 年（21 歳）、郵便報知新聞社社長であった矢野龍溪の勧誘で再び上京し、洋書を独学し、郵便報知新聞社に勤める。1883 年（22 歳）、報知社から出版された矢野龍溪の政治小説『経国美談』に漢文で巻首の

「頭評」の巻末の「跋」を書き注目される。1885年（24歳）3月、『郵便報知新聞』の記者として清国へ派遣され、日清両国の天津条約の締結を取材・報道する。1885年（24歳）11月～1886年（25歳）8月、矢野龍溪と共に欧米歴訪の旅に出発し、イギリス・ドイツ・フランス・イタリア・アメリカなどを旅行し、英語の文学書を多数購入した。この旅行中に英語の小説に多く接する機会を得たことが、のちに文筆家・翻訳家森田思軒を産んだのである。

2. 専門翻訳小説家として活躍する森田思軒

欧米から帰国した後、『郵便報知新聞』は「嘉坡通信・報知叢談」という連載小説欄を新設し、森田思軒はその主筆となり、編集上の実権を握ることになる。1886年（25歳）10月、森田思軒は訳作「印度王子舎摩の物語」を『郵便報知新聞』の「報知叢談」欄に掲載し、これにより本格的に翻訳家としてデビューし活躍する。

森田思軒はまずベルヌの小説の翻訳を手がけた。1887年、一年のうちに、『仏・曼二学士の譚』（のちに『鉄世界』と改題出版）、『天外奇譚』、『煙波の裏』、『盲目使者』（のちに『瞽使者』と改題出版）というベルヌの4作品を『郵便報知新聞』の「報知叢談」に訳載した。その後、『大東海航海日記』（1888年訳）、『大氷塊』（1888年訳）、『炭鉱秘事』（1888年訳）、『探征隊』（1889年訳）、『大叛魁』（1889年訳）、『入雲異譚』（1893年訳）、『無名氏』（1894年訳）、『十五少年』（1896年訳）など、続けてベルヌの作品を訳出していく（計12作品）。

森田思軒が注目したもう一人の作家は、フランスのヴィクトル・ユーゴー（Victor Marie Hugo、1802～1885）である。1888年にユーゴーの『随見録』を『国民之友』に訳載するのを始めとして、『探偵ユーベル』（1889年訳）、『クラウド』（1890年訳）、『懷旧』（1892年訳）、『死刑前の六時間』（1896年訳）などの作品を訳出した。森田思軒は『レ・ミゼラブル』を翻訳する計画も持っていたが、その願望を果たさずに、1897年、36歳で病死する。

このように、森田思軒は、主にフランス文学、特にベルヌとユーゴーの作品を好んで翻訳し（すべて英語からの重訳である）、他にも英米のディケンズ、ホーソン、アーヴィング、ポーなどの作品、また原作不詳の作品も数多く翻訳している。膨大な翻訳作品の業績を残した森田思軒は、「鷗外派」「四迷派」と並び、綿密な翻訳文体を提唱する「思軒派」

という一派を確立し、「明治の翻訳王」と呼ばれている¹。

第2節 森田思軒訳『鉄世界』の発表及びその翻訳の底本

『鉄世界』は、森田思軒が翻訳した最初のベルヌの作品であり、森田思軒にとって大きな意味を持つ訳作である。本節は、森田思軒訳『鉄世界』はどのように発表され、どのような反響があり、また彼はどのような底本を依拠して訳出したのかについて検討する。

1. 新聞連載と単行本：森田思軒訳『鉄世界』の発表

森田思軒訳『鉄世界』は、まず「仏、曼二学士の譚」というタイトルで新聞連載翻訳小説として発表された。1887年3月26日から5月10日まで、森田思軒は「紅芍園主人」²という筆名で、ベルヌの『ペガンの五億フラン』を『仏、曼二学士の譚』と題して翻訳し、東京の日刊紙『郵便報知新聞』の「報知叢談」欄に総39回翻訳連載した。この『仏、曼二学士の譚』は、彼がベルヌの作品を訳出した最初のものであった。同年、ベルヌの『天外奇譚』（5月21日～7月23日）、『煙波の裏』（8月26日～9月14日）、『盲目使者』（9月16日～12月30日）が訳載され、『郵便報知新聞』の人気のある読み物となった。1880年代後半の日本において、『郵便報知新聞』は発行部数の多い大新聞であり、『仏、曼二学士の譚』は多くの読者を得た。

同年（1887年）9月、『鉄世界』と改題し、東京の集成社書店から単行本として出版された。これは、森田思軒の翻訳作品の単行本として最初の出版である。また、同年10月に大庭和助により編集される翻訳小説集『才子妙案 天外奇談』（第141～293頁）にも収録され、大阪でも出版された。出版に際して『時事新報』『大阪日報』『読売新聞』『朝野新聞』『絵入自由新聞』『東京横浜毎日新聞』など、多数の新聞・雑誌に『鉄世界』の広告や書評が掲載され³、注目を集めた。1887年10月22日の『朝野新聞』は以下のような紹

¹ 谷口彦靖、『明治の翻訳王伝記 森田思軒』、岡山：山陽新聞社、2000年、p2。

² 「紅芍園主人」は一般的に森田思軒の筆名の一つであると見なされてきた。少数の異論もあるが、筆者は一般的な見解と同様に、紅芍園主人は森田思軒であると考えている。本研究の論述から少し離れる問題であるので、ここで展開せず、その詳細の検討は、筆者の別稿（寶新光、「凡爾納小説『鉄世界』在近代初期中日韓三國的伝播與變異」、『時代重構與經典再造』第四冊、台湾：花木蘭文化出版社、2017年）を参照されたい。

³ 藤元直樹、「明治ヴェルヌ評判記―『鉄世界』編」、『エクセルシオール』（4）、日本ジュール・ヴェル

介文を掲載している。

「○新刊書籍 鉄世界 此書ハ仏人ジュールヴェルヌ氏の小説を森田思軒居士の訳述せられしものにて仏国の医学士が英国に於て売億五百万の遺産を譲り受しに獨逸の化学士ハ之と權利を争ひ遂に其の金員を中分し医学士ハ其の金を以て米国に於て一の長寿村を設け人間の長寿を得る道を世界に示さんと欲せしに化学士ハ人種の癖見よりして之に反対し同国に於て鍊鉄村を起し古今未曾有の大砲弾丸を鑄造して長寿村を一撃の下に倒さんとして却つて自ら失敗し一村の瓦解せし有様を記せしものにて暗に長寿村の自由制度を以て仏国に比し鍊鉄村の秘密を尚び嚴格の節制あるを以て獨逸に喩へしものゝ如く余程趣工の面白き小説なり」¹

新刊書籍として『鉄世界』の梗概を詳しく紹介し、「余程趣工の面白き小説」であると読者に積極的に薦めているのである。また、『時事新報』は「異常趣絶快絶の好文字」（1887年10月10日）と、『読売新聞』は「訳文極めて簡明なり」（1887年10月15日）と、『絵入自由新聞』は「現在に傑作と謂べきなり」（1887年10月22日）と、いずれも賛辞を掲載している。

2. 英語から日本語へ：『鉄世界』の一回目の重訳

森田思軒はフランス語を解さないため、ベルヌのフランス語原作から直接翻訳するのではなく、英語の訳本から重訳したのである。

ベルヌの原作『*Les Cinq cents millions de la Bégum*』（「ペガンの五億フラン」の意）は1879年にフランスで発表後、すぐ英語に翻訳出版された。英語訳の出版は2種あり、一つ目は『*The Begum's Fortune*』のタイトルで、翻訳者はW.H.G.Kingston（1814～1880）、1879年にイギリスのロンドンのSampson Low出版社とアメリカのフィラデルフィアのJ.B.Lippincott出版社より刊行された。二つ目は『*The 500 Millions of the Begum*』のタイトルの訳本が、1879年にアメリカのニューヨークのGeorge Munro出版社より刊行された。

ヌ研究会、2010年、pp112～115。

¹ 「新刊書籍」、『朝野新聞』、1887年10月22日。藤元直樹、「明治ヴェルヌ評判記—『鉄世界』編」、『エクセルシオール』（4）、日本ジュール・ヴェルヌ研究会、2010年、p114。

この作品の主人公の名前は、フランス語原作では「Marcel」、英語訳『*The 500 Millions of the Begum*』では「Mureel」、英語訳『*The Begum's Fortune*』では「Max」、日本語訳では「^{マックス}馬克」となっていることから、森田思軒が依拠した底本は『*The Begum's Fortune*』であることが確定できる¹。さらに森田思軒自身も『鉄世界』の序文で「ジュール・ヴェルヌ氏の「ゼ、ベガムス、フォルテュン」ヲ譯述シ題シテ鐵世界ト曰ク」²と述べていることから、森田思軒訳『鉄世界』の底本が W.H.G.Kingston 訳『*The Begum's Fortune*』（1879 年）であることは確実である。森田思軒がこの本を欧米巡遊中（1885 年 11 月～1886 年 8 月）に購入したことは確かであるが、購入場所については確定できていない³。

英訳本『*The Begum's Fortune*』は、原作同様に 20 章で構成されており、全体的分量は原作とほぼ同じである（原作：37 行×163 頁⁴、英訳：26 行×239 頁⁵）。各章の題名は原作のまま訳出され、本文も原文を一句一句対訳している。また、原作の 40 枚あまりの挿絵までも全部残している。従って、森田思軒が使った英語の底本『*The Begum's Fortune*』はフランス語原作に忠実なものであったことは明記しておかなければならない。森田思軒は、忠実な英訳から、東アジアにおける『鉄世界』の一回目の重訳を行なったのである。

第 3 節 森田思軒訳『鉄世界』における改削

『鉄世界』はフランス語から英語へ置き換えられる際には内容が大きく変わらなかったが、英語から日本語へ置き換えられる際には大幅な改削が加えられた。本節は、森田思軒の『鉄世界』はどのような翻訳なのか、英訳の底本をどれほど忠実に訳出したのか、どのような変貌が発生したのかについて検討する。

1. 作品名の改変、目次の再編、挿絵の消去

¹ 陳宏淑、「ヴェルヌから包天笑まで：『鉄世界』の重訳史」、『跨境：日本語文学研究』（3）、2016 年、p117。

² 森田思軒、「鉄世界序」、『鉄世界』、東京：集成社、1887 年 9 月、p10。

³ 例えば、森田思軒は「消夏随筆」でアメリカ滞在中、20 冊あまりの英語の文学書を購入したと記述している（柳田泉、『明治初期の翻訳文学』、東京：松柏館、1935 年、p524）。しかし、その具体的な購入書籍のリストは不明である。

⁴ Jules Verne、『*Les Cinq cents millions de la Béguin*』、Paris: Hetzel、1900。

⁵ Jules Verne、『*The Begum's Fortune*』、Philadelphia: J.B.Lippincott and Co.、1879。

森田思軒は書名を『鉄世界』と名付けている。英語版の題目は「The Begum's Fortune」で、フランス語の原作名の中の「Les Cinq Cents Millions」を「Fortune」に置き変えただけである。しかし森田は新聞連載の際に「仏、曼二学士の譚」としたのである。当時の日本人にはなじみのない外国人の名前である「ベガン」より、西洋列強のフランス（仏）とドイツ（曼）の国名を作品の題目に出したほうが、読者の関心を引くからと考えたわけであろう。のちに単行本として出版される際は、「鉄世界」と改題している。「鉄世界」とは、言うまでもなく作中のドイツ人の造った鍊鉄村を指すのである。西洋の科学文明と工業文明を連想させ、近代化が始まったところの当時の日本の読者の興味を引く題目にし、また原作の焦点である「金」を「鉄」に置き換えたのである。これは、作品が資本主義的な西洋社会から科学の伝統のない東洋社会へ伝播される際に起きた着目点の変化であろう。このような改題とともに、日本語版は鍊鉄村の造った巨大な大砲を表紙にしている。衝撃的で人目を引く表紙の絵は、英語版の挿絵を使用したものである（英語版の第117頁参照）。



『The Begum's Fortune』と『鉄世界』の目次は以下のようである。

章	英：The Begum's Fortune (1879)	日：鉄世界 (1887)
1	Enter Mr. Sharp	天来の一億五百万圓
2	A pair of chums	マクス ブフックマン 馬克、貌刺萬
3	Effect of an item of news	『余は決して一たひ定めたる時を変せず 余は決して一たひ命したる詞を再せず』
4	Two claimants	サクソン ラテン 薩遜人種、羅甸人種
5	Stahlstadt	鍊鉄村
6	The Albrecht pit	炭酸瓦斯の淵
7	The central block	中央區
8	The dragon's den	『最早汝は此世に於て他に為すへき事はあ らず唯た尋常に死に就くの一事あるのみ』
9	P.P.C	煙草
10	An article from 'Unsere Centurie,'	長壽村の結構仕組

	a German review	
11	At dinner with doctor Sarrasin	紐育ヘラルドの警報
12	The council	一発の砲丸に苔ふる一片の手紙
13	News for the professor	桑港の共同相場會所
14	Clearing for action	侵入搜索
15	The exchange of San Francisco	復命
16	A brace of Frenchmen capture a town	
17	Parley before the citadel	
18	The kernel of the nut	
19	A family affair	
20	Conclusion	

『鉄世界』の各章の題目はほとんど英語版通りに訳出されていないことがわかる。第1章の「Enter Mr. Sharp」が「天来の一億五百万圓」と、第3章の「Effect of an item of news」が「余は決して一たび定めたる時を変せず、余は決して一たび命したる詞を再せず」と、第8章の「The dragon's den」が「最早汝は此世に於て他に為すべき事はあらず唯た尋常に死に就くの一事あるのみ」と、第10章の「An article from ‘Unsere Centurie,’ a German review」が「長壽村の結構仕組」と、英語版とは異なる訳がなされている。また英語版の第11～12章が日本語版の第11章に、英語版の第13～14章が日本語版の第12章に、英語版の第15章が日本語版の第13章に、英語版の第16～18章（前半）が日本語版の第14章に、英語版の第18章（後半）が日本語版の第15章になっている。日本語版『鉄世界』は、英語版の20章を15章に再編しているのである。

さらに、英語版はフランス語原作の中の40枚余りの挿絵をそのまま掲載しているが、日本語版『鉄世界』は、表紙の絵に使用した大砲の挿絵以外は、挿絵の印刷技術を持ち合わせていたにもかかわらず、すべて削除している。この作品では、科学的技術・機械・知識に関する抽象的な描写が多いため、挿絵は読者の理解を良く助けるものである。挿絵が消去されたため、当時の日本の読者は（その後の中国と韓国の読者も）作中の科学的な内容の理解が難しくなったのではないと思われる。

2. 友情・愛情・家庭の不在、プロットの簡略化

森田思軒訳『鉄世界』では、前述した作品名・目次・挿絵などに加えて、本文も改変している。それを検討する前に、作品の梗概についてまとめておく。

フランスの医学士^{サラゼン}佐善は、ロンドン出張中、祖母に残された一億五百万圓の予期せぬ遺産を譲り受ける。その消息を新聞で知ったもう一人の相続者（佐善の祖母の妹の孫）、ドイツの大学教授・化学士^{ニヒト}忍毘は、ロンドンに赴いて権利を争い、その遺産を折半する。佐善は、その財産でアメリカの西海岸に渡り、人間の長寿と平和を目指す理想的な都市「長寿村」を建設する。人種の偏見を持つ忍毘は、それに対抗するために大学教授を辞めて長寿村の付近に赴き、鋼鉄と新武器を製造して各国に売り付ける好戦的な都市「鍊鉄村」を設立する。この時、普仏戦争（即ち仏独戦争、1870～1871）で故郷（アラザス）を失ったフランスの青年^{マクス}馬克は、仮親の佐善に派遣され、「^{ヨハン}約翰」という偽名を使い、スパイとして鍊鉄村に潜入し、忍毘の秘密を調査する。徐々に忍毘の信頼を得た馬克は、忍毘が長寿村を滅亡させるため秘かに超大型の大砲と砲弾を製造し、また間もなく長寿村に発射しようとする計画を知り、鍊鉄村から脱出し、長寿村に帰って避難を促す。鍊鉄村から発射された一発目の砲弾は、長寿村に当たらなかった。後続の攻撃に対応するため、馬克は長寿村の人々を組織して防備を施す。忍毘が失踪したとの情報の確認のため、馬克は再び鍊鉄村に潜入する。そこで馬克は忍毘が武器の実験の失敗で死亡していたことを確認し、長寿村に帰り報告する。長寿村の人々が「長寿村万々歳」と歓呼する場面で物語は終わる。

森田思軒による改削や改変の個所を探ってみる。主人公佐善は、原作において妻、息子、娘を持つ家庭のある人物であるが、日本語版では家族のいない人物として設定され、彼の妻、息子、娘が全て削除されている。主人公馬克は、原作においては佐善の息子の同窓・親友であるが、訳本では普仏戦争後に佐善に引き取られる養子と改変される。佐善の息子は、2回目の鍊鉄村潜入の際に同志として馬克と共に戦ったのであるが、日本語版においてはこの場面が割愛されている。佐善の娘は、原作において長寿村の防備にも関わり、馬克と恋愛・結婚するのであるが、日本語版においてはこの人物が削除され、登場していない。このような登場人物の削除について、森田思軒は訳文の前の「凡例三則」でつぎの

ように説明している。

「原書には佐善に一男一女あり馬克は其の女に懸想して之か為めに立働く様の意も籠めありしか其の恋愛の事柄至て淡泊にして有るも無きも少しも本題に関係なき程の筋なれば余は徒つらに話頭の支分するを厭ひ一切之を削去し」¹

これは森田思軒が作品の中心叙事（馬克の冒険譚）にのみ関心を持っていたことを示している。登場人物だけではなく、馬克の恋愛、結婚を描く英語版の第 19 章（A family affair）と第 20 章（Conclusion）の削除も同様の観点からであろう。その結果、日本語版『鉄世界』は、フランス人とドイツ人の争いという単純な構図だけが残され、大いに簡略化されている。このような簡略化は、作品をわかりやすくしたもの、原典の持つ豊かな感情を取り去ってしまったと考えられる。

上述してきたように、森田思軒は『鉄世界』の翻訳に際して、多くの改変を加え、原作を大幅に変貌させている。この点について、森田思軒は自分の翻訳は「訳述」であり、「単に譯と曰はす更らに述の字を加へて責の在る所を明かにせり」²と述べている。

第 4 節 日本『鉄世界』の性格：「新小説」としての受容

本節は、明治日本における『鉄世界』の受容の性格について検討を行う。日本語版『鉄世界』は、「科学小説」としてというより、「新小説」として受容されたと捉えるほうが妥当であると考ええる。

1. 「世間ノ群小説ガ陳々腐々相因」：従来の小説の陳腐さへの批判

森田思軒は、『鉄世界』の巻首に「鉄世界序」という 11 頁の長い序文を書いており、そこから、『鉄世界』翻訳の際の森田思軒の着眼点の所在と考え方を読み取ることができる。森田思軒は、まず半分に近い分量（5 頁）で、従来小説の旧套と欠点に対して詳細な

¹ 森田思軒、「凡例三則」、『鉄世界』、東京：集成社、1887 年 9 月、p1。

² 森田思軒、「凡例三則」、『鉄世界』、東京：集成社、1887 年 9 月、p1。

論述を展開している。これは、森田思軒が主に文学（小説）の視点から『鉄世界』を認識していたことを示している。

「「短銃二挺、骨牌一箱、料理案内一冊及び舞踏男女一組を把り之に詭詐半帖、婚姻一帖とを調和シ等分に三割りにすベシ」トハ是デイスレーリ氏カ小説一部ヲ製スルノ藥方ニアラスヤ。嗚呼余輩ハ固ト夫ノ世間ノ群小説ガ陳々腐々相因リテ惟タ利欲、争鬭、飲食、燕遊、詭狙、恋愛ノ幾種ヲ乗除配剤スルニ止マリ更ラニ奇想ノ天外ヨリ落ツルモノナキヲ怪ム莫キナリ。小説家藥籠中ノ物果シテ實ニ短銃、骨牌、料理案内、舞踏男女、詭詐、婚姻ノ数者ニ限レル乎。デイスレーリ氏ノ藥方ハ果シテ實に古今小説家ノ青囊ヲ敲テ其秘ヲ此ニ盡セル乎。余輩未タ得テ然リト言ハス。然レトモ嘗テ遍子ク群小説ヲ觀ルニ其ノ材料常ニ是等数者ノ外ニ出ツル者甚タ希レナリカ如キノ迹多キヲ奈何センヤ。均シク戀愛ナリ。之ヲユーゴー氏ノ筆ニ入ルレハ。……然レトモ是物ヤ艶寫スルリトン氏ノ若キ者アリ。之ヲ濃寫スルデューマ氏ノ若キ者アリ。金瓶梅亦タ之ヲ寫セリ。源氏物語亦タ之ヲ寫セリ。其ノ文品ニ高下アリト雖モ。其ノ意思ニ精粗アリト雖モ。歸スル所同シクーノ相思之情ニ過キス。相思之情ハ委瑣下末為永ノ徒モ尚且ツ采テ材料トナスヲ知レリ。余輩ハユーゴー氏ノ文品ニ嘆服ス。然レトモ亦タ其ノ材料ノ既ニ世間ニ屢バサレ褻レラレタル者タルヲ認メサルコト能ハス。デイスレーリ氏又タ云ヘリ「只タ是れ一ノ簡單明白なる話頭にして而カモ之ヲ語るに萬様の道ある者は戀愛なり」ト。余輩ハ諸名家カ之ヲ語ルノ道ヲ擇ムノ巧ニシテ讀者ヲ感動スルノ深キヲ欣賞ス。然レトモ亦タ其ノ事タル只タ是レーノ簡單明白ナル話頭ナルヲ認メサルコト能ハス。最モ變化ニ富ミ最モ感動ニ切ナル戀愛ノ如キヲ以テスラ尚ホ且ツ数々之ヲ見ルニ及テハ倦厭ノ念ヲ萌サステ免カレス況ンヤ其他ノ利欲、争鬭、飲食、燕遊、詭狙等ノモノニ於テヲヤ。余輩ハ諸大家諸名家ノ小説ヲ讀テ其ノ文品ヲ評シ其ノ文思ヲ鑑シ其ノ文理ヲ繹ツテ其ノ文味ヲ咀ムコトヲ樂シム。然レトモ其ノ文ニ言フ所ノ事ヲ信シテ忽チ怒リ忽チ喜フノ境ハ業ニ已ニ漸ヤク益ス疏ニナレリ。往者小説ヲ讀テ熱時ハ熱殺サレ寒時ハ寒殺サレ古ノ批評家カ謂ハユル瘡疾文字ノ想ヲナセルコトアリキ。而シテ今ヤ則ハチ罕レナリ。往者小説ヲ讀テ心言外ニ馳セ、一往深妙、墜涙席ヲ霑ホス猶ホ古ノ老武夫カ琵琶物語ヲ聴ケル時ノゴトキコトアリキ。而シテ今ヤ則ハチ罕レナリ。」¹

¹ 森田思軒、「鉄世界序」、『鉄世界』、東京：集成社、1887年9月、pp1-5。

森田思軒は「世間ノ群小説ガ陳々腐々相因リテ惟タ利欲、争鬭、飲食、燕遊、詭狙、恋愛ノ幾種ヲ乗除配剤スルニ止マリ」と、日本の古今小説のみならず、中国と西洋の古今小説も含めて、それらの最大の欠点は「材料」（題材）の狭さ・陳腐さにあり、「利欲、争鬭、飲食、燕遊、詭狙、恋愛」から出られていないと述べている。さらに「最モ変化ニ富ミ最モ感動ニ切ナル戀愛」を描く作品、例えばフランスのユーゴー氏とデューマ氏やイギリスのリトン氏の小説、日本の『源氏物語』、中国の『金瓶梅』などは、いくら「文品」が立派であっても、読者はそれら小説を読みすぎると「倦厭ノ念ヲ萌サステ免カレス」、また既に感動し難くなっていると批判を重ねるのである。

前述した『鉄世界』における男女主人公の恋愛の部分の削除は、森田思軒のこのような認識に起因していると言えよう。つまり森田思軒は、原作の恋愛の要素が陳腐な旧套であり副次的なものなので、それらを削除し、新鮮なところだけに集中して読者に伝えようと考えたのである。

2. 「二千年来小説天地ノ窠臼ヲ一掃」：ベルヌ小説の斬新さへの称賛

従来の小説の陳腐さについて長く述べた後、森田思軒はようやく下記のようにベルヌ小説の紹介に入る。

「近ゴロ佛國ニーノ小説家アリ。其文ハ質直ニシテ而テ平易淡泊。ユーゴー氏ノ神韻アルに非サルナリ。デューマ氏ノ濃トリトン氏ノ艶トアルニ非サルナリ。而シテ其事ハ則チ二千年来小説天地ノ窠臼ヲ一掃シテ自カラ機軸ヲ出タシ。斬新ノ材料ヲ駆使シテ絶駭ノ話頭ヲ擡起シ。奇々怪々殆ト信ス可ラサルニ似テ而カモ荒唐ノ誕ニアラス。彼レ常ニ人ノ性格ヲ寫セリ。而レトモ尋常小説家カ為スカ如ク之ヲ生理心理ノ上ヨリ描クヲ肯テセス。必ス人種國風ノ上ヨリ寫セリ。彼レ時ニ戀愛ヲ點セリ而レトモ尋常小説家カ為スカ如ク之ヲ持テ本題トナスヲ肯テセス。定メテ餘波トシ末節トシテ輕々點去。却テ未全免俗、聊復爾爾、ト曰フカ如キナリ。余輩ハ此ニ對スル毎ニ未タ嘗テ其ノ宏雄偉宕異常絶倫殆ト夷ノ思フ所ニアラス顧ミテ夫ノ陳々腐々ノ群小説ヲ視ルに徒ダ草間吟蟲ノ鳴ニ異ナラサルヲ嘆セスンハアラサルナリ。是レ固ヨリディスレーリ氏藥方ノ得テ括盡セサル所ニシテ。而シテ従前小説家ノ青囊ノ得テ收藏セサル所ナリ。何ソヤ。ジュールヴェルヌ氏ノ科学小説ナ

リ。」¹

森田思軒は、「二千年来小説天地ノ窠臼ヲ一掃シテ自カラ機軸ヲ出タシ」と、ベルヌの小説が二千年来の小説の旧套を打破して新しい小説ジャンルを創り出したと非常に高く評価している。森田思軒が従来小説と異なるベルヌ小説の斬新さを称賛していることに注目しておきたい。森田思軒はさらにベルヌ小説の斬新さについて具体的に指摘した。「斬新ノ材料ヲ駆使シテ絶駭ノ話頭ヲ擡起シ」と題材の面におけるベルヌ小説の斬新さを述べ、また「人ノ性格」の描写と「恋愛」の扱い方においても、ベルヌの小説が「尋常小説家」「従前小説家」の書き方と大いに違うと述べている。それから、「宏雄偉宕異常絶倫」のベルヌ小説を読んだ後は「陳々腐々ノ群小説ヲ視ルに徒ダ草間吟蟲ノ鳴」のように感じてしまうと述べている。要するに、森田思軒はベルヌ小説を新しい類型の小説として認識しており、また極力紹介・称賛しているのである。「鉄世界序」は、森田思軒が初めて「新しい小説」に関する見解を論述する文章であると言える。また後述するが、これはのちに彼の「新小説」の命名に繋がっていると考えられる。

森田思軒はベルヌ小説と「科学」の関係性についても意識しており、下記のように述べている。

「十九世紀ノ文明ノ歴史ハ科学適用ノ歴史ニ過キス。科学闡明ノ歴史ニ過キス。而シテ其ノ闡明セル真理ヲ把リ其ノ適用セル事実ヲ把リ。鎔鑄シテ之ヲ想像ノ型ニ納レ。以テ一等出色ノ小説ヲ造レルハ。則チジュールヴェルヌ氏ナリ。彼レハ文明鏡中ノ花タリ。彼レハ科学水中ノ月ナリ。ジュールヴェルヌ氏ハ文明世界ノ事実ヲ影出セルノミナラス。毎子ニ科学世界ノ真理ヲ以テ文明世界ノ事実ニ先駆セリ。〔実例の列举を省略〕余輩ジュールヴェルヌ氏の科学小説ヲ讀テ二千年来ノ小説天地ヲ狭マシトシ。亦タ十九世紀文明ノ進歩ヲ遅シトスルノ意ナキ能ハス。」²

森田思軒は「一等出色ノ小説ヲ造レル」、「二千年来ノ小説天地ヲ狭マシトシ」など、主に文学（小説）の視点から「科学小説」を見ていることが窺われる。森田思軒が称賛しているのは、「科学」という「斬新ノ材料ヲ駆使シテ絶駭ノ話頭ヲ擡起」するベルヌの驚

¹ 森田思軒、「鉄世界序」、『鉄世界』、東京：集成社、1887年9月、pp5-7。

² 森田思軒、「鉄世界序」、『鉄世界』、東京：集成社、1887年9月、pp7-10。

くほどの想像力と創作力であろう。森田思軒がベルヌ小説中の科学的な要素に注目するのは、それが小説の新しさと面白さを提供しているからであると考えられる。「科学」は森田思軒が最も重要視するものではないと言えよう。

3. 森田思軒：『鉄世界』の翻訳者から「新小説」の命名者へ

「新小説」という言葉は、伝統小説から近代小説へ移行する過渡期の小説を指す概念（用語）として、19世紀末期から20世紀初頭の東アジアで広く使用されていた。1889年に『新小説』が東京で創刊されたが、これが日本に「新小説」という言葉が登場した嚆矢である。中国では、1902年に梁啓超が横浜（翌年上海に移る）で『新小説』を創刊することにより初めて登場した。韓国では、1906年に李人植が『新小説 血斗涙』を発表することにより使用され始めた。「新小説」の言葉は、日本から中韓両国に伝わり、近代初期の東アジアの文壇に大きな影響を与えた用語である。

今まで広く注目されていないが、この「新小説」の最初の命名者は森田思軒である。『新小説』は1889年1月に創刊されたが、森田思軒は創刊者のそして編集者の一人であった。

同じ創刊者の須藤南翠（1857～1920）は、『新小説』の十周年記念号に創刊時のことを回顧する「今昔談」を載せている。この文に「新小説命名の由来」という一節があり、森田思軒が命名したことが記されている¹。『新小説』創刊の準備段階では、この雑誌の標題の命名を巡って様々な意見が出たが、森田思軒は「新小説」という名称を積極的に主張し、同席の須藤南翠、饗庭篁村（1855～1922）らを説得したとされている。また、『新小説』創刊後、森田思軒はベルヌの『大叛魁』を同誌に訳載した（1889年3月～11月）。

前述したように、『鉄世界』を翻訳出版する際（1887年9月）、森田思軒は「新小説」という用語を使用していなかったが、『鉄世界』が新しい類型の小説であることを強く意識していた。『鉄世界』の翻訳は、彼を一年後の「新小説」の命名へ導いていると言えよう。『鉄世界』は、「新しい小説」、「新小説」として日本に受け入れられたのである。

¹ 谷口彦靖、『明治の翻訳王伝記 森田思軒』、岡山：山陽新聞社、2000年、p150。

第2章 科学啓蒙の重視：包天笑の中国語訳『鉄世界』

本章は、『鉄世界』の中国の訳者包天笑、中国語訳本『鉄世界』の翻訳の経緯及びその中国での受容の性格について考察する。

第1節 清末民初期中国の翻訳小説家包天笑

『鉄世界』の翻訳者包天笑（1876～1973）は、清末民初期の重要な翻訳小説家・作家・ジャーナリストである。原名は清柱（のちに公毅と改名）、号は朗孫、別号は包山、筆名には天笑・天笑生・小生・釧影樓・染指翁などがある。

1. 包天笑の生涯の概観

1876年、包天笑は江蘇省の蘇州、商人の家庭に生まれた。1880年（4歳）、家庭教師のもとで伝統的な教育を受け始める。幼時、古代の小説と当時の新聞を多く読んだ。1892年（16歳）、父親が病死し、包天笑は家庭教師として自立。1894年（18歳）、科挙に合格し、秀才となる。

日清戦争後、1896年（20歳）、梁啓超が創刊した『時務報』を愛読し、新思潮の影響を受ける。1898年（22歳）、日本人藤田に日本語を学び始める。また日本留学の中国人と交友・通信し、日本語の書籍に接触。1900年（24歳）結婚。同年、友人と「励学会」を結成し、「東来書庄」を経営する。1901年（25歳）、励学会の友人と共に翻訳専門雑誌『励学訳編』を蘇州で創刊する。同年（1901年）10月、『蘇州白話報』を創刊する。1903年（27歳）、蘇州の呉中公学社の教師に赴任する。1904年（28歳）～1906年（30歳）、山東省青州府官立中学堂の監督（学長）となる。

1906年（30歳）、上海に移り、『時報』社に入社する。その後、『小説林』『月月小説』など上海の文芸雑誌に翻訳小説と創作小説を多数発表する。1909年（33歳）、陳景寒らと『小説時報』を上海で創刊し主筆を務める。1911年（35歳）、『婦女時報』の主筆となる。1913年（37歳）、日本の新聞界にさそわれ、日本を旅行・訪問する。1917年（41歳）、『小説画報』の主筆となる。

1920年代以降、作品の発表は減るが上海の文壇で活動を続ける。1947年（71歳）、上海から台湾へ移る。1949年（73歳）、香港に定住する。『釧影樓回憶錄』の執筆に着手し、1971年（95歳）に香港で出版する。1973年（97歳）、香港で病没。

包天笑が創作した小説は、『碧血幕』（1907年）、『一縷麻』（1909年）、『留芳記』（1922年）、『上海春秋』（1924年）などがある。

2. 包天笑の翻訳小説の業績

包天笑は、文学創作より、翻訳小説の領域で残した業績が多い。包天笑は清末中国で最も早く翻訳小説に従事した訳者の一人である。

包天笑は『釧影樓回憶錄』で青年時代の外国語習得の経歴を回顧している¹。それによると、包天笑は1898年に日本人藤田氏の日本語学堂に入り、そこで三ヶ月間日本語の基礎を身に付け、その後は日本語を独学した。日本語は会話よりも読解を身につけたと述べている。包は英語とフランス語も学んだが、難し過ぎるという理由ですぐにあきらめた。

1901年4月、包天笑は筆名「天笑」を初めて使い、翻訳小説『迦因小伝』（楊紫麟と共訳）を『励学訳編』に連載する。これは包天笑のデビュー作であるが、英語の原文を楊紫麟が翻訳口述し、包天笑が筆記するという形で完成したものであった。

包天笑が日本語から翻訳した作品は、『鉄世界』（1903年）、『秘密使者』（1904年）、『千年後之世界』（1904年）、『無名之英雄』（1904年）、『法螺先生譚』（1905年）、『法螺先生続譚』（1905年）、『児童修身之感情』（1905年・のちに『馨児就学記』と改題）、『火車客艙』（1905年）、『造人術』（1906年）、『鉄窓紅涙記』（1906年）、『一捻紅』（1906年）、『滑稽使者』（1907年）、『世界末日記』（1908年）、『空中戦争未来記』（1908年）、『空谷蘭』（1908年）、『梅花落』（1908年）、『古王宮』（1908年）、『写真帖』（1909年）、『秘密党魁』（1910年）、『六号室』（1910年）、『埋石棄石記』（1911年）、『動物之同盟罷工』（1911年）、『結核菌物語』（1912年）、『苦児流浪記』（1912年）、『六咫地』（1914年）、『瓊島仙葩』（1915）など26点を数える（筆者の統計による）。

¹ 包天笑、「外国文の放棄」、『釧影樓回憶錄』、太原：三晋出版社、2014年、pp198～202。

第2節 包天笑訳『鉄世界』の発表及びその翻訳の底本

『鉄世界』は、包天笑にとって大きな意味を持つ翻訳作品である。彼の最初の訳作『迦因小伝』とは異なり、二つ目の訳作である『鉄世界』は、彼が初めて自力で、日本語から訳出したものである。従って、『鉄世界』こそが、包天笑の翻訳小説家としての起点であると言えよう。

1. 単行本出版：包天笑訳『鉄世界』の発表と伝播

1903年8月（光緒二十九年六月）、包天笑訳『鉄世界』は上海の文明書局から出版された。包天笑は『釧影樓回憶録』の「訳小説的開始」でつぎのように回顧している。

「這兩部小説，後來我都售給了上海文明書局，由他們出版。……大概這兩部小説的版權是一百元。……文明書局所得的一百餘元，我當時的生活程度，除了到上海的旅費以外，我可以供幾個月的家用。」¹

この「這兩部小説」とは、翻訳小説『鉄世界』と『三千里尋親記』を指す。包天笑はこの二作品で100元の版權費を獲得した。「（蘇州から）上海までの旅費のみならず数ヶ月の家庭の生活費の足しにもできる」ほどの大金である。『鉄世界』の字数が約3～4万字、『三千里尋親記』の字数が約1万字のみだった点を考えると、この収入は主に『鉄世界』で得たのである。100元の版權費は、『鉄世界』への文明書局の高い評価を物語っている。

文明書局は、1902年に上海で創立された中国最初の教科書発行の出版社である。創立時に刊行された『蒙学読本全書』がベストセラーとなったことにより²、文明書局は広く知られる出版社となった。当時の文明書局は、新書を出すとすぐ不法の海賊版や偽作が出現するほど、注目の出版社であった。『鉄世界』は出版の際に「不得私易書名改換面目翻印漁利，倘敢故違……立即提案不貸，其各凜遵勿違，切切特示」との警告が目次の前に記されていたにも関わらず、『鉄世界』の海賊版や偽作が流通した³と言われるほどの人気を得たのである。次いでながら、同年、不法翻印により甚大の損害を被った文明書局は清政

¹ 包天笑、「譯小説的開始」、『釧影樓回憶録』、太原：三晋出版社、2014年、pp219～220。

² 『蒙学読本全書』初版（1902年）の1万冊は2ヶ月のうち売り切ったといわれる。盧坡、「廉泉与文明書局」、『合肥師範学院学报』2017年第1期、2017年、p46。

³ 『復印報刊資料（外国文学研究）』、2010年6月、p67。

府に版權立法の建議書を提出し、これはのちに清末中国最初の著作権法の頒布を促した事件となったのである。

『鉄世界』は出版後、『中外日報』（1903年10月10日、12月6日；1904年4月7日；1907年2月16日、7月29日）、『時報』（1904年6月12日；1910年2月18日）、『嚶報』第62号（1911年2月28日）、『天鐸報』（1910年4月6日）など¹、多数の新聞に広告が掲載され宣伝された。

また、教育家姚永概（1866～1923）は1904年9月25日（旧暦）の日記で「閱『鉄世界』」²（『鉄世界』を読んだ）と記録を残している。また小説家金天翮（1873～1947）は1905年に上海の『新小説』の論説で、「吾読『海底旅行』、『鉄世界』而亦崇拜焉」³と書き、「崇拜」という表現で『鉄世界』から受けた衝撃を述べている。包天笑訳『鉄世界』の人気を裏付けるものと言える。

2. 日本語から中国語へ：『鉄世界』の二回目の重訳

包天笑はフランス語の原作や英語の訳本からではなく、日本語の訳本から『鉄世界』を訳出した。翻訳に使った底本について、包天笑は『鉄世界』の序文「譯余贅言」で次のように記している。

「是書為法國迦爾威尼原著。氏為巴黎小説家巨子，其所撰科學小説不下十餘種，鐵世界其一也。僕少肄法文，然不能譯書。此書由日本森田思軒轉譯而來，然窃謂於原意不走一絲，可自信也。」⁴

包天笑は「由日本森田思軒轉譯而來（日本森田思軒の訳本から重訳した）」と初めから明記している。また、「窃謂於原意不走一絲可自信也（原作の意思から少しでも離れていないことに自信がある）」と述べている。しかし、包が森田思軒の『鉄世界』から重訳した結果、ベルヌの原作から大いに離れていることは言うまでもないことであろう。

翻訳の底本である森田思軒の『鉄世界』を入手した経緯について、包天笑はつぎのよ

¹ 樽本照雄編、『清末民初小説目録X』、清末小説研究会、2015年、p4074。

² 姚永概、『慎宜軒日記（下）』、合肥：黄山書社出版社、2010年、p921。

³ 松岑（金天翮）、「論写情小説于新社会之關係」、『新小説』第17号、1905年6月。

⁴ 包天笑、「譯余贅言」、『鐵世界』、上海：文明書局、1903年、p1。

うに述べている。

「癸卯之春，我友吳和士君歸自東都，得此冊以饋包山。尤願公見而好之，囑為訳出，更担任渲染潤藻之責。及我竣譯，而願公已離此煩惱苦海五濁惡世而去矣。」¹

この記述からわかるように、包天笑は、1903 年春、東京から帰国した友人の吳和士²から森田思軒の『鉄世界』を贈り物としてもらい、また従兄の尤願公³の積極的な勧誘により翻訳し始めたのである。

さらに包天笑は、晩年の『釧影樓回憶録』の「譯小説的開始」で、日本留学中の友人を通して日本書を積極的に収集していた当時の経歴について、つぎのように詳しく回顧している。

「除了『迦因小伝』外，我又從日本文中，訳了兩部小説。這兩部小説，一名『三千里尋親記』，一名『鉄世界』。（略）我所訳的兩部日文書，都是我的留学日本的朋友，從旧書攤拾来，他們回国時送我的。我知道日本當時翻譯西文書籍，差不多以漢文為主的，以之再訳中文，較為容易。我就託了他們，搜求旧小説，但有兩個条件：一是要訳自欧美的；一是要書中漢文多而和文少的。我訳的兩種日文小説，就是合乎這兩個条件的。（略）他們有一位老作家森田思軒，漢文極好，訳筆通暢，我最愛読他的書，都是從法文中訳出來的。」⁴

1903 年、包天笑の日本留学中の友人吳和士は日本の「旧書攤」（古本屋）で森田思軒の『鉄世界』を入手したことがわかる。また、包天笑は彼らに日本書収集の二つの条件（欧米から翻訳したこと、漢文が多くて日本文が少ないこと）を指定していたことがわかる。特に森田思軒について、包天笑は「漢文極好，訳筆通暢」と賛称し、「我最愛読他的書（私は彼の本を最も愛読していた）」と表明している。これは、近代初期の中国国内の訳者が具体的にどのように日本から翻訳底本を入手し、どのような基準で作品を選び、どのよう

¹ 包天笑、「譯余贅言」、『鉄世界』、上海：文明書局、1903 年、p2。

² 吳和士は包天笑の同郷・友人であり、包天笑と共に吳中公学社の設立や『吳郡白話報』の編集に関わった人物である。『吳郡白話報』和創辦人王薇伯、『蘇州日報』第 B2 面、2015 年 5 月 22 日。

³ 尤願公は即ち尤志遠、別号は願公、包天笑の従兄（叔父尤巽甫の息子）である。尤巽甫父子は文学に精通し、幼時の包天笑の文学啓蒙に少なくない影響を与えた。包天笑、「三位姑母」、『釧影樓回憶録』、太原：三晋出版社、2014 年、p14。

⁴ 包天笑、「譯小説的開始」、『釧影樓回憶録』、太原：三晋出版社、2014 年、pp218—220。

な日本作家を好んだのかを知る重要な資料であると考えられる。

それから、森田思軒の日本語版『鉄世界』と包天笑の中国語版『鉄世界』の目次を対比してみよう。

章	日：鐵世界（1887）	中：鐵世界（1903）
1	天来の一億五百万圓	天外飛來之一億五百万圓
2	マクス ブフックマン 馬克、貌刺萬	理想之長壽村
3	『余は決して一たび定めたる時を変せず 余は決して一たび命したる詞を再せず』	日耳曼森林中躍出之怪物
4	サクソン 薩遜人種、 ^{ラテン} 羅甸人種	撒遜人種與羅甸人種
5	鍊鐵村	嗚呼鐵血主義之鍊鐵村
6	炭酸瓦斯の淵	炭酸瓦斯之淵
7	中央區	中央區
8	『最早汝は此世に於て他に為すへき事はあ らす唯た尋常に死に就くの一事あるのみ』	知我秘事者死忍毗之律令也
9	煙草	女兒花
10	長寿村の結構仕組	長壽村之組織
11	紐育ヘラストの警報	村民總會
12	一発の砲丸に苔ふる一片の手紙	百萬金之大炮答以一紙之手書
13	桑港の共同相場會所	桑港市會場之電報
14	侵入搜索	如石像如木偶如泥塑之忍毗
15	復命	長壽村萬歲

包天笑の中国語版『鉄世界』は、日本語版と同様に 15 章で構成される。章題名の表現が日本語版と異なる章もあるが、各章の内容はそれぞれ日本語版に対応しており、再編成がなされていない。第 1 章「天来の一億五百万圓」は「天外飛來之一億五百万圓」に、第 4 章「薩遜人種、羅甸人種」は「撒遜人種與羅甸人種」に、第 6 章「炭酸瓦斯の淵」は「炭酸瓦斯之淵」に、第 7 章「中央區」は「中央區」、第 10 章「長寿村の結構仕組」は「長壽村之組織」、第 12 章「一発の砲丸に苔ふる一片の手紙」は「百萬金之大炮答以一紙之手書」、第 13 章「桑港の共同相場會所」は「桑港市會場之電報」と、章の題名は一致してい

る。作品の分量においては、包天笑訳『鉄世界』が 118 頁（各頁 12 列×31 行）で、日本語版が 200 頁（各頁 12 列×30 行）と、包天笑訳本の頁数が日本語版の五分の三である。包天笑の訳本が日本語版の内容を大幅に削除しているかのように見えるが、包天笑の訳文に、削除の箇所は多くない。包天笑は簡潔な文言文で翻訳したので、翻訳後の頁数が減少したのである。

包天笑が日本語から『鉄世界』を重訳したことは確認することができた。これは、東アジアにおける『鉄世界』の二回目の重訳である。包天笑の訳文と森田思軒の訳文を詳しく比較すれば、包天笑の『鉄世界』は、無論一部の誤訳や加筆の箇所も存在するが、全体的には森田思軒の『鉄世界』をできるだけ忠実に訳出したことがわかる。清末民初期中国の数多い翻訳文学の中で、包天笑の『鉄世界』は比較的その底本（ソーステキスト）に忠実な翻訳作品であるといえよう。

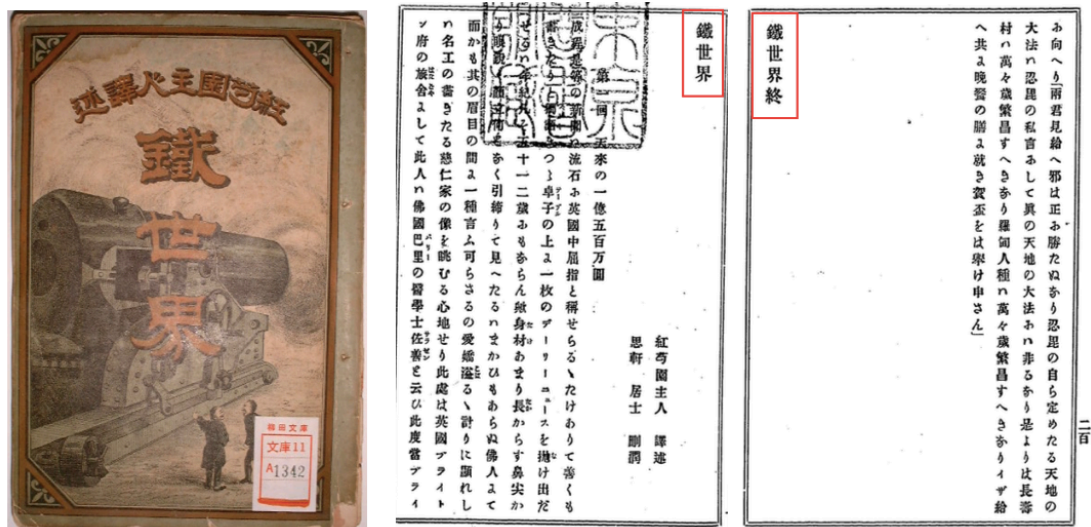
包天笑の西洋小説翻訳に関する既存の研究では、包が原典を改削すると批判されてきたが、実は、彼が依拠した日本語の底本が原典を改削していた結果であることを指摘する必要がある。包天笑の翻訳文学について再評価する必要があるのではないと考えられる。

第 3 節 中国『鉄世界』の性格：「科学小説」としての受容

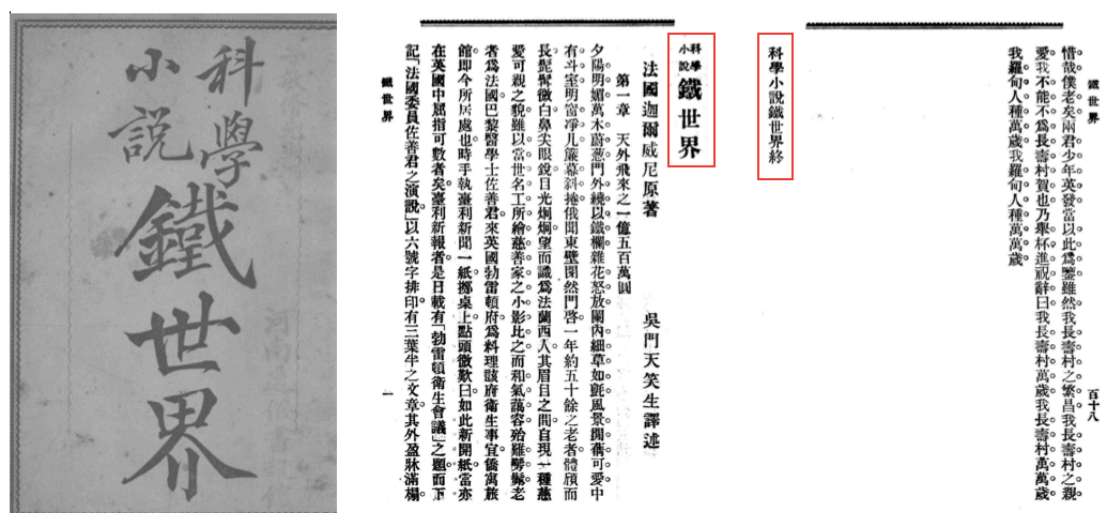
本節は、中国語版『鉄世界』の性格、近代中国における『鉄世界』の受容の特徴について検討を行う。小説としての斬新さに注目する日本語版『鉄世界』と異なり、中国語版『鉄世界』は作中の科学的な要素に注目していると言える。

1. 「科学小説鉄世界」：「科学小説」という角書の新設

森田思軒の日本語訳『鉄世界』（1887 年初版）と包天笑の中国語訳『鉄世界』（1903 年初版）の題名を比較検討する。森田思軒の『鉄世界』は、下図の示しているように、表紙、冒頭部分（本文第 1 頁）、結末部分（本文第 200 頁）で一貫して「鉄世界」で表記されている。



しかし、包天笑の『鉄世界』は、下図の示しているように、表紙、冒頭部分（本文第1頁）、結末部分（本文第118頁）で「科学小説鉄世界」としており、「鉄世界」の前に「科学小説」という日本語版にない角書（副題）を付けているのである。



中国語版における「科学小説」という角書の新設は、『鉄世界』が一般の小説ではなく、「科学」を伝える小説であることを強調しているのである。

2. 「輸入文明思想最為敏捷」：科学文明啓蒙への強調

中国語版『鉄世界』の巻首には、包天笑の序文「訳余贅言」がある。これは、日本語版

の森田思軒の序文「鉄世界序」を参照して書かれたものであるが、森田思軒の序文と大いに性質の異なるものである。森田思軒の序文は小説革新に関する論説であるとするれば、包天笑の序文は科学啓蒙に関する論説であると言えよう。

前章で述べたように、森田思軒の序文は「世間ノ群小説」の旧套と陳腐さへの詳細な批判から始まり、その上でベルヌ小説の革新的な意義と創作上の独特な特徴を称賛している。しかし、包天笑は、森田思軒のこれらの論述を無視し、科学の啓蒙に力点を置くのである。これは、ベルヌ小説の「文学（小説）」上の価値に対する包天笑の無関心な態度を示している。

では、包天笑はベルヌ小説のどのような側面に関心を持っていたのだろうか。「文学」の視点から始める森田思軒の序文とは異なり、包天笑の序文は「科学」の視点からベルヌの小説を紹介している。

「科學小説者、文明世界之先導也。世有不喜科學書〔者〕、而末有不喜科學小説者、則其輸入文明思想最為敏捷。且其種因獲果、先有氏所著之『海底二萬里』、而今日英國學士有海底潛行船之製矣；先有氏所著之『空中飛行船』、而巴黎學士有駕空中飛船而橫渡大西洋者矣。即如本書所載毒瓦斯砲彈、而明年英國陸軍省有買美人之毒彈者矣；以德律風開會議、而數年前比利時之皇後有安坐宮中而聽法國大劇場之歌曲者矣。凡斯種種、不勝枚舉。嗚呼、我讀迦爾威尼之科學小説、我覺九萬里之大圓小、我恨二十世紀之進步遲。」¹

包天笑の序文は自分の考え方のように述べているが、森田思軒の序文と対照すると、この部分の多くは森田思軒の観点と非常に類似していることがわかる。森田思軒の序文の該当部分はずいぶんこうなっている。

「十九世紀ノ文明ノ歴史ハ科学適用ノ歴史ニ過キス。科学闡明ノ歴史ニ過キス。而シテ其ノ闡明セル真理ヲ把リ其ノ適用セル事實ヲ把リ。鎔鑄シテ之ヲ想像ノ型ニ納レ。以テ一等出色ノ小説ヲ造レルハ。則チジュールヴェルヌ氏ナリ。彼レハ文明鏡中ノ花タリ。彼レハ科學水中ノ月ナリ。ジュールヴェルヌ氏ハ文明世界ノ事實ヲ影出セルノミナラス。毎子ニ科學世界ノ真理ヲ以テ文明世界ノ事實ニ先驅セリ。彼レ前キニ『海底二萬里』ヲ著ハ

¹ 包天笑、「譯余贅言」、『鐵世界』、上海：文明書局、1903年、p1。

シテ船ノ海底ヲ潜走スルヲ得ルヲ説ケリ。而シテ後チ近歳海底潜走船ノ丁國ニ作クヲレ英國ニ作クナルヲ見ルニ及ヘリ。彼レ前キニ『一風船中五週間』ヲ著ハシテ風船ニ駕シテ亜非利加藪澤ノ野チ横度スルヲ得ルヲ説ケリ。而シテ後チ頃日風船ニ駕シテ大西洋汪洶ノ水ヲ横度セントスルジブス氏ヲ巴里ニ出タスニ及ヘリ。彼レ前キニ毒瓦斯ヲ砲弾ニ盛リテ発射スルノ工夫ヲ説ケリ。而シテ後チ一昨年来米國人ノ毒瓦斯弾ヲ創造シテ英國陸軍省ニ賣ラント試ミタル者有リ。彼レ前キニ電話機ニ由リテ坐ナカラ會議ヲ開クノ光景ヲ説ケリ。而シテ後チ客冬白國ト佛國トノ間ニ電話機ノ架設成リ白國ノ皇后坐カラニシテ佛國大劇場ノ詞曲ヲ聴ケルノ事有リ。……余輩ジュールヴェルヌ氏の科學小説ヲ讀テ二千年来ノ小説天地ヲ狭マシトシ。亦タ十九世紀文明ノ進歩ヲ遅シトスルノ意ナキ能ハス。」¹

この部分の対照から、包天笑は明らかに森田思軒の書いた内容を参照したことがわかる。包天笑の「科學小説者文明世界之先導也」は、森田思軒の「ジュールヴェルヌ氏ハ文明世界ノ事実ヲ影出セルノミナラス、毎子ニ科學世界ノ真理ヲ以テ文明世界ノ事実ニ先驅セリ」の後半部分から移しとっている。「海底潜行船」「空中飛行船」「毒瓦斯砲弾」「德律風」などは、森田思軒の述べた「海底潜走船」「風船」「毒瓦斯弾」「電話機」の例をそのまま使用している。包天笑は、文明世界における科学小説の先導的な役割を証明する実例を全部中国語に翻訳し、多くの分量を割愛して論述しているのである。また、包天笑の「我讀迦爾威尼之科學小説，我覺九萬里之大園少，我恨二十世紀之進歩遅」は、森田思軒の「余輩ジュールヴェルヌ氏の科學小説ヲ讀テ二千年来ノ小説天地ヲ狭マシトシ。亦タ十九世紀文明ノ進歩ヲ遅シトスルノ意ナキ能ハス」を直訳していることがわかる。

しかし、包天笑の自らの重要な発言や改変があることを見落としてはならない。まず、「其(科學小説)輸入文明思想最為敏捷」(科學小説は文明思想を輸入するのに最も速い)という発言は、森田の序文にない。これは、科學小説という最も迅速な手段を通して文明思想を輸入するという包天笑の翻訳の動機をよく示している。森田思軒の序文では、このような考え方を示す発言は見られない。さらに、「世有不喜科學書[者]，而末有不喜科學小説者」(世の中に科学を好まない人はいるが、科學小説を好まない人はいない)という一文も、森田思軒の序文にない、包天笑自身の観点である。包天笑は、科学が難しくてつまらないので、「文明思想」を輸入するため、読み易くて面白い「科學小説」を翻訳しな

¹ 森田思軒、「鉄世界序」、『鉄世界』、東京：集成社、1887年9月、pp7～10。

ければならないと考えたのである。

また、包天笑はベルヌ小説の感想部分、「二千年來ノ小説天地ヲ狭マシトシ」を「我覺九萬里之大圓小」と改変している。「九萬里之大圓」とは地球のこと¹を指すが、森田思軒は小説の世界を語るのに対して、包天笑は地球の規模を語っているのである。この改変からも、包天笑の関心が「小説」ではなく「科学」にあることが窺える。

森田思軒の序文には「科学小説」という表現が2度しか使われていないが、短い包天笑の序文には「科学小説」という表現が4回も出ている。包天笑は森田思軒の序文の中の小説論を無視・削除したが、科学論を残しているうえ、自身の見解も加筆している。森田思軒の序文はベルヌ小説の文学革新上の意義と価値を中心に書かれているが、包天笑の序文はベルヌ小説の科学啓蒙上の意義と価値が中心に置かれている。森田思軒は「科学文明の啓蒙と輸入」に考え至っていないようであるが、包天笑は「科学文明の啓蒙と輸入」を明確に強く意識していると言えよう。

3. 「生名詞略附小注以期醒目」：科学知識翻訳への重視

『鉄世界』は科学小説であるため、科学に関する用語が多数使われている。包天笑は、『鉄世界』作中の科学用語の翻訳を重要視しており、その訳し方について、包天笑は序文「譯余贅言」でつぎのように説明している。

「是書凡東文名詞，洗刷大半。然有萬不能易，祇得聽之者。亦有行用已久，相與忘之者。即如瓦斯兩字，日本諧音為歐文 Gas，而中國向譯為煤氣者。然細按之，殊不確切，今仍以瓦斯譯音為妥。其餘「生名詞」，略附小注，以期醒目而已。」²

これによると、まずそれ相応の中国語の名詞がある場合は中国語の名詞に置き換えること。つぎには中国語の名詞があるが、それが適切でない場合は日本語の名詞を使うこと。例えば、日本語版に出ている「瓦斯^{ガス}」に対して、中国語の「煤氣」は正しい意識とは言えないため、日本語版のまま「瓦斯」で翻訳したほうが妥当だとしている³。

¹ 赤道の長さは4万キロメートルを超えている。また、1キロメートルは2里である。

² 包天笑、「譯余贅言」、『鉄世界』、上海：文明書局、1903年、p2。

³ 更に詳しい考証が必要であるが、現代中国語に定着している「瓦斯」という名詞は、包天笑の『鉄世

最後は、それ相応の中国語がない場合、即ち新しい言葉には注を付けてその意味を解釈すること（「生名詞」略附小注以期醒目）。実は、森田思軒も日本語版において一部の新しい名詞に注釈を付けている。この点について包天笑は、森田思軒の訳文に従っている。例えば、「鶴頸」を、森田思軒は「重き物を上げ下しする機械」という注釈を付けており、包天笑は同様に注釈として「上下重物之機械」としている。

また、森田思軒が注釈を付けていない新しい用語にも、包天笑は自ら注釈を付けている。例えば、鋼鉄を製造する場面に出ている「熊手」という機械について、包天笑は「一種器械名」と、さらに「坩堝」という容器に「坩堝即土罐以融金類者」と、炭坑の坑底で作業する場面に出ている「炭酸瓦斯」という気体に「煤氣毒臭」という注釈を加えている。この翻訳例から、包天笑が科学名詞を翻訳する際にかなり苦心したことがわかる。

『鉄世界』を読み比べてみると、その科学的な描写の場面には、包天笑が本文を訳すだけではなく、それ以外に丁寧な説明を加えていることが明らかになった。例えば、第5章、馬克が鍊鉄村に潜入して調査する場面で、包天笑は「設令一日乗輕氣球而俯瞰此村殆如象棋之盤」¹というように、風船に乗って鍊鉄村を俯瞰するという想像の場面を加筆し、鍊鉄村の様子が見えるような工夫を加えている。また、鍊鉄村の中の鋼鉄を運送する「鉄道車」を描写する場面には「實無需一毫人力以繹絡不絶抑亦巧矣」²と、その機械の利点を賛美する文章を加筆している。さらに、第10章、長寿村の住宅の規定（一軒の内に一家族より多く住むことを許さないこと）を述べる場面では、包天笑は「以防衛生」（衛生のため）³と、状況をより分かりやすくするための加筆が見られる。作中の科学知識を中国の読者に伝えるために、包天笑は単に訳するだけではなく多くの工夫をしているのである。

4. 「使吾国民皆有忍毗之芸術」：科学の力への崇拜

訳者の包天笑だけではなく、当時中国の識者・読者も『鉄世界』の科学的な側面に注目していた。例えば、1905年、小説家金天翮（1873～1947）は上海の『新小説』に発表した論説で、『鉄世界』に触れてつぎのように述べている。

界』翻訳により初めて日本語から導入されたのではないと思われる。

¹ 包天笑、『鉄世界』、上海：文明書局、1903年、p23。

² 包天笑、『鉄世界』、上海：文明書局、1903年、p27。

³ 包天笑、『鉄世界』、上海：文明書局、1903年、p71。

「吾欲吾同胞速出所厭惡之旧社会，而入所歆羨之新社会也。吾之心較諸譯小説而尤熱。……吾讀『海底旅行』、『鉄世界』而亦崇拜焉，使吾國民而皆有李夢之科学，忍毗之芸術，中國國民之偉大力可想也。」¹

金天翮は、中国人が早く「旧社会」から出て「新社会」に入ることを願い、翻訳小説を非常に熱心に読んでいたと述べ、中でも『鉄世界』を読んで「忍毗之芸術」を崇拜していると語る。「忍毗」は作中の鍊鉄村の創立者、鋼鉄の製造者、超大型武器の発明者であり、「芸術」とは忍毗の科学技術を指す。金天翮は、中国人が忍毗の科学技術を掌握すれば、大きな力を持つと科学の力を信じていたのである。

金天翮に代表される 20 世紀初頭の中国の知識人たちは、大衆啓蒙のため科学と科学小説に強い関心を持っていたのである。包天笑訳『鉄世界』が出版された同年（1903 年）に、日本留学中の魯迅もベルヌの科学小説『月界旅行』を東京で翻訳出版し、その序文でつぎのように述べている。

「盖臚陳科学，常人厭之，閱不終篇，輒欲睡去，強人所難，勢必然矣。惟仮小説之能力，被優孟之衣冠，則雖析理譚玄，亦能浸淫脑筋，不生厭倦。……故掇取学理，去庄而諧，使読者触目会心，不勞思索，則必能于不知不觉間，獲一斑之智識，破遺伝之迷信，改良思想，補助文明，勢力之偉，有如此者！……故苟欲弥今日訳界之缺点，導中国人群以進行，必自科学小説始。」²

上記の魯迅の序文と包天笑の序文を対照すれば、魯迅の「盖臚陳科学，常人厭之，（略）惟仮小説之能力，（略）能浸淫脑筋，不生厭倦」と包天笑の「世有不喜科學者，而末有不喜科學小説者」、魯迅の「（科学小説）改良思想，補助文明，勢力之偉，有如此者」と包天笑の「（科学小説）輸入文明思想最為敏捷」、魯迅の「導中国人群以進行，必自科学小説始」と包天笑の「科學小説者，文明世界之先導也」など、表現が異なるものの、本質的にはよく似た趣旨、科学文明の啓蒙と輸入のために、科学小説を速く多く翻訳し始めるべきだと

¹ 松岑（金天翮）、「論写情小説于新社会之關係」、『新小説』第 17 号、1905 年 6 月。

² 魯迅、「月界旅行辨言」、『月界旅行』、東京：進化社、1903 年。陳平原・夏曉虹編、『二十世紀中国小説理論資料（第一卷）1897—1916』、北京：北京大学出版社、1997 年、p68。

いう主張を述べている。

以上で分析してきたように、包天笑訳『鉄世界』は、「科学小説」としての性格が大いに強化され、明確に「科学小説」として訳され読まれ、清末中国の科学啓蒙の手段として用いられていたと言えよう。

第3章 救国思想の喚起：李海朝の韓国語訳『鉄世界』

本章は、近代初期の韓国において『鉄世界』がどのように重訳・受容されていたのかについて考察する。

第1節 開化期韓国の新小説家李海朝

韓国語版『鉄世界』の翻訳者李海朝（1869～1927）は、「啓蒙期の大衆小説作家」で、「李人植と並び称せられる新小説時代の代表的作家」¹でもある。号は悦斎、怡悦斎、東濃。筆名は善飲子、遐觀生、惜春生、神眼生、牛山居士。李海朝は開化期の代表的な新小説作家として広く知られているが、彼の生涯については詳しく知られていない。まず李海朝の生涯の概観を調査・整理しておきたい。

1. 李海朝の生涯の概観

李海朝は、1869年、京畿道の抱川郡、両班の家庭に生まれた。麟坪大君（1622～1658、朝鮮王朝第19代王・仁祖の三つ目の息子）の10代孫で、朝鮮王朝の王族の末裔である²。祖父李載晩は1871年の科挙に「状元」（首席）で及第し、父親李哲鎔は1873年の科挙に「進士」で及第した。このような家庭に生まれた李海朝は、幼少の頃から漢学・漢文の教育を受け、1888年（19歳）に科挙の初試に及第した。しかし、祖父李載晩は大院君の庶子李載先の王位擁立事件に関わり1883年に「逆賊」の罪名で処刑された。その後一家は没落していく。

祖父の名誉が回復された1894年以後、李海朝（25歳）は父親と共に官職に任命される。

¹ 金東旭、『朝鮮文学史』、東京：日本放送出版協会、1974年、p261。

² 이명자, 「새로 밝혀낸 李海朝의 얼굴과 生涯」, 『文學思想』 (92)、1980年7月、p59。

1901 年 (32 歳)、李海朝は量地衙門の量務委員として初めて官職に進出する¹。1903 年 (34 歳)、中枢院の議官に任命される。この間に李海朝が韓国の近代化と新学問に目覚めたのである。

1905 年 (36 歳) 7 月、李海朝はクリスチャンとなる²。1906 年 (37 歳)、故郷の京畿道抱川郡で父親と共に近代的学校である莘野義塾の創立と経営に関わる³。同年、父親が創立した近代的学校である一成学校に入り、近代的な知識を学ぶかわら、国民教育会の活動に参加し、京城の蓮洞礼拝堂に通い、そこで開化知識人と交友する。国債報償運動 (1907 年) (韓国を経済的に隷属化させるとされる日本の借款 1300 万圓を国民で返還しようとする運動) に参加する。

『少年韓半島』の「撰述員」を経て、1907 年 (38 歳) に京城の『帝国新聞』社に入社し、小説欄を担当することになる。同年 (1907) 6 月から、38 歳の李海朝は『帝国新聞』に掲載された『고목화(枯木花)』で文壇にデビューする。その後、李海朝は新小説作家として活躍していく。1908 年 (39 歳)、愛国啓蒙運動の団体である大韓協会の教育部事務長と実業部の評議員、畿湖興學會の評議員、『畿湖興學會月報』の編集者などを歴任する。1910 年、『毎日申報』社に小説記者として入社し、多数の新小説を同紙に発表する (1913 年退社)。1927 年 (58 歳)、故郷の抱川で病死する。

2. 李海朝の創作活動と翻訳活動

李海朝は 38 歳にデビューし、比較的に遅く作家の道を歩み始めたのであるが、20 年の間に 40 点余りの小説を創作し、韓国近代初期の文壇で活動した。彼の作品は、『고목화(枯木花)』(1907 年)、『빈상설(鬢上雪)』(1907 年)、『구마검(驅魔劍)』(1908 年)、『원앙도(鴛鴦圖)』(1909 年)、『자유종(自由鐘)』(1910 年)、『홍도화(紅桃花)』(1910 年)、『화세계(花世界)』(1910 年)、『구의산(九疑山)』(1911 年)、『화의혈(花의血)』(1911 年)、『월하佳人(月下佳人)』(1911 年)、『봉선화(鳳仙花)』(1912 年)、『소학령(巢鶴嶺)』(1912 年) などがある。これらの多くは、まず『帝国新聞』『大韓民報』『毎日申報』などに連載され、後に単行本として刊行されたものである。

李海朝の文学活動は、「新小説」の創作だけではなく、外国小説の翻訳にも関わっている。李海朝の翻訳活動は、『少年韓半島』の「撰述員」時代 (1906 年 11 月～1907 年 4 月) から始まった。

『少年韓半島』は国民教育会が創刊した雑誌であり、日本語や漢文に精通する撰述員

¹ 『皇城新聞』、1901 年 12 月 9 日。송민호, 「悅齋 李海朝의 生涯와 思想的 背景」, 『國語國文學』(156)、2010 年、p246。

² 최기영, 『大韓帝國時期新聞研究』, 서울:一潮閣、1991 年、pp42~43。

³ 崔元植, 『韓國啓蒙主義文學史論』, 서울:昭明出版、2002 年、p166。

を多く採用し、日本や中国から流入した文献資料を翻訳し、韓国の若い読者に近代的な学知（学問と知識）を提供する記事を多数掲載した。高い漢文力を持つ李海朝は、主として中国から流入した書籍の翻訳を手掛け、1908年4月に歴史伝記小説『화성돈전(華盛頓傳)』を翻訳し、匯東書館より刊行する。その後、李海朝は科学小説『철세계(鐵世界)』（1908年）、探偵小説『누구의 죄(罪)』（1913年）などの翻訳を進めた。

李海朝の文学活動は、日韓併合（1910年）前後にして大きな転換があったとされている。日韓併合（1910年）以前の李海朝は、愛国啓蒙運動に深く関わり、開化と救国を目指して文学活動と社会活動を展開したが、日韓併合（1910年）以後は近代化に必要な内容（風俗改良・社会啓蒙）を持つ新小説の創作に専念したからである。

第2節 李海朝訳『鉄世界』の発表及びその翻訳の底本

李海朝訳『철세계(鐵世界)』（1908年11月）は、『華盛頓傳』（1908年4月）に続けて発表され李海朝の二つ目の翻訳作品である。韓国における科学小説の枠組みから見ると、『鉄世界』は『海底旅行奇譚』（1907年3月から『太極学報』に連載）に次いで韓国語に訳出された二つ目の科学小説である同時に、単行本として出版された最初の科学小説でもあり、韓国近代翻訳文学史上において重要な位置付けとなる作品であるといえる。本節は李海朝訳『鉄世界』が韓国で発表・伝播された状況及びその翻訳の底本について検討する。

1. 単行本出版：李海朝訳『鉄世界』の発表と伝播

1900年代後半の韓国の出版界では、新聞連載小説と単行本小説の性格は少々異なっていた。新聞連載小説は新聞の発行部数を拡大するための商業的な性格が強かったが、「単行本小説の出版は利潤を残すための商業的な性格より教育と啓蒙の手段としての意味が強かった」¹とされている。

1908年11月20日、李海朝訳『철세계(鐵世界)』は、新聞連載を経ず単行本として京城の匯東書館から出版された。1910年以前に発表された李海朝の多数の作品には、新聞連載を経ず直接単行本として出版されたものは、『華盛頓傳』と『鉄世界』二作品しかなかった。商業的で通俗的な新聞連載新小説の発表と異なり、李海朝は主に政治的な愛国啓蒙の動機から『華盛頓傳』と『鉄世界』を翻訳出版したと言えよう。

¹ 배정상, 「李海朝 文學 研究:近代 出版 印刷와의 關聯 樣相을 中心으로」、延世大学校博士論文、2012年、p138。

匯東書館は1897年に創立され、韓国開化期の先駆的な出版・書店兼営の業者である。比較的に大量部数で出版するのは匯東書館の慣例であり、匯東書館より出版された李海朝訳『華盛頓傳』（1908年4月）は約3千部で発行されたことから¹、李海朝訳『鉄世界』（1908年11月）も多い部数（数千部）で印刷出版されたと推測される。

李海朝訳『鉄世界』の出版は、韓国当時の有力紙『皇城新聞』により積極的に宣伝されていた。『鉄世界』出版後の翌月、『皇城新聞』はつぎのような広告を掲載した。李海朝は『皇城新聞』社でも勤務していたので、この広告文は李海朝が書いたものであると推測される。

「美國 迦爾威尼 原著 大韓 李海朝 譯述 科學小説 鐵世界

本小説은 化學家の 構設宏傑과 經營慘澹이며 慈善家の 博愛事業과 衛生制度를 一一模寫하여 令人으로 可驚可懼며 可喜可悅이오니 科學從事に 最要할 不啻라 新知識啓發에 有力한 者니 愛讀諸君子는 速速購覽하시오

發行元 皇城南部大廣橋東邊 匯東書館 發售處 皇城罷朝橋中央書館 鍾路大東書市 尙洞博文書館 紫岩新舊書林 銅峴博學書館 文明書館 漢城書畫館 中央分店 布屏下廣學書舖 典洞光東書局 各地有名書肆」²

筆者の調査によると、この広告は『皇城新聞』に1908年12月10日から1909年5月7日まで、計56回掲載されている。この時代、一つの作品がこれほど長く繰り返し有力誌により宣伝されるのは稀なことであった。このような積極的な宣伝により『鉄世界』は当時の韓国社会で広く知られていたと推測される。また『鉄世界』の販売所に関する文末の記載から、京城の書店だけではなく「各地有名書肆」でも販売されていたことがわかる。

李海朝訳『鉄世界』出版後の当時の反響について、趙東一氏は『韓国文学通史』第4巻で、「西洋の科学に対する関心と未知の世界に対する憧憬を同時に充足させることができて歓迎を受けた」³と述べている。

2. 中国語から韓国語へ：『鉄世界』の三回目の重訳

近代韓国における『鉄世界』の受容の特徴を検討する前に、まず李海朝が翻訳の際に

¹ 이종국, 「開化期 出版 活動의 한 微驗 : 匯東書館의 出版文化史的 意義를 中心으로」、『韓國出版學研究』(49)、2005年12月、p232。

² 『皇城新聞』、1908年12月10日、第3面。

³ 趙東一、『韓國文學通史』第4巻、서울:知識産業社、2006年(4版)、p385。原文:「서양의 과학에 대한 관심과 미지의 세계에 대한 동경을 한꺼번에 충족시켜줄 수 있어 환영받았다。」

使った底本（ソーステキスト）を確認しなければならない。韓国語版『鉄世界』の翻訳の底本について、李海朝が森田思軒や包天笑のように明記していないためか、韓国学界では長い間、李海朝の『鉄世界』は日本語版から訳出されたものであると受け止められてきた。

例えば、金東旭は『朝鮮文学史』（1974年）で「新小説作家李海朝はフランスの小説『鉄世界』を日本語訳から重訳した」¹と述べている。また金秉喆は『韓国近代翻譯文学史研究』（1975年）で、中国語版の存在を言及せず、日本語版と韓国語版を対照し、「本書の底本となるのは日本森田思軒訳『鉄世界』（1887）であり」²、「我が国語の翻訳は日本語訳の逐語訳ではなく、所謂日本語訳の訳述となっている」³と判断している。このような観点は修正されることなく、趙東一は『韓国文学通史』第4巻（2006年第4版）で「1908年に出た『鉄世界』は李海朝がベルヌ（Jules Verne）の原作を日本語訳本から翻訳した科学空想小説である」⁴と、金旭東は『翻訳と韓国の近代』（2010年）で「勿論、李海朝はフランス語の原文から直接翻訳したのではなく、森田思軒が日本語に翻訳したものを重訳したのである」、また「李海朝はこの翻訳書の題目の前に「科学小説」という副題を付けた」⁵と判断している。また権寧珉は『韓国近現代文学事典』（2012年）で、李海朝が「また日本語を独学し、『鉄世界』（一九〇八）、『華盛頓伝』（一九〇八）、『罌粟の花製造法』などを翻訳した」⁶と述べている。このように、李海朝が日本語から『鉄世界』を訳出したという観点は、一般的な認識として固定されてきたと言えよう。

中国語版『鉄世界』を翻訳底本の検討に加えるなら、当然ながら上述の観点には再検討が行われなければならない。崔元植は『韓国近代小説史論』（1986年）で、中国語版の存在に言及し、李海朝が中国語版から『鉄世界』を翻訳した可能性を初めて提示している⁷。金教鳳（2000年）⁸と崔瑞娟（2012年）⁹は、日中韓の訳本の目次を対照し、李海朝

¹ 金東旭、『朝鮮文学史』、東京：日本放送出版協会、1974年、p260。

² 金秉喆、『韓国近代翻譯文學史研究』、서울:乙酉文化社、1975年、p273。原文：본서의 대본으로 한 것은 일본의 森田思軒譯<鐵世界>(1887)이고。

³ 金秉喆、『韓国近代翻譯文學史研究』、서울:乙酉文化社、1975年、p275。原文：우리말 번역은 일역의 축자역이 아니라, 소위 일역의 역술로 되어 있음。

⁴ 趙東一、『韓國文學通史』第4巻、서울:知識産業社、2006年(4版)、p385。原文：「1908년에 나온 <철세계>(鐵世界)는 이해조가 베른(Jules Verne)의 원작을 일본어 번역본으로부터 옮긴 과학공상소설이다。」

⁵ 金旭東、『翻譯과 韓國의 近代』、서울:昭明出版、2010年、p134。原文：「물론 이해조는 프랑스어 원문에서 직접 번역한 것이 아니라 모리다 시겐이 일본어로 번역한 것을 중역하였다……이해조는 이 책의 번역서 제목 앞에 ‘과학소설’이라는 부제를 붙여놓았다。」

⁶ 權寧珉著・田尻浩幸訳、『韓国近現代文学事典』、東京：明石書店、2012年、p350。

⁷ 崔元植、『韓国近代小説史論』、서울:創作과 批評社、1986年、p40。

⁸ 金教鳳、「<鐵世界>의 科學小說的 性格」、『大衆敍事研究』5(1)、2000年、p122。原文：「이해조는 포천소의 중역본을 대본으로 한 것이 분명해진다。」

⁹ 崔瑞娟、「中韓 近代 科學小說 比較研究:철 베른의 <海底旅行>과 <鐵世界>를 中心으로」、山東大學碩士論文、2012年、p38。

が中国語版から『鉄世界』を翻訳したと主張している。

『鉄世界』の日本語版、中国語版、韓国語版の目次を比較検討するために表にまとめてみた。韓国語版の目次は、ハングルで書かれたものなので、分かり易くするため筆者が括弧で漢字を付記した。

章	日：『鉄世界』(1887)	中：『鉄世界』(1903)	韓：『鉄世界』(1908)
1	天来の一億五百万圓	天外飛來之一億五百万圓	하늘로써 날아온 일억오백만원(一億五百万圓)
2	マクス ブフックマン 馬克、貌 刺 萬	理想之長壽村	장수촌(長壽村) 리상(理想)
3	『余は決して一たび定め たる時を変せず 余は決して一たび命した る詞を再せず』	日耳曼森林中躍出之怪物	일이만(日耳曼)삼림(森林) 중(中)의서 괴물(怪物) 하나이 뛰어나온다
4	サクソン ラテン 薩 遜 人種、羅 甸 人種	撒遜人種與羅甸人種	살손인종(撒遜人種)과 라전인종(羅甸人種)
5	鍊鐵村	嗚呼鐵血主義之鍊鐵村	쇠에피흘주의(鐵血主義)로 련철촌(鍊 鐵村)(쇠다로는 촌)을 건설(建設)함이라
6	炭酸瓦斯の淵	炭酸瓦斯之淵	탄산(炭酸) 와사(瓦斯)의 바다
7	中央區	中央區	중앙구(中央區)
8	『最早汝は此世に於て他 に為すへき事はあ らず唯た尋常に死に就く の一事あるのみ』	知我秘事者死忍毗之律令也	비밀사(秘密事)를 알면 죽이는 인비(忍毗)의 룰령(律令)이라
9	煙草	女兒花	녀아화(女兒花)의 신기(新奇)한 공효(功效)
10	長寿村の結構仕組	長壽村之組織	장수촌(長壽村)의 조직(組織)
11	紐育ヘラスドの警報	村民總會	촌민(村民)의 총회(總會)
12	一発の砲丸に苦ふる一片 の手紙	百萬金之大砲答以一紙之手 書	백만원(百万圓)짜리 대포(大砲)를 편지(便紙) 한 장(張)으로 감는다
13	桑港の共同相場會所	桑港市會場之電報	상항시(桑港市) 회장(會場)의 던보(電報)
14	侵入搜索	如石像如木偶如泥塑之忍毗	계용도 갖고 부처도 갖고 미력(彌勒)도 갖흔 인비(忍毗)
15	復命	長壽村萬歲	장수촌(長壽村) 만세(萬歲)

目次を対照すると、韓国語版の目次の表現は、日本語版よりも、中国語版のほうに類似していることがわかる（特に第2、3、5、8、9、14、15章のタイトル）。

しかし、最終的な判断を下すためには、目次の対比だけで充分ではないと思われる。李海朝が目次を中国語版から翻訳し、本文は日本語版から翻訳した可能性が存在するからである。従って、当時の李海朝の外国語能力をも検討し、更に日中韓の訳本の本文（テキスト）を比較・確認する必要があるのである。

李海朝は漢文力を身に付けていたことは明らかであるが、1908年前後の彼が日本語にも通じていたことを証明できる資料は見つからない。故に彼が日本語版から訳出した可能

性が非常に低い。さらに、筆者は『鉄世界』の日本語版、中国語版、韓国語版のテキストの詳細な比較を行い、韓国語版は中国語版と一致するが日本語版と異なる箇所が多く、特に中国語版の包天笑の加筆部分が韓国語版にそのまま訳出されていることを確認することができた。その例として冒頭部分を見ることにする。(韓国語版の引用部分の括弧及び漢字の表記は筆者によるものである。)

日本語版(1887年):「成程是等の新聞は流石に英國中屈指と称せられるたけありて善くも書きたり」獨語をつる卓子の上に一枚のデーリーニュースを抛け出だせるは年紀凡そ五十一二歳にもおらん(略)」¹

中国語版(1903年):「夕陽明媚, 萬木蔚然, 門外繞以鉄欄, 雜花怒放, 闌内細草如氈, 風景間蒨可愛。中有斗室, 明窓淨幾, 簾幕斜捲。俄聞東壁閉然門啓, 一年約五十餘之老者(略)」²

韓国語版(1908年):「석양(夕陽)은 염々(炎炎)하고 만목(萬木)은 울충(蔚聰)하야 순간두옥(數間斗屋)이 은영(隱映)한디 기화이초(奇花異草)가 산만(散漫)하야 들압해 가득하고 세죽님(竹簾)을 빗기것어 서안(書案)이 정제(整齊)한디 나이 오십여(五十余)나된 신사(紳士)가(略)」³

日本語版の冒頭部分では、主人公佐善は独語しながら登場している。しかし中国語版では、佐善の登場の前に彼の宿泊先であるロンドンの旅館の様子の描写が加筆されている。韓国語版の冒頭部分には中国語版と同様な環境描写があるのである。冒頭部分以外にも中国語版の加筆部分が韓国語版に訳出されているところが多い。例えば、前述したが、中国語版の第5章、風船に乗って鍊鉄村を俯瞰することを想像する「設令一日乗輕氣球而俯瞰此村殆如象棋之盤」⁴という加筆部分は、韓国語版では「만일(萬一) 경기구(輕氣球)를 타고 촌중(村中)을 굽어보면 응당(應當) 마독판(板) 갓흘지라」⁵となっており(括弧と漢字表記は筆者による)、中国語版と一致している。

また作中の人名と地名も、韓国語版は中国語版に沿っている。例えば、日本語版では「佐^{サラ}善」「忍^{ニヒト}毘」「馬^{マクス}克」というように漢字で表記してその上にカタカナで英語の発音を併記してあり、中国語版では「佐善」「忍毗」「馬克」というように漢字のみで表記しているが、韓国語版では「좌선」(漢字: 佐善; 発音: ブワシヨン)、「인비」(漢字: 忍毗; 発音: インビ)、「마극」(漢字: 忍毗; 発音: マク)というように、中国語版の漢字と発音に由来

¹ 森田思軒訳、『鉄世界』、東京: 集成社、1887年、p1。

² 包天笑訳、『鉄世界』、上海: 文明書局、1903年、p1。

³ 李海朝譯、『철세계(鐵世界)』、京城: 匯東書館、1908年、p1。

⁴ 包天笑訳、『鉄世界』、上海: 文明書局、1903年、p23。

⁵ 李海朝譯、『철세계(鐵世界)』、京城: 匯東書館、1908年、p20。

するハングルで表記している。

以上で述べてきたように、日中韓の訳本のテキストの比較から、韓国の訳者李海朝が依拠した底本は日本語版ではなく中国語版であり、李海朝は中国語版から『鉄世界』を訳出したと最終的に判断できるであろう。これは、近代初期東アジアにおける『鉄世界』の三回目の重訳である。

第3節 韓国『鉄世界』の性格：政治小説としての受容

本節は、韓国語版『鉄世界』の性格、『鉄世界』の韓国受容の特徴について検討を行う。

1. 作中の科学的な要素の弱化：科学知識の消極的な翻訳

『皇城新聞』の広告（本章第2節）が示すように、李海朝訳『鉄世界』は出版時に「科学小説」として宣伝されていた。その後、この翻訳作品は韓国近代文学の関連著述で一般的に科学小説として扱われており、既存の研究もその科学小説的な性格に焦点を当てて行われてきた。

李海朝の韓国語版『鉄世界』が科学小説的な性格を有するが、その訳文を詳しく分析すれば、さらに翻訳の底本である中国語版と比較すれば、李海朝訳『鉄世界』は科学的要素が弱められていることがわかる。まず『鉄世界』の題目に出ている「科学小説」という角書について検討しよう。

李海朝が日本語版の題目にない「科学小説」という角書（副題）を付けたという観点があるが¹、「科学小説」という角書は、李海朝が付けたものではなく、まず包天笑が中国語版の題目に添加し、のちにそれを李海朝が訳出したのである。また、中国語版の表紙、本文開始前、本文終結後に「科学小説」という角書が付けられている。しかし韓国語版では本文開始前と本文終結後の二箇所だけであり、表紙には「科学小説」という角書が付けられていない。

中国語版の巻首には科学小説と科学啓蒙の重要性を強調する包天笑の序文があるが、李海朝は包天笑の序文を訳出していない。

¹ 「李海朝はこの翻訳書の題目の前に「科学小説」という副題を付けた」。金旭東、『翻譯과 韓國의 近代』、서울:昭明出版、2010年、p134。原文:「이해조는 이 책의 번역서 제목 앞에 ‘과학소설’이라는 부제를 붙여놓았다.」

また、韓国語版は当時優勢であった国漢文混用体ではなく、純国文体（純ハングル体）で書かれており、漢字が殆ど使用されていないことも¹、疑問に思われる。『鉄世界』は科学小説であるため、科学に関する新しい名詞が大量に登場しており、それら新名詞は日本語版と中国語版において漢字で表されている。近代初期の東アジアにおける新知識の輸入と伝播は、主に漢字を借りて作られた新造語を通して展開された。これらの新造語は殆ど漢字語であったため、漢字の表記せずにハングルだけで翻訳すれば、科学文明の輸入と啓蒙に限界があったようである。このような翻訳文体の選択は、「科学小説」という韓国語版『鉄世界』の標榜に合致していないのではないかと思われる。

日中の訳文を対照すると、韓国語版『鉄世界』は科学に関する名詞と知識を積極的に翻訳していると言えない。包天笑は中国語版の序文で作中の科学名詞の翻訳について説明している。李海朝はこのような説明をしていない。中国語版で新名詞に加えられている注釈は、韓国語版で屡々省略されている。例えば、中国語版では「坩堝」という容器に「坩堝即土罐以融金類者」という注釈を加えているが、韓国語版は容器名だけを訳出し(토간이)、その注釈を削除している。中国語版では「鶴頸」という機械に「上下重物之機械」という注釈を加えているが、韓国語版は機械名だけを訳出し(갈고리)、その注釈を省略している。中国語版では「炭酸瓦斯」という気体名に「煤氣毒臭」という注釈を加えているが、韓国語版は気体名だけを訳出し(탄산와사)、その注釈を削除している。韓国語版『鉄世界』では、科学名詞に付けられた注釈のみならず、科学知識に関する説明的な叙述も削除されていることが多い。例えば、第11章、鍊鉄村から発射された大砲弾は長寿村の上を飛んで過ぎた場面では、中国語版は砲弾の速度の数値と音速の知識を紹介し、砲弾が見えてから約2分後にその音が遂に聞こえる現象の原因を説明している²。しかし韓国語版では省略されているのである³。

以上の分析を通して、韓国語版『鉄世界』は「科学小説」と標榜しているものの、底本の中国語版と比べ、その科学小説の色彩は実際に大いに薄められていることが明らかになったと考えられる。

¹ 韓国語版『鉄世界』の本文に出ている漢字は、第2章の題名「장수촌(長壽村) 리상(理想)」、第5章の題名「쇠에 피흘쥬의(鐵血主義)로 런철촌(쇠다로는 촌)을 건설함이라」、第9章の題名「녀아화女兒花의 신기한 공효」など極少数の箇所には見られない。

² 包天笑訳、『鉄世界』、上海：文明書局、1903年、p86。

³ 李海朝譯、『철세계(鐵世界)』、京城：匯東書館、1908年、p73。

2. 作中の政治的な要素の強化：愛国主義と反侵略の精神

韓国語版『鉄世界』は科学的要素を弱化させているため、作中のほかの要素を重要視しているのではないかと考えられる。そこで、他の視点から、特に『鉄世界』の政治小説的な側面について検討してみることにする。

『鉄世界』の原作（1879 年）は、普仏戦争（1870～1871、ドイツ諸邦もプロイセン側に立って参戦したため「独仏戦争」とも呼ばれる）後、ベルヌがフランスとドイツ間の激しい民族対立の状況のもとで書いた小説である。敗戦したフランスが東部の領土アルザス地域をドイツに割譲し、勝利したドイツはヨーロッパの覇権を目指して邁進していく。ベルヌの重要な創作動機は、ドイツの帝国主義を批判し、フランス人の愛国主義的思想を掻き立てることにあつたと言えよう。

『鉄世界』でフランスの民族英雄として描かれる主人公馬克は、ドイツに占領されたアルザス出身の人物である。馬克はアルザスに生まれ、12 歳に孤児となり、遺産を受けて首都パリの学校に入る。そして独仏戦争が勃発し、ドイツ軍がパリに侵入した時、少年の馬克は同窓と友人たちを組織し、義勇兵として戦い、負傷して入院する。出院後、故郷のアルザスが既にドイツに割譲・占領されたことを知って、心痛に耐えない。ドイツ人種の優越性とドイツの覇権を強く主張する化学士忍毗がフランス人の長寿村の附近で鍊鉄村を設立した後、馬克は勇敢に鍊鉄村に潜入し、忍毗が長寿村を滅亡させるため秘かに超大型武器を製造していることを知る。そして馬克は長寿村に入り、ドイツ人の侵攻を防ぐために、フランス人を組織して防衛の強化に身を投じる。馬克という主人公の行動を通して、フランス人の愛国主義の精神、反侵略の精神が宣揚されているのである。このように、『鉄世界』は一種の政治小説として読まれることも可能である。

上述した『鉄世界』の中の政治的内容は、日韓併合（1910 年）前夜の韓国読者に一際注目されやすいものであろう。1905 年乙巳条約（第二次日韓協約）締結後、日本は韓国への支配力の強化を加速させ、韓国は民衆による義兵戦争と知識人たちによる愛国啓蒙運動が挫折しつつ、国権が急速に失われていく状況であつた。このような状況の下、『鉄世界』に出ているアルザスという失われた国土、義勇兵として戦って外敵の侵略を反抗する馬克という英雄に対して、韓国の読者は容易に自国の境遇を連想し、深く共鳴せざるを得なかったのであろう。また、鍊鉄村の武力脅威に曝された長寿村で、その防衛が如何に展開されたのか、民衆の動員、対策の討論、工事の構築など、その過程と方法も具体的に描写されているので、当時韓国の反日運動の現実に啓示するところが多い。当時極度に緊迫した政治的状況の下、『鉄世界』の科学的な要素よりも、作中の政治的な要素のほうが韓国人の関心と重視を受けられやすく、『鉄世界』は科学小説よりも政治小説のほうに受け取られていたと考えられる。

韓国語版『鉄世界』からは訳者李海朝の考え方を窺いにくい、当時李海朝の社会活動と翻訳活動から、彼が主に政治的な意図から『鉄世界』を翻訳したことを推察できる。1907年～1908年、李海朝が愛国啓蒙運動に深く関わっていた時期である。1907年2月、李海朝は梁起鐸らと共に光文社を組織し、日本による経済的隷属化を阻止するための国債報償運動を展開する¹。1907年11月、日本の侵略政策に反抗する大韓自強会の後身である政治団体大韓協会に加入し、その教育部事務長と実務部評議員として活動する。1908年1月には国権回復を目指す教育運動団体の畿湖興学会に加入し、『畿湖興学会月報』の編集者となる。特に注意に値するのは、1908年4月、李海朝はイギリスの植民地支配を反抗してアメリカの独立戦争を指導した英雄人物 George Washington (1732～1799) を描く歴史伝記小説『華盛頓傳』を翻訳出版している²。この訳作は3000部以上発行され、反響も大きかった。そして数ヶ月後の1908年11月、李海朝は『鉄世界』を翻訳出版したのである。

このような社会活動と翻訳活動から、日韓併合（1910年）以前の李海朝は反日的で民族主義的な愛国救国意識を強く持っていたことがわかる。『華盛頓傳』の場合と同様に、彼は主に政治的な意図から、韓国人の愛国主義と反侵略の精神を提唱する意図から、『鉄世界』を翻訳出版したのであろう。この点について、劉哲尚は『韓國 近代小説의 分析과 解釋』（2002年）で、「軍国主義的侵略の属性を示した日帝に対する強い抵抗意識こそは、我が国（韓国）で李海朝がこの小説（『鉄世界』）を翻訳した決定的な理由に見える」³と推測している。

以上の検討からわかるように、近代韓国における『鉄世界』受容の決定的な理由については、愛国主義と反侵略の政治的思想の宣揚という視点から解釈するほうがより妥当であると考えられる。

3. 石版画表紙に潜在する意味：危機感の伝達、救国心の喚起

李海朝の韓国語版『鉄世界』の表紙の写真には深い政治的な意味が潜在しており、注目に値すると考えられる。

¹ 権寧珉著・田尻浩幸訳、『韓国近現代文学事典』、東京：明石書店、2012年、p350。

² 李海朝譯、『화성돈전(華盛頓傳)』、京城：匯東書館、1908年4月（1910年11月16日総督府より発売禁止・没収）。この翻訳作品は、李海朝が日本語版（福山義春『華盛頓』東京博文館1900年）を中国語版（丁錦訳『華盛頓傳』上海文明書局1903年8月）から重訳したものである。

³ 유철상, 『韓國 近代小説의 分析과 解釋』, 서울: 月印圖書出版, 2002年, p218. 原文: 「군국주의적 침략 속성을 드러내는 일제에 대한 강한 저항의식이야말로 우리나라에서 이해조가 이 소설을 번역하게 된 결정적인 이유로 보인다.」

この絵は、中国語版の表紙と本文に見られないものであり、日本語版の表紙の絵とも全く異なっているものである。ということは、日本語版や中国語版から移植したのではなく、韓国人により製作されたものであることは明らかである。

読者に印象深く覚えさせる表紙である。色鮮やかで、非常に人目を引く。伝統的な普通の黒白の木版画ではなく、当時の韓国の斬新な印刷技術で精緻に製作された彩色の石版画であるが、これほどの表紙を製作するのは、韓国開化期の出版界で珍しかったと言えよう。これほどの表紙を作った動機について考えてみる必要があるのではないかとと思われる。



韓国語版『鉄世界』表紙（1908年）

この絵は、長寿村が鍊鉄村の攻撃を受け、村民が慌てて逃げる様子を描いている。ここで注目すべき点は、まずこの絵の内容が作品名と一致していないことである。日本語版の表紙は、書名である「鉄世界」に従って鍊鉄村の大砲が描かれていたが、韓国語版の表紙は、長寿村が近いところに、鍊鉄村が遠いところに描かれている。この構図は書名の「鉄世界」からずれていると言えるが、それは出版者が長寿村を韓国と同一視していることの表れであろう。次に注目すべきなのは、作品の中では鍊鉄村から発射された砲弾は実に長寿村に当たらなかったが、この表紙では砲弾が長寿村に当たって爆発したように描かれている。長寿村の立場に立ち、鍊鉄村から受けている武力威嚇の深刻な危機感を伝えるものに変えられたのである。

韓国語版『鉄世界』が翻訳出版された1908年は日韓併合（1910年）の前夜であり、韓国が日本の韓国支配の強化により亡国の危機に曝されていた時代であった。韓国語版『鉄世界』は、読者が「長寿村＝韓国」「鍊鉄村＝日本」と受け止め、危機感と救国心を喚起することにあつたのである。また、表紙で「科学小説」という角書を付けなかったのには、このような政治的な意図を優先に伝えるためであったと言える。

4. 韓国『鉄世界』の最終的運命：日帝による「禁書」処分

『鉄世界』が政治小説として韓国に受容されたことは、日韓併合後に日帝当局から「禁書」処分を受けたことでも明らかである。

韓国独立運動家・知識人朴殷植（1859～1925）の『韓国痛史』（1915年）の記載によると、日韓併合（1910年）後、日帝統治当局（朝鮮総督府）は朝鮮で厳格な検閲政策を全面的に実施し、『皇城新聞』『大韓毎日申報』などの新聞紙14種を強制的に廃刊させた。さらに韓国人の愛国・独立・自由思想を鼓吹する政治・歴史類の書籍を全国各地で調査・没収し、数十種（総数十万冊）の書籍を「禁書」として発売禁止にし、焼却処分を行ったとされている¹。これら「禁書」は、主に『大韓歴史』『美国独立史』『政治小説瑞士建国誌』『伊太利建国三傑傳』『新小説愛国婦人傳』『愛国精神談』『乙支文徳』『飲氷室自由書』『独立精神』など、政治性の強い書籍が対象であった。

「禁書」のリストには、李海朝の作品3点も含まれている。一点目は歴史伝記小説『華盛頓傳』（1908年訳）で、1910年11月16日に「治安」（妨害）という理由で「禁書」に指定された。二点目は政治小説『自由鐘』（1910年作）で、1913年7月3日に「治安」（妨害）という理由で「禁書」に指定された。三点目は「科学小説」と標榜されていたこの『鉄世界』（1908年訳）で、1913年7月19日に、上記二作品と同様な「治安」（妨害）という理由で「禁書」に指定された²。

日帝統治当局（朝鮮総督府）が『鉄世界』を「禁書」処分した理由は、当然『鉄世界』が「科学小説」であったからではなく、愛国主義と反侵略の精神を内包し、（韓国の）独立の可能性を提示しているような「政治小説」ととらえ、それが植民地の「治安」に妨害すると判定されたからである。また、この「禁書」の処分は『鉄世界』が1913年の時点でも影響が大きかったことを示している。

李海朝の上記の三作品の中で『鉄世界』が一番遅く「禁書処分」を受けたのは、この作品が当初「科学小説」という名目で宣伝されたため、日帝当局がその作中の「危険」な政治思想の存在に気付くのが遅れたのであろう。李海朝は日帝当局の検閲³を避けるため便宜上、『皇城新聞』に登載した広告文で『鉄世界』を科学小説として紹介・宣伝した可

¹ 朴殷植、『韓国痛史』、大邱：達城出版社、1946年版、p268。初版（1915年）は上海で出版された。

² 新東亜編輯室編、『日政下の禁書 33 卷（新東亜 1977 年 1 月號別冊附録）』、서울:東亜日報社、1977 年 1 月、p259。

³ 韓国における日帝当局の検閲は日韓併合（1910 年）以前から始まり、韓国統監府の『新聞紙法』（1907 年）と『出版法』（1909 年）により初期の形態で実施されていた。

能性が高いと思われる。

要するに、韓国語版『鉄世界』は、うわべでは「科学小説」と標榜していたものの、実質的には一種の「政治小説」として訳され、読まれ、最後に「処分」されたのであると考えられる。

『鉄世界』は近代初期の東アジアで三回の重訳が行われたのは、当時の日中韓三国の知識人が科学への関心を共有していたことを反映している。しかし日本・中国・韓国における『鉄世界』の受容は、それぞれの特徴があり、微妙な相違も存在する。日本では『鉄世界』の文学革新上の価値が、中国では『鉄世界』の科学啓蒙上の価値が、韓国では『鉄世界』の政治闘争上の価値が、それぞれ相対的に重要視されていたのである。

第四部 『佳人之奇遇』に見る愛国主義と帝国主義の間

『佳人之奇遇』は、日本明治時代の国権主義政治家柴四朗（1853～1922）の代表作で、明治日本で最も広く読まれた政治小説である。1885年から1897年まで総16巻に分けて刊行された。1898年、『佳人之奇遇』は中国清末の啓蒙思想家梁啓超（1873～1929）により中国語に翻訳され、中国で大きな反響を呼び起こした。しかし、『佳人之奇遇』は近代韓国に受容（翻訳・翻案）されず、評論や紹介さえも殆ど行われなかった。『佳人之奇遇』が中国で重視された状況と韓国で「無視」された状況は、鮮明な対照を成していたのである。『佳人之奇遇』に関する先行研究は、主に日本国文学、日中比較文学の視点から行われてきた。この作品が近代韓国に受容されなかったことについては殆ど検討されていない状況である。本部では、『佳人之奇遇』の近代中国における受容と近代韓国における不受容の様相を詳しく考察していく。

第1章 国権主義の宣揚：柴四朗の政治小説『佳人之奇遇』

第1節 明治の国権主義政治家柴四朗

『佳人之奇遇』は半自伝的な作品である。まず著者柴四朗（1853～1922）の生涯について調査・紹介する必要がある。柴四朗は、日本の国権を強く主張する明治の政治小説家、政治家である。陸軍大将柴五郎（1859～1945）の兄である。

1. 柴四朗の生涯の概観

柴四朗は1853年に生まれ、旧会津藩（福島県）武士の出身である。筆名は東海散士である。幼い頃、日新館（会津藩の藩校）で漢文や兵法などの教育を受けた。少年期（16歳）に会津戦争（1868年）¹に参加し、多くの家族を失った。激憤の柴四朗は、将来「朝敵」の汚名をそそぎ、国家への忠誠を証明しようと決心する。会津戦争の体験は、「柴四朗の愛国主義思想の出発点」²である。

その後、柴四朗は国内各地で英語などの勉学に励み、国家の政治・経済の問題について見解を発表し始める。1877年、政府軍に従軍し、西南戦争（薩摩軍と明治政府軍の内戦）に参加した。

¹ 会津戦争（1868年）は、戊辰戦争の局面の一つであり、薩摩藩・長州藩らを中核とした明治新政府軍と「朝敵」の宣告を受けた会津藩などの徳川旧幕府軍の戦いである。

² 鄭国和、『柴四朗『佳人奇遇』研究』、武漢：武漢大学出版社、2000年、p47。

1879 年 1 月（26 歳）から 1884 年 12 月（31 歳）まで、柴四朗は実業家岩崎弥太郎の支援で六年間アメリカに留学する。サンフランシスコ市の Pacific Business College、ボストン市の Harvard University、フィラデルフィア市の University of Pennsylvania で相次いで政治経済学を勉強し、特に弱肉強食の国際社会の現実を認識した。1885 年、帰国後の柴四朗は政治小説『佳人之奇遇』を発刊して（1897 年完結）世に名を知られる。そして政界に積極的に進出し始める。

1886 年 3 月から 1887 年 6 月まで、農業商務省大臣谷干城（1837～1911）の秘書官として欧米視察に随行する。欧米視察の 15 ヶ月間に、柴四朗一行は香港、スリランカ、エジプト、フランス、ドイツ、トルコ、イタリア、イギリス、アメリカなど世界各地を訪れ、ウラービー（1841～1911、エジプト革命家）、コッシュート（1802～1894、ハンガリー革命家）などの人物も訪問した。西洋列強の繁栄さよりも、各植民地の悲惨な境遇から刺激を受けた。

帰国後（1887 年）、欧米列強との不平等条約の改正の交渉過程に妥協的態度を示した明治政府に不満を持ち、谷干城と共に官を辞す。日本の主権を守るため、条約改正反対運動を主導し、民衆の間で大きな反響を呼び起こした。1888 年、『大阪毎日新聞』の主筆となる。

1892 年以降、日本国権の拡張を主張し、衆議院議員となり（10 回当選している）、立憲革新党を結成し、農商務省次官・外務省参政官を歴任するなど、政治活動が続けていく。1895 年、朝鮮の閔妃暗殺事件に関与して収監されたが、裁判では無罪となった。1922 年、熱海の別荘で死去。

柴四朗の著述は、『佳人之奇遇』（1885～1897）以外に、『東洋之佳人』（1888）、『埃及近世史』（1889）、『日露戦争 羽川六郎』（1903）などがある。

柴四朗は、武士（出身）、軍人（会津戦争・西南戦争に従軍）、留学生（米国に留学・欧米に視察）、小説家（『佳人之奇遇』の作者）、小説の主人公（『佳人之奇遇』の主人公「東海散士」）、ジャーナリスト（『大阪毎日新聞』主筆）、政治家（国会議員・役人）など、多様な身分と体験を持ち、明治の伝奇的な人物であると言える。

2. 柴四朗の思想：「愛国」、「憂国」、「国権」

いうまでもなく、柴四朗は情熱な愛国者である。彼の「愛国」の思想の特徴を捉える際、「憂国」と「国権」は二つの重要なキーワードであると考えられる。

柴四朗は「憂国」の愛国者で、19 世紀後半、弱肉強食の国際社会の中の日本について強く憂慮していた。西洋列強に開国を強いられたところの日本が亡国の危機に置かれ、他国のように西洋の植民地となってしまう危険性をいつも意識し、またその危機感を民衆に伝えようと尽力したのである。明治維新による日本の国力の増強にも関わらず、このよう

な憂国の意識は始終変わらなかった。柴四朗の政治小説では、このような憂国の情緒が作中の隅々に溢れている。

明治初期の日本では、(国内の) 人権・民権を優先視する「民権論」と(対外の) 国権・主権を優先視する「国権論」の論争があった。柴四朗は、民権よりも国権のほうを重んじる後者の国権論者であった。彼の国権論は、初期の国権守衛論から後期の国権拡張論へと変遷したが、日本の国権(権利・利益)を至上にするという意識を一貫して持っていた。この意味で、柴四朗は明治の国権主義政治家であると言える。

第2節 柴四朗の国権小説『佳人之奇遇』

柴四朗は多様な身分を持っていたが、その中心となるのはやはり政治家であり、小説家は彼の副業であった。柴四朗は数種の政治小説を出しているが、最も知られている代表作は、彼が「東海散士」の筆名で発表した『佳人之奇遇』である。

1. 『佳人之奇遇』の内容：憂国の志士「東海散士」の政治活動

『佳人之奇遇』は、全8編16巻で構成され、1885年から1897年まで、前後13年にわたって東京の博文堂より刊行された。華麗な漢文調の文章で書かれている。『佳人之奇遇』は半自伝的な作品であり、作者の柴四朗は主人公の「東海散士」に化身し、米国留学、欧米視察、帰国後の政治活動などの経歴に虚構を加えて叙述し、19世紀の世界諸国の歴史と政局に深く関わってストーリーを展開していく。世界を舞台とする日本の最初の小説であると言われる¹。

『佳人之奇遇』各巻の刊行年月及び内容の概要は、下記のようにになっている。

初編・巻一(1885年10月28日刊行)：米国留学中の日本青年東海散士は、フィラデルフィアの独立閣で、幽蘭(スペイン革命の亡命者)と紅蓮(アイルランド独立運動の亡命者)二佳人と邂逅する。三人が山荘で会談し、各自の経歴を語る。散士は、会津戦争で家族を失った過去を話す。散士と幽蘭は慕情を抱く。

初編・巻二(1885年10月28日刊行)：范卿(中国反清復明運動の亡命者)が会談に参加する。逮捕された父を救出するため、幽蘭は散士を残し、紅蓮、范卿と共にスペインに渡る。散士は三人と離散する。

二編・巻三(1886年1月13日刊行)：散士はフランクリンの墓の前でハンガリー革命者コッシュュートと偶然に会い、ポーランド滅亡の歴史を聞く。のちに散士はパルネル女史

¹ 飛鳥井雅道、「政治小説と現代文学」、『思想の科学』、1959年6月、p67。

(アイルランド独立運動の指導者)を訪問し、イギリスの支配下のアイルランドの情勢を聞く。

二編・巻四(1886年1月13日刊行):パルネル女史病死の記事を見て、散士はその墓参りにいく。その場で、散士は欧州から米国に戻った紅蓮と再会する。

三編・巻五(1886年8月3日刊行):紅蓮はそれまでの経過を語る。紅蓮一行は、スペインで幽蘭の父を救い出し、ガンペッタ(フランス首相)をたよってフランスに船出するが、船が難破し、紅蓮のみが助かったという。紅蓮と散士は米国再会後にいい仲になる。

三編・巻六(1887年2月4日刊行):幽蘭父女は船の難破で救われてエジプトに漂着し、紅蓮・范卿と別れる。幽蘭父女は、アラビイが中心となって起きたエジプトの反英の挙兵に加わる。

四編・巻七(1887年12月24日刊行):マリ(ハンガリー革命者コッシュートの娘)は散士を訪ね、エジプトの惨状、エジプトでの幽蘭父女の活動の詳細を語る。

四編・巻八(1888年3月24日刊行):マリは、さらに父の事跡とハンガリーの独立運動の歴史を語る。ロシアを警戒することを話す。

五編・巻九(1891年11月24日刊行):マリは父コッシュートを助けにヨーロッパへ、紅蓮は幽蘭を助けにエジプトへ旅立つ(後にエジプトに行けず、フランスに行く)。アメリカに残った散士は、2年後に父の死を聞知し、留学を終えて帰国する。

五編・巻十(1891年12月9日刊行):帰国後の散士は、当時の日清両国を緊張状態に置かせた朝鮮問題に注目する。散士は、甲申政変(1884年12月)が失敗して日本に亡命した朝鮮の志士金玉均を訪問する。散士は、范卿から手紙を受ける。

六編・巻十一(1897年7月30日刊行):散士は欧米視察に出発する。香港に着き、意外に范卿と会う。范卿は、船の難破(巻五)後にフランス軍艦に救われ、ベトナムに着いて清仏戦争(1884年)に関わった経過を話す。

六編・巻十二(1897年7月30日刊行):散士は、セイロン島(スリランカ)に流放されたエジプトの敗将アラビイを訪問し、エジプトの惨状を聞く。散士はエジプトに赴き、カイロで4年ぶりに幽閉中の幽蘭と再会するが、幽蘭を救出しないままヨーロッパに行く。

七編・巻十三(1897年9月14日刊行):散士は、トルコに至り、トルコの政情とロシアの南進の状況を知る。

七編・巻十四(1897年9月14日刊行):散士は、イタリアでコッシュートに会い、日本の条約改正の方途について話を聞く。

八編・巻十五(1897年10月19日刊行):散士は、アメリカへの船で意外に紅蓮と会い、放浪の苦勞を聞く。散士は米国から帰国する。帰国後、散士は条約改正反対運動に参加し、条約改正を中止させる。散士は中国福建の朱鉄の来訪を受け、范卿の消息を聞く。

八編・巻十六(1897年10月19日刊行):朝鮮の志士金玉均は上海で暗殺される。東学

党の乱が起こる。日清戦争が勃発する。戦争後、三国干渉が行われる。散士は朝鮮に赴き、閔妃事件に連坐する。広島獄中の散士は、朝鮮の同志（処刑された李豊栄と暗殺された金玉均）の夢を見る場面で、物語が終わる。

柴四郎は、国権主義的な政治活動を展開しながら、彼の政治主張を広く宣伝しようとする意図で『佳人之奇遇』各巻の執筆・刊行を進めたのである。作中の主人公「東海散士」の行動と著者柴四郎の生涯とは重なる部分が多く見られる。『佳人之奇遇』は、柴四郎の生涯の小説化であると言えるのである。『佳人之奇遇』には、少年期の会津戦争参加（1868年）、青年期の米国留学（1879年～1884年）、欧米視察（1886年～1887年）、条約改正反対運動参加（1887年）、日清戦争前後の朝鮮問題経営（1894年～1895年）などの柴四郎の経歴が反映されている。この小説は「東海散士」の政治活動を通じた柴四郎の政治思想の表明であり、幽蘭・紅蓮らの西洋の佳人との交情は作品の副次的内容として加えられたものであると言える。

2. 『佳人之奇遇』の主題：国権守衛から伸張へ、「愛国主義から帝国主義へ」

『佳人之奇遇』の刊行期間（1885年～1897年）は長く、初編から完結までの間に日本国内外の情勢も急速に変化していった。『佳人之奇遇』各巻の内容には、時局の変化に対する作者の政治的観点の変遷が窺われる。

『佳人之奇遇』の巻一から巻十までは日清戦争（1894年勃発）以前に出版され、巻十一から巻十六までは日清戦争（1895年日本勝利）以後に出版された。作品の前半部（巻一～巻九）では、作者は「弱国」としての日本の立場から、西洋列強の悪行を批判し、植民地支配の下での弱国の惨状を同情し、弱国の独立運動を理解・支持し、日本国権の守衛を強調する。しかし、作品の後半部（巻十～巻十六）では、作者は「強国」としての日本の立場に立ち、帝国主義的思惟を受け入れ、日本国権の（海外への）伸張を強調するようになる。前半部では日本国権の守衛が主張されるが、後半部では日本国権の伸張の意識が強められていくのである。この点について、鄭国和は「小説（『佳人之奇遇』）に浸透した作者の政治的理想は愛国主義から帝国主義へ移行する変遷の過程を経た」¹と指摘している。柴四郎と「東海散士」は、前半部における（西洋）帝国主義の批判者から、後半部における（日本）帝国主義の主張者へと変化したと言える。

『佳人之奇遇』の帝国主義的傾向は、日清戦争勃発3年前（1891年12月）に刊行された巻十で初めて明確に現れた。巻十では、留学を終えて帰国した散士は、日本が清国と朝鮮を攻撃する方策を詳しく論じる范卿の手紙を受ける。巻十以降、柴四郎は常に作中の人

¹ 鄭国和、『柴四郎『佳入奇遇』研究』、武漢：武漢大学出版社、2000年、p127。

原文：「作者浸透在小説中的政治理想，也經歷了一個由愛國主義向帝國主義過渡的演變過程。」

物の口を借りて、日本国権の拡張を主張している。巻十六では、柴四朗の化身「東海散士」は直接朝鮮に渡り閔妃暗殺事件に関与するのであるが、これは帝国主義的傾向がより露骨に現れる。

『佳人之奇遇』は一般的に政治小説に分類される。また、政治小説は作中の政治的傾向の相違によって民権小説、国権小説など細分化されることができる。『佳人之奇遇』の場合、その性格は、(日本の)国権の守衛と伸張、(日本人の)愛国主義の精神と帝国主義の思想を宣揚する国権小説であると捉えてよいのであろう。

第3節 明治政治小説の代表作としての成立

周知の如く、『佳人之奇遇』は「明治政治小説の代表作」として位置付けられてきた。本節では、『佳人之奇遇』が明治中後期の日本社会で流通する状況、呼び起こした反響について検討する。

1. 明治日本における『佳人之奇遇』の伝播：初版・再版・通俗版

『佳人之奇遇』は1885年の初編から1897年の完結まで、16巻にも分け、前後13年間にもわたって、巻を追って刊行された。また、初編(巻一・巻二)は刊行されて5ヶ月後(1886年3月1日)に、二編(巻三・巻四)は刊行されてから3ヶ月後(1886年4月26日)に再版されている。このような再版状況は、『佳人之奇遇』に対する明治中後期の日本の読者たちの支持の高さを物語っている。

『佳人之奇遇』は、漢文調の文章で書かれており、当時の庶民、女性と児童にとって難解だったようである。このような状況の下、平易な通俗文体に書き直された「通俗版」が現れた。1887年2月、東京同盟書房から刊行された服部撫松の『通俗 佳人之奇遇』はそれである(後に続編も出版)。さらに、1887年3月、石心鉄腸子の『通俗 佳人之奇遇』は京阪同盟書肆から刊行されている。また、実現には至らなかったが、柴四朗自身もテキストの通俗化を図り、『倭文佳人之奇遇』の出版を計画したようである¹。

『佳人之奇遇』の明治日本における流通の広さを示す逸話(詳細は後述する)がある。1898年、戊戌変法失敗後の中国の梁啓超は、日本へ亡命の船に乗る。その船で、日本人の船長が自分の『佳人之奇遇』を梁啓超に渡した(中国で有名な逸話となる)。梁啓超が『佳人之奇遇』を翻訳するきっかけとなる出来事であるのだが、『佳人之奇遇』は、当時一船長が手にするほど、人気の高い読み物だったのである。

¹ 「佳人之奇遇三周年祝意大割引広告」、『東雲新聞』、1889年7月1日。

2. 明治日本における『佳人之奇遇』の反響：「洛陽紙價忽騰貴」の盛況

『佳人之奇遇』刊行後の状況については、同時代の『民間人物論：壮士志士』（1888 年）の「柴四郎氏」の一節につきのような記述がある。

「[柴四郎が] 一旦返朝するや直ちに一書を著し之を世に問ふ題して佳人の奇遇と云ふ其文章や婉麗流暢其結構や新奇妙案故に其書一度世に出るや洛陽紙價忽騰貴し人其書を見ざるを以つて恥となすに至り氏の名是に於て大に世に重せられたり」¹

『佳人之奇遇』は、「人其書を見ざるを以つて恥となすに至」るほどのベストセラーであった。「洛陽紙價忽騰貴」という表現は誇張に見えるが、事実であった。『佳人之奇遇』の発行部数は数十万部に達したと言われる²。

また、作家徳富蘆花（1868～1927）は、少年期の恋愛を描く自伝的小説『黒い眼と茶色の目』で、明治時代の『佳人之奇遇』の流行ぶりについてつぎのように回顧をしている。

其頃佳人之奇遇と云ふ小説が出て、字を読む程の者は皆読んだ。……佳人之奇遇の華麗な文章は協志社にも盛んに愛読され、中にも数多い典麗な漢詩は大抵諳記された。敬二〔小説の主人公〕が同級で學課は兎に角詩吟は全校第一と許された薄痘瘡の尾形吟次郎君が、就寝時近い霜夜の月に、寮と寮との間の砂利道を「我所思在故山、月横大空千里明、風揺金波遠有聲、夜蒼々望兮茫々、船頭何堪今夜情」と金石相撃つ鏗鏘の聲張り上げて朗々と吟ずる時は、寮々の硝子窓毎に射すランプの光も静に豫習の黙読に餘念のない三百の青年ぶるぶると身震ひして引き入れられるように聞き惚れるのであつた。木版片假名まじりの字の大きい藍色の表紙をつけた和綴の其本は、協志社でも其處此處のテエブルにのつて居た。³

「其頃」とは、1886 年前後、18 歳の徳富蘆花が京都の協志社（同志社）で勉強していた時期である。『佳人之奇遇』について、徳富蘆花は「字を読む程の者は皆読んだ」、学校の「其處此處のテエブルにのつて居た」と覚えている。特に徳富蘆花の印象に残ったのは、学友が窓外で朗吟した『佳人之奇遇』の中の詩句に、「豫習の黙読に餘念のない三百の青年（学生）ぶるぶると身震ひして引き入れられるように聞き惚れる」場面である。壮観な光景であると言わざるを得ない。『佳人之奇遇』が明治の青年たちに広く愛読され、明治の青年たちが『佳人之奇遇』に深く魅了されたことは、この記述からよくわかる。

¹ 佐倉政蔵著、「柴四郎氏」、『民間人物論：壮士志士』、能勢土岐太郎、1888 年、p55。

² 鈴木亮、『日本からの世界史』、東京：大月書店、1994 年、p27。

³ 徳富蘆花、『黒い眼と茶色の目』、『蘆花全集』第 10 巻、蘆花全集刊行会、1930 年、p92～93。

『佳人之奇遇』の反響は巻を追って高まっていった。作者柴四朗は巻九（1891 年）の序文で「天涯地角ノ士、詩ヲ寄セ文を投ジ、後篇ヲ促サルノ書、机上堆ヲ為スニ至ル」¹と自叙している。多くの読者が『佳人之奇遇』の続編の刊行を待てないほど心待ちにしていたのである。

要するに、『佳人之奇遇』は明治中後期の日本で広くて長く影響を持ち続けた。「婉麗流暢」の漢文体、「新奇妙案」の内容、愛国の激情などは、日本読者たちの心を掴んだ重要な要素だと言えよう。当時の日本では多数の政治小説が出現したが、「最も広く読まれ、又最も大きな影響を社会に与えたものは、言うまでもなく、東海散士の『佳人之奇遇』」²である。

第 2 章 啓蒙の新手段：梁啓超の中国語訳『佳人奇遇』及び反響

本章は、近代の中国で『佳人之奇遇』の翻訳受容がどのように行われたのかについて考察する。

第 1 節 梁啓超：清末の啓蒙思想家

『佳人之奇遇』の中国語版の訳者梁啓超（1873～1929）は、清末民初期中国の啓蒙思想家、改良派政治家、ジャーナリスト、文学者、翻訳家、学者である。1898 年に日本に亡命し、日本に長年滞在した、日本との関わりの深い人物でもある。

1. 日本亡命（『佳人之奇遇』翻訳）以前の梁啓超

1873 年、梁啓超は広東省新会県に生まれた。幼時から 1890 年まで、梁啓超は主に伝統的書院で旧学を修めた。字は卓如、号は任公、別号は飲冰室主人。幼時、伝統的教育を受け、「神童」と呼ばれた。1882 年（9 歳）、科挙受験を開始する。同年（9 歳）、県試に及第（第 1 位）、院試にも及第（第 1 位）。1884 年（11 歳）、府試に及第し（第 1 位）、秀才となる。1887 年（14 歳）、広東屈指の書院であった学海堂に入学する。極めて成績優秀で、1889 年（16 歳）、郷試に及第し（第 8 位）、挙人となる。1890 年（17 歳）、上京して会試に参加するが落第する。同年、啓蒙思想家康有為（1858～1927）と会い、旧学から離れる

¹ 柴四朗、『佳人之奇遇』巻九、東京：博文堂、1891 年 11 月、自序。

² 盧守助、「梁啓超訳『佳人之奇遇』及びその周辺」、『環日本海研究年報』（20）、2013 年、p2。

ことを決意する。

1891 年（18 歳）、梁啓超は康有為が広州で創立した万木草堂に入り、新学（西学）の勉強、特に漢訳西書の研修に没頭する。以後、康有為の弟子として師の著書を積極的に宣伝する。1890 年から 1895 年までの間は、梁啓超が康師の学説と漢訳の西書を通して「西学新知」を吸収する時期であった。

1895 年から 1898 年まで、梁啓超は維新変法運動に身を投じた。1895 年（22 歳）、梁啓超は会試のため北京を訪れる。4～5 月、日清戦争の敗北による馬関条約（下関条約）の内容を知り、康有為と共に挙人たちを集結させて講和拒否の上書を行う（「公車上書」と称される）¹。同年 8 月、康有為と共に北京で維新思想を宣伝する『中外紀聞』を創刊し、主筆となる。1896 年（23 歳）、上海に移り、活動を続ける。同年 8 月、上海で創刊された『時務報』の主筆に就任し、「変法通議」などの論説を多数発表する。10 月、『西学書目表』を完成する。年末、マカオで『知新報』の創刊に協力する。1897 年（24 歳）10 月、上海で大同訳書局を創立し、「以東文為主」（日本語の書を主として）、「以政学為先」（政治学の書を先にして）²、維新運動に有用な日本書の翻訳を提唱する。11 月、長沙に移り、黄遵憲（1848～1905）の依頼で時務学堂の中文総教習に就任し、革命思想を密かに宣伝する。1898 年（25 歳）、康有為の活動を助けに上京する。4 月、北京で康有為と共に「保国・保種・保教」を宗旨とする組織「保国会」を創立し、変法の世論を広める。5 月、科举制度変革の上書を行う。6 月、光緒帝は「明定国是詔」を公布し、立憲君主制を目指す「戊戌変法」という変革運動（「百日維新」とも呼ばれる）は開始され、梁啓超ら維新派は積極的に変法に加わる。9 月、西太后ら保守派によるクーデタが発生し、戊戌変法は失敗に終わる。同月末、梁啓超は日本へ亡命する。この日本亡命の船で『佳人之奇遇』を手にするのである。

2. 日本滞在期（『佳人之奇遇』翻訳以後）の梁啓超

1898 年から 1912 年までの 14 年間の日本滞在は、梁啓超にとって非常に重要な時期であった。日本滞在期における梁啓超の主な活動は、次のようである。

1898 年（25 歳）10 月、梁啓超は東京に着く。12 月、横浜で『清議報』を創刊し、中国語訳『佳人奇遇』を連載し始める。1899 年（26 歳）、『和文漢読法』を著する。同年 8 月、東京高等大同学校を創立する。9 月、神戸同文学校を創立する。12 月、康有為の命令でハワイに赴く。1900 年（27 歳）8 月、一時帰国して自立軍の反清の挙兵を指揮したが、失

¹ 梁啓超の公車上書の経歴と柴四朗の条約改正反対運動の経歴は、本国と外国（前者は日本、後者は西洋列強）の不平等の条約を反対する運動を主導した点で似ている。

² 梁啓超、「大同譯書局叙例」、『時務報』、1897 年。梁啓超、「大同譯書局叙例」、『梁啓超全集 1』、北京：北京出版社、1999 年、p132。

敗する。10月、オーストラリアを訪問し、翌年（1901年）5月、日本に戻る。同年の夏、上海で広智書局を創立する。12月、『清議報』停刊。1902年（29歳）2月、横浜で『新民叢刊』を創立し「新民説」などの論説を発表する。11月、東京で『新小説』を創刊し、政治小説『新中国未来記』を同紙に発表し、「小説界革命」を提唱する。1903年（30歳）2月、共和政体を考察するためアメリカを訪問する。12月、返日し、立憲君主制を主張する。

1904年（31歳）、一時帰国して上海で『時報』を創刊する。1905年（32歳）～1906年（33歳）、立憲と革命の問題を巡って、東京で創刊された中国同盟会機関紙『民報』と論争を展開する。1907年（34歳）、東京で政聞社を創立し、その機関紙『政論』を上海で創刊し、立憲の実行を提唱する。1910年（37歳）、上海で『国風報』を創刊する。1911年、辛亥革命が勃発する。1912年（39歳）10月、梁啓超は帰国し、天津に定住する。以後、1910年代は中華民国の政治界で活動し、1920年代は学術研究に専念する。

第2節 梁啓超の中国語訳『佳人奇遇』

1. 梁啓超と『佳人之奇遇』の「奇遇」：啓蒙新手段の発見

日清戦争の敗戦（1895年）以後、梁啓超の師である康有為は、日本の書籍の情報を網羅する『日本書目志』の編集を進めた。1897年に完成、1898年春前に上海の大同訳書局から刊行された¹。『日本書目志』は、分野別に15巻に分けられているが、その第14巻「小説門」には、『佳人之奇遇』の書誌情報が「佳人之奇遇 十冊 東海散士著 三圓」²と収録されている。簡単な書誌情報に過ぎないが、『佳人之奇遇』が初めて中国人に紹介された重要な記録であると言える。

『日本書目志』が完成された数ヶ月後、1897年11月15日、梁啓超は「読『日本書目志』書後」という文を上海の『時務報』に発表した³。日本亡命（1898年）以前の梁啓超は、すでに康師の『日本書目志』を通して『佳人之奇遇』の存在を知っていた可能性があると思われる。

梁啓超は『佳人之奇遇』を手にしたのは、翌年のことである。1898年9月26日、梁啓超は日本の軍艦「大島」に乗り、日本へ亡命する。この軍艦で、日本人の艦長は、心遣りの読み物として『佳人之奇遇』を梁啓超に渡したのである。

梁啓超と共に大島艦に乗って亡命した王照（1859～1933）は、「任公先生大事記」でつ

¹ 沈国威、「康有為及其『日本書目志』」、『或問』51（5）、2003年、p51。沈氏の考証によると、『日本書目志』の刊行時間は1897年夏から1898年春までの間である。

² 康有為撰、姜義華編校、『康有為全集（三）』、上海：上海古籍出版社、1992年、p1160。

³ 梁啓超、「読『日本書目志』書後」、『時務報』、1897年11月15日。

ぎのように記載している。梁啓超と柴四朗の『佳人之奇遇』の「奇遇」であると言える。

「戊戌八月，先生脱險赴日本，在彼国軍艦中，一身以外無文物，艦長以『佳人之奇遇』一書俾先生遣悶。先生隨閱隨譯，其後登諸『清議報』，翻譯之始，即在艦中也。」¹

拙訳：「戊戌八月（即ち 1898 年 9 月）、先生（梁啓超）は危険を脱し、日本に赴いた。（梁啓超は）日本軍艦の中で一身以外に何も持っていなかったため、艦長は憂さを晴らせるよう、『佳人之奇遇』の一書を先生に贈った。先生（梁啓超）は読みながら翻訳し、のちに『清議報』に登載した。こうして軍艦に乗った時から、翻訳が始まった。」

『飲冰室合集』（梁啓超作品集）の編集者、梁啓超の友人林志鈞（1878～1961）は、『飲冰室專集之八十八：佳人奇遇』巻末の「編者識」でほぼ同様の記載をしている。

「任公先生戊戌出亡，東渡日本，舟中譯此自遣。」²

拙訳：「任公（梁啓超）先生は 1898 年、亡命するため東の日本へ渡航し、その艦中でこの小説を翻訳し、自ら憂さを晴らした。」

梁啓超自身は、1900 年に書いた『紀事二十四首』の一つで「曩譯佳人奇遇成」³と言い、訳者を自認している。

このように、梁啓超は日本へ亡命する軍艦で初めて『佳人之奇遇』を読み、また中国語への翻訳の作業も開始した。約 3 週間後の 1898 年 10 月 16 日、梁啓超は東京に到着した。その後、梁啓超は、同年 12 月 23 日、横浜で旬刊『清議報』を創刊し、その創刊号に彼の中国語訳『政治小説 佳人奇遇』巻一を掲載した。梁啓超の中国語訳『佳人奇遇』は、1898 年 12 月 23 日から 1900 年 2 月 10 日まで、『清議報』に連載された。1901 年、上海の広智書局から刊行された。

日本亡命の艦中における「奇遇」から『清議報』における翻訳連載開始に至るまでは、僅か三ヶ月間、1898 年頃の梁啓超の日本語能力がまだ高くなかったであろうという点も加えて考えると、『佳人之奇遇』の中国語への訳出は驚くほど速かったと言える。『佳人之奇遇』がこれほど速く中国語に訳出されることを可能とさせた要因は、原著が漢文体（漢文調の文章）で書かれていたことが第一に挙げられる。柴四朗作『佳人之奇遇』と梁啓超訳『佳人奇遇』の初頭部分を対照してみよう。

¹ 丁文江・趙豊田編、『梁啓超年譜長編』、上海：上海人民出版社、1983 年、p158。

² 梁啓超著、林志鈞編、『飲冰室合集』第 11 冊（飲冰室專集之八十八～九十五）、北京：中華書局、1988 年版、p220。

³ 梁啓超、『紀事二十四首』、『清議報』第 64 冊、1900 年 11 月 22 日。

原文（柴四朗）：「東海散士一日費府ノ独立閣ニ登リ仰テ自由ノ破鐘〔注略〕ヲ觀俯テ獨立ノ遺文ヲ讀ミ當時米人ノ義旗ヲ挙テ英王ノ虐政ヲ除キ卒ニ能ク獨立自主ノ民タルノ高風ヲ追懷シ俯仰感慨ニ堪ヘス愾然トシテ窓ニ倚テ眺臨ス會ニ姫アリ階ヲ繞テ登リ来ル……」¹

訳文（梁啓超）：「東海散士一日登費府獨立閣，仰觀自由之破鐘〔注略〕，俯讀獨立之遺文，愾然懷想，當時米人舉義旗，除英苛法，卒能獨立為自主之民。倚窓眺臨，追懷高風，俯仰感慨。俄見二妃繞階來登……」²

二つの文章を並べてみると、原著の漢文的要素は梁啓超の翻訳作業に大きな便利を提供したと想像できる。中国人は日本語が分からなくても、『佳人之奇遇』原文の大意を把握できたのである。また日本語の知識をある程度知れば、さらに原文を理解し易くなるのは当然であった。梁啓超が1899年4月の「論学日本文之益」³という論説で「日本文」の特徴を詳しく述べていたこと、1899年夏に中国人の日本語学習のための教科書『和文漢読法』⁴を完成したことなどは、彼が日本に着いてからすぐ「日本文」の習得に努め、読解能力を高めることに努力していたことを示している。梁啓超は『佳人之奇遇』を、民衆を啓蒙する新しく有効な手段として翻訳に力を注いだのである。

1898年12月23日『清議報』の創刊号に、梁啓超は中国語訳『佳人奇遇』を連載し始めると同時に、「譯印政治小説序」（後に『佳人奇遇』単行本の序言となる）という著名な論説も掲載している。「譯印政治小説序」の次のページから、『佳人奇遇』の連載が始まった。この文の中で、梁啓超はつぎのように述べている。

「政治小説之体，自泰西人始也。……昔欧洲各国变革之始，其魁儒碩学、仁人志士，往往以其身之所經歷及胸中所懷政治之議論，一寄之於小説。……往往每一書出，而全国之議論為之一变。彼美、英、德、法、奥、意、日本各国政界之日進，則政治小説為功最高焉。英名士某君曰：小説為国民之魂。豈不然哉！豈不然哉！今特採外国名儒所撰述，而有関切於今日中国時局者，次第譯之，附於報末。愛國之士，或庶覽焉。」⁵

この文は、中国近代文学における政治小説の最初の論説と言える重要な資料である。梁啓超は『佳人之奇遇』をきっかけに「政治小説」というものについて深い関心を持つようになり、西洋列強と日本の政治の進歩には政治小説が最高の貢献をしたと称賛したうえで、「外国の名儒」が著し特に「今日中国時局」にも関わる「政治小説」を訳出していくこと

¹ 柴四朗作、『佳人之奇遇』初編・卷一、東京：博文館、1885年、p1。

² 梁啓超訳、『政治小説 佳人奇遇』卷一、『清議報』第1冊、1898年12月23日。

³ 梁啓超、「論学日本文之益」、『清議報』第10冊、1899年4月1日。

⁴ 梁啓超、「問答」欄、『新民叢報』、1902年9月。原文：「真通東文，固非易事。至讀東書能自索解，則殊不難。鄙人初徂東時，從同學羅君學讀東籍，羅君為簡法相指授。其後統有自故鄉來者，復以此相質，則為草『和文漢讀法』以語之，此己亥〔1899年〕夏五六月間事也。」

⁵ 梁啓超、「譯印政治小説序」、『清議報』第1冊、1898年12月23日。

にしたというのである。柴四朗の『佳人之奇遇』は、このような方針には最適な作品として選ばれたのである。

続いて、梁啓超は1899年9月5日に『清議報』に載せた「飲冰室自由書（続）」の一節（後に「伝播文明三利器」と名付けられる）で、つぎのように政治小説をめぐる思考の進化を語っている。

「於日本維新運動有大功者、小説亦其一端也。明治十五六年間、民権自由之声遍滿國中、於是西洋小説中言法国、羅馬革命二事者陸續訳出。……翻訳既盛、而政治小説著述亦潮起。如柴東海之『佳人奇遇』、末広鉄腸之『花間鶯』、『雪中梅』、藤田鳴鶴之『文明東漸史』、矢野龍溪之『経国美談』〔注略〕等、著書之人皆一時之大政論家、寄託書中之人物、以写自己之政見、固不得専以小説目之。而其浸潤於国民脳質、最有効力者、則『経国美談』、『佳人奇遇』兩書為最云。」¹

ここで、梁啓超は日本政治小説の発展の歴史及び明治維新における役割を考察し、「文明を伝播する利器」として政治小説を認識した。特に『佳人之奇遇』について、梁啓超は『経国美談』と並び、「国民の脳に浸潤するに最も効力のある」政治小説であると評価している。

また、梁啓超は1902年『清議報全編』の巻首文「本編之十大特色」で、『佳人之奇遇』（と『経国美談』）についてつぎのように述べている。

「本編附有日本政治小説兩大部、以稗官之体、写愛国之思。二書皆為日本文界中独歩之作、吾中国向所未有也。令人一読、不忍釈手、而希賢愛国之念油然而生。」²

ここからわかるように、梁啓超は『佳人之奇遇』のような政治小説が中国未曾有のものだと目捷く意識した。また、梁啓超は「愛国之思」「愛国之念」を培う作品として『佳人之奇遇』を認識していたことがわかる。

『佳人之奇遇』と「奇遇」する前の梁啓超は、中国の政治の変革と民衆の啓蒙のため積極的に奔走したが、文学・小説という手段を動員することはなかった。しかし、以上で述べてきたように、戊戌変法の失敗を体験した梁啓超は、『佳人之奇遇』を手にして、「政治小説」という新しい手段を発見したのである。以後、梁啓超は政治小説の翻訳と創作を積極的に提唱していく。『佳人之奇遇』の翻訳と同時に、梁啓超は日本の政治小説というジャンルも全面的に受け入れ、中国に導入したのである。

¹ 梁啓超、「飲冰室自由書（続）」、『清議報』第26冊、1899年9月5日。

梁啓超、「伝播文明三利器」、『飲冰室文集点校』第4集、昆明：雲南教育出版社、2001年、p2276。

² 梁啓超、「本編之十大特色」、『清議報全編』巻首、横浜：新民社、1902年。

2. 批判的な受容：梁啓超訳『佳人奇遇』における改削と加筆

梁啓超訳『佳人奇遇』は、原著（16巻）の巻数と一致した16回で構成される。各回の内容は、それぞれ原著の各巻に対応している。各回に小題目が付けられていない。『清議報』に連載されたのは第1回から第12回の初頭までであり、広智書局から刊行された際は全16回を揃えた。

梁啓超の訳文は、中国の読者に広く愛読された、非常に華麗で流暢な文章である。梁の訳文について、柳田泉氏は「亡命客梁啓超が『清議報』紙上で一足先に漢訳を公にしたのを見ると、実に立派な、原文以上というべき名文になっている」¹と高く評価している。確かに、漢文を基準にして原作と比較すれば、梁啓超の訳文は一段上だと言える。

しかし、梁啓超の訳文は、全体的に原著の内容（大意）が訳出されているが、原著に忠実な翻訳であるとは言いきれない。まず、梁啓超はまだ日本語の文章を自由に読めない状況のもとで『佳人之奇遇』を翻訳し始めたため、不可避なことであるが、彼の訳文の中には、誤訳した箇所が見られる²。それから、梁啓超訳『佳人奇遇』では、原著の各巻の巻首の序文、巻中の批文、巻末の跋、原著中の和歌などが削除されている。一方、原著になかった梁啓超の自らの文章が挿入されるところが見られる。また、原著と異なるように改作が行われた部分も存在する。

その中、梁啓超が意図的に、つまり政治的な意図を持って、改削や加筆を行った部分に重点を置いて検討する必要があると考えられる。重要な改変は、反清（清朝政権反抗）思想、東海散士の中国分裂論、日本の東洋拡張論、日清戦争の性質論など中国に関わる部分になされているのである。

①反清の思想に関する削除と改作

原著『佳人之奇遇』では、四人の主役の一人として、范卿という中国の志士が登場している。民族主義に燃えた中国の反清復明運動の亡命者である。この人物の経歴と言論を通して、反清（清朝政権反対・打倒）の思想が濃厚に表されている。しかし、梁訳『佳人奇遇』では、范卿の最初の登場が遅らされているのみならず、范卿が出るたびに内容の省略や削除が続けられている。范卿の登場は、梁訳『佳人奇遇』で大いに薄められているの

¹ 柳田泉、『政治小説研究』（上）、東京：春秋社、1967年、p381。

² 許常安、『清議報』掲載の『佳人奇遇』について-2-特にその誤訳-1-、『斯文』（67）、1971年。
許常安、『清議報』掲載の『佳人奇遇』について-3-特にその誤訳-2-、『斯文』（75・76）、1974年。
許常安、『清議報』掲載の『佳人奇遇』について-4-特にその誤訳-3-、『斯文』（78）、1975年。
許常安、『清議報』掲載の『佳人奇遇』について-5-特にその誤訳-4-、『斯文』（79）、1975年。

である。

原著と訳作における范卿の最初の登場場面を対照してみよう。

原文（柴四朗）：「僕姓ハ鼎、名ハ泰璉、范卿ハ其字ナリ。明ノ名臣瞿式耜ガ将、鼎璉ノ後ナリ。……満清、薙髮ノ令ヲ下シ、中華ノ文物衣冠尽ク変ジテ夷狄ノ俗ト為リ、満人、乗勝ノ勢ヲ以テ老幼ヲ殺シ、婦女ヲ辱シメ、処士ヲ坑ニシ、書生ヲ謫シ、苛虐暴戾獰虎ヨリモ猛ク。……明ノ遺臣十八人其機已ニ熟スルト察シ、檄ヲ四百余州ニ伝ヘテ清朝ノ罪惡ヲ鳴ラス、明朝ヲ恢復シ、蒼生ノ塗炭ヲ救ヒ、姦臣ヲ誅戮シ弊政ヲ改革セントヲ誓フ。維レ実ニ道光二十八年ナリ。……清兵、勢ニ乗ジ殺戮侵掠至ラザル所ナシ。僕ノ家姉亦囚ニ就ク。……遂ニ敵ノ為メニ殺サル。僕時ニ金陵ニ潜逸シ、以テ復讐ヲ謀ル。」¹

訳文（梁啓超）：「范卿者，支那志士也，憤世嫉俗，遁跡江湖。」²

原文では、范卿の身分・閱歴が詳細に紹介され、「清朝ノ罪惡」も范卿の口で詳しく述べられている。しかし、訳文のほうでは、約 1500 字のその内容がほとんど削除され、「支那志士也，憤世嫉俗，遁跡江湖」と、極簡単に范卿を紹介している。この場面では、原著中の反清の思想が消されているのである。

原著で范卿の述べる反清の思想は、清朝の皇帝を擁護して君主立憲制を目指す政治変革を主張する維新派の立場に反対するものである。この部分の翻訳について、馮自由（1882～1958）が「中国の志士が満清に反抗する一節は康有為の命令で改削させられた」³と記載したように、維新派の指導者康有為が強く介入・干渉していたのである。この時期の梁啓超は、革命・反清・共和の政治思想を持ち始めた頃であるが、頑固な保皇派である師康有為の強い命令に違背することが難しかったと考えられる。また、当時の梁啓超は、主人公である范卿の「反清」についてある程度同情と理解をしていたかもしれないが、彼の（封建専制王朝に戻る）「復明」について決して認めていなかったと推測される。このような複雑な原因によって、梁啓超訳『佳人奇遇』では、范卿の登場と反清の思想が大幅に改削されることになったのである。

②東海散士の中国分裂論に関する改削と加筆

原著『佳人之奇遇』巻二の終わりに、柴四朗は東海散士の口を借りて、中国（アジア）振興策について自身の見解を語っている。この部分の原文と訳文は、下記のようなものである。

原文（柴四朗）：「余、清朝ヲ東ニ遷シ、四百余州ヲ三分シ、競争ノ志氣ヲ振起シ、鴉片

¹ 柴四朗、『佳人之奇遇』初編・巻二、東京：博文堂、1885 年 10 月、pp1～6。

² 梁啓超訳、「佳人奇遇」、『清議報』第 7 冊、1899 年 3 月 2 日、p10。

³ 馮自由、『革命逸史』第三集、北京：中華書局、1981 年、p149。

ノ鴉毒ヲ禁絶セバ、清人ノ元氣は擡揮シ、英人ガ兵威ヲ頼デ印度ヲ圧制スルノ財源は涸レン、是レ興亜ノ端緒ナルベシト。」¹

訳文（梁啓超）：「夫支那之在大地，統四百余州，実為宇内一大邦域。徒以内政不修，外交不講，致累受挫辱，莫克自強。果能禁絶鴉片之鴉毒，振起国民之精神，是可為興亜之第一策。」²

ここで、梁啓超は、原文の「清朝ヲ東ニ遷シ」「四百余州ヲ三分シ」という提案を、「支那之在大地」「統四百余州」という叙述へと改作し、反対の意を示している。また、「徒以内政不修，外交不講，致累受挫辱，莫克自強」と、中国が没落した理由の分析を加筆している。原文の「鴉毒ヲ禁絶」「清人ノ元氣は擡揮シ」を「禁絶鴉片之鴉毒」「振起国民之精神」とほぼそのまま訳し、賛同の意を示している。原文の「英人ガ兵威ヲ頼デ印度ヲ圧制スルノ財源は涸レン」を削除し、忌避の意を示しているようである。

この部分の対照から、柴四朗と梁啓超の考え方はかなり異なることがわかる。特に、原文の「清朝ヲ東ニ遷シ」と「四百余州ヲ三分シ」の二案に対して、梁啓超は強く否定している。柴四朗の考え方は、清朝政権を東北（満州）に移し、中国（四百余州）を三つの国に分け、競争心をあおって志気を振るい起こすということである。しかし、このような「中国振興策」は、梁啓超にとって「中国分裂論」のようなものになる。梁啓超の考え方では、中国の振興がいくら困難であっても、国家の統一は絶対に放棄できない思いであろう。従って、梁啓超は中国を三分するとの内容を削除・改作し、反対の姿勢を示しているのである。

③日本の東洋拡張論に関する削除

原著『佳人之奇遇』巻十で、東海散士は米国留学を終えて帰国した。時点は1885年である。ちょうど朝鮮で起きた甲申政変（1884年12月）の直後であった。当時の日本国内の世論（無論東海散士の考え方でもある）について、つぎのように記述されている。該当部分の梁啓超の訳文も付記する。

原文（柴四朗）：「清国朝鮮モ将ニ、久カラズシテ西洋諸邦ニ分領セラレントス。此時ニ當リ、東洋ニ国ヲ建テ、遠大ノ雄略卓絶ノ才識ヲ抱クモノハ、忍デ隣邦ト連累ヲ絶チ、保守究死ノ策ヲ変ジ、亜細亜ノ風氣ヲ蟬脱シ、進取活路ノ計ヲ取り、富強文明ノ西洋諸国ト連結シ、機智敏捷巧ニ其間ニ処シ、合従連衡、東洋諸邦ノ領土ヲ占掠シ、自ラ進デ欧人ト伍シ、欧人ノ伴トナリ。一ハ国土ヲ拡張シ、一ハ欧人ノ憐情ヲ受ケ、以テ其独立ヲ維持セ

¹ 柴四朗、『佳人之奇遇』初編・巻二、東京：博文堂、1885年10月、p38。

² 梁啓超訳、「佳人奇遇」、『清議報』第7冊、1899年3月2日、p10。

ザルベカラズト。我士人中、此説ヲ信ズルモノ頗ル多シト。」¹

訳文（梁啓超）：「清国、朝鮮不久將為西洋諸邦所分領。當此時於東洋建國、而抱遠大之雄略、卓絶之才識者、豈肯與隣邦同受傾頽哉？雖然欲蟬蛻垂細垂之風氣、進與歐人為伍、其機緘之巧捷、必當有異人起而持之、然後於合縱連衡間、得占其優勝之道也。我邦人士信此說者頗多。」²

この一文は、19 世紀後半の西勢東漸の国際情勢の下、1885 年に発表された福沢諭吉（1835～1901）の『脱亜論』に大きな影響を受けたように思われる。日本の独立を維持するためには、「一ハ国土ヲ拡張シ」、「一ハ欧人ノ憐情ヲ受ケ」なければならないという。後者は西洋列強に対する態度である。欧人の憐情を受けるのは、文明開化・欧化政策を通して西洋の「伴」となり、欧人の感情的な支持を求めることであろう。前者は東洋諸国に対する態度である。国土を拡張するのは、隣邦（清国・朝鮮）との連累を絶ち、東洋諸邦（清国・朝鮮・アジア）の領土を占掠することであると明言している。ここは、帝国主義的な傾向が現れる箇所であると言ってよいであろう。

梁啓超の訳文では、原文の「東洋諸邦ノ領土ヲ占掠シ」「国土ヲ拡張シ」という文句が削除されている。これは、原著における日本の東洋拡張論に対し、梁啓超が反対していることを意味している。

④日清戦争性質論に関する削除と加筆

原著『佳人之奇遇』の巻十六では、主に金玉均暗殺、東学党の乱、日清戦争勃発、三国干渉、閔妃暗殺など日清戦争前後の事情が中心となって述べられている。その中、清国の出兵と日本の意図などについて、著者柴四朗は下記のように述べている。

柴四朗作『佳人之奇遇』巻十六：「李鴻章此機ヲ利用シ多年ノ欲望ヲ遂ケント欲シ名ヲ韓廷ノ請ニ托シ大兵ヲ韓地ニ派遣ス曰ク天兵屬邦韓王ノ急ヲ救フナリト愈其侵凌ヲ肆ニシ益其傲戻ヲ逞ス」³、「散士清國膺懲朝鮮扶植ヲ唱呼スル」⁴、「我征清ノ挙朝鮮ノ独立ヲ扶植スルニ在ラハ宜ク清ヲシテ此故土ヲ朝鮮ニ還シ以テ其他意ナキ」⁵

しかし、中国語訳『佳人奇遇』で梁啓超は、東学党の乱（指導者全琫準の死）以後の部分、即ち日清戦争勃発から原作の結末までの内容（総 26 頁）を全部削除している。その代わりに、梁啓超は東海散士の口吻を模倣して次のような日清戦争論を加筆し、自分な

¹ 柴四朗、『佳人之奇遇』五編・巻十、東京：博文堂、1891 年 12 月、pp6～7。

² 梁啓超訳、「佳人奇遇」、『清議報』第 30 冊、1899 年 10 月 15 日、p3。

³ 柴四朗、『佳人之奇遇』八編・巻十六、東京：博文堂、1897 年 10 月、p16。

⁴ 柴四朗、『佳人之奇遇』八編・巻十六、東京：博文堂、1897 年 10 月、p16。

⁵ 柴四朗、『佳人之奇遇』八編・巻十六、東京：博文堂、1897 年 10 月、p29。

りの結末に置き換えている。

梁啓超訳『佳人奇遇』結末部：「朝鮮者，原為中国之属土也。大邦之義，于属地禍乱，原有靖難之責。当時朝鮮，内憂外患，交侵迭至，乞援書至。中国大義所在，故派兵赴援。而日本方当維新，気焰正旺，窃欲于東洋尋釁，小試其端。彼見清廷之可欺，朝鮮之可誘也。遂借端扶植朝鮮，以与清廷構釁。清廷不察，以為今日之日本，猶是昔日之日本，亦欲因而懲創之，俾免在東洋狂横跳梁多事也。不謂物先自腐，虫因而生；国先自毀，人因而侮。歌舞太平三百載，将不知兵，士不用命。以腐敗腐朽而且不通世故之老大病夫国，与彼凶性蛮力而且有文明思想之新出世日本，鬪力角智，勢固懸絶。故一举而敗於朝鮮，再举而陷遼島，割台灣，償巨款。我日人志趣遠大，猶以為未足也。不意俄德法三大国干涉其間，不無所嫌，見機而退，理有固然。而在野少年志士，多有以此咎政府者，是未知政府之苦耳。」¹

ここで、東海散士の口吻を模倣して、梁啓超は中国の立場から、「大邦之義」「中国大義所在」と、中国側の正当性を主張している。また、「(日本) 于東洋尋釁」「(日本) 与清廷構釁」と言い、日本による挑発的な戦争の側面を強調している。これは、朝鮮の独立扶植のために清国と開戦したという原作の日清戦争観に対する主張への、梁啓超の激しい批判であろう。

以上で述べてきたように、梁啓超は柴四朗の政治小説『佳人之奇遇』を積極的に翻訳・宣伝したが、原著の政治思想を全て受け入れたわけではなかった。確かに、原著中（主に前半部）の愛国主義の精神の宣揚に対して、梁啓超は深く肯定・共感し、また翻訳を通して中国人の愛国心の啓蒙・喚起を期待していた。これは梁啓超が躊躇せず『佳人之奇遇』の翻訳を驚くほどの速さで着手・推進した最も重要な理由である。しかし、原著中（主に後半部）の一部の政治的見解に対して、梁啓超は明確に反対し、彼自身及び中国読者が納得できるように改作・削除・加筆を行い、原文の見解と異なる訳文を作った。これによって、原著の帝国主義的な傾向、中でも中国に友好的でない内容は、梁啓超の中国語訳で大いに薄められている。この意味で、梁啓超は柴四朗の『佳人之奇遇』を批判的に受容したと言えよう。

第3節 近代中国における梁訳『佳人奇遇』の反響

本節は、梁訳『佳人奇遇』が近代中国でどれほど伝播され、どのような評判を得たのかについて検討する。

¹ 梁啓超著、林志鈞編、『飲冰室合集』第11冊（飲冰室專集之八十八～九十五）、北京：中華書局、1988年版、p220。

1. 近代中国における梁訳『佳人奇遇』の伝播：連載・初版・再版

まず、梁訳『佳人奇遇』は1898年12月23日から1900年2月10日まで、横浜で創刊された維新派の機関紙・旬刊『清議報』の第1～3、5～22、24～29、31～35号に連載された。連載期間は15ヶ月に至るほど長かった。周知の如く、『清議報』（1898年～1901年発行）は清末中国の最も影響の大きな雑誌の一つであった。創刊後の『清議報』はただ数ヶ月で発行部数が3千部に達し、第13号（1899年4月）が刊行された際に発行部数が約4千部に上がった¹。以後毎号の発行部数は平均3千～4千部であったと言われる。『清議報』は、横浜で印刷され、上海の外国租界に運送され、それから中国各省へ販売された。中国でのみならず、日本、朝鮮、香港、澳門、ロシア、オーストラリア、ヨーロッパ、アメリカ、カナダなど世界各地で「代派處（販売所）」が設けられた（最盛期は総38處）。また世界各地から郵送による注文販売も行われ、発行範囲は非常に広がった。『清議報』を通して、梁訳『佳人奇遇』が広く読まれていたと推測される。

その後、1901年、梁訳『佳人奇遇』は、もう一つの政治小説の中国語訳『経国美談』と共に、『佳人奇遇経国美談合刻』と題して上海の広智書局から出版された。また、梁訳『佳人奇遇』と『経国美談』は、『清議報』停刊（1901年12月）後に横浜の新民社から編集・出版された『清議報全編（第三集）』にも収められ、もう一度合刻出版された。

1902年、梁訳『佳人奇遇』は、「説部叢書」の第一集第一編として、上海の商務印書館から出版された。「説部叢書」は商務印書館の企画で、322種以上²の小説を網羅・出版した、清末中国の最大規模の小説叢書である。梁訳『佳人奇遇』がこの叢書の第一集第一編に置かれたのは、商務印書館から非常に重要視されたことを意味する。

梁訳『佳人奇遇』は上海商務印書館から出版された後、1905年12月に再版、1906年8月に3版、1906年11月に6版、1907年に7版、重版を繰り返した³。1901年以降の2種の合刻版も含めれば、梁訳『佳人奇遇』は、1901年から1907年まで少なくとも9版を重ねた。このような再版状況から、梁訳『佳人奇遇』が読者から歓迎されたことが窺える。

梁啓超訳『佳人奇遇』は、『清議報』における長期間の連載と単行本の繰り返される重版を通して、清末の中国で非常に広く読まれて伝播されたと言える。

¹ 頼光臨、『梁啓超与近代報業』、台北：台湾商務印書館、1968年、p36。

² 付建舟、「談談説部叢書」、『明清小説研究』2009年第3期、2009年、p309。

³ 樽本照雄編、『清末民初小説目録X』、清末小説研究会、2015年、pp1812～1815。

2. 近代中国における梁詒『佳人奇遇』の評判：異口同音の好評

清末期の中国における梁詒『佳人奇遇』の評判について検討してみよう。

訳者であり、最初の読者でもある梁啓超は、1901年12月21日の『清議報』最終号（第100号）に、「清議報一百冊祝詞及論報館之責任及本館之経歴」という文を載せている。また、其の後に出版された『清議報全編』の巻首に、「本編之十大特色」という文を書いている。二つの文では、『佳人奇遇』についてつぎのように述べられている。

「『佳人奇遇』、『経国美談』等，以稗官之異才，写政界之大事。美人芳草，別有会心，鉄血舌壇，幾多健者。一讀擊節，每移我情，千金国門，誰無同好。」¹

「本編附有日本政治小説兩大部〔『佳人奇遇』『経国美談』〕，以稗官之体，写愛国之思。二書皆為日本文界中独歩之作，吾中国向所未有也。令人一讀，不忍釈手，而希賢愛国之念油然而生。」²

このように、梁啓超はほぼ同じ論述を繰り返し、『佳人奇遇』を積極的に読者に推奨している。「稗官之異才」「稗官之体」は、著者柴四朗の小説家としての非凡な才能に対する肯定を示す。「日本文界中独歩之作」は、『佳人之奇遇』の水準に対する高い評価を示す。「一讀擊節，每移我情」「令人一讀，不忍釈手」は、読者としての梁啓超が『佳人之奇遇』に魅了されたことを示す。「愛国之思」「愛国之念」は、愛国主義の側面を着眼・強調するという、梁啓超を含めて当時の中国人が『佳人之奇遇』を積極的に受け入れことを語っている。

梁啓超以外の読者の評判を見よう。詩人邱菽園（1873～1941）は、1901年に書いた「小説与民智關係」と1906年に書いた「新小説品」で、『佳人奇遇』についてつぎのように述べている。

「東瀛柴四郎、矢野文雄著『佳人奇遇』、『経国美談』兩小説之類，皆与政治上新思想極有関涉，而詞意猶淺白易曉。吾華旅東文之士，已有訳出。余尚恨其已譯者只此而足，未能大集同志，広譯多類，以速吾国人求新之速度耳。」³

「『佳人奇遇』，如清商度曲，子夜聞歌；『経国美談』，如清風故人，翩然入座。」⁴

¹ 梁啓超、「清議報一百冊祝詞及論報館之責任及本館之経歴」、『清議報』第100冊、1901年12月21日。

² 梁啓超、「本編之十大特色」、『清議報全編』巻首、横浜：新报社、刊行年月不明。

³ 邱菽園、「小説与民智關係」、『揮塵拾遺』、1901年。陳平原・夏曉虹編、『二十世紀中国小説理論資料（第一卷）1897－1916』、北京：北京大学出版社、1997年、p31を参照。

⁴ 邱菽園、「新小説品」、『新小説叢』、1906年。王向遠、『日本文学漢譯史』、銀川：寧夏人民出版社、2007

「与政治上新思想極有関渉」は、中国の政治思想の進歩と啓蒙における『佳人奇遇』の価値に対する肯定を示す。「余尚恨其已譯者只此而足」は、『佳人奇遇』のような日本政治小説の訳作の少ない現状に対する読者の不満足を示す。「大集同志、広譯多類」は、『佳人奇遇』以外の同種類の政治小説の大量の翻訳という読者の要求と期待を示す。「清商度曲、子夜聞歌」は、典雅な音楽（清商曲・子夜歌）を聞くような、読者が『佳人奇遇』を読む時に覚える愉悦を表す比喻である。

小説家黄伯耀（1883～1965）は、1908年に雑誌『中外小説林』（旬刊・広州で出版）に掲載した「淫詞惑世与艶情感人之界線」と「小説与風俗之關係」という文で、つぎのように『佳人奇遇』について述べている。

「『佳人奇遇』、近世譯書中之著名小説也。而論者均謂日人愛國之感情，多系乎此。豈非感人之明証欤？」¹

「其最近之見効者，則如日本之維新也。咸以往柴四郎之小説，有以鼓吹之，培成之，而大和魂，武士道，一種義俠風俗，得以享地球上偉大國民之好名譽。」²

「近世譯書中之著名小説」は、梁訳『佳人奇遇』が当時の中国で大きな注目を受けたことを示す。「論者均謂日人愛國之感情，多系乎此」は、日本人の愛国心の養成において『佳人之奇遇』の果たした大きな役割への中国読者の肯定を示す。「大和魂」「武士道」「義俠風俗」「得以享地球上偉大國民之好名譽」は、『佳人之奇遇』が日本国民の思想の進歩に大いに貢献したという中国読者の評価を示す。

梁訳『佳人奇遇』についての逸話がある。1903年、浙江省紹興府会稽県の陶県令と新女性の周演巽が文明な結婚式を挙げた。結婚式の当日、祝賀の詩が多数寄せられてきた。そのうち、諸貞壯の詩が最も良いとされ、のちに同年の上海『女学報』にも掲載された。諸貞壯の詩には、「蹄水晚霞邱好在，似柴東海遇紅蓮」³という詩句がある。梁訳『佳人奇遇』と関係深い詩句である。「柴東海」と「紅蓮」は『佳人奇遇』の中の主人公、日本の志士とアイルランドの佳人の名前である。「蹄水」と「晚霞邱」は二人が初めて会う場所である「費府（フィラデルフィア）」にある川と山の名前である。この詩句は、二人の新婚夫婦を『佳人奇遇』の男女主人公になぞらえているのである。この逸話から、梁訳『佳人奇遇』が清末の中国社会で非常に広く知られていたことを窺える。

年、p17。

¹ 光翟（黄伯耀）、「淫詞惑世与艶情感人之界線」、『中外小説林』第1年第17期、1908年1月18日。

² 耀公（黄伯耀）、「小説与風俗之關係」、『中外小説林』第2年第5期、1908年3月22日。

³ 「女界近史・文明婚姻」、『女学報』第2期、1903年4月。

以上で述べてきたように、梁訳『佳人奇遇』は清末の中国で大きな注目とプラスの評判を受けていた。マイナスな評価はあまり見当たらない。清末中国の多くの読者は梁訳『佳人奇遇』の文章を愛読し、また作中の愛国の熱情に感銘し、作品が中国の政治変革と政治啓蒙に効くことを期待していた。梁訳『佳人奇遇』は異口同音に褒められ、称賛されていたのである。

梁訳『佳人奇遇』の影響の下、『東洋佳人』、『累卵東洋』、『経国美談』、『雪中梅』、『花間鶯』、『啞旅行』、『模範町村』など、多数の明治日本の政治小説は翻訳を通して続々と20世紀初頭の中国に受け入れられた。このような政治小説の翻訳をはじめとして、中国に日本文学が受容されていったのである。従って、梁訳『佳人奇遇』は、「清末における政治小説翻訳の序幕を開いた」¹のみならず、近代中国における日本文学受容の序幕をも開いたと考えられる。

第3章 政治の大禁忌：近代韓国における『佳人之奇遇』の不受容

前述したように、柴四朗の『佳人之奇遇』(1885～1897)及び梁啓超による中国語訳『佳人奇遇』(1898～1900)は、それぞれ明治日本と清末中国で大きな反響を呼べた。しかし、この作品は近代の韓国で受容されず、翻訳・翻案・評論・紹介も行われなかった。本章は、当時の韓国人がこの作品及び中国語訳本についてどれほど知っていたのかについて調査したうえで、近代韓国における『佳人之奇遇』の不受容の理由について分析を試みる。

第1節 近代韓国人と『佳人之奇遇』の間：受容に至らない接触

1. 金玉均と『佳人之奇遇』の「奇遇」：「政治小説」への無感覚

近代韓国の知識人の中で『佳人之奇遇』を読み記録を残している人は少なく、これまでの調査では開化派政治家・思想家金玉均(1851～1894)ただ一人である。

金玉均は1851年、忠清南道公州郡に生まれた。本貫は安東、字は伯温、号は古筠。幼い頃、伝統的な漢学の教育を受けた。5歳(1856年)の時、「月雖小、照天下」という句を作り、村人を驚かす。同年、従叔父金炳基(のちに江陵府使)の養子となり、幼少期を京城(ソウル)で過ごす。1870年(19歳)、開化思想の先駆者・朴珪寿(1807～1877)の門下(私塾)に入り、朴泳孝、徐光範、金允植、兪吉濬ら開化青年たちと共に開化思想を

¹ 鄒振環、『影響中国近代社会の一百種譯作』、北京：中国对外翻訳出版公司、1996年、p130。

学ぶ。1872 年（21 歳）、科举に首席（状元）で及第し、成均館典籍となる。1874 年（23 歳）、弘文館校理に任命される。1876 年、日朝修好条規（江華条約）が締結され、朝鮮は開国する。1882 年（31 歳）3 月～7 月、1882 年 9 月～1883 年 3 月、1883 年 6 月～1884 年 4 月、金玉均は前後して 3 回日本を訪問・視察する。二度目日本訪問から帰国後、『漢城旬報』（1883 年 10 月発刊）の創刊に着手する¹。三度目日本訪問から帰国後、朴泳孝ら開化派と政変を計画し始める。1884 年（33 歳）12 月 4 日、金玉均ら開化派は、郵政局落成式の祝賀宴を機会に甲申政変を起こし、守旧派要人を処断する。12 月 5 日、開化派を中心とする新政府を組織し、『朝報』で国民に報知する。12 月 6 日、開化派政府は新政綱を発表するが、清軍の介入により政変が失敗する。三日間だけで失敗したことから、「三日天下」とも称される。12 月 11 日、金玉均は日本へ亡命する。1884 年 12 月から 1894 年 3 月まで、約 10 年間日本に滞在し、支持を求めるよう活動が続けていく。1894 年 3 月 28 日、上海の東和洋行で暗殺される。金玉均の著述には『箕和近事』、『治道略論』、『甲申日録』などがある。

金玉均は甲申政変（1884 年 12 月）失敗後亡命し、1884 年 12 月下旬日本に到着した。時期を同じくして 6 年間の米国留学を終えて日本に帰国していた柴四朗が金玉均を訪問し、会談を行った。二人の最初の会談（1885 年）の内容は、『佳人之奇遇』巻十に書き入れられている（29 頁から 42 頁まで）。その冒頭部分はつぎのようになっている（「古筠居士」は金玉均である）。

「既ニシテ獨立党ノ領袖朴泳孝、金玉均等十有五六人、百難ヲ凌キ、萬死ヲ犯シ、我國ニ渡来ス。散士乃チ古筠居士ヲ其寓ニ訪フ。居室陋隘、衣服粗野、六七人ト踞坐ス。顔色憔悴、形容枯槁、形神共ニ憊ルノ状視ルニ忍ビズ。」²

二人それぞれの関歴を紹介し合い、甲申政変の経過、朝鮮ないし東アジアの政局などを巡って議論を行った。長い会談の中で、柴四朗は自分の小説の話も伝えた。その場面は下記のようなものである。

「僕西遊シテ西球亡國ノ義士節女ニ邂逅シ、其奇遇ニ感激シテ備ニ心膽ヲ吐露セリ。今ヤ足下ヲ得タリ、之ヲ毛穎ニ命ジ、四方有志之士女ニ檄セント欲スト。居士聞キ終ラズ急ニ驚キ起テ呼テ曰ク、僕ヲシテ奇遇中ノ人タラシムルモ、郷國ヲシテ亡國タラシムル勿レト。」³

¹ 姜健栄、『開化派リーダーたちの日本亡命：金玉均・朴泳孝・徐載弼の足跡を辿る』、東京：朱鳥社、2006 年、p16。

² 柴四朗著、『佳人之奇遇』五編・巻十、東京：博文堂、1891 年 12 月、p29。

³ 柴四朗著、『佳人之奇遇』五編・巻十、東京：博文堂、1891 年 12 月、p31。

ここで柴四朗は、金玉均を「奇遇」の「亡國の義士」と見なし、「之ヲ毛穎ニ命ジ」、つまり彼を自分の小説に書き入れたいという考えを語る。金玉均は、「亡國」という言葉を忌避したようで、自分を「奇遇中ノ人」として小説に書き入れてはいいが、「郷國」（祖国朝鮮）を「亡國」させてはいけないと答えている。

柴四朗が金玉均を訪問した後、同年（1885 年）10 月 25 日、『佳人之奇遇』初編（巻一・巻二）が東京博文堂より刊行された。金玉均は、柴四朗に頼まれ、「書佳人之奇遇後」という跋文を書き、『佳人之奇遇』の初編・巻二の巻末に収められた。金玉均の跋文の全文は、つぎのようになっている。

「柴君四朗，少有偉才奇志。遊米理堅之合衆国，其文物法度之盛深，有得以充然于才与志者。經六載而歸，瀏手掇錄目入耳到者，名佳人奇遇。讀之洵覺裨世之有用文字。其如諷詠而為詩与歌者，翩々珠璣，若又泛文瀾而上詞壇。柴君真才而志者也。一日，訪余于鎗屋旅社，示以此篇，索余一言志之。余遂書其下曰：子曰才難，才而学尤難。君既才，而志于学，既有成焉，則宜復曠其学，勉其志，以需他日。需世之用，即亦余之志願也，柴君志哉。乙酉仲秋，朝鮮逸士金玉均謹題。」¹

近代韓国の知識人が『佳人之奇遇』に関して見解を表明する唯一の記録となるのではないと思われる重要な資料である。金玉均がこの文を書いた時点は「乙酉仲秋」、即ち 1885 年の秋で、『佳人之奇遇』初編刊行（同年 10 月）の直前であった。「一日，訪余于鎗屋旅社，示以此篇」という記述から、1885 年、帰国後の柴四朗は、自身の作品『佳人之奇遇』初編の草稿を持ち、日本亡命中の金玉均を訪問し、それを金玉均に見せたという事実を裏付けている。また、「讀之洵覺裨世之有用文字」という記述から、金玉均本人が『佳人之奇遇』初編を読んだということもわかる。しかし、『佳人之奇遇』について「裨世之有用文字」であると称賛しているが、その方向（政治思想上の価値）でさらに具体的な論述を展開していないまま、「其如諷詠而為詩与歌者，翩々珠璣，若又泛文瀾而上詞壇」というように、称賛の対象が『佳人之奇遇』の文章の素晴らしさ（文学上の価値）へと移る。金玉均のこの跋文は、ただ柴四朗の学問と文章の面の才能に着眼して書かれたものであるといえよう。

日本亡命後の金玉均は、1885 年に、『佳人之奇遇』の作者柴四朗と直接会って交流し、その創作段階から『佳人之奇遇』のことを知っており、また出版前から既に『佳人之奇遇』初編の原文（草稿）を読んだという事実が明らかである。これは金玉均と『佳人之奇遇』の「奇遇」であった。

¹ 金玉均、「書佳人之奇遇後」。柴四朗著、『佳人之奇遇』初編・巻二、東京：博文堂、1885 年 10 月 25 日、巻末。

金玉均は 1885 年以後も柴四朗と密接に交流し、柴四朗は滞日時代の「交友関係から主なるもの」¹の一人であった。金玉均の日本滞在期（1884 年～1894 年）がちょうど、『佳人之奇遇』が日本で人気の最盛期を迎えていた時期（1885 年～1900 年頃）と重なっていた。従って金玉均は、日本での『佳人之奇遇』の大きな反響についてきっと認識していたのであろう。

梁啓超と金玉均は、それぞれ中国と韓国近代の政治変革を主導した代表的な知識人で、自国で起こした政治変革運動（戊戌変法・甲申政変）に失敗し、日本へ亡命した。また日本亡命の際に『佳人之奇遇』と「奇遇」した点でも二人は一致している。しかし梁啓超の反応と異なり、金玉均は、『佳人之奇遇』のような政治小説を民衆への政治啓蒙の手段として利用して活動を続けていこうとする意識を持たなかった。

その理由は、金玉均ら韓国急進開化派の「愚民観」にあるのではないと思われる。民衆に対する韓国の急進開化派の考え方について、趙景達氏は「急進開化派には、愚民観が強く顔をのぞかせている。本来、儒教的民本主義というのは、民のための政治を唱えはしても、民を政治の主体にしようという発想をもたない。四民平等の思想は開化派の祖である朴珪寿によって切り開かれようとしてはいたが、具体的実践となると、エリート的な士の自覚をもつ開化派には難しいことであった」²と指摘している。金玉均ら開化派は「愚民観」により、『佳人之奇遇』から「政治小説→政治啓蒙→民衆動員→政治改良」という「政治小説の効用・役割」を感じ取れなかったのかもしれない。

2. 『清議報』（梁訳『佳人奇遇』登載）の近代韓国における伝播

梁啓超の中国語訳『佳人奇遇』は、1898 年 12 月 23 日から 1900 年 2 月 10 日まで、『清議報』の創刊号～第 35 号に連載された。『清議報』（旬刊・1898 年 12 月 23 日～1901 年 12 月 21 日発行）は、梁啓超が横浜で創刊した中国維新派の機関紙で、清末中国の最も影響の大きな雑誌の一つであった。

『清議報』は創刊後、すぐ韓国の知識人から注目を受けた。1899 年 1 月 13 日、韓国独立協会の機関紙『皇城新聞』は、『清議報』の創刊についてつぎのような記事を掲載した。記事の作者は、韓国近代の啓蒙思想家、ジャーナリスト、当時『皇城新聞』の主筆であった張志淵（1864～1921）と推測される。

요고하마에 滯留하는 淸國人이 發行하는 <淸議報>를 客年 12 月 23 日에 初號 發刊

¹ 琴秉洞、『金玉均と日本—その滞日の軌跡』、東京：緑蔭書房、1991 年、p658。琴秉洞は、滞日時代の金玉均の交友関係から主要な人物を、末広鉄腸、柴四朗などを含め、総 34 名を挙げている。

² 趙景達、『近代朝鮮と日本』、東京：岩波書店、2012 年、p82。

하였는데 記者는 梁啓超氏라 上海 時務報에 時筆하던 사람인데 初號로부터 支那哲學新論과 淸國政變始末이란 問題의 두 論文을 發志하였다 하고 本領은 宇內治亂의 大機가 一을 由하여 西東의 時局이 잇스니 <淸議報>는 此時局을 痛論하여 內로 大清四百兆 氏人의 惰眠을 警戒하고 外는 東邦諸識者의 敎導함을 瞻仰한다 하였더라.¹

梁啓超の「支那哲學新論」と「淸國政變始末」に言及していることから、張志淵は『淸議報』創刊号の掲載内容をよく知っていたことがわかる。ひいては、張志淵は『淸議報』創刊号に掲載された中国語訳『佳人奇遇』についても知っていた可能性が高いと思われる。

梁訳『佳人奇遇』を長期間連載した『淸議報』は、当時の韓国にも流入していたことは間違いない。当時の韓国において、『淸議報』は主に二つの方式で流通していたようである。一つは『淸議報』が韓国で設立した「代派處」（販売所）による販売、もう一つは郵送による販売である。『淸議報』毎号の「本館各地代派處」²欄の記載によると、「朝鮮京城漢城新報館」「京城鐘路水典内前開文社」（いずれもソウル）そして「仁川怡泰号」（仁川）に販売所があったとされている。

『淸議報』毎号の「告白」欄で「本館報章均按期發行，各号定購多少亦均如数付寄。如計期未收，即当函来追問。今定美洲、南洋、澳洲、海參崴限一月，中国内地、天津、牛莊、上海、香港、澳門、高麗限半月，日本国内限五日」³との案内がある。日本国内は5日で、韓国の場合は「高麗限半月」（半月以内に韓国に届く）と明確に記載されている。韓国の読者は郵送でも『淸議報』を購読することが可能だったのである。

韓国における具体的な発行部数は考証し難いが、『淸議報』は漢文の教養を持つ少なからぬ韓国の知識人に愛読されたことは明らかである。1899年3月17日～18日、『皇城新聞』の「論説」欄は、二日間連続で『淸議報』登載の内容を翻訳・紹介している。その冒頭部分はずぎのようになっている。

「余近日에 淸議報를 閱覽하다가 淸國哀時客이란 志士의 愛國論을 見함에 其激切適當함이 時局을 挽回할 雄健筆端이라. 其最要를 摘發하여 我同胞의 茅塞한 胸襟을 開爽케 하노니 此를 日日眷服하여 人人히 愛國者의 性質을 化하기를 深望하노라.」⁴

「淸國哀時客이란 志士의 愛國論」は、二ヶ月前に梁啓超が『淸議報』第3号（1899年1月11日）に発表した論説「愛國論」を指している。『皇城新聞』に掲載されたこの文の主要内容は、実に『淸議報』登載の「愛國論」を韓国語に翻訳したものである。この訳

¹ 張志淵、「淸議報」、『皇城新聞』第8号、1899年1月13日号、第4面。

² 「本館各地代派處」、『淸議報』第7冊、1899年3月2日。

³ 「告白」、『淸議報』第34冊、1900年1月31日。

⁴ 「論説」、『皇城新聞』第8号、1899年3月17日号、第1面。

文について、牛林杰氏は「梁啓超の著述が初めて韓国語に翻訳されたもの」、「これほど速く韓国に翻訳紹介されたことは、『清議報』はすぐ韓国に流入し、知識人たちがすぐ読むことができていたという事実を証明している」¹と指摘している。『清議報』第3号には中国語訳『佳人奇遇』の連載がまだ続いていたので、『皇城新聞』登載の上記の文の作者は「愛国論」と共に中国語訳『佳人奇遇』をも読んだ可能性が高いと考えられる。

また、一部の韓国の読者は、漢文を使用して直接『清議報』に寄稿している。1899年5月20日の『清議報』第15号には、「朝鮮李莘田雨堂」の手による「讀清議報」という文が掲載された。『佳人奇遇』の連載分の次のページに掲載されたものである。この文の作者「李莘田雨堂」は、誰なのかまだ究明できていないが、「吾於康南海（康有為）、梁卓如（梁啓超）両先生尚友之，心師之，而其同事諸公之忠烈亦無間爾」²と記されていることから、梁啓超と深い交流のあった韓国の知識人であると思われる。この文では『清議報』掲載の『佳人奇遇』について言及されていないが、作者は『清議報』の韓国人愛読者であったことは明らかである。彼は『清議報』掲載の『佳人奇遇』のことも知っていたと十分に推知することができる。

以上の考証により、中国語訳『佳人奇遇』を登載した『清議報』が創刊後に韓国にすぐ流入し、韓国の知識人たちに読まれていたという事実が確認できた。

3. 近代韓国における政治小説の受容：『経国美談』と『雪中梅』の場合

1904年以降、開化啓蒙期の韓国では政治小説の受容が盛んに行われていた。韓国の知識人たちは、日本や中国を通して、政治小説を数多く韓国語に移して受け入れた。日本や西洋政治小説の韓国語翻訳（翻案）は、『경국미담(經国美談)』（訳者不明・『漢城新報』連載・1904年；玄公廉訳・右文館刊行・1908年）、『정치소설 서사건국지(政治小説 瑞士建國志)』（朴殷植訳・大韓毎日申報社刊行・1907年；金炳鉉訳・博文書館刊行・1907年）、『시소설 애국부인전(新小説 愛國夫人傳)』（張志淵訳・広学書舗刊行・1907年）、『회천기담(回天綺談)』（玄公廉訳・塔印社刊行・1908年）、『정치소설 설중매(政治小説 雪中梅)』（具然学翻案・匯東書館刊行・1908年）、『애국정신담(愛國精神談)』（盧伯麟訳・『西友』連載・1907年；李塚雨訳・中央書館刊行・1908年）、『소설 국치전(小説 國恥傳)』（訳者不明・『大韓毎日申報』連載・1907年）、『매국노(賣國奴)』（訳者不明・『大韓毎日申報』連載・1908年）、『소설미국독립사(小説美國獨立史)』（玄采訳・『大韓毎日申報』連載・1909～1910年）など、枚挙にいとまがない。また、『이태리건국삼걸전(伊太利建國三傑傳)』（玄采訳・広学書舗刊行・1907年；周時経訳・博文書館刊行・1908年）、『근세제일여중영웅 라란부인전

¹ 牛林杰、『韓國 開化期文學과 梁啓超』、서울: 博而精、2004年版、pp28-29。

² 朝鮮李莘田雨堂、「讀清議報」、『清議報』第15号、1899年5月20日。

『(近世第一女中英雄 羅蘭夫人傳)』(訳者不明・大韓毎日申報社刊行・1907年)など、政治小説と類似した歴史伝記小説の翻訳も盛んに行われていた。

このような多数の政治小説の中で特に指摘したいのは、『佳人之奇遇』と共に明治政治小説の代表作と称される『経国美談』(矢野龍溪作)と『雪中梅』(末広鉄腸作)の韓国の受容である。

『経国美談』は、明治政治家矢野龍溪(1851～1931)の政治小説である。1883年～1884年に東京の報知新聞社より前編・後編二冊で刊行された。古代希臘(ギリシャ)の歴史に取材し、巴比陀(ペロピダス)と威波能(エパミノンドス)の二人の英雄を主人公に、小国斎武(テーベ)が国内の民政を回復し(前編)、外国の侵略を退ける(後編)過程を描く作品である。

この『経国美談』は、まず中国語に翻訳され1900年2月から『清議報』に連載された(後に上海の広智書局と商務印書館から刊行)。それから4年後に韓国に受容された『経国美談』は、1904年10月4日から11月2日まで、京城の『漢城新報』に16回連載された。国漢文混用体の韓国語で翻訳されている。訳者が不明であるが、原文と対照すれば、日本語の底本から直接翻訳されたものであることがわかる¹。訳文の初頭にはつぎのような「譯者머릿말」(訳者の序言)がある。

「此篇은 日本人大詞伯矢野龍溪가 距今二十年前에 著作함이니. 當日時有志少壯이 入購一本하야 行吟走誦의 癖을 成하더니. 今日韓國政界에 有志人士가 忘身愛國에 改善之志를 皆抱하엿시니 此時에 此篇을 演續한매 士氣振作에 大效가 生하리니. 文法平易하고 結構雄大함은 此篇特色이요 士志慷慨하고 經綸卓拔함은 此篇特質이니 愛讀을 得하면 譯者幸甚이로소이다.」²

その後、『経国美談』は韓国近代新小説家・玄公廉によって純国文体(ハングル)で再び翻訳された。1908年9月、玄公廉訳の『경국미담(經國美談)』は、京城の右文館より巻上・巻下二冊で刊行された。玄公廉は中国語訳『経国美談』を底本に韓国語に重訳したと推断される³。同年(1908年)9月27日から10月30日まで、『皇城新聞』は、玄公廉訳『經國美談』の次のような広告を継続的に掲載した。

「經國美談(廣告). 定價 金二拾錢. 此書는 奸臣이 謀國에 愛國志士가 涉險被創하야 奸黨을 誅滅하고 獨立其國하를 詳載함. 發賣元 中部鍾路 古今書海館. 分賣所 京郷各

¹ 金秉喆、『韓國近代翻譯文學史研究』、ソウル：乙酉文化社、1975年、p203。

² 「譯者머릿말」、『經國美談』、『漢城新報』、1904年10月4日。

³ 田明、「愛國啓蒙期 中譯本 政治小説의 韓國的 變容 樣相：『回天綺談』과 『經國美談』를 中心으로」、仁荷大學校碩士論文、2012年、p43。

有名書館。」¹

『経国美談』は開化期の韓国に早く導入され、連載本と単行本、国漢文と純国文、日本語からの翻訳と中国語からの重訳、前後して2回も異なる翻訳・出版が行われた。韓国は『経国美談』を積極的に受け入れたのである。

『雪中梅』は、明治の自由民権運動家末広鉄腸（1849～1896）の政治小説で、1886年に東京の博文堂から二冊で刊行された。民権を主張する日本の青年志士、演説の名手である国野基の苦難的な政治活動と彼の共鳴者の女性富永春のロマンスを描く作品である。

『雪中梅』は日本で再版を繰り返し、中国語にも翻訳（1903年に江西の尊業書局から刊行）されている評判の高い作品である。この『雪中梅』が韓国には1908年、翻訳ではなく、翻案で受容された。

1908年5月、韓国開化期の新小説家・具然学（1874～未詳）の韓国語翻案『정치소설 설중매(政治小説 雪中梅)』は、京城の匯東書館から刊行された。具然学の『설중매(雪中梅)』は、日本原作のストーリーを追いながら、原作の背景（1877年～1886年自由民権運動期の日本社会）を1896年～1908年独立協会運動開始以後の韓国社会に置き換え、原作の登場人物を全て韓国人に改変している。例えば、原作の主人公国野基を韓国人の李泰順に、女主人公富永春を韓国人の張梅仙に変更した。具然学の『설중매(雪中梅)』は刊行後に反響が大きく、李海朝の『자유종(自由鐘)』、李人植の『은세계(銀世界)』と共に韓国開化期の三大政治小説と称される²。

日本では、柴四朗の『佳人之奇遇』、矢野龍溪の『経国美談』、末広鉄腸の『雪中梅』が明治時代の三大政治小説と称されてきた。近代中国はこの三作品をすべて受け入れている。特に『佳人之奇遇』と『経国美談』については当時の日中両国の知識人が常に二作品を並べて議論する状況であった³。近代韓国の知識人たちは『経国美談』と『雪中梅』の二作品を受け入れているが、『佳人之奇遇』は意識的に排除したようである。

では、三作品の性格について、特に『佳人之奇遇』と韓国に受容された『経国美談』『雪中梅』二作品の性格の相違の所在について検討してみなければならない。その相違は主に政治思想と登場人物にあると考えられる。

三作品は愛国主義の精神を宣揚する点で一致しているが、具体的な政治思想では三作品の性格は異なっている。『経国美談』の政治思想は民権思想と国権思想にまとめられようが、より正確に言えば、民権の回復（前半部分）と国権の守衛（後半部分）を主張する

¹ 「廣告」、『皇城新聞』、1908年9月27日。

² 全光鏞・金烈圭・申東旭編、『新文學과 時代 意識』、서울:새문社、1981年、p70。

³ 例えば、「浸潤於国民脳質最有効力者則『経国美談』『佳人奇遇』兩書為最」（梁啓超「伝播文明三利器」1899）、「『佳人奇遇』『経国美談』等以稗官之異才写政界之大事」（梁啓超「清議報一百冊祝詞及論報館之責任及本館之経歴」1901）、「東瀛柴四郎矢野文雄著『佳人奇遇』『経国美談』兩小説之類皆与政治上新思想極有關係」（邱菽園「小説与民智關係」1901）。

のである。『雪中梅』の政治思想は民権思想が語られるが、国権思想はあまり表現されていない。『佳人之奇遇』の政治思想は国権思想だけを主張し、より正確に言えば、国権の守衛（前半部分）と国権の拡張（後半部分）を主張している。つまり、『佳人之奇遇』の政治思想は国権守衛論・国権拡張論、『経国美談』の政治思想は民権論と国権守衛論、『雪中梅』の政治思想は民権論であると整理できよう。

当時韓国の知識人たちの立場にとっては、国権拡張論は韓国の現実に適応しないのみならず、日本国権の拡張は韓国の独立を損なう帝国主義の思想に繋がる、認められないものであった。

さらに登場人物について『経国美談』の主人公は西洋の歴史人物である。『雪中梅』の主人公は日本人である。『佳人之奇遇』の主人公東海散士も日本人である。この点に対して、近代韓国の知識人が敏感に反応したようである。三作品の愛国主義の精神を肯定し、また民衆の愛國心の啓蒙・喚起のためそれを韓国に導入すべきだと認めるが、主人公は日本人であれば、つまり韓国を植民地支配しようとする帝国日本の志士であれば、受け入れ拒絶は当然であろう。

西洋人を主人公とする『経国美談』は、そのまま翻訳を通じて抵抗なく受容し、また『雪中梅』は、主人公が日本人であるが、日本自由民権運動の愛国青年・国野基と韓国独立協会運動の愛国青年李泰順には共通性が多く、主人公を韓国人に置き換えても違和感が少ない。しかし、『佳人之奇遇』の日本人主人公東海散士の敏感な政治思想（国権拡張論）と複雑な経歴（内戦参加・アメリカ留学・欧米視察など）、その翻訳と翻案の困難さが韓国で受容を躊躇させたのではないかと考えられる。

第2節 近代韓国の政治的状況と『佳人之奇遇』の不受容

本節は、『佳人之奇遇』で金玉均がどのように描かれており、またどのような対韓策が主張されているのかについて、開化期韓国国内の政治的状況と関連付けながら検討する。

1. 甲申政変後韓国政治の禁忌：『佳人之奇遇』で肯定的に描かれた金玉均像

甲申政変（1884年）の指導者金玉均は、『佳人之奇遇』巻十（1891年刊）と巻十六（1897年刊）で登場されている。金玉均は『佳人之奇遇』で朝鮮の愛国の志士と偉大な改革家として肯定的に登場している。米国留学から帰国した東海散士は、甲申政変に失敗して日本に亡命しに来たところの金玉均を訪れる。東海散士は、彼の「顔色憔悴形容枯槁形神共ニ

儼ルノ状視ルニ忍ビズ」¹金玉均に同情を寄せ、「成敗天ノミ人事何ゾ論ズルニ足ラン」²と金玉均を慰める。東海散士はさらに「僕モ亦亡國敗残ノ餘ナリ」、「足下（金玉均）ノ境遇ヲ悲シムト亦殊ニ深シ」³と、自身の苦難な閱歷を語りながら、金玉均の境遇に深い理解と共鳴を示し、「無限ノ志ヲ抱キ」、「春秋ニ富ミ前途遼遠ナリ」⁴、「義士」⁵、「年壯ニ氣鋭ク才智餘アリ」⁶、「卓磊ノ士」⁷、「縦横ノ才」、「敢為ニ勇ム」⁸など、賛美の言葉を寄せるのである。

また、二人の談話の場面では、主に金玉均が語り東海散士が聞くという形で展開される。金玉均の語る内容の分量は東海散士より遥かに多い。『佳人之奇遇』は、金玉均の立場を理解し、その政治的見解を十分に述べる自己弁護の場を提供したと言えよう。金玉均は、自身の経歴、甲申政変の経過、日本亡命後の心情、政治的理想について詳細に語るが、「國家ニ報シ死者ニ酬ユル丹心猶消磨セザル」⁹、「國家ノ前途ヲ思ヒ身世ノ逆境ヲ歎ジ覺エズ涕淚雨ノ如ク下ル」¹⁰、「僕感激死ヲ以テ國家ニ盡スベキヲ誓フ」¹¹など、特に自分の愛国心を語るのである。

日本亡命中の金玉均の活動について、東海散士は「（金玉均）日本ニ流寓シ交ヲ朝野ノ人士ニ結ビ故國ノ為ニ盡瘁スルノ念一日モ輟マス」¹²と好意的に述べている。後に金玉均が上海で暗殺された時（1894年）、東海散士は作中で大きな憤慨を示している。ついでながら中国語訳『佳人奇遇』は、ほとんど原作同様に上記の金玉均像を伝えている（『清議報』第31～33冊、1899年10月25日～12月23日）。

『佳人之奇遇』では、金玉均は愛国の志士として描写され、東海散士に同情され、理解され、尊敬され、称賛され、弁護され、支持されている。しかし、『佳人之奇遇』におけるこのような金玉均への肯定的評価は、甲申政変以後韓国国内における金玉均を巡る政治的状況（否定的な認識）とはかなり離れたものである。甲申政変（1884）以後の韓国国内では、金玉均が全面的に否定されていたからである。

金玉均ら開化派が起こした甲申政変では、閔氏政権と守旧派に連なる閔台鎬、閔泳穆、閔泳翊（重傷）、趙寧夏、柳在賢、李祖淵、韓圭稷、尹泰稷などの要人が殺害された。清軍の介入により甲申政変は失敗に終わり、開化派人士は「逆賊」とされ、再び権力を掌握

¹ 柴四朗著、『佳人之奇遇』五編・卷十、東京：博文堂、1891年12月、p29。

² 柴四朗著、『佳人之奇遇』五編・卷十、東京：博文堂、1891年12月、p30。

³ 柴四朗著、『佳人之奇遇』五編・卷十、東京：博文堂、1891年12月、p30、p31。

⁴ 柴四朗著、『佳人之奇遇』五編・卷十、東京：博文堂、1891年12月、p30。

⁵ 柴四朗著、『佳人之奇遇』五編・卷十、東京：博文堂、1891年12月、p31。

⁶ 柴四朗著、『佳人之奇遇』五編・卷十、東京：博文堂、1891年12月、p43。

⁷ 柴四朗著、『佳人之奇遇』八編・卷十六、東京：博文堂、1897年10月、p5。

⁸ 柴四朗著、『佳人之奇遇』八編・卷十六、東京：博文堂、1897年10月、p6。

⁹ 柴四朗著、『佳人之奇遇』五編・卷十、東京：博文堂、1891年12月、p30。

¹⁰ 柴四朗著、『佳人之奇遇』五編・卷十、東京：博文堂、1891年12月、p38。

¹¹ 柴四朗著、『佳人之奇遇』五編・卷十、東京：博文堂、1891年12月、p38。

¹² 柴四朗著、『佳人之奇遇』八編・卷十六、東京：博文堂、1897年10月、p5。

した閔氏政権と守旧派から残酷な反撃と復讐を受け、関係者のほとんどは処刑された。金玉均など極少数が海外に亡命したのである。

金玉均を始めとし、朴泳孝、洪英相、徐光範、徐載弼の五人は、当時の韓国政府に「五賊」と呼ばれ、閔氏政権と守旧派から敵視・封殺されたのみならず、魚允中ら清国主導の近代化を支持し閔氏政権と連携し漸進的な改革を主張する韓国国内の穏健開化派とも決裂するようになった。甲申政変を知った漢城民衆は、国王廃立の流言を聞き、続々と王宮に集結し、急進開化派に投石や暴行などを加えた。「開化派政権、民衆によって打倒されたのである。民衆の離反は、開化派政権崩壊の決定的要因であった」¹と言われた急進開化派には分裂崩壊の道しか残されていなかったのである。

1894 年、金玉均が上海で暗殺される。韓国に運ばれたその遺体には「謀反大逆不道罪人玉均」という木札が吊るされ、凌遲斬の極刑に処せられた。それだけでは許されずに、遺体は首・胴・手・足など六個に分断され、三日間曝された。さらに、首級は京畿道に、胴体は漢江に、四肢は各地方に捨てられたのである（1894 年 4 月 17 日）²。これほど死体に極刑を加えたことから、金玉均が韓国国内（主に閔氏政権と守旧派）でどれほど恨まれていたのかは想像できる。1894 年 12 月、甲午改革時に帰国した朴泳孝の提議により金玉均の「国賊」の罪名が取り消された以後でも、金玉均に対する否定的な評価は長い間大きく変わらなかった。

このように、甲申政変（1884）以後、韓国国内において、金玉均は「謀反大逆不道罪人」として、閔氏政権に恨まれ、守旧派に敵視され、穏健開化派に排斥され、民衆に嫌悪される極めて厳しい立場に置かれたのである。金玉均を巡ってこのような否定的な認識が主流となった韓国国内の政治的状況の下、『佳人之奇遇』における肯定的な「愛国の志士」としての金玉均の登場は受け入れられないのが当然と言えよう。

2. 日清戦争後韓国政治の禁忌：『佳人之奇遇』の帝国主義的な対韓策

『佳人之奇遇』の巻十（1891 年刊）と巻十六（1897 年刊）は、主に日本の帝国主義的朝鮮政策を書き記していると言えよう。

『佳人之奇遇』巻十では、中国の反清復明運動の志士范卿が東海散士に書簡を送り、日本の取るべき上中下三つの策を提案する。1885 年の始め頃で、清仏戦争（1883 年 12 月～1885 年 4 月）が終わる直前、朝鮮甲申政変（1884 年 12 月）が発生した直後の出来事である。この書簡で、作者の柴四朗は范卿の口を借りて、日本国権の東アジアへの拡張を主張しているのである。

¹ 趙景達、『近代朝鮮と日本』、東京：岩波書店、2012 年、p82。

² 琴秉洞、『金玉均と日本—その滞日の軌跡』、東京：緑蔭書房、1991 年、p813。

（上策）「貴国精兵……釜山ヲ占メ進テ東萊府〔釜山附近の地名〕ヲ徇ヘ鼓行シテ北ニ下リ……〔朝鮮の〕諸城市風ヲ望ミ戦ハズシテ潰エンノミ而シテ本軍直ニ仁川ヲ指シ京城ヲ搗キ……國王ヲ宮城ニ奉ジ士民ニ説クニ順逆利害ヲ以テシ能ク要害ノ山海ヲ扼シ長駐ヲ示シ猛艦ヲ艤シテ襲撃ニ備ヘ大ニ兵威ヲ示シ」¹

（中策）「兵艦ヲ以テ仁川京城ヲ封鎖シ……更ニ一隊ヲシテ大同河口ヲ遡リ平壤ヲ窺ヒ」²

（下策）「朝鮮ノ保護者トナリ強俄ヲ防ギ」³

簡単にまとめると、「上策」とは、朝鮮に出兵し、フランスと結盟し、清韓と談判して最大の利益を要求する、「費ス所小ニシテ獲ル所大ナラン」⁴の策である。「中策」とは、清国の沿海を騒擾しながら、直接清国本土の大沽・天津・北京を攻撃する「威名五洲ニ轟キ勇武四海ニ震ヒ……東洋盟主ノ実権ヲ握リ興亜ノ大計ヲ建ツル」⁵の策である。「下策」とは、清国と攻守同盟を結び、共同で朝鮮を保護し、西洋に対抗する策である。

ここで注意に値するのは、「上策」と「中策」はどちらも武力によって朝鮮を攻撃する策である。最も積極的に勧められているのは、朝鮮に出兵し、釜山で上陸する「上策」である。「下策」は消極的な参画と言える。「范卿はただ東海散士の傀儡であり、代弁者でもある」⁶ので、これには帝国主義的な対韓策が込められていると言えよう。

日清戦争以後に書かれた『佳人之奇遇』巻十六では、朝鮮の出来事が記されている。金玉均の暗殺（1894）、東学党の乱（1894）、日清戦争（1894～1895）、三国干渉（1895）、乙未事変（閔妃暗殺事件・1895）など、日清戦争前後の一連の事件について東海散士の立場から叙述されている。閔妃暗殺を指揮したとされる三浦梧楼（1847～1926）は、『佳人之奇遇』で「戎馬居士」という名で登場する。戎馬居士は在朝鮮国特命全権公使に任命される際、つぎのような三つの対韓策を日本政府に提案し、指示を求めた。

「征清ノ詔勅ニ則リ、朝鮮ヲ視テ同盟独立王國トナシ、我レ獨力其責ニ任シテ、其改革ト衛備トヲ負擔スヘキカ。將タ占領保護ノ雄心ヲ抑制シ、歐米列國中ノ公平ナルモノヲ撰ミ、之ト相謀リテ、共同保護ノ独立国タラシムヘキカ。抑我國一二強国ト早晚紛擾ヲ朝鮮

¹ 柴四朗著、『佳人之奇遇』五編・巻十、東京：博文堂、1891年12月、p20。

² 柴四朗著、『佳人之奇遇』五編・巻十、東京：博文堂、1891年12月、p21。

³ 柴四朗著、『佳人之奇遇』五編・巻十、東京：博文堂、1891年12月、p25。

⁴ 柴四朗著、『佳人之奇遇』五編・巻十、東京：博文堂、1891年12月、p24。

⁵ 柴四朗著、『佳人之奇遇』五編・巻十、東京：博文堂、1891年12月、p24。

⁶ 盧守助、「梁啓超訳『佳人之奇遇』及びその周辺」、『環日本海研究年報』（20）、2013年、p15。

ニ生スルヤ必セリ、是故ニ大難事ノ未タ紛起セサルニ、先テ今日之ヲ勇斷スヘキカ。」¹

これは、モデルの三浦梧楼が提案した三つの対韓策²とほぼ同じである。二番目の対韓策、西洋の公平な国と連携して朝鮮を共同保護の独立国にすることを提案する前に、「占領保護ノ雄心ヲ抑制シ」と強調している。この表現から、韓国を占領・支配する日本の野心は窺える。三番目の「大難事ノ未タ紛起セサルニ、先テ今日之ヲ勇斷ス」というのは、『佳人之奇遇』巻十六が刊行された1897年以降の読者には、閔妃を暗殺することを意味するとすぐ理解できたのであろう。戎馬居士（三浦梧楼）の対韓策に続いて、作品は閔妃暗殺の経過を述べるが、「後幾ナラス十月八日ノ変アリ」³、「夜未タ全ク明ケス大事既ニ定ル」⁴など、その描写は極めて簡略である。

「十月八日ノ変」とは、1895年10月8日の閔妃殺害事件を指す。この事件における東海散士の活動については全く述べられていない（恐らく作者が意識的に避けたことであろう）。しかし、「散士鶏林ニ入ル」⁵（鶏林は朝鮮を指す）という事件前の行動の記述と「散士廣陵ノ獄ニ繋カル陰房僅ニ数笏殆ト身ヲ横フニ過キス」⁶という事件後の広島入獄の記述は、東海散士も閔妃暗殺事件に関与したことを暗示していると考えられる。

実際、のちに公開された資料によると、作者柴四朗は、三浦梧楼の親友であり、閔妃暗殺事件前に在朝鮮公使三浦梧楼の顧問として共に韓国に派遣され、閔妃暗殺事件の計画、組織と執行に深く関与した中心人物の一人だったのである⁷。柴四朗は文中で自身の閔妃暗殺事件への関わりを薄めたが、当時の読者は小説の巻十六を読むと、「東海散士」即ち作者の事件への関与を容易に推知しただろうと考えられる。

『佳人之奇遇』巻十六では、「日本ノ武威将ニ八荒ニ震ハントス」⁸、「朝鮮素ヨリ自ラ之ヲ治ムル能ハス是故ニ日本暫ク代リテ之ヲ管領シ其経営ニ任スヘキ」⁹など、日本の帝国主義的拡張の野心を示し、また日本の韓国支配の正当性を主張する言説が散見する。『佳人之奇遇』は、韓国に対して露骨に帝国主義的な政策を推し進めることを書き記した政治小説であると言えよう。

韓国にとって、このような露骨な帝国主義的な政策は、自国の独立と国権を損なう、耐えがたいものである。韓国国内では、特に日清戦争以後、日本の干渉と支配の強化にと

¹ 柴四朗著、『佳人之奇遇』八編・巻十六、東京：博文堂、1897年10月、pp36～37。

² 外務省編、『日本外交文書』第28巻、日本国際聯合協会、1953年、p350。

³ 柴四朗著、『佳人之奇遇』八編・巻十六、東京：博文堂、1897年10月、p37。

⁴ 柴四朗著、『佳人之奇遇』八編・巻十六、東京：博文堂、1897年10月、p38。

⁵ 柴四朗著、『佳人之奇遇』八編・巻十六、東京：博文堂、1897年10月、p18。

⁶ 柴四朗著、『佳人之奇遇』八編・巻十六、東京：博文堂、1897年10月、p37。

⁷ この点に関する資料が多いが、例えば、1895年11月5日付、在朝鮮領事内田定槌（1865～1942）より西園寺外務大臣臨時代理宛「十月八日朝鮮王城事変ノ詳細報告ノ件」という文書では、「柴四郎ハ三浦公使ノ股肱トナリ総テノ計画ニ参与シ旁ラ壯士輩ノ操縦ニ従事シタルモノト認メラレ候」と明確に記載されている。外務省編、『日本外交文書』第28巻第1冊、日本国際聯合協会、1953年、p553。

⁸ 柴四朗著、『佳人之奇遇』八編・巻十六、東京：博文堂、1897年10月、p20。

⁹ 柴四朗著、『佳人之奇遇』八編・巻十六、東京：博文堂、1897年10月、p29。

もない、日本に対する警戒心が急速に強まり、「反日」の意識が益々高揚していく。

日清戦争期から、朝鮮王宮の占領（1894年7月）、臨時親日政権の樹立（1894年7月）、韓国の戦争支援を強要する日朝盟約の締結（1894年8月）、甲午改革の干渉（1894年）、「国母」閔妃の殺害（1895年10月）、日露戦争期の朝鮮占領（1904年2月）、戦争支援を強要する日韓議定書の締結（1904年2月）、韓国駐軍の編成（1904年3月）、日本人顧問を招聘させる第一次日韓協約の締結（1904年8月）、韓国の外交権を奪う第二次日韓協約（乙巳条約）の締結（1905年11月）、韓国統監府の設置（1906年2月）、韓国の司法・警察権を奪う第三次日韓協約の締結（1907年7月）、「治安法」（1907年7月）による治安維持の実行、「新聞紙法」（1907年7月）と「出版法」（1909年2月）による言論統制の実行、韓国軍隊の解散（1907年8月～9月）、東洋拓殖株式会社の設立（1908年12月）、日韓併合条約の締結（1910年8月22日）、朝鮮総督府の設置（1910年9月30日）など、日本は日清戦争・日露戦争・日韓併合を通して、韓国の清国離脱・保護国化・植民地化を急速に実現していくのである。

これに対して韓国国内では、閔妃のロシアへの接近（1895年）、「国母の復讐」をスローガンにした反日義兵の興起（1896年1月）、高宗の露館播遷（1896年2月）、大韓帝国の成立（1897年10月）、日露戦争期の親日官僚暗殺事件（1904年）、排日義挙通文事件（1904年）、民衆の日本軍用電線・鉄道破壊活動（1904年）、民衆の反日義兵運動の再起と全国化（1904年から）、名儒・重臣の抗日上疏（1905年）、国権回復運動の興起（1904年から）、知識人の愛国啓蒙運動の展開（1905年から）、大韓自強会の成立（1906年4月）、経済的独立を守ろうとする国債報償運動（1907年2月）、独立論者の組織・新民会の結成（1907年4月）、高宗の国際密使派遣（1907年）、韓国軍解散時の反乱戦闘（1907年8月）、安重根の初代韓国統監伊藤博文暗殺（1909年10月）など、国権守衛（独立）のための激しい反日（抗日）運動が様々な形で展開されていた。

このような当時の韓国社会では、『佳人之奇遇』の受容が困難なことは説明を要しないだろう。視点を変えて、なぜ、批判的に翻訳受容を行った梁啓超の中国語版『佳人奇遇』も、韓国に受容されなかったのであろうか。

『清議報』の連載には「日本東海散士前農商部侍郎柴四郎撰」¹と著者柴四郎の氏名が明確に表記されている。原作の帝国主義的な政治思想は薄められているものの、完全に削除されているわけではない。「朝鮮者原為中国之属国也」²など朝鮮を属国とする表現があり、朝鮮内政批判がそのまま訳出されており、加えて、金玉均の名前も登場している。このような中国語訳『佳人奇遇』は当然ながら韓国人に受け入れられなかったのである。

¹ 梁啓超訳、「佳人奇遇」、『清議報』第1冊、1898年12月23日、p1。

² 梁啓超著、林志鈞編、『飲冰室合集』第11冊（飲冰室專集之八十八～九十五）、北京：中華書局、1988年版、p220。

『佳人之奇遇』の近代中国における受容と近代韓国における不受容は、中韓近代知識人の考え方の相違を示していると考えられる。『佳人之奇遇』を最初に接した際、梁啓超ら中国維新派知識人と金玉均ら韓国開化派知識人は異なる反応を見せた。梁啓超は、『佳人之奇遇』との「奇遇」（1898 年）から大きな刺激と啓発を受け、政治小説の役割をすぐ認識し、それを政治改良・政治啓蒙の新しい手段と考え、その翻訳と導入を急いで進めた。金玉均は、『佳人之奇遇』と「奇遇」した時、梁啓超のような刺激を受けず、『佳人之奇遇』のような政治小説を導入・利用するという考えに至らなかった。また、中国では『佳人之奇遇』の愛国主義の側面が注目され、肯定的な認識が主流であった。韓国では『佳人之奇遇』の帝国主義の側面が注目され、否定的な認識が主流であった。

中国においては、梁啓超と『佳人之奇遇』の「奇遇」（1898 年）は、日本明治小説の中国受容の起点として、有力な口火のように、政治小説翻訳のブームを起こし、さらに間もなく 1903 年頃、清末民初期翻訳文学運動のピークを触発した。韓国においては、金玉均と『佳人之奇遇』の「奇遇」（1885 年）から約 20 年後の 1908 年頃、遂に開化期翻訳文学運動のピークを迎え、その発展が中国より比較的に遅延した。今まで学界でまだ指摘されていないが、中韓両国近代翻訳文学の初期段階（発生時期・展開状況など）の相違を考える際、『佳人之奇遇』の中国における受容と韓国における不受容というコントラストを念頭に入れる必要があるのではないかと考えられる。

第五部 『金色夜叉』における近代的恋愛物語の日中韓の段差

『金色夜叉』は、明治の文豪尾崎紅葉（1868～1903）の代表作で、1897年から1902年まで『読売新聞』に連載された家庭小説である。資本主義が急速に台頭する1890年代の日本社会を舞台に、金銭問題により別れた貫一と宮の悲恋を描いた作品である。1913年、『金色夜叉』は趙重桓（1884～1947）により『長恨夢』という題目で韓国語に翻案され、『毎日申報』に連載された。『長恨夢』は、韓国で日本同様の人気を博し、一躍「新文学」最初のベストセラーとなった。しかし近代中国では『金色夜叉』の翻訳も翻案もされなかった。『金色夜叉』に関する既存の研究は、主に日本国文学と日韓比較文学の視点から行われてきた。『金色夜叉』が近代中国に受容されなかったことについてはまだ研究されていない状況である。本部では、『金色夜叉』の近代韓国における受容と近代中国における不受容の様相について詳しく考察していく。

第1章 明治のベストセラー：尾崎紅葉の『金色夜叉』の大衆的人気

近代韓国と中国における受容・不受容の状況を考察する前に、まず日本原作である『金色夜叉』について検討したい。

第1節 文豪の大作『金色夜叉』の登場

1. 尾崎紅葉：硯友社の主将・総帥、明治の文豪

『金色夜叉』の作者である尾崎紅葉（1868～1903）は、日本の明治時代を代表する小説家の一人である。明治中後期の日本文壇において、幸田露伴（1867～1947）とともに「紅露時代」と呼ばれる時代を築き、「紅葉門下四天王」と呼ばれる泉鏡花（1873～1939）、徳田秋声（1872～1943）、小栗風葉（1875～1926）、柳川春葉（1877～1918）など多くの弟子を抱え、明治文壇のリーダー的存在であったと言えよう。

尾崎紅葉は、江戸（現・東京）に生まれ、本名は徳太郎、緑山・紅葉¹などの号を持つ。幼い頃、母の死後、祖父母の荒木家で養育され、1883年、東京大学予備門（のちの旧制第一高等学校）に入学。1885年2月、東大予備門の学友山田美妙や石橋思案らと明治における最初の文学結社である硯友社を結成し、同社の社主として文筆活動を開始。また「硯友社」の総帥として、同人・門弟の文学活動を支え、活躍の舞台作りをする。1885

¹ 「緑山」と「紅葉」という号は、作家が生まれた江戸の芝の三緑山と紅葉山に由来する。

年5月、硯友社の機関紙、日本初の純文芸雑誌である『我楽多文庫』を創刊し、処女作である『江嶋土産滑稽貝屏風』(1885)を発表。それに続いて『風流京人形』(1888)、『二人比丘尼色懺悔』(1889)などの作品を『我楽多文庫』に掲載。1888年、尾崎紅葉は帝国大学政治科に入学、翌年に国文科に転科。1889年、読売新聞社に専門の小説家として入社。翌年、帝国大学を退学し文学に専念することになる。その後、『新色懺悔』(1890)、『伽羅枕』(1890)、『紅鹿子』(1890)、『鬼桃太郎』(1891)、『二人女房』(1891-1892)、『三人妻』(1892)、『心の闇』(1893)、『多情多恨』(1896)など作品を多数発表した。1897年から、『金色夜叉』の連載を開始、空前の名声を得るが、1903年、連載中に胃癌に倒れ、35歳の若さで生涯を終えた¹。『金色夜叉』は未完の長編小説となったのである。

英語力に優れていた尾崎紅葉は、西洋文学の翻訳にも力を注いだ。『夏小袖』(1892)、『俠男児』(1893)、『不言不語』(1895)、『寒牡丹』(1900)、『鐘楼守』(1903)などの翻訳小説の業績があることを付け加えておく²。

2. 紅葉文学の集大成『金色夜叉』：貫一とお宮の悲恋

『金色夜叉』は、1897年から1902年まで『読売新聞』に断続して連載された新聞連載小説である。尾崎紅葉が最晩年の歳月を費やして不治の病と戦いながら創作したこの作品について、福田清人は「彼の文学の最後の集大成を示したもの」³であると評価している。また加藤周一も『日本文学史序説(下)』で「その(尾崎紅葉)作品のなかで、最大の成功を収めたのが、「読売新聞」に連載した『金色夜叉』(1897～1902)である」⁴と述べている。

作品の背景は、日清戦争(1894～1895)後、資本主義が急速に上昇した日本社会である。舞台は東京および近隣地域である。主要な登場人物は、主人公の鳴沢宮と間貫一その他、資本家・富山唯継、高利貸・鰐淵直行、女高利貸・赤檉満枝、学友・荒尾譲介、芸妓・お静(愛子)などである。ヒロインの宮が婚約者の貫一を裏切り、資本家の富山と結婚することによって愛憎の葛藤が繰り広げられる物語である。

若年のころ親をなくした少年間貫一は、父から恩を受けたことがある鳴沢隆三家に引き取られ育てられ、高等中学生となる。金銭欲がないが立派な人柄で鳴沢家に認められる。鳴沢家の一人娘、明治音楽院の女学生お宮と愛し合い、二人は許婚する。しかし、美しい

¹ 尾崎紅葉の生涯と作品については、木谷喜美枝、「尾崎紅葉年譜」、『明治の古典2・尾崎紅葉 金色夜叉』、東京：学習研究社、1981年12月、pp178～179を参照した。

² 尾崎紅葉の翻訳文学の業績については、酒井美紀、『尾崎紅葉と翻案：その方法から読み解く「近代」の具現と限界』、福岡：花書院、2010年3月、pp31～34を参照。

³ 福田清人、「解題」、『明治文学全集(18) 尾崎紅葉集』、東京：筑摩書房、1965年、p413。

⁴ 加藤周一、『日本文学史序説(下)』、東京：筑摩書房、1980年、p338。

お宮は、カルタ会で銀行家の息子富山唯継に見初められ、求婚されてしまう。お宮は、自分の金力を見せつける富山に目が眩み、貫一を裏切って富山に嫁ぐと決める。夜の熱海の海岸で、貫一はお宮をなじり、翻意を乞うが、お宮の富山と結婚する決意は変わらない。それに激怒した貫一は、お宮を蹴り飛ばし（前編第8章、名場面である）、二人は泣き別れる。

その後、二人の運命は狂い出す。失恋の打撃を受けた貫一は、自暴自棄になり、学業の道を捨て、高利貸しの鰐淵直行の手代（係長・主任の古称）となって働く。善良な青年は冷酷な「金色夜叉」（金銭の悪魔）と堕してしまふ。同業の赤檜満枝からの繰り返される求愛行為にも目もくれない。心を失った貫一は、高利貸でお金を儲けたものの、その財産に救われず、精神的な苦悶を味わい続け、幸福とは無縁に暮らしている。一方、お宮は、富豪の富山と結婚した後、富裕な生活を手に入れられたものの、夫を愛せず、せっかく産んだ子に死に別れ、苦しい日々を送っている。お宮は、貫一を忘れられない自分の気持ちに気づき、後悔に苛まれる。

数年後、貫一とお宮は偶然に再会する。お宮は許しを乞う手紙を書きつづるが、貫一に無視される。お宮は貫一の家まで訪れて罪をわびるが、貫一は無言で立ち去る。だが、ある夜、貫一は自分の許しを得られない宮が自殺した悪夢を見て衝撃を受ける。気分転換に塩原に行った貫一は、そこで情死しようとしていた芸妓お静らの純愛に感動する。学友荒尾譲介の忠告をも受け入れる。このようにさまざまな体験を経て、貫一の心によりやくお宮への同情が芽生え、お宮の懺悔の手紙を読むようになる。

しかし、貫一がお宮を許すべきかどうかを悩むところで、尾崎紅葉の病状悪化と逝去のため、物語は未完に終わる。

3. 『金色夜叉』の主題：「愛」の重要性和「金」の虚無性の力説

尾崎紅葉は、『金色夜叉』の創作意図について下記のように説明している。

凡そ人世には二つの大なる POWER があつて、社会の結合を保って居る。それは何だといふと、即ち愛と黄金だ。ところが僕の考では、黄金の勢力は単に MOMENT-TARY があつて、縦令如何其の力が強烈でも、とても永久に其の勢力を保存して行く訳にはいかぬ。ところがそれに反対で、愛は永久不変に人生を支配して居ると思ふ。即ち人生を極めて密着に結合させて行くのが愛である。そこを書いて見たいと思つて、この篇を草したのである。¹

この説明からわかるように、『金色夜叉』を書く際、尾崎紅葉は、「永久不変に人生を

¹ 尾崎紅葉、「金色夜叉上中下合評」、『紅葉全集（10）』、東京：岩波書店、1994年、p317。

支配して居る」ところの「愛」の価値を表したいという明確な目的を持っていた。そのために、「愛」をその対極にある「金」との激しい衝突・競争関係において、「金」の限界を見せて「金」を批判したうえで、「愛」の価値を力説して「愛」を謳歌する方法をとったと思える。

『金色夜叉』の名場面である熱海の海岸では、貫一は富山唯継に嫁ぐと決めたお宮に、次のように誠意を込めて忠告している。

「それは無論金力の點では、僕と富山とは比較にはならない。彼方は屈指の財産家、僕は固より一介の書生だ。けれども善く宮さん考へて御覧、ねえ、人間の幸福ばかりは決して財で買へるものぢやないよ、幸福と財とは全く別物だよ。人の幸福の第一は家内の平和だ、家内の平和は何か、夫婦が互いに深く愛すると云ふ外は無い。お前を深く愛する點では、富山如きが百人寄つても到底僕の十分の一だけでも愛することは出来まい、富山が財産で誇るなら、僕は彼等の夢想することも出来ん此の愛情で争つて見せる。夫婦の幸福は全くこの愛情の力、愛情が無ければ既に夫婦は無いのだ。」¹

このように、尾崎紅葉は、作中人物の口を借りて、「人間の幸福」における「夫婦が互いに深く愛すること」の重要性、「夫婦の幸福」における「愛情の力」の必要性、即ち著者自身の「愛」の理念を強調しているのは明らかである。

しかし、物語は、お宮が貫一の忠告をすぐ悟ることはなく、富山と結婚した後、自分の選択を懺悔し、貫一の精神的荒廃にも強烈な罪悪感を持つように設定されている。佐伯順子が指摘したように、『金色夜叉』は「宮の激しい後悔と貫一の傷ついた姿を執拗に描くことによって、ひたすら夫婦間の「愛」の重要性を訴えてゆく」²のである。このように「愛」と無関係の結婚の苦しさの揭示を通じて、夫婦間の愛情に基づく結婚の重要性を表すことは、読者の印象を深くし、説得力も持つと思われる。『金色夜叉』は未完ではあるが、「愛」の大切さを力説することに成功した作品といえるであろう。

『金色夜叉』は、「愛」に焦点を当てて扱っている点で特徴的である。「愛」という言葉は、作中に100回以上も出現している。「愛しているか否か」「本当の愛かどうか」といった問題意識は、明治になってから生じた近代的な考え方であると言える。坪内逍遙が『当世書生気質』(1885～1886)にて初めて「love」を「愛」に翻訳した後³、「愛」という表現と意識は日本文学と日本語に浸透し始めた。しかし、『金色夜叉』までは、「愛」という表現を明確かつ頻繁に使用し、「愛」という主題を正面で打ち出す作品は殆どなかった。『金色夜叉』は日本文学と日本語における近代的「愛」の定着に大きな役割を果たしたと

¹ 尾崎紅葉、『金色夜叉』(前編)、東京：春陽堂、1898年7月6日(初版)、pp150—151。

² 佐伯順子、『「色」と「愛」の比較文化史』、東京：岩波書店、2010年、p62。

³ 坪内逍遙、『当世書生気質』、晩青堂、1885～1886年。「余ツ程君をラブ(愛)して居るぞウ。」

言える。『金色夜叉』で表されている「愛」の新しい感覚と理念は、明治期の日本読者に新鮮な感動を与え、また広く共感を得られた。この意味で、人気作『金色夜叉』の登場は、日本近代文学における近代的「愛」の本格的な浮上でもあったといえる。

『金色夜叉』は、「愛」の強調、自我意識の強調、金と愛の衝突、三角関係の設定などの点において、近代的な恋愛物語であると言えよう。

第2節 近代日本における『金色夜叉』の大衆的成功

『金色夜叉』は、「明治の文学作品としてもっとも広く大衆読者に親しまれた長編であることはいうまでもない」¹。この作品は発表後、日本国内でさまざまなジャンルで取り扱われるようになった。

1. 連載時の盛況：読者たちの熱狂

『金色夜叉』は新聞小説として出発した。1897年1月から1902年5月まで『読売新聞』に断続して連載されたのである。その詳細な連載期間と連載回数は、以下のようである²。

『読売新聞』、1897年1月1日～2月23日、32回

『読売新聞』、1897年9月5日～11月6日、52回

『読売新聞』、1898年1月14日～4月1日、49回

『読売新聞』、1899年1月1日～5月28日、38回

『読売新聞』、1900年12月4日～1901年4月8日、51回

『読売新聞』、1902年4月1日～5月11日、14回

1902年夏、尾崎紅葉は読売新聞社を退社し、1903年1月から3月まで、「新続金色夜叉」を『新小説』に14回再掲したことがあったが、3月に病状が急速に悪化して入院したため（同年10月逝去）、続稿が中絶した。作者の病患と逝去により『金色夜叉』は未完に終わったのである。

『金色夜叉』は、『読売新聞』に連載されていた当時から、爆発的な人気を呼んだ。連載が6年間（1897～1903）にも渡って続いたのは、読者たちの熱烈な支持を受け続けた結果である。その人気は「老若男女、桃割（筆者注：町人の髪型）の娘も、鼈甲縁の目金かけた隠居も、読売新聞の朝の配達を、先を争って耽読、愛誦した」³だけではなく、「お宮、

¹ 三宅正太郎、「『金色夜叉』を描いた画家たち」、『明治の古典』月報4、東京：学習研究社、1981年12月、p1。

² 慎根緯、『日韓近代小説の比較研究—鉄腸・紅葉・盧花と翻案小説』、東京：明治書院、2006年、p116。

³ 泉鏡花、「小解」、『明治大正文学全集第五巻尾崎紅葉編』、東京：春陽堂、1927年、p3。

貫一に完全に魅了された読者からは盛んに新聞社へ投書が舞い込む」¹ほどであった。読者の投書は、小説の読後感から、ストーリーの推測、作家近況への関心、続稿の催促まで、数々あった。

当時、『金色夜叉』はしばしば「本日休載」で連載中断したのであるが、それに対して不満を持つ読者も多かった。例えば、読者から「楽しみは『金色夜叉』だが最近少しも出ない」、「首を長くして待っている。せめて隔日掲載を」、「連載遅れ感心しません」といった投書が寄せられた²。「明日「金色夜叉」が載らなければ、読売新聞の購読を止す」と新聞社に抗議する読者も出てきたので、「新聞社の方では慌てて作者に宛てて、「ゲンコウハヤクオクレ（筆者注：原稿早く送れ）」と云ふ電報を打って催促」³したこともあると伝えられている。また、『読売新聞』の当時主筆であった高田早苗（のち早大総長）自身が「人力車に乗って牛込横寺町の紅葉山人を訪ねて、途えがちな原稿を督促した」⁴こともあったという。いずれも、『金色夜叉』が如何に当時の読者の心をつかんでいたかを示す挿話である。

『金色夜叉』の連載の成功は、『読売新聞』の購読者を大幅に増加させ、『読売新聞』を日本の最もよく売れる新聞に上昇させた。読売新聞社は「1897年（明治30年）1月1日尾崎紅葉が「金色夜叉」の連載を開始」を、「1874年（明治7年）11月2日読売新聞を創刊」に次いで、同社歴史上における二番目の大事件として「読売新聞歴史年表」⁵に記していることから『読売新聞』にとっての『金色夜叉』連載の意義の重要さが窺われる。

1903年、文豪の早逝に対して、当時の読者は大きな衝撃を受けた。それによる『金色夜叉』の未完は、読者に大きな失望と永遠の遺憾と想像の空間を残した。作家の突然な死去と作品が未完になったことはさらに大きな話題となり、『金色夜叉』の流行を加速させたといえよう。

2. 単行本の刊行：繰り返される重版

連載期間中から、『金色夜叉』の単行本が、東京の春陽堂より6巻に分けて陸續と刊行された。各巻の刊行年代は以下のものである。

『金色夜叉（前編）』、東京 春陽堂、1898年7月6日

『金色夜叉（中編）』、東京 春陽堂、1899年1月1日

¹ 小島政二郎、「解説」、尾崎紅葉著『金色夜叉』（下巻）、東京：新潮社、1966年（17刷）、p204。

² 『読売新聞』、1901年4月16日。

³ 小島政二郎、「解説」、尾崎紅葉著『金色夜叉』（下巻）、東京：新潮社、1966年（17刷）、p204。

⁴ 三宅正太郎、「『金色夜叉』を描いた画家たち」、『明治の古典』月報4、東京：学習研究社、1981年12月、p1

⁵ 趙海濤・王玉華、「尾崎紅葉未完作『金色夜叉』の經典化考述—以被続写和報刊連載為視角」、『江西科技學院學報』第11卷第3期、2016年9月、p67。

『金色夜叉（後編）』、東京 春陽堂、1900 年 1 月 1 日

『金色夜叉（続編）』、東京 春陽堂、1902 年 4 月 27 日

『金色夜叉（続々）』、東京 春陽堂、1903 年 6 月 12 日

『金色夜叉（新続）』、東京 春陽堂、1903 年 6 月 12 日

以上各巻は刊行後、それぞれ数回重版された。例えば、『金色夜叉（前編）』（1898 年 7 月初版）は、1901 年 4 月に 4 版が印刷発行された¹。『金色夜叉（中編）』（1899 年 1 月初版）は、1899 年 5 月に 2 版、1900 年 5 月に 3 版が印刷発行された²。『（新続）金色夜叉』（1903 年 6 月初版）は、1905 年 7 月に 7 版が印刷発行された³。春陽堂は、各巻をまとめ、『合本 金色夜叉』も発行し、1909 年に 9 版を重ねている。

『金色夜叉』は、尾崎紅葉の没後の作品集にも収録されて刊行された。1904 年 12 月、『金色夜叉』単行本各巻は、『紅葉全集』第六巻に一括所収され、博文館より出版された（1912 年に再版）。1910 年 4 月、『金色夜叉』（前編～新続編）は、『紅葉集』第四巻に収録され、春陽堂より出版された。

『金色夜叉』の単行本は、明治後期に再版を繰り返したのみならず、大正期に入っても幅広く読まれた。1915 年に春陽堂より出版された『縮刷 金色夜叉』は、1918 年 10 月に 25 版、1920 年 5 月に 45 版⁴を重ね、その人気は衰えることがなかった。

また、尾崎紅葉の没後、『金色夜叉』の続編の創作が行われている。小栗風葉作『終編 金色夜叉』（新潮社・1909 年）、桃葉散史作『新金色夜叉』（大学館・1910 年）、長田幹彦作『続金色夜叉』（春陽堂・1918 年）と『金色夜叉終編』（春陽堂・1920 年）など、『金色夜叉』の周辺作品が多数出版されている。

3. 演劇化の推進：日本全土への拡散

尾崎紅葉の『金色夜叉』は発表後、すぐ新派劇団によって演劇化された。井上理恵氏の考証によると、『金色夜叉』の上演は、1898 年から 1905 年まで（無論 1905 年後も上演され続ける）、7 回も行われた⁵。その劇化の詳細な過程は、次のようである。

連載開始の翌年 1898 年 3 月 25 日～4 月中旬、新派劇の創始者である川上音二郎の劇団が東京の劇場市村座で『金色夜叉』を初演した⁶。小説の約四分の一、貫一が闇討されるところまでを舞台に上げたのである。1899 年 11 月に大阪梅田歌舞伎で上演された（第 2

¹ 尾崎徳太郎、『金色夜叉（前編）』、東京：春陽堂、1901 年 4 月（4 版）、奥付。

² 尾崎徳太郎、『金色夜叉（中編）』、東京：春陽堂、1900 年 5 月（3 版）、奥付。

³ 尾崎徳太郎、『新続金色夜叉』、東京：春陽堂、1905 年 7 月（7 版）、奥付。

⁴ 尾崎徳太郎、『縮刷 金色夜叉』、東京：春陽堂、1920 年 5 月（45 刷）、奥付。

⁵ 井上理恵、「川上音二郎の「金色夜叉」初演と海外巡業」、『演劇学論集』（45）、2007 年。

⁶ 「梨園叢話・市村座」、『都新聞』、1898 年 3 月 25 日。

回)。1902年には中野信近の一座が浅草宮戸座で上演した（第3回）。1902年6月には大阪道頓堀朝日座で上演された（第4回）。1903年6月、川上音二郎の一座が東京座で上演した（第5回）。1905年6月、真砂座で上演された（第6回）。翌月の7月、本郷座で上演された（第7回）。『金色夜叉』は、新演劇の主要な演目へと定着し、何度も再演されたのである。

『金色夜叉』は東京や大阪で上演されたのみならず、地方へも伝わり、日本全土を風靡した。「当時の劇団状況というものは、東京の主流となっている新派劇団で受け、評判をとったものは、地方の劇団などでもすぐに上演したので、またたく間に日本全国にひろまった」¹のであるが、『金色夜叉』はその最も代表的な事例に当たるといえる。「新演劇のめぼしい俳優たちは全て「金色夜叉」の舞台に立ち」²、『金色夜叉』は、日本全土にわたって盛んに上演されたのである。

4. 『金色夜叉』の絵、歌謡、映画

『読売新聞』連載時に偶に挿絵が挿入されていた『金色夜叉』は、当然ながら挿絵、口絵、絵看板、画譜、絵巻などで取り扱われるようになった。1898年～1903年、春陽堂より刊行された単行本初版本では、画家武内桂舟と川村清雄が各巻の口絵を分担した。1905年、『金色夜叉』が本郷座で上演された際、画家鏑木清方により描かれた『金色夜叉』の絵看板が評判を呼ぶ。1911年、画家太田三郎・川端龍子・名取春仙三名の『金色夜叉画譜』（上下巻）が博文館より行された。1912年、画家鏑木清方の『金色夜叉絵巻』が春陽堂より出版された（1月に初版、2月に再版）。1915年、春陽堂は『縮刷 金色夜叉』を発行し、中沢弘光など数名の画家に挿絵を担当させた。また、『金色夜叉』にちなんだ絵は、近代日本の新聞や雑誌にも散見される³。

三宅正太郎は、「『金色夜叉』の新聞挿絵、雑誌口絵、単行本挿絵などを描いた画家は十指に余る。順不同に挙げると、武内桂舟、橋口五葉、梶田半古、鏑木清方、山中古洞、名取春仙、鰭崎英朋、池田蕉園、川端龍子、川村清雄、太田三郎、竹久夢二、中沢弘光、河野通勢、伊東深水などであるが、一人の作家の一編の小説が、これほど多数の画家を動員した例は他にあるまい」⁴と述べている。その理由は、読者が「紅葉山人の金色夜叉に

¹ 柳永二郎、「『金色夜叉』上演のあれこれ」、『明治の古典』月報4、東京：学習研究社、1981年12月、p6。

² 井上理恵、「川上音二郎の「金色夜叉」初演と海外巡業」、『演劇学論集』（45）、2007年、p104。

³ その中に最も有名なのは、雑誌『婦人倶楽部』の口絵として描かれた、鏑木清方の苦心の力作「鳴沢宮の像」であった。

⁴ 三宅正太郎、「『金色夜叉』を描いた画家たち」、『明治の古典』月報4、東京：学習研究社、1981年12月、p1

挿画が欲しい」¹と要望していた一方、画家たち自身も『金色夜叉』に魅了されたからであろう。登場人物たちの肖像や作中の名場面など、多数の画家により写實的に描かれたので、一般大衆は小説により深い印象を持ったのである。

『金色夜叉』の歌謡曲も現れた。1909年、「金色夜叉の歌」が演歌師の添田唾蟬坊によって作られ、流行した。また、1918年、演歌師の後藤紫雲と宮島郁芳も、『金色夜叉』の歌を作り、これまた人気を博した。「熱海の海岸を散歩する貫一お宮の二人連れ」といった歌詞が巷に大流行し、大衆が好んで口に端に載せることとなったのである。

『金色夜叉』は、1912年に、京都の横田商会によって初めて映画化された。同年(1912)に吉沢商店、1918年と1921年に日活向島撮影所も『金色夜叉』の映画を製作した²。

以上述べてきたように、『金色夜叉』は、1897年連載当時から1900年代、1910年代にかけて、新聞連載小説を出発点とし、単行本、演劇、絵、歌謡、映画など多様なジャンルが一体となって爆発的に流布し、日本社会において大歓迎され、長期間大衆的人気を得ていたのである。この時期、日本に来ていた数多くの韓国人留学生と中国人留学生は、このような『金色夜叉』の大衆的人気と幅広い影響のもとにあったのである。

第2章 感涙の名作の成立：趙重桓の韓国語翻案『長恨夢』の成功

『金色夜叉』は、1913年、趙重桓の手によって『長恨夢』という題目で翻案され、近代韓国に受容された。本章は、『金色夜叉』がどのように韓国に翻案受容されたのかについて検討する。

第1節 翻案者趙重桓の業績と翻案作『長恨夢』の内容

1. 趙重桓：韓国初の専門翻案作家、明治家庭小説の受容の主導者

趙重桓(1884～1947)は、韓国近代の小説家、翻訳・翻案小説家、演劇人、映画人、ジャーナリストである。1884年漢城(現・ソウル)に生まれ、号は「一斎」。開化派権門世族出身。1900年～1903年、当時代表的な私立日本語学校である京城学堂で修学し、日本語を習得した。1904年～1906年、京城学堂教授、支度部臨時通訳官、官立漢城日語学

¹ 小森陽一・紅野謙介・高橋修編、『メディア・表象・イデオロギー：明治三十年代の文化研究』、東京：小沢書店、2010年、p167。

² 1920年代以降も、『金色夜叉』の映画が盛んに製作され続けた。1950年代以降、ドラマ化にもされてきた。

校副教官などを歴任した。1907年～1910年、東京の日本大学に留学していた。1910年に卒業・帰国し、毎日申報社に入社した。1910年代唯一の韓国語中央日刊紙である『毎日申報』の記者として働くかたわら翻訳・翻案小説家として活躍開始。1912年3月、尹白男とともに劇団文秀星を創立した。同年8月、単行本翻訳小説『不如帰』（徳富蘆花原作）を刊行。『双玉涙』（1912～1913）、『長恨夢』（1913）、『菊斗香』（1913）、『断腸録』（1914）、『飛鳳潭』（1914）など、日本作品をもとに多数の翻案小説を発表し、『毎日申報』の小説連載欄を独占する。1915年～1917年、『毎日申報』の軟派（社会・文化部門）の主任となり、社説を担当する。1918年、毎日申報社を退社した。1920年～1921年、創作小説『観音像』を発表した。1922年～1924年、民衆劇団の翻訳劇の台本翻訳と脚色を担当する。1925年～1927年、鶏林映画協会の創立に参加し映画製作活動を展開する。その後、『金尺의 꿈』（1934～1935）、『安東義妓』『冬至使秘話』（1939～1940）などの創作小説を『毎日申報』に発表。1947年、韓国臨時政府機関紙である『独立新聞』の主筆に赴任し、同年に宿病で逝去¹。趙重桓は、このように多様な分野で活躍し、韓国近代文学草創期の外国文学受容、演劇、映画の初期発展に貢献した作家と言える。

次に、日本との関わりを中心に検討してみよう。趙重桓は、当時「韓日両国の小説界と演劇界の現況に関してなら」「誰よりも速くて幅広い通路を確保していた」²とされるほど日本との関わりが深い作家であった。特に青年時代の趙重桓は、日本語学習と日本留学を通して、明治日本の大衆文芸（家庭小説、新派劇など）の影響を多く受けたと思われる。

当時京城学堂の学生の多くは日本文芸に関心を持ち、卒業後に日本に留学し、帰国後に文芸界に進出する潮流があったので³、日本留学に行く前の趙重桓は、このような学堂の雰囲気のもと、既に日本文学に関心を持っていた。本人は、青年時代に日本作家菊池幽芳の小説『己が罪』（1889～1900）に接触した経緯と感想を次のように回顧している。

「『己が罪』は私にとって本当に印象深い作品だった。それは私が十五、六歳頃のある日、ある友達が訪ねてきて、この小説の話面白く聞かせてくれた。私はその話に感觸を受けた。その後、再び四、五年が過ぎた頃、その原本を入手し、私は読んでみた。話を聞いた時よりもっと深い印象を受けた。」⁴（筆者意識）

¹ 趙重桓の生涯の概観については、朴珍英編、「一齋趙重桓年譜」、『長恨夢』、서울:現實文化、2007年、pp547～555を参照した。

² 朴珍英、『翻譯과 翻案의 時代』、서울: 昭明出版、2011年、pp304～305。原文:「한일 양국의 소설계와 연극계 현황에 관해서라면 조중환이야말로 누구보다도 빠르고 광범위한 통로를 확보하고 있었다.」

³ 安鍾和、『新劇史 이야기』、서울:進文社、1955年、p23。

⁴ 趙一齋、「『長恨夢』과 『雙玉涙』」、『三千里』第6巻第9號、1934年9月、p236。原文:「『己が罪』는 내게 잊어서는 참으로 인상 깊은 作品이었다. 그것은 내가 15,6歲 되었을 때 하로는 었던 친구가 나를 차져 와서 이 소설 이야기를 구수하게 하여 들려 주었다. 나는 그 이야기에 껴나 感觸을 받았다. 그런 뒤 다시 4,5年이 지난 뒤 그 原冊을 어디다가 나는 읽어 보았다. 이야기가 들던

趙重桓が「十五、六歳頃」は 1899 年～1900 年、「再び四、五年が過ぎた頃」は 1903 年～1904 年、それぞれ京城学堂入学前後と卒業前後のことであり、まだ日本留学に行く前であった。ここから、留学前の趙重桓はすでに日本文芸に関心を持っていたことがわかる。

趙重桓の日本留学時代（1907～1910）は、日本ではちょうど新派劇の最盛期を迎えた時期であった。当時の日本では、前節で述べたように、新派劇の主要な演目として『金色夜叉』が盛んに上演され、「『今月今夜のこの月』の名セリフ」が「巷に大流行し、特に学生たちが好んで口の端に載せた」¹時であった。また『金色夜叉』の連載が終わっていたが、単行本の重版、周辺作の出版、流行歌の製作などが盛んに行われていたので、『金色夜叉』が依然として日本社会における大きな話題であった。『金色夜叉』の盛況は、日本留学中の趙重桓に影響を与えたと考えられる。

趙重桓は、日韓併合の 1910 年頃、日本留学を終えて帰国し、唯一の韓国語中央日刊紙『毎日申報』社に入社して文学作品発表の空間を確保した。そして日本家庭小説の翻訳や翻案に着手し、『不如歸』（1912）、『雙玉淚』（1912～1913）、『長恨夢』（1913）、『菊의 香』（1913）、『斷腸錄』（1914）、『飛鳳潭』（1914）など続々と発表していった。そのうち、『不如歸』のみが翻訳小説で、他は全部翻案小説であった。趙重桓は近代韓国の「最初の専門翻案作家とベストセラー作家」²と評価されている。趙重桓の多数の翻案作品の中において、『金色夜叉』を翻案した『長恨夢』（1913 年）は、大衆的に最も人気を得た作品である。

2. 『長恨夢』翻案の動機（「精神的食糧」を）と原則（「朝鮮のもの」へ）

『長恨夢』は、1913 年 5 月 13 日から 10 月 1 日まで『毎日申報』に連載された。翻案として当時の朝鮮の人々に読まれたわけである。翻案の動機について、趙重桓は、『長恨夢』と『雙玉淚』（1934）という回想録で、次のように回顧している。

私が明治の文豪尾崎紅葉の『金色夜叉』を「長恨夢」という名前で翻案し出したことは、己未（1919 年）前だったので、もう二十年あまりの歳月がその間を過ぎた。あの時、私は 27 歳だった。今なら、20 歳となると朝鮮の青年は先輩の創作と翻訳を通じて小説と詩など

때보다 더한 김혼 印象을 받았다. 그 뒤에 나는 생각하였다. 朝鮮青年男女의 精神的糧食을 주기 爲 하야 이 小説을 「조선 것」으로 옮겨 노아야 할 날이 오리라고.

¹ 柳永二郎、『『金色夜叉』上演のあれこれ』、『明治の古典』月報 4、東京：学習研究社、1981 年 12 月、p7。

² 朴珍英、「一齋 趙重桓과 翻案小説의 時代」、『民族文學史研究』(26)、2004 年、p200。原文：「최초의 전문 번역 작가이자 베스트셀러 작가」

文芸的教養を容易く納め得ることができるが、二十四、五年前、私が青年だった頃には、一片の小説、一篇の詩を求め接することは実に難しかった。(略) その後、私は思った。朝鮮の青年男女の精神的糧食を与えるため、この小説を「朝鮮のもの」に置き換えなければならない日が来るだろうと。それで、最後まで私の手でこれを完成させたわけである。¹ (筆者意識)

趙重桓は 1910 年代の「朝鮮の青年男女」に、「文芸的教養」と「精神的糧食」を提供するため、『長恨夢』と『雙玉淚』を翻案したと述べている。これは、この二作品を出発点とする 1910 年代の趙重桓の一連の翻案小説に一貫している意図であったと言える。『金色夜叉』を「朝鮮の青年男女」の「文芸的教養」と「精神的糧食」に充当するのに非常に相応しい作品とするために、タイトルを『長恨夢』と改め、その内容も「朝鮮のもの」に置き換えたのである。翻案の原則と方法について、趙重桓は次のように明確に規定している。

『長恨夢』を翻案することについて最も重要な私の意見は

- 1 事件に出てくる背景などを純朝鮮の雰囲気が出るようにすること.
- 2 人物の氏名も朝鮮人の氏名に改めること.
- 3 プロットを過度に傷つけない程度に文章と会話を自由にすること.

この三つであった。」² (筆者意識)

趙重桓があげた上記の翻案の原則は、原作の基本的骨格には従うものの、他の要素を朝鮮風に変更するところにある。

まずは物語の背景の朝鮮風の改変である。例えば、明治中後期の東京とその近隣地域から、植民地時代初期の朝鮮の平壤とその近隣地域に置き換えている。また遊びなど、冒

¹ 趙一齋、「長恨夢」과 「雙玉淚」、『三千里』第 6 卷第 9 號、1934 年 9 月、p234. 原文: 「내가 明治文豪 尾崎紅葉의 「金色夜叉」를 長恨夢이란 일함으로 변안하여 낸 것이 그것이 己未前이었스니 벌써 20 餘年の 歲月이 그사이를 흘렀다. 그때 내 나이 스물일곱살이다. 지금 갓흐면 20 歲만 되어도 朝鮮青年도 先輩의 創作과 翻譯을 通하여 小説과 詩 等 文藝的 教養을 쉽사리 어더 가실 수 있섯지만은, 24,5 年前, 우리가 青年일 때에는 한 조각의 小説, 한 篇의 詩歌를 어더 보기가 참으로 어려웠다.(中略) 그 뒤에 나는 생각하였다. 朝鮮青年男女의 精神的 糧食을 주기 爲하여 이 小説을 「조선 것」으로 옮겨 노아야 할 날이 오리라고. 그래서 곳곳내 내 손으로 이것을 成就하여 노흔 터이다.」

² 趙一齋、「長恨夢」과 「雙玉淚」、『三千里』第 6 卷第 9 號、1934 年 9 月、p234.

原文: 「長恨夢」을 翻案함에 잇서 가장 重要的 내 意見은

- 1 事件에 나오는 背景 等を 純朝鮮냄새 나게 할 것.
 - 2 人物의 일함도 朝鮮사람 일함으로 改作할 것.
 - 3 푸릇을 過히 傷하지안을 程度로 文彩와 會話を 自由롭게 할 것.
- 이 세가지였다.」

頭部分の日本の「カルタ会」は、朝鮮の「윷놀이판(ユンノリ会)」¹に改変している。趙重桓が最も苦心したのは、日本で人気のある「熱海の海岸」の場面を「どこにするか、朝鮮江山のどの場所に移植すれば格に合うか」²で、仁川万国公園と晋州矗石楼なども考えたが、最終的には月夜の大同江岸に置き換えたのである。

次に、登場人物の朝鮮風の改変である。趙重桓は登場人物を以下のように韓国人に変更している。

原作『金色夜叉』	翻案作『長恨夢』
間貫一	李守一
鳴沢宮	沈順愛
富山唯継	金重培
鰐淵直行	金正淵
赤檜満枝	崔満慶
荒尾譲介	白樂觀
狭山元輔	崔元甫
お静（愛子）	玉香

最後は文章・会話の朝鮮風の改変である。原作の名場面、熱海海岸で貫一がお宮を蹴るシーンを例に、文章と会話の面において趙重桓は具体的に如何に翻案したのかを確認してみよう。

『金色夜叉』：(宮)「嗚呼、私は如何したら可からう！若し私が彼方へ嫁つたら、貫一さんは如何するの、それを聞かして下さいな。」木を裂く如く貫一は宮を突放して、「それじゃ断然お前は嫁く気だね！是迄に僕が言つても聴いてくれんのだね。ちええ、腸の腐つた女！姦婦！！」其聲と與に貫一は脚を挙げて宮の弱腰を確と踢たり。³

『長恨夢』：(順愛)「아－나는 엇지하면 도탄말이오、여보시오、내가 만일 갈 것 갓흐면、

¹ ユンノリは、朝鮮半島に伝わる双六のような伝統的遊戯である。

² 趙一齋、「『長恨夢』과 『雙玉淚』、『三千里』第6巻第9號、1934年9月、p234。原文：「제일苦心한 것이 『長恨夢』 속 가장華麗하자 重要な 骨子인 『熱海의 海岸』의 그 愁歎場을 어디로 할가, 朝鮮江山의 어느 모퉁이에 移植하면 格에 마를가? 함이엇다.」

³ 尾崎紅葉、『金色夜叉』(前編)、東京：春陽堂、1898年7月6日(初版)、pp158－159。

당신은、엇지하실이더오、그 말씀을 좀 하여주시구료。」그 말 한마디에、슈일은 순애의 몸을、떠밀치며 「그리닛가、아모리 하야도 너는 김중배를 좇차가갓다 하는 말이로구나、이토록、루루히 알아듯도록、말을 하하도、뜻지를 안는다 하는 말이지。아모리、못생긴 년이기로、이년 내가 너갓흔 간부(姦婦)하고、말하는 내가 도로혀 그르다」하며、슈일이는 다리를 드리、순애의 허리를 거더찬다。¹

拙訳：(順愛)「あ、私はどうすればいいのでしょうか。ちょっと、私はもし嫁ぎそうなら、貴方はどうされますか？ちょっと聞かせてくださいよ。」その一言に、守一は順愛の体を突き放して、「だから、どうしても、あなたは金重培を追い掛けるということだね。こんなに縋々含めるように話をしても聞かないということだね。いくら醜い女とはいえ、この女郎、貴方のような姦婦と話す私が間違いだった」と言い、守一は脚を挙げて順愛の腰を強く蹴た。

趙重桓の『長恨夢』は、登場人物が韓国人に置き換えられ表現に若干の相違があるが、原作『金色夜叉』の内容をかなり忠実に写していることがわかる。『長恨夢』は翻案作である同時に、かなりの部分に「翻訳」が見られるのである。

3. 『長恨夢』翻案における踏襲（大筋・骨格）と改作（貞潔固守・大団円）

翻案を検討する前に、『長恨夢』のストーリーを紹介しておこう。李守一（＝間貫一）は、かつて両親と死別し、父の友人である沈澤（＝鳴沢隆三）に育てられる。その家の一人娘の沈順愛（＝鳴沢宮）と愛し合い、両親の意向で二人は婚約する。しかし、順愛はユンノリ場で大金持の息子金重培（＝富山唯継）の宝石に誘惑され、金重培に結婚を申し込まれる。順愛の両親も、守一との婚約を解消し金重培との結婚を薦める。大同江岸で順愛の真意を尋ねる守一は、順愛が金重培を選んだことを知り、順愛を蹴飛ばし、二人は泣き別れる。その後、失恋した守一は、姿をくらまし、金正淵（＝鰐淵直行）のもとで高利貸となる。美人の高利貸、崔満慶（＝赤檜満枝）に求愛されるが、守一は心が動かない。一方、金重培に嫁いた順愛は、守一を捨てたことを深く後悔し、夫の金重培と寝室を共にしないと決める。数年後のある日、順愛は金重培に無理やり酒を飲ませられ、強姦されてしまう。衝撃を受けた順愛は大同江に投身自殺を企てるが、偶然にも守一の親友である白樂觀（＝荒尾讓介）に救われる。白樂觀は守一に順愛との再会を勧めるが、守一は受け入れない。順愛は守一の家を訪れ、手紙も送って罪をわびるが、守一に無視される。守一は神経衰弱で休養のため清涼庵に行き、そこで心中しようとする妓生・玉香（＝愛子）と崔元甫（＝狭山元輔）を救出し、心境が変わり始まる。一方、順愛は実家に戻ってついに精神

¹ 趙一齋、『長恨夢』、『毎日申報』、1913年6月6日。

的に病んで、総督部医院に入院する。白楽観の忠告と仲裁により、守一はようやく順愛を許し、二人は再会を果たす。その後、順愛の病状がよくなり、守一と順愛は結婚し、ついに幸せになる。

『長恨夢』が原作『金色夜叉』のストーリーをそのまま、愛と金の衝突、主要人物の設定、三角関係など大筋・骨格の面において模倣・踏襲しているのは瞭然である。しかし、趙重桓は翻案者として原作のストーリーを過度に損なわないことを意識していたと思われるが、ストーリーの展開において、『長恨夢』には、『金色夜叉』と異なる改作と変形が多く見られる。最も大きな改作と思われるのは、順愛の貞潔固守と大団円の結末である。このような改変について、趙重桓はその意図などを明言していない。

原作『金色夜叉』のヒロイン宮は、富山唯継と結婚した後、「自ら謂へり、此心は始めより貫一に許したるを、縁ありて身は唯継に委すなり」（『金色夜叉』後編第2章）。「故に身は富山に委すとも、心は長く貫一を忘れず」¹と描かれている。また、宮は結婚してから二ヶ月後に妊娠し、翌年に富山の子（後に夭折）を産む。宮は、貞潔を守ろうとしていないのである。

これに対して『長恨夢』のヒロイン順愛は、金重培と結婚した直後から深く後悔し、「心と身は絶対ここ（金重培）に許さないと舌を噛んで誓った」（『長恨夢』第15章）。また、「金重培に身を許さないで三、四年間すごしているが、固く決めた気持ちは完全に果たされていた」²と描かれている。つまり、宮と異なり、順愛は結婚して長い間、夫の金重培と寝室を共にせず、自身の貞潔を固守していたのである。数年後、順愛は金重培の強姦により貞操を失ってしまうと、自殺を決心し、大同江に投身する（白楽観に救われる）。このように、婚後の順愛が守一への愛のため貞潔を必死に守る意識と行動は、『金色夜叉』には全く現れないのである。

確かに、結婚して夫婦間の性的関係を持たない順愛の貞潔固守は、常識的に不自然な設定であると言える。翻案者趙重桓はなぜこのように順愛を貞潔固守の女性として改作したのか、或いは改作しなければならなかったのかを考えてみたい。

朝鮮は従来儒教社会であり、「貞操」を守ることは女性の義務と美德として重要視されていた。「貞操」は、外部から女性に強いられた観念であるが、結局伝統社会の女性自らの観念として内面化されるようになった。近代に入ったところの当時（1910年代前半）の朝鮮では、従来の「貞操意識」がまだ深く広く人々の心に残されており、男女関係において旧態依然として女性の「貞操」が何よりも重んじられていた。このような現実のもと、虚栄心で恋人の守一を捨てた順愛は、金重培から「貞操」を守ろうとする女性でなければ、

¹ 尾崎紅葉、『金色夜叉』（後編）、東京：春陽堂、1900年1月1日（初版）、p37。

² 趙重桓翻案、朴珍英編、『長恨夢』、서울：現實文化、2007年、p206。原文：「나의 마음과 나의 몸은 이곳에 하락지 아니하리라고 혀를 깨물고 맹세하였던 고로 좌우로 칭탁하고 김중배에게 몸은 허락지 아니하기를 삼사 년 동안이나 지나되 그 굳게 먹은 마음을 온전히 이루었더라。」

朝鮮の読者たちから好感、許し、同情と感動を得られ難かったのであろう。当時の朝鮮社会の現実、特に人々の「貞操意識」を考慮したからと考えられる。「貞操」は、愛の前提条件として、順愛と守一の再会と和解の前提条件として、隠蔽的に作用しているのである。

『長恨夢』における順愛の貞潔固守という設定（改作）は、趙重桓が貞操意識を持つ朝鮮の読者たちの心理に迎合するための翻案の策略であると言えよう。

『長恨夢』における大団円の結末について検討しよう。原作『金色夜叉』は、尾崎紅葉の夭折により、貫一が宮の手紙を読んで宮を許すかを迷うところで中絶した。後に発見された紅葉の腹案覚書と同覚書に基づいて書かれた小栗風葉の『終編金色夜叉』（1909）では、最後は男主人公（貫一）と女主人公（宮）が再会する。そして、貫一は発狂した宮を家に連れ帰り、その回復を願いながら世話をする。宮の精神の病は最後まで回復していない。最後の場面では、宮は日暮れ時の段々消えていく影のような存在のように描かれている。決して幸福な結末であるとは言えない悲劇的な雰囲気溢れる結末である。

一方翻案作『長恨夢』では、守一と順愛は再会し、また順愛は精神の病から回復し、二人は結婚する。最後には、二人は楽しく会話しながら、作品が終わる。全く悲劇的な雰囲気がない、幸福な結末である。朝鮮の古代の小説にはハッピーエンドが求められていた。この結末は朝鮮の読者たちの大衆的趣向と期待にこたえた趙重桓の翻案の策略であろうと考えられる。

第2節 近代韓国における『長恨夢』の伝播と反響

本節では、『金色夜叉』の翻案作である『長恨夢』は、近代韓国社会においてどのように伝播され、どのような反応を呼び、どれほど流行していたのかを確認していきたい。

1. 『長恨夢』の発表と伝播：多様なジャンルによる拡散

近代韓国における『長恨夢』の発表と伝播の過程を整理してみよう。

『長恨夢』はまず、1913年5月13日から10月1日まで、当時唯一の韓国語の中央日刊紙『毎日申報』の4面に計119回にわたって連載された。連載期間中、小説の面白さを強化するため、ほとんど毎回挿絵が付いていることから（当時稀なことである）、重要な企画であったことと推測できる。『長恨夢』はすぐ爆発的な人気と注目を集めた。その様子について、趙重桓は毎日申報社の「平壤支局では当日五百部の新聞の売り上げがあったと販売部で祝賀宴まで催してくれた……ほんとにあの時の人気は二度とないくらいに高調

された」¹と語っている。

連載が終わる直前から、単行本『長恨夢』は3巻に分けて出版され始めた。1913年9月、『長恨夢（上）』は匯東書館から出版された。1916年12月、『長恨夢（中）』は唯一書館・漢城書館から、『長恨夢（下）』は朝鮮図書株式会社から出版された。1930年までの間、少なくとも上巻は6刷、中巻と下巻は7刷を重ねている（中巻は半月後に再版された）。『長恨夢』は、韓国初の近代長編小説『無情』（李光洙作、1917年）にも負けない販売部数を記録したと推測される²。単行本『長恨夢』は大きな成功を収め「新文学の最初のベストセラー」となったのである。

連載期間中から、『長恨夢』の演劇化が始まる。1913年7月～8月、新派劇団の唯一団により初演された（上巻部分のみ）。1913年11月、1914年2月、1914年3月に、1914年10月、1919年春、1920年3月、新派劇団の革新団により上演された。1923年に芸術座、1924年6月と1925年4月に土月会によって上演された。『長恨夢』の上演は1930年代以降も続き、植民地時代の朝鮮で数十回も上演され、新派劇の最も代表的な演目となった。演劇化は、『長恨夢』の大衆的な伝播を加速させた。朴珍英は、「実際のところ、「李守一と沈順愛の物語」の大衆性は他のどのジャンルや様式よりも、新派劇を通して確保された」³と指摘している。

『長恨夢』の映画化も進められた。1920年4月24日～28日、朝鮮文芸団により制作された映画『長恨夢』（公演の録画）は、優美館（韓国初の映画館）で上映された。1926年3月18日～22日、趙重桓が創立した鶏林映画協会により制作され、団成社で上映された。1928年11月29日～30日、羅雲圭プロダクションにより制作され、同じく団成社で上映された。『長恨夢』は草創期の韓国映画の重要な作品であると認められるのである。

大衆歌謡「長恨夢歌」も現れ、流行した。「長恨夢歌」は、日本の「金色夜叉」の歌の翻案である。歌詞の中の人名と地名は『長恨夢』の人名と地名に置き換えられるだけである。この歌は、日本において1917年頃から歌われ始め、韓国においては1920年に朝鮮文芸団による『長恨夢』の公演の際に挿入歌として使用され、広く知られる流行歌となった。

『長恨夢』が連載されて（1913年）21年過ぎた1934年になっても「道を歩みかけて無心に子供達が「大同江辺を散策する李守一と沈順愛」とする歌声を聞こえる」⁴（趙重桓の

¹ 趙一齋、「洛陽의 紙價를 올린 『長恨夢』 『雙玉淚』 新小説」、『朝鮮日報』、1938年1月3日。

² 朴珍英、「李守一과 沈順愛 이야기의 大衆文藝的 性格과 -〈長恨夢〉研究」、『韓國文學의 研究』(23)、韓國文學研究學會、2004年7月、p235。

³ 朴珍英、「李守一과 沈順愛 이야기의 大衆文藝的 性格과 -〈長恨夢〉研究」、『韓國文學의 研究』(23)、韓國文學研究學會、2004年7月、p249。

⁴ 趙一齋、「『長恨夢』과 『雙玉淚』」、『三千里』第6巻第9號、1934年9月、p234。原文:「지금도 길을 지나다가 무심히 아히들이 「大同江邊 散步하는 李守一과 沈順愛」 하는 노래소리를 드르면 저도 모르게 발을 멈추고 한참 귀를 기울이다가 도로 가군, 가군한다. 그리고는 가느다란 흥분이 가슴 한편으로 끌어 오름을 깨닫는다.」

回顧談)ことから、「長恨夢歌」は近代の朝鮮でどれほど長い間流行していたのかが窺われる。

また、『長恨夢』の続編などの周辺作も現れた。1915年5月25日～12月26日、趙重桓の『続編長恨夢』が『毎日申報』に連載された。李守一と沈順愛の再会後(婚後)の生活を想像する後日談である。

上で述べてきたように、『長恨夢』は、新聞連載小説、単行本小説、演劇、映画、歌謡など多様なジャンルにおいて、近代韓国社会で広範囲に伝播した。これは、日本における原作『金色夜叉』の状況と非常に類似している。朴珍英氏の指摘のように、『長恨夢』は韓国「植民地時代の最大のベストセラー、最高の新派劇であり」、「近代大衆文芸のある起源であると言える」¹。

2. 『長恨夢』の評判と反響：感涙の名作の成立

『長恨夢』に対しての読者の反応と評判などを見ると、「눈물(涙)」と「울다(泣く)」という表現が多いことがわかる。まず、『長恨夢』の翻案者であり、最初の読者でもあった趙重桓は、以下のように述べている。

「正直言えば、私は大同江辺の正月14日の月夜の二人の悲恋を書きながら泣いた。少年の情熱に燃え上がる心の火足はそのまま涙となって落ちた。動くペンを何度も捨てた。捨ててから枕で顔を擦りながら泣いた。まるで私自身がお金の理由で愛している女を失い、失恋落魄の青年となるように、李守一は即ち私であるように、沈順愛は私が慕っていつも夢の中で会った未知の恋人であるように。その恋人がお金持ちに従って愛の道を間違って歩む時、心痛しなければならないだろう。私の原稿紙は涙に点々と濡れた。その後でも、高利貸業者となった李守一が殴られて病院に入院した時、順愛が悔悟する気持ちで尋ねてくる時、その場面を書く時も私は泣いた。白樂観が李守一を会って「人間に戻れ」と勧めるところも私自身は泣いた。わからないな。私がこのように泣きながら書いた『長恨夢』を何人の青年が読んで泣いてくれただろう。」² (筆者意訳)

¹ 趙重桓翻案、朴珍英編、『長恨夢』、서울:現實文化、2007年、p551。原文：「식민지 시대 최대의 베스트셀러이자 최고의 인기 신파극이며 근대 대중 문예의 한 기원이라 할 수 있다.」

² 趙一齋、「『長恨夢』과 『雙玉淚』」、『三千里』第6巻第9號、1934年9月、pp234~235。原文：「正直하게 말하면 나는 大同江岸의 正月 14日 月明夜의 두 사람의 悲戀을 그리면서 우렸다. 少年情熱에 끄러오르는 마음의 불길이 그냥 눈물이 되어 떨어졌다. 움직이는 펜을 몇번 버렸든가, 버리고는 벼개로 얼굴을 부비면서 울었든가, 꼭 내 자신이 돈 때문에 사랑하는 여자를 잃고 失戀, 落魄의 青年의 몸이 된 듯 李守一이 곁 내인 듯, 沈順愛는 내가 그림어하고 늘 꿈에 보던 미지의 愛人인 듯, 그 愛人이 富者를 따라 사랑의 길을 달니드닐 때 엇지써 悲痛하지 안으랴. 내 原稿紙는 눈물에 点点히 젖었다. 그 뒤에도 高利貸金業者가 되어 李守一이 어더 맞고서 病院에 入院하였을 때 順愛가

作品に感動し、守一と順愛の物語に入り込みすぎた趙重桓自身の様子が詳細に記されている。特に、「涙」と「泣く」という言葉が多く使用されていることは、非常に印象的である。次に『長恨夢』の読者たちの反応を見てみよう。

「趙一齋先生、私は全羅北道南原郡南原面西錦里二統三戸張鏞一である。私は『毎日申報』を購読して数年、先生（趙重桓）の長編小説を読みますれば面白く、この哀願をどうお伝えできることか。この前の『双玉涙』について申しても、一般の購読者が毎日先生に祈り願っていた。今の『長恨夢』にしても、沈順愛の情景がまた憐れになった。どうすれば沈順愛が再び生まれ変わるだろう。また、李守一のようにきっぱりとして慎ましい人間がどうして崔萬慶の策に嵌ったのだろう。先生の手段で李守一と沈順愛二人の仲が、枯れ木が再び春を迎えるごとくしてくださるように祈り願うものである。」¹（筆者意訳）

『長恨夢』が当時の読者の心をどれほど掴んでいたのかを良く示す資料である。このように、寄書者を含める「一般の読者」は、順愛の「生まれ変わり」、守一と順愛の「枯れ木が再び春を迎える」ことを、趙重桓に真摯に「哀願」したのである。

また、演劇『長恨夢』の観客たちの反応を見てみよう。以下は、劇団北極星の団員が上演前に『長恨夢』を紹介するセリフである。ここでも、「涙」、「泣く」、「泣かせる」の言葉が強調されている。

（朝鮮新派元祖北極星一行）宣伝の団員：「今日の夜、我々北極星一行は、不朽の名作『長恨夢』を持って、皆さんの前に堂々と上演の幕を上げさせていただきます。長安（京城）の男女老少を熱狂の坩堝に追い込む『長恨夢』！涙がなければ見られない、ハンカチがなければ見られない愛情の悲劇『長恨夢』！見れば見るほど興味津々で、いつまでも皆さんの心を泣かせる『長恨夢』を上演致しますので、家族と一緒にたくさんたくさん観覧してくださいませようお願い致します。」²（筆者意訳）

니우치는 가슴을 안고 차저올 때 그 場面을 그릴 적에도 나는 울었고 白樂觀이 李守一을 만나 「사람에 다시 도라가라」고 勸하든 대목에도 내 자신은 울었다. 아지못게라 나는 이러케 울며 쓴 「長恨夢을 몇 사람의 青春들이 보고 울어 주거나 하엿든고.」

¹ 張鏞一、「『長恨夢』을 보고」、「『毎日申報』、1915年6月12日。原文：「趙一齋先生座下.本人은 全北南原郡南原面西錦里二統三戸張鏞一입니다.本人이 毎日申報購讀數年에 先生임 小說장편을 열람하오면 재미있고 애원현말삼 엿지 칭양하리요.전면에 雙玉淚 노하드리도 일반 구독자가 毎日 先生任 축원이 올시다.今에 長恨夢으로 하드리도 沈順愛의 정경이 또 불상하게 되얏소. 엿지하여야 沈순애가 다시 更生하오며 李守一이갓치 단정코 양전한 사람이 엿지다가 崔만경 솜시에 捉手が 되야치요.先生님 슈단으로 李슈일 沈순애 두 사람 새이에 고목이 更逢春케 하심을 伏祝이옵네다.」

² 金明昆、『激情萬里』、서울:지만지、2014年、pp13~14。原文：「선전 단원：「오늘 밤 본 북극성 일행이 불후의 명작 <장한몽>을 가지고 여러분 앞에 당당히 상연의 막을 올려 드리겠습니다.장안의

以上の資料からわかるように、『長恨夢』は近代韓国の無数の人々の涙を誘った名作であった。近代韓国の多くの人々は、『長恨夢』に魅了され、深い感動を覚えたのである。

第3章 言情小説との異質性：近代中国における『金色夜叉』の不受容

日本と韓国で大歓迎された『金色夜叉』は、近代中国に受容されなかった¹。本章では、まず近代（清末民初期）の中国で『金色夜叉』がどの程度知られていたかを調査し、そのうえで、『金色夜叉』が近代中国に受容されなかった理由を分析してみることにする。

第1節 近代中国人と『金色夜叉』：受容に至らなかった接触の記録

筆者の調査によると、近代中国においては『金色夜叉』に関連した記録は数件しか見当たらない。

1. 康有為：清末における紅葉作品の流入（1897年）

尾崎紅葉の名前が初めて中国に紹介されたのは、啓蒙思想家康有為²の『日本書目志』（1897）であった。康有為は、日清戦争後、明治日本の書籍を多く収集し、中国における日本書籍の翻訳を積極的に提唱した。その結果として編纂されたものは、1897年に上海大同訳書局から刊行された『日本書目志』であった。日本書籍の題名、巻数、著者名、定価などの情報のみを掲載する目録であるが、日本書籍を近代中国人に初めて紹介し、近代中国人の知識摂取の視野を拡大させた点で重要な文献であると言える。この『日本書目志』の「巻十四・小説門」には、合計1056点の日本作品の書誌情報が収録されているが、尾

남녀노소를 열광의 도가니로 몰아넣은 <장한몽>! 눈물 없이는 볼 수 없고 손수건 없이는 볼 수 없는 애정 비극 <장한몽>! 보면 볼수록 흥미진진하고 두고두고 여러분의 심금을 울려 줄 장한몽을 상연하겠사오니 가족 동반하시와 많이많이 관람해 주시기 바랍니다.」

¹ 中国では、現代の1980年代以降になってから、ついに『金色夜叉』の翻訳が出現し始めたことを付記する。現代中国の『金色夜叉』訳本：金福訳、『金色夜叉』、上海訳文出版社、1983年1月（再版あり）；魏丹寧訳、『金色夜叉』、北京聯合出版公司、2013年7月（再版あり）など。

² 康有為（1858-1927）、清末民初期中国の改良派思想家・政治家・知識人。出身地は広東南海、字は広厦、号は長素（のちに更生）。『万国公報』（北京・1898）、『強国報』（上海・1898）を創刊。公車上書（1895）、戊戌変法（1898）などの政治運動を主導。戊戌変法失敗後は、海外に亡命。主要著作は、『新学偽経考』（1891年）、『春秋董氏学』（1897年）、『日本書目志』（1898）、『日本変政考』（1898）、『孔子改制考』（1898年）、『大同書』（1902）などある。

崎紅葉の作品についての部分を抜き出してみる。

『七十二文命之安賣（『文学世界』第一）』 紅葉山人著 八分

『二人女』 一冊 紅葉山人著 二角五分

『紅鹿子』 一冊 紅葉山人著 一角二分

『夏小袖』 一冊 紅葉山人著 一角二分

『三人妻』 二冊 紅葉山人著 五角

『伽羅枕』 一冊 紅葉山人著 三角

『新色懺悔』（『聚芳十種』第二） 紅葉山人著 五角

『鬼桃太郎』 一冊 尾崎紅葉著 八分

『俠黒兎』（少年文学十八編）尾崎紅葉著 一角二分¹

このリストには、『金色夜叉』が入っていないが、尾崎紅葉の名前を初めて近代中国人に知らせた記録だと思われる。尾崎紅葉の名前は、作品名と共に9回出現したが、そのうち、2回は「尾崎紅葉」、7回は「紅葉山人」²と記されている。尾崎紅葉の名前の紹介にとどまっており、当時の中国でほとんど重視されなかったと思える。

2. 吳禱：中国初の紅葉作品の翻訳（1906年）

尾崎紅葉の作品が初めて中国語に翻訳出版されたのは、1906年のことであった。一年の間に『寒牡丹』『俠男奴』『美人煙草』の3点、いずれも吳禱³による翻訳本が売り出されたのである。『寒牡丹』⁴は、1906年3月（旧暦）に上海商務印書館から説部叢書の第四集第十編として出版された。『俠男奴』⁵は、1906年2月18日から4月18日まで上海の『東方雑誌』（第3年第1～3期）に掲載され、1906年6月（旧暦）に上海商務印書

¹ 康有為編、『日本書目志』、姜義華編校『康有為全集（三）』、上海：上海古籍出版社、1992年12月、p1143、p1147、p1149、p1167、p1184、p1186、p1194、p1203、p1204。

² 尾崎紅葉の本名は徳太郎、号は紅葉・縁山・半可通人・十千万堂・花紅治史などある。尾崎紅葉はよく「紅葉山人」の筆名を使用して作品を発表した。

³ 吳禱は日本語を通じて西洋や日本の小説作品を多く翻訳した。吳禱の翻訳作品は、『成吉思汗少年史』（1903）、『売国奴』（1905）、『寒牡丹』（1906）、『俠男奴』（1906）、『美人煙草』（1906）、『山家奇遇』（1906）、『新魔術』（1906）、『理想美人』（1906）、『斥候美談』（1906）、『車中毒針』（1906）、『灯台卒』（1906）、『寒桃記』（1902）、『銀紐碑』（1907）、『薄命花』（1907）、『黒衣教士』（1907）、『虚無党真相』（1907）、『五里霧』（1907）、『憂患余生』（1907）、『棠花怨』（1908）、『俠女郎』（1913）、『大復讐』（1913）、『拊髀記』（1913）など多数ある。

⁴ 吳禱訳『寒牡丹』の原作：（日）尾崎紅葉・長田秋涛共訳、『寒牡丹』、東京春陽堂、1901年。尾崎紅葉・長田秋涛共訳『寒牡丹』の原作が確認されていない。

⁵ 吳禱訳『俠男奴』の原作：（日）尾崎紅葉訳、『俠男奴』、東京博文堂、1892年。尾崎紅葉訳『俠男奴』の原作：（英）Maria Edgeworth、*The Grateful Negro, Popular Tales*、1804年。

館から説部叢書の第六集第二編として出版された。『美人煙草』¹は、1906年6月16日から8月14日まで『東方雑誌』（第3年第4-7期）に掲載され、1906年夏に上海商務印書館から説部叢書の第六集第三編として出版された。訳本の表紙には原著者「尾崎紅葉」と表記しているが、3点目の『美人煙草』は原著者が尾崎紅葉ではなく、広津柳浪（1861～1928）とあり、呉禱が間違えて表記したと考えられる。『寒牡丹』と『侠男奴』は、尾崎紅葉が西洋小説を日本語に翻訳したものであり、彼の創作作品ではなく、代表作品でもない。呉禱は『金色夜叉』以外の尾崎紅葉の作品を選択して翻訳したのである。

3. 陸鏡若：受容に至らなかった『金色夜叉』上演（1910年）

近代中国人が初めて直接『金色夜叉』に接触したのは、記録として1910年である。東京の中国人留学生が演劇『金色夜叉』の一部を日本語で一回だけ上演したのである。20世紀初頭（1900年代）の日本において新派劇が最盛期を迎え、『金色夜叉』は日本全国各地で繰り返して公演される最も人気の高い演目の一つであった。1906年冬、日本新派劇の影響下で、中国人留学生による演劇団・春柳社が東京で創立された。春柳社の成員の欧陽予倩（1889-1962）²は、「自我演戯以来」という回顧録で『金色夜叉』の上演について下記のように述べている。春柳社の日本における早期活動を回想する場面である。（筆者意識、アンダーラインは筆者による）

「その頃、公使館は学生の演劇を禁止する布告を発令した。（中略）そのため演劇の気運が一時的に低迷してしまった。その数年の間に、林天民と陳朴らは一回だけ出演した。鏡若とある盛さんは日本語で『金色夜叉』を一回、『不如帰』を一回演じた。この二つはいずれも作品の全部を上演したものではない。その時、私の父親が東京に来て治療を受け、不幸にも亡くなった。私は柩を持って帰国したため、その演劇に参加できなかった。」³

「その時」がいつのことなのかは書かれてはいないが、欧陽予倩の年表を調査したところ

¹ 呉禱訳『美人煙草』の原作：（日）広津柳浪作、『美人萼』、『太陽』第11巻第12～13号、1905年9月～10月。呉禱は中国語訳本の表紙に、原作の作者を尾崎紅葉と間違えて表記した。

² 欧陽予倩（1889-1962）、中国近代の演劇家。出身は湖南瀏陽、原名は立袁、号は南傑、芸名は蓮笙・蘭客、筆名は春柳。1902年から1905まで、1907年から1910年まで日本の明治大学・早稲田大学などに留学した。1907年に春柳社に、帰国後は上海の新劇同志会に参加した。民国期の中国で、梅蘭芳と並べて「北梅南欧」と称される。1950年から中央戲劇学院の院長を務める。「中国近代戲劇之父」と高く評価される。

³ 欧陽予倩、「自我演戯以来」、『欧陽予倩全集』第6巻、上海文芸出版社、1990年、p21。原文：「那時候公使館已經有禁止学生演戲的布告，（中略），一時演戲的空氣便沈寂下来。那幾年中只有林天民和陳朴他們演過一次；鏡若和一位姓盛的用日本話演過一次『金色夜叉』，一次『不如帰』。這兩個戲演的都不是整本。那時我父親到東京就医，不幸去世。我送靈柩回国，沒有參加演出。」

¹、彼が日本で逝去した父親の柩を持って中国に帰ったのは1910年であることが確認できた。従って、1910年に、日本語演劇『金色夜叉』の一部ではあるが、陸鏡若²らの中国人留学生によって東京で一回だけ上演されたことが判明した。これは、近代中国人が初めて直接的に『金色夜叉』に接触した重要な記録である。言語は中国語ではなく日本語で、場所も中国国内ではなく東京で、演者と観客が日本にいる少数の留学生のみで、さらに清朝公使館の演劇禁止政策のため、この上演の反響が極めて限定されたものであった。従って、これは中国における『金色夜叉』の受容と見なすことはできないと思える³。

4. 周作人：中国初の『金色夜叉』の紹介（1918年）

『金色夜叉』の題名が初めて中国に紹介されたのは、記録として1918年である。1918年、周作人（1885～1967）⁴は北京大学で「日本近三十年小説之発達」という講演後、その講演の全文を同年7月15日の『新青年』第5巻第1号に発表した。「日本近三十年小説之発達」は、明治維新以降の日本近代文学の発展状況を全面的に紹介・評価する最初の中国人の論文であると言える。周作人はこの文章で『金色夜叉』について次のように言及している。

「紅葉的小説最有名的是『金色夜叉』，最好的是『多情多恨』。」⁵（筆者意識：「紅葉の小説は、最も有名なものが『金色夜叉』であり、最も良いのが『多情多恨』である。」

これは『金色夜叉』の題名が中国に紹介された最初の記録であると思われる。非常に遅かった紹介であると言えよう。ここで、周作人は尾崎紅葉の最も有名な作品として『金色夜叉』を紹介しているが、作品の内容などの情報が提供されていなかったのである。

¹ 「欧陽予倩年表簡編」、『欧陽予倩全集』第6巻、上海文芸出版社、1990年、p437。

² 陸鏡若（1885～1915）、中国近代の演劇家。出身は江蘇武進、名は輔、字は扶軒、芸名は鏡若。1906年から1912年まで、日本帝国大学に留学し、日本の新派劇を熱心に勉強した。1908年に中国最初の演劇団春柳社に参加し、帰国後は上海で新劇同志会を創立し、積極的に活動した。草創期の中国新劇の発展に大きく貢献した。

³ その後の1919年に、欧陽予倩、田漢、馬伯援らが東京で張深切などの台湾人留学生の日本語演劇『金色夜叉』の上演を支援したことを付記する。

（「我們沒有所謂導演，會館幾位幹部好像有田某、歐陽某、馬伯援等人幫忙了我們的化妝和演出。」拙訳：「我々には所謂監督がいなかった。会館の数人の幹部の田某、欧陽某、馬伯遠などが我々の化粧と上演を助けてくれたようである。」——張深切、『裏程碑』第三集、台湾聖工出版社、1971年、p397）

しかし、これも同様、近代中国における『金色夜叉』の受容だと言えないであろう。

⁴ 周作人（1885-1967）、近代中国の散文家、翻訳家。魯迅の弟。出身は浙江紹興、字は星杓。兄の魯迅と並べ、中国の新文学史・新文化運動史に最も輝かしい功績を残した文学者である。

⁵ 周作人、「日本近三十年小説之発達」、『新青年』5（1）、1918年7月15日。

5. 豐子愷：中国初の『金色夜叉』の閲読記録（1921 年）

近代中国人が日本語の『金色夜叉』を読んだ最初の記録は、1921 年である。1921 年春、豐子愷（1898～1975）¹は日本の東京に到着し、十ヶ月間留学した。留学中の自身の日本語能力の向上と日本文学への興味について、豐子愷は下記のように回顧している。

「果然日本語會話と聽講において大きな進歩を遂げた。同時に本を読む能力も進歩した。本来私は『正則洋画講義』のような單調な敘述的文章しか読めなかったが、現在は『不如帰』と『金色夜叉』（日本で以前とても有名な二つの小説）さえも読めるようになった。私の文学に関する興味は、その時から始まった。」²（筆者意識）

ここから、『金色夜叉』は 1920 年代になっても大衆的人気があって中国人留学生に知られていたこと、豐子愷が日本語で『金色夜叉』を読んだことがわかる。しかし、『金色夜叉』の読後感が書かれていないため、豐子愷が『金色夜叉』を如何に認識していたのかはわからない。豐子愷は後に翻訳家となり、1950 年代に『不如帰』を中国語に翻訳したが³、『金色夜叉』を翻訳することはなかった。

以上は清末民初期における中国人と『金色夜叉』の接触の記録である。その数が極めて少ないのみならず、いずれも『金色夜叉』の中国受容に至ることがなかった。同時期の韓国における『金色夜叉』の受容状況と鮮明な対照をなしているのである。その理由については次節で考察を進めていく。

第 2 節 言情小説との異質性：『金色夜叉』の近代中国における不受容の理由

清末民初期の中国における外国文学翻訳運動は外国小説の翻訳を促したが、小説が民衆啓蒙の手段で国を強くするに役立つとの主流的な考え方から、その優先対象となるのは政治・外交小説、歴史・伝記小説、科学・冒険小説、戦争・軍事小説、教育小説、探偵・裁判小説など社会的効用を有するものであった。こうした思潮のもとで、男女の私的・個人的な愛情を取り扱い、「愛」の重要性を力説する『金色夜叉』は、翻訳の優先順位が低

¹ 豐子愷（1898～1975）、中国近代の翻訳家、散文家、漫画家。出身は浙江桐郷、原名は豐潤、字は子愷。1921 年、日本に留学。主要な翻訳作品は、『苦悶の象徴』（1925）、『初恋』（1931）、『源氏物語』（1962～1965 年完成、1980 年出版）、『不如帰』（1959 年完成、1989 年出版）などある。

² 豐子愷、「出了中学校以後」、『子愷小品集』、上海：開華書局、1933 年 9 月、p32。原文：「……果然於日語會話及聽講上獲得了很多的進歩，同時看書的能力也進歩起來。本來我只看『正則洋画講義』一類的刻板的敘述體文字，現在連『不如帰』和『金色夜叉』（日本旧時很著名的兩部小説）都會讀了。我的對於文學的興味，是從這時候開始的。」

³ 豐子愷訳、「不如帰」（1959 年訳）、『不如帰・黒潮』（豐子愷・鞏長金訳）、北京：人民文学出版社、1989 年。

かったのは当然と言える。

しかし、この理由だけでは、近代中国における『金色夜叉』の不受容の現象を十分に説明できない。なぜなら、清末民初の中国では、実際、男女の愛情を題材にする作品（中国語で言うところの「言情小説」）の創作と翻訳が一般読者の需要に応じで盛んに行われていたからである。言情小説が愛読された当時の中国に、明治の同種類の人気作『金色夜叉』がなぜ受け入れられなかったのか。この視点から更なる考察の必要性が感じられる。

本節では、『金色夜叉』と清末民初中国の言情小説を比較分析し、近代の中国人が『金色夜叉』に対して抱いた距離感や違和感を検討してみたい。

1. 清末民初期中国における言情小説の繁栄

「言情小説」は清末民初の男女の愛情を題材にする小説の通称である。その作品数からは、清末民初の中国文壇における大きな存在であったと言える。

言情小説は、清末の時に出発した。1899年、林紓・王寿昌共訳の『巴黎茶花女遺事』¹が福州で刊行され、広範な人気を博した。これは、中国近現代の「言情小説の濫觴」²とされている。1905年、林紓・魏易共訳の『迦因小伝』が初めて「言情小説」と標示され、上海商務印書館より出版された³。1906年、「写情小説」⁴と標示された吳趸人の作品『恨海』が、上海広智書局より出版された。この本は後に言情小説の代表作の一つと呼ばれるようになった。清末の作家は「明らかに「英雄」を重視して「男女」を軽視した」が⁵、言情小説は一般読者の歓迎を受け、その出版部数を増加させていった。

民国初期（1910年代）になると、特に辛亥革命（1911）以後には、政治に関する社会の注目度が低下していく。そのような社会情勢を背景に、男女の愛情を扱う言情小説が大衆の興味を引いたのである。言情小説の文学流派「鴛鴦蝴蝶派」が形成され、民国初期の文壇を風靡した。徐枕亜（1889～1937）の『玉梨魂』（1912）、蘇曼殊（1884～1918）の『断鴻零雁記』（1912）、吳双熱（？～1934）の『孽冤鏡』（1912）などが人気を得た。

清末から民初にかけて、言情小説の標示が「愛情小説」、「写情小説」、「艶情小説」、「哀情小説」、「俠情小説」、「奇情小説」、「苦情小説」、「痴情小説」、「怨情小説」、「世情小説」、

¹ 原作は、フランス小説家小デュマの『椿姫』（1848）である。

² 鄒振環、『『巴黎茶花女遺事』の訳刊与清末士人觀念的轉變』、『影響中国近代社会の一百種訳作』、南京：江蘇教育出版社、2008年、p125。

³ 陳大康、「關於「晚清」小説の標示」、『明清小説研究』第72号、2004年、p126。

⁴ 阿英、『晚清小説史』、北京：東方出版社、1996年版、p202。「晚清小説中、又有名為「写情」者，亦始自吳趸人。此類小説之最初一種，即『恨海』。」

⁵ 陳平原、『中国現代小説の起点—清末民初小説研究』、北京：北京大学出版社、2005年版、pp217。「晚清作家明顯地重「英雄」而輕「男女」。」

「惨情小説」、「孽情小説」、「烈情小説」、「妬情小説」、「幻情小説」など¹非常に細かく分けられるようになり、これは中国の言情小説の繁栄を示していた。

2. 中国言情小説と『金色夜叉』の女性像：「賢妻良母」への提唱と背戻

清末民初期の中国言情小説の中で「哀情小説」は社会で最も歓迎された²。この「哀情小説」のヒロインたちの多くは、伝統的美徳を持つ「賢妻良母」として肯定的に描かれている。例えば、徐枕亜作『玉梨魂』(1912)のヒロイン梨娘、蘇曼殊作『断鴻零雁記』(1912)のヒロイン雪梅は、いずれも人徳が高くて心が純潔で愛情が一途で、恋人や夫に過ちを犯したことがない点で一致している。

中国語に翻訳された日本の小説にも同様なヒロインが登場する。1908年に中国語に訳出された徳富蘆花の『不如帰』は、「哀情小説」と標示されて出版された。『不如帰』のヒロイン浪子は心根が善良で性格が優しい良妻である。1906年に中国語に訳出された尾崎紅葉の『寒牡丹』(「哀情小説」と標示)のヒロイン麗查も、人に尊敬されるほどの人柄の持ち主である。同年(1906)に訳出された『美人煙草』(尾崎紅葉の作品と誤記)のヒロイン琴子も、人柄が気高い女性である。中国の読者は彼女らの不幸な遭遇と運命に同情を寄せたのである。

しかし、『金色夜叉』のヒロインお宮のイメージはかなり複雑と言える。お宮は、懺悔の手紙で「罪ある身」、「自ら作りし罪」、「私の罪」³と繰り返して詫びている。近代中国人の立場から、お宮が「罪」と思う心を分析してみよう。

まずは、恋人(貫一)を裏切るという「不義」の行為を考えてみたい。「不義」の結果、お宮は「みづからの一生を誤り候のみか、大事の御身(貫一)までも世の廃り物に致させ候」⁴と嘆くのである。しかし、この時期の中国言情小説の創作作品と翻訳作品には、「痴心女子負心漢」⁵、特に女を裏切る男性は多いが、「負心女子痴心漢」、特に男を裏切る女性はありません。

次に(貫一への)貞操を守ろうとせず、唯継との子を生む、「不貞」の行為である。中国近代の言情小説では、貞操は依然として「守られるべきもの」として高く重要視される。貞操の面で「汚点」を持つヒロインはあまり登場しない。最初に紹介した『玉梨魂』(1912)

¹ 陳大康、「關於「晚清」小説的標示」、『明清小説研究』第72号、2004年、p130；陳平原、『中国現代小説的起点—清末民初小説研究』、北京：北京大学出版社、2005年版、pp219～220を参照。

² 鬘紅女史、『鴛湖潮』評語、『鴛湖潮』、上海：国華書局、1914年。「言情之中、尤以哀情最受社会歡迎。」

³ 尾崎紅葉、『金色夜叉』(新続)、東京：春陽堂、1903年6月12日(初版)、p4、p6、p12。

⁴ 尾崎紅葉、『金色夜叉』(新続)、東京：春陽堂、1903年6月12日(初版)、p12。

⁵ 吳趸人、「吳趸人哭」、海風編『吳趸人全集 第八卷』、哈爾濱：北方文芸出版社、1998年、p230。

のヒロイン梨娘に対して「貞潔如梨嫂（梨娘）」、「一身乾浄、未染点汚」¹と賛美の言葉を投げかけている。近代の中国人は、『金色夜叉』の「不貞」の宮に対して抵触感を持っていたかもしれない。

最後には元彼（貫一）を忘れない「不忠」（結婚した夫につくすべき）の行為である。宮が本心で愛している人は貫一ではあるが、夫の唯継と離婚しないまま貫一に恋慕の手紙を書き続けることは、事実上、精神的な不倫行為である。この点について、作品の中では、お宮がすでに「荒尾様より御譴も受け」²ているが、近代の中国人はもっと否定的な感情を持つであろう。

宮は、「良妻賢母」への背戾³をした女性像であるという指摘がある。『金色夜叉』のヒロイン宮は本質的に悪い女性ではないが、近代中国人にとっては、宮の「不義」「不貞」「不忠」が許され難いことであった。中国の人々には宮への否定的な認識を持つであろう。宮に対する近代中国人の視線は（もし『金色夜叉』を知っていたならば）、日本読者より厳しいものであったはずである⁴。『金色夜叉』には「完全な善玉ヒロイン」という、当時中国読者の同情を寄せる「前提条件」が具備されていなかった。明治の日本読者、特に女性読者は、熟慮せず下した選択で一生自責の地獄で苦しんでしまう宮をかわいそうに思い、深い同情を寄せるが、近代中国人の心には、同様な同情を持つことはなかったのである。

3. 中国言情小説と『金色夜叉』の啓蒙性：「自由結婚」の追求と「悪果」

清末民初の中国社会では、「西洋的な婚姻自由の思想がすでに多くの青年男女により受け入れられた一方、伝統的な倫理道德もまだ根強く残されていたため、新旧婚姻制度転換のこの移行期に、愛情の悲劇が続々と出現した」⁵と陳平原が指摘している。この「愛情の悲劇」を招いた最大の要因は、いうまでもなく、「父母之命（親の命令）」による「婚姻之不自由」である。自分の意志で婚姻問題を決められず、自主的に恋愛・結婚・離婚を行えない青年男女の、父母の干渉によって破裂した無数の「愛情の悲劇」は、この時期の言情小説の素材となっていた。当時言情小説における婚姻自主の困難さの描写は、広く中国読者の共鳴を得られる要素であった。従って、清末民初の中国言情小説作家が極力追求す

¹ 徐枕亜、『玉梨魂』、瀋陽：春風文芸出版社、1997年版、p150。

² 尾崎紅葉、『金色夜叉』（新統）、東京：春陽堂、1903年6月12日（初版）、p9。

³ 高田知波、「良妻賢母」への背戾—『金色夜叉』のヒロインを読む—、『日本文学』（36）、1987年10月。

⁴ 林紓訳『迦茵小伝』（1905）が出版された後、作中のヒロインが結婚前に妊娠した点にショックを受けた当時の中国読者たちが、作品を酷く批判した。

⁵ 陳平原、『中国現代小説の起点—清末民初小説研究』、北京：北京大学出版社、2005年版、p222。「一方は西方婚姻自由思想已為不少青年男女所接受，另一方面是傳統倫理道德仍然根深蒂固。於是，就在這新旧婚姻制度交接的轉折点上，演出了一幕幕愛情悲劇。」

る最大の主題の一つは、「婚姻自主（自由結婚）」という新思想の啓蒙であった¹。

しかし『金色夜叉』では、「父母之命」、つまり親の干渉や命令は存在せず婚姻の選択を妨げる問題となっていない。富山唯継に求婚される時、宮の両親は、宮と同じ考えだったが、押し付けることはなく、宮にその選択を任せている。宮の母は「お前（宮）が可厭なものを無理にお出といふのぢやない」²と言っている。娘の意志を十分に尊重したのである。貫一との婚約に違背して唯継に嫁ぐのは、宮が自身の意志で決めたのである。『金色夜叉』において、「婚姻自主」はすでに実現されたものであった。尾崎紅葉が『金色夜叉』で力説（啓蒙）しようとするのは、「婚姻自主（自由結婚）」ではなく、結婚の前提条件である「愛」であろう。

もっと重要なのは、『金色夜叉』において、このような婚姻自主は、決して当事者を幸福には導かず、不幸を招くことがあるというところにある。宮は、「愛」（貫一）を捨てて「金」（富山）を選び、正しくない相手と結婚し、一生不幸になる。『金色夜叉』では、婚姻自主は婚姻の幸福を保証していない。逆に、正しくない価値観、「愛」以外のもの考慮に起因する「婚姻自主」は、「悪果」を招くこととなる。

近代中国人によって『金色夜叉』は婚姻自主の「反面教材（反面教師）」と見なされる可能性が出てくる。そうして、『金色夜叉』と清末民初の中国社会及び言情小説の主題との間にはズレが生じることになる。外国文学翻訳を通じて婚姻自主の（絶対的な）正確性を確認しようとしていた近代中国人は、婚姻自主の（可能な）危険性を提示するような『金色夜叉』には翻訳の必要性を感じず、また翻訳の意義のある作品とは受け止めなかったのである。

4. 『金色夜叉』と中国言情小説の金銭観：金銭問題の強調と不在

『金色夜叉』では、金銭問題が男女の愛に巨大な破壊力を行使し、「金」と「愛」の激しい衝突³を見せている。宮が貫一を裏切る理由は、金銭問題にほかならない。宮は、貧乏な学生である貫一と愛し合っていたが、富豪の金満家である唯継に求愛されると、貫一への愛がすぐに動揺し始める。「金」か「愛」か、その選択に宮は悩んだが、結局「金」を選び変心してしまう。金銭問題で傷つけられた貫一は、金銭を儲けるに執念し、「金色夜叉（金銭の悪魔）」と言われる冷酷な高利貸に変身してしまう。

このように、宮の「変心」と貫一の「変身」は、すべて金銭問題に起因したことであ

¹ 武潤婷、「主張婚姻自主的「鴛鴦蝴蝶派」小説」、『中国近代小説演變史』、済南：山東人民出版社、2000年、p200。

² 尾崎紅葉、『金色夜叉』（前編）、東京：春陽堂、1898年7月6日（初版）、p109。

³ 「愛」と「金」の衝突という視点から『金色夜叉』を解説する研究は、洪世峨、「尾崎紅葉『金色夜叉』考―「愛」と「黄金」の闘争をめぐる一」、『専修国文』（99）、2016年。

る。『金色夜叉』において、金銭問題は、作品の題目となるほど、正面に出された大きな要素として強調されるのである。

『金色夜叉』がこのように金銭問題を強調するのは、明治中後期、特に日清戦争（1894～1895）後の日本社会における資本主義の急速な発展、資本の力（金力）の拡大、資本の理念の拡散、貧富の差の拡大、拝金主義思潮の蔓延、それらによる社会問題の多発と伝統的価値観の動揺などの背景と深く関わっている。「資本の拡大集中化による資本と人間の関係における動揺と分裂の現象は、明治三〇年代における社会的現象の顕著な特徴」¹のあった時代なのである。宮の「変心」は、いわゆる「金銭万能主義」に翻弄された当時の人々の心理の投影だと言える。そのような社会的雰囲気のもと、日本読者は『金色夜叉』の作中の金銭に対する主人公たちの心の動きや精神的苦痛などを理解し、容易に受け入れたのであろう。

しかし、清末民初の中国言情小説では、恋人の間に金銭問題で変心し、「金」と「愛」が激しく衝突する物語はほとんど見つからない²。この点について、李艶麗は「清末小説の中で……金銭に執心して別れる恋人はなかった」³と指摘している。愛と金のどちらかを選ぶという設定は、当時の中国ではありえなかったと思える。金銭問題が表面に出てこなかったのかもしれないが、この時期、中国青年男女の恋愛と婚姻の最大の「敵」は、やはり伝統的・封建的家族制度であり、近代的・資本主義的金銭問題ではなかったのである。

5. 『金色夜叉』と中国文学の暴力描写：男が女を殴る場面の注目と違和感

『金色夜叉』前編の第8章、貫一と宮が熱海の海岸で別れる部分に、翻意を乞う貫一が翻意しないお宮を足蹴にする、という場面がある。宮を「姦婦」と痛罵した後、「貫一は脚を挙げて宮の弱腰を確と踢たり。地響して横様に轉びしが、なかなか聲をも立てず苦痛を忍びて、彼はそのまゝ砂の上に泣伏したり」⁴となる、よく知られたこの場面は、近代中国における『金色夜叉』の不受容の一理由として作用していた可能性があるのではないと思われる。

¹ 尾形国治、「尾崎紅葉『金色夜叉』序論」、『国文学研究』（63）、早稲田大学国文学会、1977年10月、p53。

² 無論、妓院生活を題材とする清末民初の「狭邪小説」の中では、金銭にががつて遊客に薄情な遊女がいる。だが、それは一般男女の恋愛を扱う「言情小説」とは性質の違うものであろう。

³ 李艶麗、『晚清日語小説訳介研究（1898-1911）』、上海：上海社会科学院出版社、p164。「晚清小説中有很多嫌貧愛富的父母，但没有因為貪戀錢財分手的恋人。」

⁴ 尾崎紅葉、『金色夜叉』（前編）、東京：春陽堂、1898年7月6日（初版）、p159。



(日本『金色夜叉』熱海海岸の口絵、1898年)

1898年7月、春陽堂より刊行された『金色夜叉 前編』には、画家武内桂舟の手による、この熱海の海岸の場面の口絵が添えられていた。この口絵の影響については、瀬崎圭二が「武内桂舟の口絵のイメージは「金色夜叉」という物語を深く彩り、「金色夜叉」と言えばこの場面が想起されることとなった」¹と指摘している。いうまでもなく、この場面は、その以後も多数の画家により描かれ²、繰り返し刊行されてきた『金色夜叉』の挿絵、口絵、そして表紙となっている。新派劇の舞台上で上演される際、今日でも、観客はこのシーンを期待している。熱海の海岸では、貫一が宮を蹴る姿の「貫一お宮の像」が建てられ、熱海の名店街には「貫一・お宮」の看板も立てられ、多くの人を訪れる観光明所となっている。

貫一が宮を蹴るという設定は、当時の明治社会で大きな話題となっていた。『金色夜叉』といえば、多くの人々が熱海の海岸の場面をイメージするのであった。貫一と宮の悲劇的物語のこの場面が「金色夜叉といえば熱海の海岸」という印象を与えるようになった。貫一と宮の悲劇的物語を象徴的に表していることであろうが、なぜ貫一が宮を蹴る瞬間（他の瞬間ではなく）を取って注目するのかは、一部の読者、特に外国読者にとっての疑問である³。

当時日本に滞在していた多くの中国人留学生も、この『金色夜叉』の人気をきっと知っていたと思われる。しかし、この場面への中国人の視線と理解は、日本読者のそれとは異なっていただろうと推測される。女性に対する暴力行為が否定的に評価されてきた中国では、文学作品に男性が女性を殴る場面があるとしても、その場面が『金色夜叉』のように単行本の表紙、社会の話題、観光の名所となり、広く注目を集めるに至るとは考えられ難いのである。

要するに、当時日本にいる中国人留学生は、貫一が宮を蹴る行為および日本社会にお

¹ 瀬崎圭二、「『金色夜叉』と熱海一口絵の力と現在」、『国文学攷』（201）、2009年3月、p1。

² この場面は多数の画家によって描かれたことがあるが、その原点となるのは、武内桂舟画『金色夜叉』の前編口絵（1898年刊）である。

³ ある意味で、『金色夜叉』のこの場面の扱われ方は、日本読者の特有の反応、他国に類を見ない日本の独特な現象となるかもしれない。比較文化の視点から見ると面白い課題であると思われる。この点については、『金色夜叉』の既存研究でまだ検討されたことがないようである。

けるその場面の扱われ方に対して、違和感を持っていたのではないかと考えられる。中国人留学生は、そこにある深い日本の理由を理解することができなかったのみならず、妥当なことではないと否定的に認識して、ひいては女性へ暴力を肯定しているのではないかと誤解してしまう可能性もあり¹、『金色夜叉』についてマイナスな印象を受けたかもしれない。

上で述べてきたように、『金色夜叉』は、清末民初期の中国社会で歓迎されていた言情小説と比べて、多くの面で「異質性」を示している。近代の中国人が『金色夜叉』に対して距離感や違和感を感じるかもしれないところが多くあったといえよう。このような検討から、『金色夜叉』が近代中国に受容されなかった理由の一部が窺えるのではないかと考えられる。

『金色夜叉』で描かれている近代的恋愛物語は、日本ではそれほどの抵抗感なく受け入れられた一方、韓国では部分的に改作されながら受け入れられ、中国では完全に受け入れられなかった、という受容の「段差」が見られると言えよう。

¹ 近年、熱海の海岸の「貫一お宮の像」については、違和感と誤解を持つ外国人観光客が増えてきたため、2016年、熱海市は観光客に女性蔑視と受け取られないよう理解を求めるために、対応策として日本語と英語説明文のプレートに「貫一お宮の像」に設置した。説明文の内容は、「この像は、明治時代の新聞連載小説、尾崎紅葉著『金色夜叉』の主人公の貫一とお宮の切ない別れを再現したものです。二人の心の擦れ違い、愛情、悲しみが詰まった象徴的な場面であるため、物語を忠実に再現したもので、決して暴力を肯定したり助長するものではありません。是非、この小説をご一読いただき、二人の心情や当時の世相に思いを馳せていただければ幸いです。」「羽鳥慎一モーニングショー」、朝日テレビ、2017年9月2日放送。

結 論

本研究は、日中韓三国の近代初期文学の関連様相を探るため、1895年から1919年までの中国と韓国における日本明治期小説作品の伝播と受容について、東アジアの視座から、比較文学の研究手法により、総合的に考察してきた。まず明治小説の全般的な伝播状況についてデータを通して把握し、次いで『不如帰』『鉄世界』『佳人之奇遇』『金色夜叉』の四作品それぞれの受容様相を詳しく検討した。論述する際は、日本語原作の元になる様子、原文と訳文の対照、訳者の意図、読者の反応、伝播の範囲、受容の特徴、変容の様相などを重要視した。特に、現在までの比較文学研究・翻訳文学研究で手を付けられていない「未翻訳」「不受容」に対する検討も試みた。

第一部では、1895年から1919年まで、中国・韓国に受容された明治小説の日本語版、中国語版、韓国語版の書誌情報を調査・収集し、初めての三国間における東アジア近代翻訳文学目録である「明治小説の中国語韓国語の翻訳・翻案作品目録（1895－1919）」を作成した。これに基づき東アジアにおける明治小説の全般的な伝播状況（総量・源流・類型・作者・訳者・経路・推移など）について検討した。その結果、1895年から1919年にかけて、中国や韓国に伝播された明治小説作品は合計405点であった。そのうち、347点の明治小説が中国に受容された結果370点の中国語翻訳が出版された。一方、120点の明治小説が韓国に受容された結果136点の韓国語翻訳・翻案が出版された。中韓両国に受容された総405点の明治小説のうち、原作が日本作品であるのは約3割、西洋原作で日本語に翻訳・翻案された作品が約7割を占めていることが明らかになった。中韓両国に受容された明治小説の原作の国別の内訳は多い順に、日本、イギリス、フランス、アメリカ、ロシア、ドイツである。中韓両国に受容された明治小説のジャンルは多い順に、歴史・伝記小説、探偵・裁判小説、科学・冒険小説、政治・外交小説、家庭・言情小説、戦争・軍事小説である。中韓両国に受容された明治小説の作者は順に、黒岩涙香、徳富蘆花、押川春浪、菊池幽芳、巖谷小波、渋江保、森田思軒、百島冷泉である。明治小説を翻訳した主要な中国の訳者は順に、陳景韓、包天笑、呉禱、商務印書館訳所、梁啓超である。明治小説を翻訳・翻案した韓国の訳者は順に、崔南善、趙重桓、朴容喜、李相協、李海朝、玄公廉、閔濬鎬である。この時期の東アジア世界における明治小説伝播の経路は、「中国語←日本語→韓国語」、「日本語→中国語→韓国語」、「日本語→中国語」、「日本語→韓国語」の四つに分類した。この時期の中国における明治小説受容作品数の推移は1898年～1901年の萌芽期、1902年～1909年の隆盛期、1910年～1919年の低迷期と分けられる。同時期の韓国における明治小説受容は1895年～1904年の萌芽期、1905年～1915年の隆盛期、1916年～1919年の低迷期と推移した。1900年代、中国は韓国より早く明治小説受容の隆盛期を迎えた。1910

年代の明治小説受容は、中国では数量が激減し、韓国では方向の転換があった。

第二部では、「中国語←日本語→韓国語」の例として『不如帰』を取り上げ、その伝播・受容の様相を考察した。『不如帰』は、日本明治時代の作家徳富蘆花の代表作であり、日清戦争前後の日本社会を背景に、伝統的家族制度に翻弄された夫婦、武男と浪子の悲劇を描いた家庭小説・戦争小説である。1898年～1899年に『国民新聞』に連載され、1900年に民友社より出版された後、日本読者の絶大な支持を受け、明治期最大のベストセラーとなった。1908年、『不如帰』は清末の「訳界之王」と呼ばれる林紘と助手魏易により中国語に翻訳出版され、「国恥痴情両凄絶、傷心怕読不如帰」の読者の詩句が示したように、中国で大きな反響を呼んだ。1912年、『不如帰』は韓国に受容され、趙重桓による翻案本『不如帰』、鮮于日による翻案本『杜鵑声』、金宇鎮による翻案本『榴花雨』など、1年のうちに3点もの訳本が現れ、韓国でも大きく注目された。このように『不如帰』が越境して20世紀初頭の東アジアで広範な読者を得られた理由は、近代に入ったところの日中韓の読者たちは、武男と浪子の近代的で清純な夫婦愛に新鮮さと魅力を感じたのに加え、封建的な家族制度のしがらみに引き裂かれた二人の愛情の悲劇に深く理解・共鳴し得たからである。また、日中韓のテキストの比較を行い、作中の日清戦争観の顕著な相違と儒教倫理観の微妙な相違について明らかにした。『不如帰』の原作では日清戦争を支持する日本社会像が無批判に詳しく描写されており、中国『不如帰』では「国恥」とされる日清戦争の真相・敗因・方策を巡って真剣な反省が付け加えられているが、韓国『不如帰』では「痛史」とされる日清戦争への直視を回避する表現がなされている。原作『不如帰』作中の「忠誠」意識は中国語と韓国語においてその度合いが弱化されており、「孝道」意識と「婦道」意識は中国語と韓国語においてその度合いが強化されている。『不如帰』の中国と韓国の訳者・読者は、結婚と離婚が父母の意志で決まる伝統的家族制度から生じる男女の愛情の悲劇に共鳴している点で一致する。中国の訳者・読者は作中の日清戦争の叙述にも注目しており、韓国の訳者・読者は作中の男女の愛情の叙述にのみ注目している点で異なっている。これらから『不如帰』は中国には「家庭小説+戦争小説」として、韓国には「家庭小説」として受容されたことを指摘した。

第三部では、「日本語→中国語→韓国語」の伝播・受容の様相を『鉄世界』を例に考察した。『鉄世界』は、1887年、明治の「翻訳王」と呼ばれる森田思軒がフランス小説家ベルヌの原典を英語訳本から日本語に重訳した作品で、仏独戦争後にフランス人の医学士が建設した理想都市「長寿村」とドイツ人の化学士が建設した鋼鉄都市「鍊鉄村」の対立と衝突が描かれている。森田思軒は翻訳の際に、作品名の変更、目次の再編、副次的登場人物の削除、友情・愛情・家庭叙事の削除など、大幅な改変を加えた。森田思軒は『鉄世界』の翻訳を通して、従来の小説の陳腐さへの批判とベルヌ小説の斬新さへの称賛を展開したことから、日本語訳『鉄世界』の性格について、「新しい小説」、「新小説」として受容さ

れたと捉えられる。1903 年、中国清末期の翻訳小説家包天笑は、『鉄世界』を日本語訳本から中国語に重訳した。包天笑は「科学小説」という角書を新設し、科学文明の啓蒙と輸入を強調し、科学用語の翻訳と科学知識の伝達を重要視し、中国読者に科学の力を崇拝させた。その結果、中国語訳『鉄世界』が「科学小説」として受容されたと捉えた。1908 年、韓国開化期の新小説作家李海朝は、『鉄世界』を中国語訳本から韓国語に重訳した。李海朝の『鉄世界』は「科学小説」と標榜しているものの、作中の科学知識の翻訳は積極的に行われていない。作中の愛国主義と反侵略的な内容と思想が日韓併合前夜の韓国当時の政治的な状況によく合致していたため、『鉄世界』の政治小説的な側面が重要視された。これは、亡国の危機感の伝達と救国の意識の喚起という政治的な意味を内包する李海朝『鉄世界』の石版画表紙や、日韓併合後に李海朝の『鉄世界』が日帝統治当局から「禁書」処分された運命からも窺える。韓国語訳『鉄世界』は「政治小説」として受容されたのであると捉えた。ベルヌの『鉄世界』が近代初期の東アジアで三回もの重訳が行われたのは、当時日中韓三国の科学への共通の関心を反映しているが、さらなる比較の結果、日本は文学革新、中国は科学啓蒙、韓国は政治闘争の価値に注目していたという三ヶ国の着眼点の相違が明らかになった。

第四部では、「日本語→中国語」の例として『佳人之奇遇』を取り上げ、中国における受容と韓国における不受容の様相を考察した。『佳人之奇遇』は、日本明治時代の国権主義政治家柴四朗の代表作で、1885 年から 1897 年にかけて全 8 編 16 巻で刊行された政治小説である。憂国の志士東海散士（作者の化身）の政治活動を叙述し、国権の守衛と拡張を主張し、（帝国主義に繋がっていった）愛国主義の精神を宣揚する、明治日本で最も広く読まれた政治小説である。1898 年、中国近代の政治家・啓蒙思想家梁啓超は、戊戌変法に失敗して日本へ亡命する際に『佳人之奇遇』と「奇遇」し、「政治小説」が中国の大衆への政治啓蒙の新しい手段であると考え、『佳人之奇遇』を『清議報』に翻訳連載し、明治政治小説の中国への導入を積極的に推進した。梁啓超の中国語訳『佳人奇遇』は、原作の愛国主義の側面を強調し、原作の帝国主義の側面を弱め、中国に不利な政治見解について改削を加え、批判的受容を行った。梁訳『佳人奇遇』は清末の中国で広範な好評を得られた。しかし、『佳人之奇遇』は近代の韓国に受容されなかった。1885 年、韓国近代の政治家・開化派知識人である金玉均は、甲申政変に失敗して日本に亡命した際に『佳人之奇遇』と「奇遇」し、その初編の刊行時にも跋文を書いたが、『佳人之奇遇』のような政治小説の導入を通して韓国の大衆への政治啓蒙を行うことには考え至らなかった。中国語訳『佳人奇遇』を連載した『清議報』が創刊後にすぐ韓国で注目され、さらに『佳人之奇遇』と共に明治政治小説の代表作と称された『経国美談』『雪中梅』などの作品が韓国に受容されていたことから、『佳人之奇遇』が韓国で知られていたことは推知できる。にもかかわらず『佳人之奇遇』が近代韓国に受容（翻訳・翻案）されず、議論や紹介も行われ

なかった原因について、開化期韓国国内の政治的状況と関連付けながら、『佳人之奇遇』の主人公東海散士が日本人である点、「国賊」金玉均が肯定的に描写されている点、帝国主義的な対韓策が露骨に主張されている点の敏感性を検討した。『佳人之奇遇』の近代中国における受容と近代韓国における不受容は、中韓近代知識人の考え方の相違を示している。中国では、『佳人之奇遇』の愛国主義的側面の方が重要視され、肯定的な認識が主流であった。韓国では、『佳人之奇遇』の帝国主義的側面の方が注目に集まった結果、否定的な認識が主流であった。

第五部では、「日本語→韓国語」の例として『金色夜叉』を取り上げ、韓国における受容と中国における不受容の様相を考察した。『金色夜叉』は、明治の文豪尾崎紅葉の代表作で、資本主義が急速に台頭する 1890 年代の日本社会を背景に、金銭問題により別れた貫一とお宮の悲劇的な愛情を描く、愛の重要性と金の虚無性を力説する家庭小説である。1897 年から 1902 年まで『読売新聞』に連載され、1898 年から春陽堂より巻を分けて出版された後、『金色夜叉』は高い大衆的人気を得られ、『不如帰』と並ぶ明治のベストセラーとなった。1913 年、『金色夜叉』は韓国に受容され、近代韓国初の専門翻案作家である趙重桓により『長恨夢』と翻案され、『毎日申報』に連載された。日本人の貫一とお宮の物語から韓国人の守一と順愛の物語へ翻案される際、愛と金の衝突、男女の三角関係などがそのまま訳されている一方、ヒロインが貞潔固守の女性へ、結末が大団円へと、原作と異なる改作が加えられている。この翻案作『長恨夢』は、当時の韓国で多くの読者の涙を誘った。しかし、『金色夜叉』は近代中国には受容されなかった。筆者の調査によると、近代中国において『金色夜叉』の関連記録が数件しかなく、近代中国人にほぼ無関心であった。『金色夜叉』は近代中国人に冷淡に扱われ、近代中国に受容されなかった理由を解明するため、『金色夜叉』と清末民初期中国で流行していた「言情小説」を比較分析し、女性像・啓蒙性・金銭観・暴力描写などの諸側面における両者の異質性を検討した。『金色夜叉』で描かれている近代的な恋愛物語（金と愛の衝突・男女の三角関係・近代的「愛」の強調・自我意識の強調など）は、日本では無抵抗に受け入れられ、韓国では部分的な改作が加えられながら受け入れられ、中国では完全に受け入れられなかったという受容の「段差」が見られると指摘した。

以上で本論の各部分の主な内容を要約した。本研究を通して、日中韓近代初期文学の関係の緊密性と特殊性、近代初期中韓両国における明治小説受容の共通性と差異性の一端を解明することができたと考えられる。

日中韓三国の近代初期文学はお互いに密接な交渉関係にあったことを確認できた。1895 年から 1919 年までの 25 年間、405 点の日本語原作、370 点の中国語訳本、136 点の韓国語訳本が明治小説の伝播と受容に関わり、近代初期の日中韓三国間の文学関係の緊密性と文学交流の活発さは本研究の調査結果から裏付けられる。『不如帰』『鉄世界』『佳人

之奇遇』『金色夜叉』の伝播・受容様相に対する具体的な考察からもそれを確認できる。また、日中間と日韓間だけではなく、中韓間の交渉も密接であったことを看過できず、立体的に3国間の文学関係を把握する必要性を確認した。

他の時代と比べ、近代初期の東アジア内部の文学関係は独特であると言えよう。この時期の文学伝播は、中国から徐々に韓国と日本へ伝わった古代と異なり、日本から急速に中国と韓国へ伝わった点が特徴的である。この時期から、東アジア従来の文学伝播の流れが逆転されたのである。近代初期において、日本は、中韓へ輸出する「発信者」である同時に、西洋と中韓を繋げる「媒介者」の役割も果たした。中国は、日本から輸入する「受信者」である同時に、日本と韓国を繋げる「媒介者」の役割も果たした。韓国は、直接的に日本から輸入する「受信者」である同時に、間接的に中国経由で輸入する「受信者」でもあった。また、「日本語→中国語→韓国語」のような伝播は、その前の時代にも後の時代にも見られない、いわばこの近代初期にのみ出現した独特な現象である。

近代初期の中国と韓国における明治小説受容は、様々な面で共通点を見せていると言える。中韓両国とも、国家・民族の深刻な危機の下で明治小説の導入を開始・展開し、自国の政治の啓蒙・改良と社会の啓蒙・改良に寄与するように、手段としての文学の政治的・社会的効用を重要視し、功利主義的な翻訳文学観が主流的であった。日本を重要かつ効率的な経路と見なしながら外国文学、特に7割に及んだ西洋文学の受容を目指す考え方も一致していた。中国と韓国における受容作品の選択においても、政治小説、歴史・伝記小説、『不如帰』、『鉄世界』など、重ねているもの、似ているものが多く見られる。受容作品の中国語と韓国語への言語転換の過程には、原文を中心にするのではなく、訳文を中心にした結果、忠実な翻訳態度が成り立たず、自国の伝統や現実と訳者の都合や目的により改削や加筆が常に加えられる点でも類似していたと言える。この時期の中韓両国とも、明治小説の受容の際に看過できない変容が発生しており、受容と変容の両方を重要視すべきである。

近代初期の中国と韓国における明治小説受容の一部の相違点も本研究で見えてきた。時代背景において、国家・民族の深刻な危機が両国の明治小説受容の背景となっていたが、日韓併合前後にある韓国は、辛亥革命前後にある中国より危機の緊迫の度合いが強く、中国のように多様な小説類型の受容を行う余裕が比較的になかった。外部条件において、韓国の明治小説受容は、1905年から局部的に、1910年から全面的に日帝による検閲の制限を受けるようになり、自主的に展開することができない場合が多かったが、中国の明治小説受容は、そのような「日帝による検閲」という外部条件が付けられておらず、自主的に展開することができた。また、推進時期において、中国の明治小説受容は1900年代前半と後半を中心に展開され、韓国の明治小説受容は1900年代後半と1910年代前半を中心に展開され、中国は全体的に韓国より5年程度早く推進された。受容経路において、中国は

殆ど全部の作品を日本から直接的に受け入れ、韓国は大部分の作品を日本から直接的に、一部の作品を中国語経由の重訳で間接的に受け入れた。受容方法において、中国は殆ど全部の作品を翻訳の方法で受け入れ、韓国は翻訳以外に、原作のストーリーを移植しながら主人公を自国人に変更する翻案という方法も多く使用したことが特徴的である。受容内容において、韓国は、日本を通して受け入れた明治小説（120 点）のうちに日本創作作品（27 点）が 2 割程度（22.5%）しか占めておらず、それら日本創作作品に対しても主に翻案の方法で日本人主人公を韓国人に置き換えながら受け入れたことから、「脱日本化」の傾向を示した点において中国の状況と大いに異なっていると言える。

しかし、本研究は、明治小説受容の四つの代表的な例について詳しく考察したが、より多いケースを取り扱うことができなかった点と明治小説の伝来が中韓両国の近代文学に与えた深層的な影響を十分に検討できなかった点では課題が残っている。筆者は、本研究を出発点として、今後は持続的な研究を通してこれらの課題をさらに深化・補完していきたいと考えている。

参考文献

1. 一次的資料

(1) 近代新聞・雑誌

① 日本語新聞・雑誌

『郵便報知新聞』『国民新聞』『国民之友』『太陽』『読売新聞』『絵入自由新聞』『都新聞』『大阪毎日新聞』『新小説』『文芸倶楽部』『文芸界』『文学之花』『今日新聞』『東西新聞』『女学雑誌』『家庭雑誌』『万朝報』『少年園』『少年世界』『山陽新報』『東京朝日新聞』『二六新報』『写真画報』『冒険世界』『サンデー』

② 中国語新聞・雑誌

『清議報』『新民叢報』『新小説』『時報』『新新小説』『小説時報』『月月小説』『繡像小説』『小説林』『東方雑誌』『中華小説界』『翻訳世界』『外交報』『小説海』『浙江潮』『江蘇』『江西』『盛京時報』『順天時報』『開智録』『福建法政雑誌』『大陸報』『江西官報』『春江花月報』『開智録』『広益叢報』『童子世界』『萃新報』『科学世界』『教育世界』『女子世界』『中学生世界』『民吁日報』『民呼日報』『民立報』『国民日日報』『俄事警聞』『警鐘日報』『婦女時報』『中外日報』『中西日報』『笑舞台報』『湖南教育雑誌』『新世界小説社報』『国是』『法政学報』『法政学交通社雑誌』『南洋兵事雑誌』『鵲声』『震旦学報』『牖報』『女報』『南方報』『説林』『神州日報』『競業旬報』『繁華雑誌』『中華実業叢報』『教育雑誌』『礼拝六』『小説大観』『大中華雑誌』『新青年』『申報』『新申報』『第一晋話報』『著作林』『漢口中西報』『民口雑誌』『時事新報』

③ 韓国語新聞・雑誌

『漢城新報』『大韓毎日申報』『皇城新聞』『太極学報』『大韓留学生会学報』『少年』『青春』『朝陽報』『西友』『毎日申報』『泰西文芸新報』『大韓日報』『共修学報』『大韓学会月報』『新文界』『大道』『三光』『洛東親睦会学報』『大韓興学報』『基督青年』

(2) 単行本

① 日本語単行本

徳富蘆花著、『不如帰』、東京：民友社、1900年1月15日（初版）

徳富蘆花著、『不如帰』、東京：民友社、1903年5月17日（29版）

徳富蘆花著、『不如帰』、東京：岩波書店、2012年7月

森田思軒訳、『鉄世界』、東京：集成社、1887年9月（初版）

柴四朗著、『佳人之奇遇』初編・卷一～卷二、東京：博文館、1885年10月28日（初版）；二編・卷三～卷四、1886年1月13日（初版）；三編・卷五、1886年8月3日（初版）；三編・卷六、1887年2月4日（初版）；四編・卷七、1887年12月24日（初版）；四編・卷八、1888年3月24日（初版）；五編・卷九、1891年11月24日（初版）；五編・卷十、1891年12月9日（初版）；六編・卷十一～卷十二、1897年7月30日（初版）；七編・卷十三～卷十四、1897年9月14日（初版）；八編・卷十五～卷十六、1897年10月19日（初版）

尾崎紅葉著、『金色夜叉（前編）』、東京 春陽堂、1898年7月6日（初版）

尾崎紅葉著、『金色夜叉（中編）』、東京 春陽堂、1899年1月1日（初版）

尾崎紅葉著、『金色夜叉（後編）』、東京 春陽堂、1900年1月1日（初版）

尾崎紅葉著、『金色夜叉（続編）』、東京 春陽堂、1902年4月27日（初版）

尾崎紅葉著、『金色夜叉（続々）』、東京 春陽堂、1903年6月12日（初版）

尾崎紅葉著、『金色夜叉（新続）』、東京 春陽堂、1903年6月12日（初版）

尾崎紅葉著、『金色夜叉』、東京：新潮社、1966年版

②中国語単行本

林紓・魏易訳、『不如帰』、上海：商務印書館、1914年6月版

林紓・魏易訳、『不如帰』、北京：商務印書館、1981年10月版

包天笑訳、『鉄世界』、上海：文明書局、1903年8月（初版）

梁啓超訳、「佳人奇遇」、『清議報全編』第三集、横浜：新民社、刊行年月不明。

梁啓超訳、『佳人奇遇』、北京：中華書局、1947年版

梁啓超訳、「佳人奇遇」、林志鈞編『飲冰室合集』第11冊、北京：中華書局、1988年版

③韓国語単行本

趙重桓 譯、『不如歸』（上巻・下巻）、東京：警醒社、1912年8月20日（初版）

趙重桓 譯、朴珍英 編、『不如歸』、서울：報告社、2006年11月

鮮于日 翻案、『杜鵑聲』（上巻・下巻）、京城：普及書館、1912年2月20日、9月20日（初版）

金宇鎮 翻案、『榴花雨』、京城：東洋書院、1912年9月15日（初版）

李海朝 譯、『鐵世界』、京城：匯東書館、1908年11月20日（初版）

趙重桓 翻案、『長恨夢』（上）、京城：匯東書館、1913年9月

趙重桓 翻案、『長恨夢』（中）、京城：唯一書館・漢城書館、1916年12月

趙重桓 翻案、『長恨夢』（下）、京城：朝鮮圖書株式會社、1916年12月

趙重桓 翻案、朴珍英 編、『長恨夢』、서울：現實文化、2007年

④英語単行本

Sakae Shioya and E.F. Edgett, *Nami-ko*, Tokyo:The Yurakusha, 1905 (初版) .

W.H.G Kingston, *The Begum's Fortune*, Philadelphia:J.B.Lippincott And Co.,1880.

2. 二次的資料

(1) 論文

①日本語論文

田中梅吉、「併合直後時代に流布していた朝鮮小説の書目」、『朝鮮之図書館』3 (4)、京城：朝鮮図書館研究会、1934 年

中村忠行、「徳富蘆花と現代中国文学 (一)」、『天理大学学報』1 卷 2・3 号、1949 年 10 月

魚返善雄、「稗史小説と明治小説」、『国文学解釈と鑑賞』15 (5)、1950 年 5 月

柳田泉、「明治小説のモデルについて」、『国文学解釈と鑑賞』15 (7)、1950 年 7 月

吉田精一、「明治小説の展望」、『明治大正文学研究』(5)、1951 年 4 月

荒正人、「『金色夜叉』と『不如帰』」、『近代文学』10 (8)、1955 年 8 月

円地文子、「『不如帰』の主題」、『文学』(八)、1956 年

中村忠行、「『不如帰』の中国に於ける評価」、『明治大正文学研究』(23)、1957 年 10 月

飛鳥井雅道、「政治小説と現代文学」、『思想の科学』、1959 年 6 月

佐伯彰一、「小説概念の変化—明治小説の獲得と喪失」、『国文学解釈と鑑賞』25 (1)、1960 年 1 月

伊狩章、「『金色夜叉』と『不如帰』」、『國文學:解釈と教材の研究』10 (5)、1965 年 4 月

木村毅、「政治小説『佳人之奇遇』の思出—明治大正文学夜話-10-」、『国文学解釈と鑑賞』30 (12)、1965 年

木村毅、「明治小説の雌蕊・尾崎紅葉の金銭感覚」、『国文学:解釈と鑑賞』31 (1)、1966 年 1 月

佐中壮、「『解説 佳人之奇遇』〔平泉澄著〕のすゝめ」、『藝林』21 (2)、1970 年

許常安、「『清議報』登載の『佳人奇遇』について—特にその訳者」、『漢文学会会報』(30)、1971 年

許常安、「『清議報』登載の『佳人奇遇』について-1-特にその名訳と誤植訂正」、『斯文』(66)、1971 年

許常安、「『清議報』登載の『佳人奇遇』について-2-特にその誤訳-1-」、『斯文』(67)、1971 年

許常安、「『清議報』登載の『佳人奇遇』について—特にその西洋的外来語-1-」、『斯文』(68)、1972 年

許常安、「清議報第四冊記載の『佳人奇遇』について--特にその改刪」、『大正大學研究紀要』(57)、1972年

田熊渭津子編、「明治翻訳文学年表」、木村毅編『明治翻訳文學集』、東京：筑摩書房、1972年

許常安、「清議報第四冊記載の『佳人奇遇』について」、『日本中国学会報』(24)、1972年
大村益夫、「梁啓超および『佳人之奇遇』」、『人文論集』(11)、1974年

許常安、「『清議報』登載の『佳人奇遇』について-3-特にその誤訳-2-」、『斯文』(75・76)、1974年

許常安、「『清議報』登載の『佳人奇遇』について-4-特にその誤訳-3-」、『斯文』(78)、1975年

許常安、「『清議報』登載の『佳人奇遇』について-5-特にその誤訳-4-」、『斯文』(79)、1975年

許常安、「『清議報』登載の『佳人奇遇』について：特にその西洋的外来語(二)」、『大正大學研究紀要』(61)、1975年

許常安、「『清議報』登載の『佳人奇遇』について--特にその西洋的外来語-3-」、『専修人文論集』(16)、1976年

安藤義郎、「初めて欧米に紹介された日本の小説--「不如帰(ほととぎす)」とその英訳について」、『経済集志』46(別冊)、1976年11月

尾形国治、「尾崎紅葉『金色夜叉』序論」、『国文学研究』(63)、早稲田大学国文学会、1977年10月

許常安、「上海中国書局印行と清議報記載の「佳人之奇遇」を比較して--特にその名訳と誤植訂正-2-」、『国士館大学文学部人文学会紀要』(10)、1978年

片岡良一、「『金色夜叉』と『不如帰』の大衆性」、『片岡良一著作集』第5巻、東京：中央公論社、1979年

前田愛、「尾崎紅葉「金色夜叉」の宮」、『国文学 解釈と教材の研究』25(4)、1980年3月

山田敬三、「漢訳『佳人奇遇』の周辺--中国政治小説研究札記」、『神戸大学文学部紀要』(9)、1981年

三宅正太郎、「『金色夜叉』を描いた画家たち」、『明治の古典』月報4、東京：学習研究社、1981年12月

柳永二郎、「『金色夜叉』上演のあれこれ」、『明治の古典』月報4、東京：学習研究社、1981年12月

安宇植、「翻訳から見た朝鮮の近代」、『翻訳』、東京：岩波書店、1982年

金順慎、「政治小説における政治と文学：『経国美談』と『佳人之奇遇』をめぐる」、『龍鳳人文論叢』(12)、1982年

大沼敏男、「佳人之奇遇」成立考証序説―慶応義塾図書館蔵稿本と刊行本」、『文学』 51 (9)、1983 年

草間幸子、「「不如帰」と新小説「杜鵑聲」との比較考察：「新しさ」，「感傷性」，「家」の問題を中心にして」、『상명대학교논문집』 (14)、1984 年

木下彪、「佳人之奇遇」の詩と其の作者」、『文学』 53 (9)、1985 年

藤田緑、「佳人之奇遇」にみるアフリカとの連帯」、『比較文学』 (29)、1986 年

松井幸子、「佳人之奇遇」に描かれた外交問題―条約改正」、『山口大学教養部紀要 人文科学篇』 (21)、1987 年

佐藤嗣男、「紅葉と藍花：『金色夜叉』と『不如帰』」、『文学と教育』 (139)、1987 年

神田重幸、「『不如帰』―夫婦愛、その理想と悲劇」、『国文学解釈と鑑賞』 52 (10)、1987 年

高田知波、「良妻賢母」への背戻―『金色夜叉』のヒロインを読む―」、『日本文学』 (36)、1987 年 10 月

稲葉継雄、「井上角五郎と『漢城旬報』『漢城周報』：ハングル採用問題を中心に」、『文藝言語研究 (言語篇)』 (12)、1987 年

井上弘、「東海散士柴四朗の「佳人之奇遇」と「東洋之佳人」、『静岡女子大学研究紀要』 (21)、1988 年

松井幸子、「佳人之奇遇」巻 16 とその政治的背景」、『山口大学教養部紀要 人文科学篇』 (22)、1988 年

井上弘、「佳人之奇遇」巻 16 について」、『静岡女子大学研究紀要』 (22)、1989 年

神立春樹、「尾崎紅葉「金色夜叉」―その時代描写」、『岡山大学経済学会雑誌』 21 (1)、1989 年 5 月

松井幸子、「佳人之奇遇」巻 16―対露警戒論」、『山口大学教養部紀要 人文科学篇』 (23)、1989 年

林原純生、「佳人之奇遇」の変貌」、『日本文学』 39 (11)、1990 年

稲葉継雄、「旧韓末の私立学校における日本語教育」、『文藝言語研究 (言語篇)』 (18)、1990 年

藤井淑禎、「不如帰」徳富蘆花―戦争と愛と」、『国文学 解釈と教材の研究』 36 (1)、1991 年 1 月

神立春樹、「徳富蘆花「不如帰」における時代描写」、『岡山大学経済学会雑誌』 23 (1)、1991 年 6 月

藤井淑禎、「徳富蘆花「不如帰」」、『国文学解釈と鑑賞』 57 (4)、1992 年 4 月

大沼敏男、「東海散士「佳人之奇遇」」、『国文学解釈と鑑賞』 57 (4)、1992 年

甘露純規、「もう一つの『佳人之奇遇』：あるいはもう一つの『通俗佳人之奇遇』」、『日本文学』44(12)、1995年

韓光洙、『日本近代小説の韓国における翻案に関する研究：『己が罪』・『金色夜叉』・『捨小舟』について』、東京：専修大学博士論文、1995年

樽本照雄、「清末民初の翻訳小説——付：日本語経由の欧米漢訳小説一覧」、『大阪経大論集』第47巻第1号（通巻231号）、1996年5月

樽本照雄、「包天笑翻訳原本を探究する」、『清末小説から』第45号、1997年4月1日；

川本皓嗣、「『東アジア比較文学史』の構想」、『比較文学研究』(70)、1997年

広岡守穂、「東海散士『佳人之奇遇』——自由とナショナリズム」、『国文学：解釈と鑑賞』62(12)、1997年

布袋敏博、「二つの朝鮮語訳『経国美談』について」、『近代朝鮮文学における日本との関連様相』、東京：緑蔭書房、1998年

樽本照雄、「魯迅『造人術』の原作」、『清末小説』第22号、1999年12月1日

松尾洋二、「梁啓超と史伝——東アジアにおける近代精神史の奔流」、狭間直樹編『梁啓超：西洋近代思想受容と明治日本』、東京：みすず書房、1999年

高井多佳子、「東海散士柴四朗の政治思想——政治小説『佳人之奇遇』発刊以前」、『史窓』(56)、1999年

西田谷洋、「東海散士『佳人之奇遇』試論」、『自由民権』(12)、1999年

井田進也、「東海散士『佳人之奇遇』合作の背景——慶応義塾図書館所蔵稿本を読む」、『国文学 解釈と教材の研究』44(12)、1999年

樽本照雄、「『航海少年』原作探索」、『清末小説から』第59号、2000年10月1日

鄭順姫、『日本近世中期における中国文学受容：李朝と比較して』、京都：京都大学博士論文、2000年

延廣眞治、「比較文学比較文化と国文学」、『比較文学研究』(75)、2000年

金順慎、「韓日開化期小説の比較文学的研究」、『日本文化学報』(11)、2001年

権丁熙、「海峡を越えた『国民文学』——朝鮮における『不如帰』の受容をめぐって」、『日本近代文学』65、2001年10月

長沼秀明、『『金色夜叉』における「家」の問題——川島武宜の理論をどう受け継ぐか』、『法史学研究会会報』(6)、2001年

高井多佳子、『『佳人之奇遇』を読む：小説と現実の「時差」』、『史窓』58、2001年

洪善英、「徳富蘆花『不如帰』と韓国の翻案小説との比較考察」、『日語日文学研究』(43)、2002年

洪善英、『越境する人と文化：一九一〇年代の韓国における日本文学・演劇と「翻案」』、筑波大学博士論文、2002年

- 高井多佳子、「柴四郎の国権論：『佳人之奇遇』における「自由」、『史窓』60、2003年
- 高井多佳子、「東海散士著『佳人之奇遇』の成立について」、『京都女子大学大学院文学研究科研究紀要 史学編』(3)、2004年
- 康東元、「清末における日本近代文学作品の翻訳と紹介：日本文芸の中国における受け入れ方(1)」、『図書館情報メディア研究』02(01)、2004年
- 寇振鋒、「『新中国未来記』における「志士」と「佳人」――『経国美談』『佳人之奇遇』からの受容を中心に」、『多元文化』(4)、2004年
- 藤田昌志、「日中現代文学比較論：日中比較文化論の視点から(Ⅰ)」、『三重大学国際交流センター紀要』(1)、2006年
- 鄭美京、「『金色夜叉』と『長恨夢』に関する考察」、『比較社会文化研究』19、2006年
- 高橋修、「『不如帰』の結末―「征清戦争」をめぐるメタファー」、『共立女子短期大学文科紀要』(50)、2007年1月
- 藤田昌志、「日中現代文学比較論：日中比較文化論の視点から(Ⅱ)」、『三重大学国際交流センター紀要』(2)、2007年
- 井上理恵、「川上音二郎の「金色夜叉」初演と海外巡業」、『演劇学論集』(45)、2007年
- 申美仙、「韓国における『金色夜叉』」、『福岡大学日本語日本文学』(17)、2007年
- 金文京、「東アジア比較文学の構想」、『和漢比較文学』(40)、2008年
- 木村功、「徳富蘆花「不如帰」―反転する悲劇」、『国文学：解釈と鑑賞』73(2)、2008年2月
- 齋藤希史、「漢文ノート(8)不如帰」、『UP』37(7)、2008年7月
- 瀬崎圭二、「「金色夜叉」と熱海一口絵の力と現在」、『国文学攷』(201)、2009年3月
- 樽本照雄、「清末民初の翻訳小説と日本」、『図説翻訳文学総合事典』第5巻、東京：大空社・ナダ出版センター、2009年11月
- 沢本香子、「書家としての呉禱」、『清末小説』第32号、2009年12月
- 伊藤知子、「『漢城新報』における日本古典「紀文伝」の受容」、『東アジア歴史と文化』(19)、2010年
- 谷出千代子、「イソップ寓話の変容と寓意性―明治・大正期出版「犬とその影」をめぐって―」、『仁愛大学研究紀要』(2)、2010年
- 藤元直樹、「明治ヴェルヌ評判記―『鉄世界』編」、『エクセルシオール』(4)、2010年4月
- 平岡敏夫、「『上海』と『佳人之奇遇』：政治小説の系譜」、『稿本近代文学』(36)、2011年
- 伊藤知子、「『漢城新報』に掲載された『拿破崙傳』の原本および『乙未事変』との関わりについて」、『朝鮮学報』(225)、2012年
- 盧守助、「梁啓超訳『佳人之奇遇』及びその周辺」、『環日本海研究年報』(20)、2013年3

月

楊文瑜、「『不如帰』の近代漢訳史に関する考察」、『東アジア日本語教育・日本文化研究』(16)、2013年3月

加藤信吾、「『金色夜叉』における愛と金」、『武蔵文化論叢』(13)、2013年3月

峯岸英雄、「明治の夫婦、家庭の「心得」：徳富蘆花『不如帰』再読」、『公評』50(9)、2013年10月

辻尚子、「清朝末年の機関紙『清議報』：その『佳人之奇遇』『経国美談』にみる句読法について」、『日本言語文化研究』(18)、2013年12月

竹内加奈、「『敗者』のナショナリズム：東海散士『佳人之奇遇』を通じて」、『社会科学』(101)、2014年

杉原志啓、「明治の驚くほどおもしろい「物語」を読もう(第14回)東海散士『佳人之奇遇』(その2)」、『表現者 = Espressivo』(55)、2014年7月

加藤信吾、「『金色夜叉』と『長恨夢』における相違点について」、『武蔵大学総合研究所紀要』(24)、2014年

村中淑子、「明治小説にみる京都方言：清水紫琴「心の鬼」(明治30年)を資料として」、『現象と秩序』(2)、2015年3月

加藤信吾、「金色夜叉」における恋愛と恋愛結婚」、『武蔵文化論叢』(15)、2015年3月

洪世峨、「尾崎紅葉『金色夜叉』考―「愛」と「黄金」の闘争をめぐる―」、『専修国文』(99)、2016年9月

陳宏淑、「ヴェルヌから包天笑まで：『鉄世界』の重訳史」、『跨境：日本語文学研究』(3)、2016年8月

加藤信吾、「『金色夜叉』における女性と恋愛」、『武蔵大学人文学会雑誌』48(2)、2017年3月

②中国語論文

松岑(金天翮)、「論写情小説于新社会之関係」、『新小説』第17号、1905年6月

藏暉楼主人、「読小説絶句二：不如帰」、『越報』(1) 1909年

周作人、「日本近三十年小説之発達」、『新青年』05(01)、1918年

胡適、「五十年来中国之文学」、『申報』五十周年記念特刊、1923年

陳子展、「翻訳文学」、『中国近代文学之変遷・最近三十年中国文学史』、上海：上海古籍出版社、2000年(1929年初版)

東北師範大学外国問題研究所日本文学研究室編、「五四運動以来日本文学研究で翻訳目録」、『日本文学』創刊号、1982年

王凌、「晚清日本文学翻訳論考」、『日本学刊』(05)、1986年

王凌、「晚清日本文学翻譯論考」、『日本学刊』(05)、1986 年

夏曉虹、「梁啓超与日本明治小説」、『北京大学學報』(05)、1987 年

袁荻涌、「试论域外政治小说对晚清文学的影响」、『贵州教育学院学报』(04)、1993 年

王中忱、「叙述者的變貌—試析日本政治小説『経国美談』の中訳本」、『清華大學學報』(10) 4、1995 年

王向遠、「中日啓蒙主義文学思潮与「政治小説」比較論」、『外国文学評論』(3)、1995 年

郭延礼、「近代外国政治小説的翻譯」、『齊魯學刊』(4)、1996 年

袁荻湧、「近代中日政治小説比較」、『青海社会科学』(4)、1997 年

李京美、「梁啓超与韓國近代政治小説的因緣」、『当代韓國』(夏)、1998 年

李慶国、「『佳人之奇遇』原版本的抹消及試訳」『清末小説から』(56)、2000 年

武潤婷、「主張婚姻自主的「鴛鴦蝴蝶派」小説」、『中国近代小説演變史』、濟南：山東人民出版社、2000 年

仇紅、「政治小説：梁啓超对日本近代文学的選択」、天津：天津師範大學碩士論文、2001 年

張思齊、「談『柴四朗『佳人奇遇』研究』」、『武漢大學學報』(6)、2001 年

鄭光沢、「中・韓新文学史比較」、延辺：延辺大學碩士論文、2002 年

李永男、「梁啓超の小説思想和坪内逍遙的『小説神髓』对朝鮮近代小説理論的影響」、『天津外国語學院學報』(03)、2002 年

王鉄均、「日本近代啓蒙思想在中国的伝播形式及其漢訳評析」、『華僑大學學報』(3)、2003 年

顧怡、「中韓文学近代化過程的比較研究（約 19 世紀末——1919 年）」、上海：復旦大學碩士論文、2003 年

沈国威、「康有為及其『日本書目志』」、『或問』51 (5)、2003 年

陳大康、「關於晚清小説的標示」、『明清小説研究』(2)、2004 年

康東元、「清末における日本近代文学作品の翻譯と紹介：日本文芸の中国における受け入れ方 (1)」、『図書館情報メディア研究』第 2 卷第 1 号、2004 年

李志梅、『報人作家陳景韓及其小説研究』、上海：華東師範大學博士論文、2005 年

付立波、「近代中国人翻譯的人文社科類日文書籍」、『上海高校図書館情報工作研究』(02)、2006 年

夏敏、「『不如帰』在中国的訳介」、『語文学刊』2006 (1)、2006 年

黎躍進、「簡論東海散士及其代表作『佳人奇遇』」、『日本研究』(3)、2006 年

趙楊、『中韓近代新小説比較研究』、北京：中央民族大学博士論文、2007 年

周国強、「大正時代中・韓留日学生的唯美主義文学活動」、『長崎県立大学国際情報学部研究紀要』第 9 号、2008 年 12 月

孫立春、『中国的日本近現代小説翻譯研究』、天津：天津師範大學博士論文、2008 年

關文文、『晚清報刊翻譯小說研究』、上海：華東師範大學博士論文、2008 年
 柳賢姪、「中韓新文學啓蒙主義思潮比較」、『揚州教育學院學報』26（1）、2008 年
 付建舟、「清末民初日語文學的漢譯與中國文學的現代轉型」、『外國文學評論』（04）、2009 年
 付建舟、「談談說部叢書」、『明清小說研究』2009 年第 3 期、2009 年
 潘喜顏、「晚清時期趙必振日書中訳的貢獻」、『史學月刊』（12）、2009 年
 葉春雷・盧飛、「甲午海戰中日指揮員素質之比較」、『軍事歷史』（2）、2009 年
 鄒波、「林紓轉譯日本小說『不如歸』之底本考證」、『復旦外國語言文學論叢（2009 年秋季號）』、上海：復旦大學出版社、2010 年
 張海榮、「甲午戰後改革大討論考述」、『歷史研究』（4）、2010 年
 田玲、「近代外國文學對中國小說創作的影響」、『北方論叢』（4）、2010 年
 崔文東、「晚清 Robinson Crusoe 中訳本考略」、『清末小說から』（98）、2010 年
 江川瀾、「暢銷書不如歸的背後的故事」、『深圳特區報』、2011 年 1 月 25 日
 文大一、「中韓政治小說訳介の異同：以中韓訳本『経国美談』比較為中心」、『東方論壇』第 6 号、2012 年
 陶琦、「論柴四郎的『佳人奇遇記』」、上海：東華大學碩士論文、2012 年
 潘少瑜、「國恥痴情兩淒絕：林訳小説『不如歸』的國難論述與情感想像」、『編訳論叢』2002（1）、2002 年
 張艷、「陳冷血兩篇翻譯小說的日語底本：兼析明治文學的影響」、『清末小說』（35）、2012 年
 孫科志、「韓國人怎麼看甲午戰爭」、『東方早報』第 B 六版、2014 年 4 月 22 日
 徐黎明、「翻譯・政治・政治小説：略論『瑞士建國志』在東亞的翻譯與傳播」、王宏志主編『翻譯史研究』第 5 輯、上海：復旦大學出版社、2015 年 12 月
 高西峰、「中日近現代小說中知識分子的自我救贖—明治小説與「五四」小説比較」、『貴州社會科學』2015 年第 2 期、2015 年
 趙海濤・王玉華、「尾崎紅葉未完作『金色夜叉』的經典化考述—以被續寫和報刊連載為視角」、『江西科技學院學報』第 11 卷第 3 期、2016 年 9 月
 蔣瑞藻、「不如歸 第五十」、（蔣瑞藻著・蔣逸人整理）『小説考証 下』、杭州：浙江古籍出版社、2016 年
 柴琳、「日本政治小説『経国美談』在中韓兩國的接受」、山東大學碩士論文、2017 年
 盧坡、「廉泉與文明書局」、『合肥師範學院學報』2017 年第 1 期、2017 年
 張俊才、「林紓對日本小説『不如歸』的評價及其他」、『福州大學學報』2017（4）、2017 年
 岳凱華、「『佳人奇遇』：梁啓超的翻譯緣由與對中國政治小説的影響」、『外國文學研究』2018 年第 6 期、2018 年

③韓國語論文

- 車相轅, 「韓中 新文學運動의 比較研究」, 『中國學報』(15), 1974 年
- 河東鎬, 「開化期小說의 書誌的 整理 및 調査」, 『東洋學』(7), 1977 年
- 葉乾坤, 『梁啓超와 舊韓末文學』, 서울:高麗大學校博士論文, 1979 年
- 胡啓建, 「韓中兩國의 近代初期文學 比較研究:新文學時期를 中心으로」, 서울大學校碩士論文, 1980 年
- 이명자, 「새로 밝혀낸 李海朝의 얼굴과 生涯」, 『文學思想』(92), 1980 年 7 月
- 全光鏞, 「百年來 韓中文學 交流考」, 『比較文學』(5), 1980 年
- 金泰俊, 「이승寓話의 受容과 開化期教科書」, 『韓國學報』(24), 1981 年
- 崔元植, 「亞細亞의 連帶--『越南亡國史』小考」, 『韓國文學의 現段階』, 서울:創作과批評社, 1983 年
- 成賢子, 『新小說에 미친 晚淸小說의 影響』, 梨花女子大學校博士論文, 1984 年
- 李永根, 「開化期小說 出版의 樣相:『朝鮮古代小說叢書』와 『朝鮮新小說叢書』에 收錄된 作品들을 中心으로」, 『畿甸語文學』(1), 1986 年
- 朴鍾明, 「明治政治小說의 政治主張과 韓國」, 『教育論叢』(14), 1990 年
- 조경희, 『新文學初期의 功利主義의 文學觀研究:新青年派와 文學研究會를 中心으로』, 서울:高麗大學校博士論文, 1993 年
- 金順楨, 『韓日近代小說의 比較文學的 研究』, 春川:翰林大學校博士論文, 1998 年
- 金衡中, 『韓國 愛國啓蒙期 新聞連載小說研究:漢文小說・討論體小說・新小說의 主題의 特性을 中心으로』, 春川:翰林大學校博士論文, 1999 年
- 鄭順姬, 「近世 韓・日兩國에서의 中國文學의 受容形態比較」, 『日本文化研究』(3), 2000 年
- 牛林杰, 『韓國 開化期文學에 끼친 梁啓超의 影響』, 서울:成均館大學校博士論文, 2000 年
- 金敎鳳, 「〈鐵世界〉의 科學小說의 性格」, 『大衆敍事研究』5(1), 2000 年
- 유철상, 「李海朝의 〈鐵世界〉論」, 『韓國 近代小說의 分析과 解釋』, 서울:月印圖書出版, 2002 年
- 黃鎬德, 『韓國近代形成期の 文章配置와 國文談論:他者・交通・翻譯・에크리튀르, 近代 네이션과 그 表象들』, 서울:成均館大學校博士論文, 2002 年
- 權보드래, 「韓國・中國・日本의 近代의文學概念 및 文學語 形成(1)——小說『不如歸』의 創作 및 翻譯・翻譯樣相을 中心으로」, 『大東文化研究』(42), 2003 年

- 김순전·송진한·이등연, 「20世紀前後 韓中日의 小說觀 比較研究」, 『日本語文學』(16), 2003年
- 권정희, 「도쿠토미 로카[德富蘆花] 『호토토키스[不如歸]』의 번역과 변안 : 조중환의 『불여귀』」, 『민족문학사연구』 22, 2003년
- 김상대 等共著, 『韓中日 近代文學史의 反省과 摸索』, 서울:푸른思想, 2003年
- 朴珍英, 「李守一과 沈順愛 이야기의 大衆文藝的 性格과 -〈長恨夢〉 研究」, 『韓國文學의 研究』(23), 2004年 7月
- 李鐘振, 「比較文學의 觀點에서 본 韓國·日本·中國 近代文學의 特徵」, 『中國文學理論』(4), 2004年
- 朴珍英, 「一齋 趙重桓과 翻譯小説의 時代」, 『民族文學史研究』(26), 2004年
- 이종국, 「開化期 出版 活動의 한 徵驗: 匯東書館의 出版文化史의 意義를 中心으로」, 『韓國出版學研究』(49), 2005年 12月
- 전은경, 『1910年代 翻譯小説研究』, 大邱:慶北大學校博士論文, 2006年
- 이희정, 「1910年代 『每日申報』 翻譯·翻譯小説의 展開樣相」, 『韓國現代文學會 2006年冬季學術發表會資料集』, 2006年
- 이희정, 『1910年代 『每日申報』所載小説研究:近代小説形成과의 關聯樣相을 中心으로』, 大邱:慶北大學校博士論文, 2006年
- 최혜영, 「淸日戰爭에 對한 韓日中 歷史認識 比較分析」, 서울:高麗大學校碩士論文, 2006年
- 孫成俊, 「國民國家와 英雄敍事:『伊太利建國三傑傳』의 서발동작(西發東着)과 그 意味」, 『사이間 SAI』(3), 2007年 11月
- 권정희, 「日本文學의 翻譯:메이지 家庭小説은 왜 翻譯이 아니라 翻譯으로 受容되었나」, 『亞細亞文化研究』(12), 2007年
- 전은경, 「『大韓每日申報』의 國文政策과 翻譯小説의 大衆性研究:『國恥傳』과 『賣國奴』를 中心으로」, 『語文研究』(54), 2007年
- 朴珍英, 「韓國의 翻譯 및 翻譯小説과 近代小説語의 成立:近代小説의 樣式과 媒體 그리고 言語」, 『大東文化研究』(59), 2007年
- 徐黎明, 「韓中 『瑞士建國志』에 대한 比較 考察」, 『民族文學史研究』(35), 2007年
- 윤민주, 「〈불여귀〉에 대한 비교문학적 연구」, 경북대학교석사논문, 2007년
- 朴英琦, 『韓國 近代兒童文學教育의 形成과 展開過程研究』, 서울:韓國外國語大學校博士論文, 2008年
- 김종진, 「도쿠토미로카(德富蘆花) 《호토토기스(不如歸)》에 대한 한국과 중국의 연극적 수용양상 비교연구」, 『中國語文論叢』 38, 2008년

권정희, 「언어의 전환과 서사의 분기 - 『두견성』과 『불여귀』」, 『大東文化研究』 64, 2008 년

사에구사도시카쓰(三枝壽勝), 「쥘 베른(Jules Verne)의 『십오소호걸(十五小豪傑)』의 翻譯 系譜-文化的 受容과 變容-」, 『사이(SAI)』 (4), 2008

盧連淑, 「20 世紀初 東亞細亞에 流通된 『經國美談』 比較考察:玄公廉의 『經國美談』을 中心으로」, 『語文研究』 37 (4), 2009 年

盧連淑, 「20 世紀初 東亞細亞 政治敍事에 나타난 「愛國」의 樣相」, 『韓國現代文學研究』 (28), 2009 年

구인모, 「지역, 장르, 매체의 경계를 넘는 서사(敍事)의 역정(歷程) -『불여귀(不如歸)』 번안과 유성기음반 취입을 둘러싼 서사의 수용과 변용-」, 『사이(SAI)』, 2009 年

최호석, 「新文館刊行 「六錢小說」에 대한 研究」, 『韓民族語文學』 (57), 2010 年

문한별, 「國權喪失期를 前後로 한 翻譯 및 翻案小說의 變貌樣相:敍述方法의 變化를 中心으로」, 『國際語文』 (49), 2010 年

송민호, 「悅齋 李海朝의 生涯와 思想的 背景」, 『國語國文學』 (156), 2010 年

다지마데쓰오(田島哲夫), 「〈國恥傳〉 原本 研究-『日本政海新波瀾』, 『政海波瀾』, 그리고〈國恥傳〉間의 比較를 中心으로-」, 『現代文學의 研究』 (40), 2010 年

徐黎明, 『中國을 媒介로 한 愛國啓蒙敍事研究 - 1905-1910 年의 翻譯作品을 中心으로』, 仁川:仁荷大學校博士論文, 2010 年

권정희, 「現代文學 :殖民地朝鮮의 翻譯/翻案의 位置 - 1910 年代著作權法을 中心으로」, 『泮矯語文研究』 (28), 2010 年

최태원, 『一齋 趙重桓의 翻案小說 研究』, 서울:서울大學校博士論文, 2010 年

朴珍英, 『韓國의 近代翻譯 및 翻案小說史研究』, 서울:延世大學校博士論文, 2010 年

강현조, 「〈寶環緣〉과 〈虛榮〉의 同一性 및 翻案 文學的 性格 研究」, 『現代文學의 研究』 (44), 2011 年 6 月

盧連淑, 「20 世紀初 韓中日에 通用된 政治的 텍스트의 屈折 樣相 考察-시부에 다모츠(澁江保)의 텍스트를 中心으로-」, 『國際語文』 (53), 2011 年 12 月

黃鎬德, 「翻譯과 正統性, 帝國의 言語들과 近代韓國語:英韓辭典의 系譜學」, 『亞細亞研究』 54 (3), 2011 年

윤영실, 「東亞細亞 政治小說의 한 樣相:『瑞士建國志』 翻譯을 中心으로」, 『상허學報』 (31), 2011

강현조, 「翻譯小說 『紅寶石』 研究:日本小說 『新聞賣子』 및 中國小說 『電術奇談』 과의 聯關性을 中心으로」, 『國語國文學』 (159), 2011 年

盧連淑, 「20 世紀初 韓中日 政治敍사와 近代의 政治的想像 (1):韓中日에 通用된 시바시로(柴四郎)의 텍스트를 中心으로」, 『韓國現代文學研究』 (33), 2011 年

朴珍英, 「韓國에 온 톨스토이」, 『韓國近代文學研究』(23), 2011 年

孫成俊, 「英雄敘事の 東亞細亞의 再脈絡化-코슈트진(傳)의 地域間 意味 偏差」, 『大東文化研究』(76), 2011 年 12 月

孫成俊, 「近代 東亞細亞의 크롬웰 變奏:英雄 談論, 英國 政體, 프로테스탄티즘」, 『大東文化研究』(78), 2012 年 6 月

배정상, 「李海朝 文學 研究:近代 出版 印刷와의 關聯 樣相을 中心으로」, 延世大學校博士論文, 2012 年

강현조, 「韓國 近代初期 翻譯, 翻譯小説의 中國, 日本文學 受容 樣相 研究: 1908 年 및 1912-1913 年の 單行本 出版 作品을 中心으로」, 『現代文學의 研究』(46), 2012 年

盧連淑, 『20 世紀初 韓國文學에서의 政治敘事研究:韓·日·中에 流通된 텍스트를 中心으로』, 서울:서울大學校博士論文, 2012 年

孫成俊, 『英雄敘事の 東亞細亞 受容과 重譯의 原本性: 西歐 텍스트의 韓國的 再脈絡化를 中心으로』, 서울:成均館大學校博士論文、2012 年

田明, 「愛國啓蒙期 中譯本政治小説의 韓國的 變容樣相—玄公廉의 『回天綺談』과 『經國美談』을 中心으로」, 仁川:仁荷大學校碩士論文, 2012 年

張魯鉉, 「近代轉換期 中國 媒介 翻譯文學의 現況과 樣相」, 『國際語文』第 56 輯, 2012 年

강현조, 「韓國近代小説 形成動因으로서의 翻譯·翻譯:近代初期 翻譯·翻譯小説의 展開 樣相을 中心으로」, 『韓國近代文學研究』(26), 2012 年

崔瑞娟, 「中韓 近代 科學小説 比較研究:췌 베른의 <海底旅行>과 <鐵世界>를 中心으로」, 山東大學碩士論文、2012 年

張魯鉉, 「人種과 衛生:<鐵世界>의 啓蒙의 論理에 對한 再考」, 『國際語文』(58), 2013 年

朴珍英, 「新文館의 出版 大長征과 靑年編輯者 崔南善의 肖像」, 『近代書誌』(7), 2013 年

張魯鉉, 「『伊太利少年』에서 『엄마찾아三万里』까지:兒童文學『쿠오레』의 韓國受容」, 『韓國言語文化』(52), 2013 年

박성호, 「『大韓每日申報』의 翻譯小説 受容樣相과 記錄으로서의 小説:『매국노』과 『賣國奴』의 比較 分析을 中心으로」, 『韓國文學理論과 批評』18 (1), 2014 年

강용훈, 「李海朝의 <鐵世界>」, 『概念과 疏通』(13), 2014 年

황미경, 「近代初期 翻譯小説의 翻譯語研究:『巨人國漂流記』『魯濱遜無人絶島漂流記』의 日本語翻譯本과의 比較分析」, 『日本文化研究』(51), 2014 年

권문경, 『구로이와 루이코의 受容과 1910 年代 韓國의 翻譯小説』, 仁川:仁荷大學校博士

論文, 2014 年

孫成俊, 「近代 東亞細亞의 愛國談論과 『愛國精神談』」, 『概念과 疏通』(16), 2015 年 12 月

孫成俊, 「修身과 愛國: 『朝陽報』와 『西友』의 「愛國精神談」 翻譯」, 『比較文學』(69), 2016 年 6 月

김현주, 「이야기 장면에 인물을 도입하는 언어 장치에 대한 연구 - 일한 번안 소설 불여귀와 두견성을 중심으로 -」, 『教育論叢』54, 2017 年

(2) 研究書

① 日本語研究書

木村毅・斉藤昌三、『西洋文学翻訳年表』、東京: 岩波書店、1933 年

柳田泉、『明治初期の翻訳文学』、東京: 松柏館、1935 年

柳田泉編、『明治初期翻訳文学年表』、東京: 春秋社、1935 年

実藤恵秀、『中訳日文書目録』、東京: 國際文化振興會、1945 年

外務省編、『日本外交文書』第 28 卷第 1 冊、日本國際聯合協會、1953 年

国立国会図書館編、『明治・大正・昭和翻訳文学目録』、東京: 風間書房、1959 年

柳田泉、『政治小説研究』、東京: 春秋社、1967 年

実藤恵秀、『中国人日本留学史』、東京: くろしお出版、1970 年

阿井景子、『「不如帰」の女たち』、東京: 文芸春秋、1991 年 7 月

姜在彦、『近代朝鮮の变革思想』、東京: 日本評論社、1973 年

岡野他家夫、『明治文学研究文献總覽』、東京: 富山房、1976 年

村上浜吉編、『明治文学書目』、東京: 鳳書房、1976 年

加藤周一、『日本文学史序説 (下)』、東京: 築摩書房、1980 年

上垣外憲一、『日本留学と革命運動』、東京: 東京大学出版会、1982 年

樽本照雄編、『清末民初小説目録』、清末小説研究会・中国文芸研究会、1988 年 (初版)

藤井淑禎、『不如帰の時代--水底の漱石と青年たち』、名古屋: 名古屋大学出版会、1990 年

琴秉洞、『金玉均と日本--その滞日の軌跡』、東京: 緑蔭書房、1991 年

鈴木亮、『日本からの世界史』、東京: 大月書店、1994 年

早稲田大学図書館編、『明治期刊行物集成 (文学・言語編) 総目録』、東京: 雄松堂、1996 年

樽本照雄編、『新編清末民初小説目録』、大津: 清末小説研究会、1997 年

東アジア近代史学会編、『日清戦争と東アジア世界の変容』、東京: ゆまに書房、1997 年 9 月

布袋敏博（ほか）著、『近代朝鮮文学における日本との関連様相』、東京：緑蔭書房、1998年

樽本照雄編、『清末民初小説年表』、大津：清末小説研究会、1999年

狭間直樹編、『梁啓超：西洋近代思想受容と明治日本』、東京：みすず書房、1999年

神立春樹、『明治文学における明治の時代性』、東京：お茶の水書房、1999年

亀井秀雄、『明治文学史』、東京：岩波書店、2000年

谷口彦靖、『明治の翻訳王伝記 森田思軒』、岡山：山陽新聞社、2000年

真銅正宏、『ベストセラーのゆくえ：明治大正の流行小説』、東京：翰林書房、2000年

国文学研究資料館編、『境界と日本文学：翻訳とその周辺』、国文学研究資料館、2000年

伊藤秀雄・榊原貴教、『黒岩涙香の研究と書誌—黒岩涙香著訳書総覧』、名古屋：ナダ出版センター、2001年

川戸道昭編、『明治期翻訳文学総合年表』、東京：大空社、2001年

樽本照雄編、『新編増補清末民初小説目録』、済南：齊魯書社、2002年

大村益夫著、『朝鮮近代文学と日本』、東京：緑蔭書房、2003年

齋藤希史、『漢文脈の近代：清末＝明治の文学圏』、名古屋：名古屋大学出版会、2005年

康東元、『日本近・現代文学の中国語訳総覧』、東京：勉誠出版、2006年

藤井省三編、『東アジアの文学・言語空間』、東京：岩波書店、2006年

姜健栄、『開化派リーダーたちの日本亡命：金玉均・朴泳孝・徐載弼の足跡を辿る』、東京：朱鳥社、2006年

慎根緯、『日韓近代小説の比較研究—鉄腸・紅葉・盧花と翻案小説』、東京：明治書院、2006年

樽本照雄、『清末翻訳小説論集』、清末小説研究会、2007年

伊藤整、『日本文壇史 17 転換点に立つ』、東京：講談社、2008年版

川戸道昭・榊原貴教編、『図説翻訳文学総合事典』、東京：大空社・ナダ出版センター、2009年

康東元、『日本近現代文学翻訳研究』、上海：上海交通大学出版社、2009年

川本皓嗣・上垣外憲一編、『一九二〇年代東アジアの文化交流』、京都：思文閣出版、2010年

山田有策、『尾崎紅葉の「金色夜叉」』、東京：角川学芸出版、2010年9月

酒井美紀、『尾崎紅葉と翻案：その方法から読み解く「近代」の具現と限界』、福岡：花書院、2010年3月

佐伯順子、『「色」と「愛」の比較文化史』、東京：岩波書店、2010年

趙東一著・豊福健二訳、『東アジア文学史比較論』、東京：白帝社、2010年

小森陽一・紅野謙介・高橋修編、『メディア・表象・イデオロギー：明治三十年代の文化

研究』、東京：小沢書店、2010 年

日中韓三国共同歴史編纂委員会編、『新しい東アジアの近現代史』、東京：日本評論社、2012 年

趙景達、『近代朝鮮と日本』、東京：岩波書店、2012 年

權寧珉著・田尻浩幸訳、『韓国近現代文学事典』、東京：明石書店、2012 年

波田野節子、『韓国近代作家たちの日本留学』、東京：白帝社、2013 年

王敏編、『東アジアの中の日本文化：日中韓文化関係の諸相』、東京：三和書籍、2013 年

梁艷、『清末民初における欧米小説の翻訳に関する研究－日本經由を視座として－』、福岡：花書院、2015 年 3 月

杉原志啓著、『波瀾万丈の明治小説』、東京：論創社、2018 年 6 月

②中国語研究書

譚正壁編、『中国文学史大綱（改訂本）』、上海：光明書局、1932 年

孫楷第編、『中国通俗小説書目』、北平国立北平図書館、1933 年（初版）；北京作家出版社、1957 年

阿英、『晚清小説史』、上海：商務印書館、1937 年 5 月（初版）；北京：作家出版社、1955 年

阿英編、『晚清劇曲小説目』、上海：文藝聯合出版社、1954 年

上海図書館編、『中国近代期刊篇目匯録』（全 3 卷）、上海：上海人民出版社、1965-1985 年

賴光臨、『梁啓超与近代報業』、台北：台湾商務印書館、1968 年

譚汝謙編、『中国訳日本書総合目録』、香港：香港中文大学出版社、1980 年

馮自由、『革命逸史』、北京：中華書局、1981 年

丁文江・趙豊田編、『梁啓超年譜長編』、上海：上海人民出版社、1983 年

中村新太郎著・卞立強訳、『日本近代文学史話』、北京：北京大学出版社、1986 年

王曉平、『近代中日文学交流史稿』、長沙：湖南文芸出版社、1987 年

北京図書館編、『民国時期総書目（外国文学）』、北京：書目文献出版社、1987 年

陳平原、『20 世紀中国小説史・第一卷（1897-1916）』、北京：北京大学出版社、1989 年

李時中・鄭兆安編、『中国革命史』、長沙：湖南大学出版社、1989 年

施哲存編、『中国近代文学大系・翻訳文学集』（全 3 卷）、上海：上海書店、1990 年

康有為編、『日本書目志』、姜義華編校『康有為全集（三）』、上海：上海古籍出版社、1992 年 12 月

賈植芳・俞元桂編、『中国現代文学総書目』、福州：福建教育出版社、1993 年

於潤琦主編、『清末民初小説書系』、中国文聯出版公司、1997 年

陳平原・夏曉虹編、『二十世紀中國小說理論資料（第一卷）1897—1916』、北京：北京大學出版社、1997 年

郭延禮、『中國近代翻譯文學概論』、武漢：湖北教育出版社、1997 年

王繼統・夏生元編、『中國近代小說目錄』、南昌：百花洲文藝出版社、1998 年

張福貴・靳叢林、『中日近現代文學關係比較研究』、長春：吉林大學出版社、1999 年

郭延禮、『中西文化碰撞與近代文學』、濟南：山東教育出版社、1999 年

唐月梅・叶渭渠、『日本文學史·近代卷』、北京：北京大學出版社、2000 年

郭延禮、『近代西學與中國文學』、南昌：百花洲文藝出版社、2000 年

鄭國和、『柴四朗『佳人奇遇』研究』、武漢：武漢大學出版社、2000 年

王向遠、『二十世紀中國的日本翻譯文學史』、北京：北京師範大學出版社、2001 年 3 月

狹間直樹編、『梁啟超・明治日本・西方』（京都大學人文科學研究所共同研究報告）、北京：社會科學文獻出版社、2001 年

郭延禮、『自西徂東：先哲的文化之旅』、長沙：湖南人民出版社、2001 年

樽本照雄編、『新編增補清末民初小說目錄』、濟南：齊魯書社、2002 年

方長安、『選取·接受·轉化：晚清至 20 世紀 30 年代初中國文學流變與日本文學關係』、武漢：武漢大學出版社、2003 年

張哲俊、『東亞比較文學導論』、北京：北京大學出版社、2004 年

衛茂平、『德語文學漢譯史考弁：晚清和民國時期』、上海：上海外語教育出版社、2004 年

謝天振、『中國現代翻譯文學史（1898—1949）』、上海：上海外語教育出版社、2004 年

陳平原、『中國現代小說的起點：清末民初小說研究』、北京：北京大學出版社、2005 年

金柄珉、『朝鮮-韓國文學的近代轉型與比較文學』、延邊：延邊大學出版社、2005 年

胡翠娥、『文學翻譯與文化參與：晚清小說翻譯的文化研究』、上海：上海外語教育出版社、2007 年

王向遠、『日本文學漢譯史』、銀川：寧夏人民出版社、2007 年、

鄒振環、『影響中國近代社會的一百種譯作』、北京：中國對外翻譯出版公司、2008 年

彭建華、『現代中國的法國文學接受』、北京：中國書籍出版社、2008 年

劉永文、『晚清小說目錄』、上海：上海古籍出版社、2008 年

蔣林、『梁啟超「豪傑譯」研究』、上海：上海譯文出版社、2009 年

姚永概、『慎宜軒日記』、合肥：黃山書社出版社、2010 年

王志松、『小說翻譯與文化建構：以中日比較文學研究為視角』、北京：清華大學出版社、2011 年

章艷著、『在規範和偏離之間—清末民初小說翻譯規範研究』、北京：外語教學與研究出版社、2011 年 3 月

劉永文編、『民國小說目錄』、上海：古籍出版社、2011 年

鄧集田著、『中国現代文学出版平台(1902－1949) 晚清民国時期文学出版情況統計与分析』、上海：上海文芸出版社、2012 年

張乃禹、『中韓小説現代化轉型比較研究』、蘇州：蘇州大学出版社、2013 年

趙東一著、李麗秋訳、『東亞文明論』、北京：社会科学文献出版社、2013 年

金哲、『20 世紀上半期中朝現代文学關係研究』、濟南：山東大学出版社、2013 年

李艷麗、『晚清日語小説訳介研究(1898－1911)』、上海：上海社会科学院出版社、2014 年

包天笑、『鉤影樓回憶錄』、太原：三晋出版社、2014 年

楊文瑜、『文本の旅行：日本近代小説『不如帰』在中国』、上海：華東理工大学出版社、2015 年 8 月

朱曉惠・庄恒愷、『林紓：近代中国訳界泰斗』、福州：福建人民出版社、2016 年

③ 韓国語研究書

朴殷植、『韓国痛史』、大邱：達城出版社、1946 年版

安鍾和、『新劇史 이야기』、서울:進文社、1955 年

李在銑、『韓國開化期小説研究』、서울:一潮閣、1972 年

金允植・金炫共著、『韓國文學史』、서울:民音社、1973 年(初版);1996 年(改訂版)

金東旭、『朝鮮文学史』、東京：日本放送出版協會、1974 年

金秉喆、『韓國近代翻譯文學史研究』、서울:乙酉文化社、1975 年

新東亞編輯室編、『日政下の禁書 33 卷(新東亞 1977 年 1 月號別冊附録)』、서울:東亞日報社、1977 年 1 月

金秉喆、『西洋文學翻譯論著年表(1895-1950)』、서울:乙酉文化社、1978 年

韓國學文獻研究所編、『韓國開化期文學叢書:新小説・翻譯小説』、서울:亞細亞文化社、1978 年

金秉喆、『韓國近代西洋文學移入史研究』(上下卷)、서울:乙酉文化社、1980-1982 年

全光鏞・金烈圭・申東旭編、『新文學과 時代 意識』、서울:새문社、1981 年

金允植、『韓國現代文學年表:1900-1987』、서울:文學思想社、1988 年

趙東一、『韓國文學과 世界文學』、서울:知識産業社、1991 年

최기영、『大韓帝國時期新聞研究』、서울:一潮閣、1991 年

金秉喆、『韓國世界文學文獻書誌目錄總覽』、서울:檀國大學校東洋學研究所、1992 年

趙東一、『東亞細亞文學史比較論』、서울:서울大學校出版部、1993 年

愼根梓、『韓日 近代文學의 比較研究』、서울:一潮閣、1995 年

權寧珉、『韓國現代小説 100 年』、東亞出版社、1995 年

權寧珉、『韓國現代文學作品年表:1894-1975』、서울:서울大學校出版部、1998 年

金順植著『韓日 近代小説의 比較文學의 研究』, 서울:태학사, 1998 年

金允植,『韓日 近代文學의 關聯樣相 新論』, 서울:서울大學校出版部, 2001 年

金秉喆,『世界文學翻譯書誌目錄總覽 (1895-1987)』, 서울:國學資料院, 2002 年

崔元植,『韓國啓蒙主義文學史論』, 서울:소명出版, 2002 年

유철상,『韓國 近代小説의 分析과 解釋』, 서울:月印圖書出版, 2002 年

牛林杰,『韓國開化期文學과 梁啓超』, 서울:博而精, 2004 年

趙東一,『韓國文學通史』第 4 卷, 서울:知識産業社, 2006 年(4 版)

崔博光編,『東亞細亞의 文化表象』, 서울:博而精, 2007 年

朴珍英編,『韓國의 翻譯小説』(全 10 冊:長恨夢·雙玉淚·貞婦怨·海王星·哀史·鐵假面), 서울:現實文化, 2007 年

朴珍英編,『翻譯 小説語 辭典』, 서울:現實文化, 2008 年 5 月

尹相仁等編,『日本文學翻譯 60 年 現況과 分析 (1945-2005)』, 서울:소명出版, 2008 年

이건우,『韓國 近現代文學의 프랑스文學受容』, 서울:서울大學校出版文化院, 2009 年

趙東一,『東亞細亞文明論』, 서울:知識産業社, 2010 年

朴珍英編,『新文館 翻譯小説 全集』, 서울:소명出版, 2010 年 11 月

金旭東,『翻譯과 韓國의 近代』, 서울:소명出版, 2010 年

朴珍英,『翻譯과 翻譯의 時代』, 서울:소명出版, 2011 年

권정희,『『호토토기스』의 變容:日本과 韓國에서의 텍스트의 “翻譯”』, 서울:소명出版, 2011 年 9 月

權보드레,『韓國近代小説의起源』, 서울:소명出版, 2012 年

尹相仁(外),『日本文學翻譯 60 年:現況과 分析(1945-2005)』, 서울:소명出版、2012 年

宋河春,『韓國近代小説辭典(1890-1917)』, 서울:高麗大學校出版部、2015 年

附録：明治小説の中国語韓国語の翻訳・翻案作品目録（1895－1919）

作成者：竇新光

番号	伝播ケース名	国別	発行年月日	作品題目	性格	分類	経路	作者・訳者	掲載誌・出版社	出版地				
001	拿破崙全伝	原作	(佛) Amédée Gabourd, <i>Histoire de Napoléon Bonaparte</i> , 1845.											
		日本	1879. 03	拿破崙全伝	歴史伝記	翻訳	英?→日	矢島玄四郎	加納久宜	東京				
		中国	1903	拿破崙傳			日→中	範枕石	商務印書館	上海				
002	波蘭記	原作	不明											
		日本	1879. 05	「波蘭記」 (『萬國史記卷16』)	歴史伝記	翻訳	英?→日	岡本監輔	内外兵事新聞局	東京				
		中国	1907. 05. 26-06. 02	俄滅波蘭記			日→中	未詳	『盛京時報』	瀋陽				
003	月世界旅行	原作	(佛) Jules Verne, <i>De La Terre À La Lune</i> , 1865. 英訳: <i>From The Earth To The Moon Direct In 97 Hours 20 Minutes</i> .											
		日本	1880. 10	(九十七時二十分間)月世界旅行 (第1-4巻)	科学小説	翻訳	英→日	井上勤	二書楼	大阪				
			1881. 03	(九十七時二十分間)月世界旅行 (第5-10巻)					三木佐助・翔鸞社	東京				
			1886. 09	(九十七時二十分間)月世界旅行		翻訳	日→中	鲁迅	進化社	東京				
		中国	1903. 12. 03	(科学小説)月界旅行					今代図書公司	香港				
				不明										
004	泰西政治学者列伝	原作	不明											
		日本	1882. 05. 25	泰西政治学者列伝	歴史伝記	編訳	?→日	杉山藤次郎	鶴声社	東京				
		中国	1902	泰西政治学者列傳		翻訳	日→中	中国広東青年	広智書局	上海				
005	哲爾自由譚	原作	(独) Friedrich Von Schiller, <i>Wilhelm Tell</i> , 1869. ?											
		日本	1882. 10	哲爾自由譚 一名自由之魁	歴史小説 政治小説	翻訳	英?→日	松湖漁史(山田郁治)	甘泉堂・丸善書店・泰山堂	東京				
		中国	1903	(歴史小説) 瑞西独立警史	歴史伝記	翻訳	日→中	陸龍朔	訳書匯編社	東京				
006	経国美談①	日本	1883. 03	斉武名士 経国美談 (前篇)	政治小説	創作	日	矢野龍溪	報知社	東京				
			1884. 02. 18	斉武名士 経国美談 (後篇)										
			1886. 09	斉武名士 経国美談 (合本)										
		韓国①	1904. 10. 04-11. 02	経国美談	翻訳	日→韓	未詳	『漢城新報』	京城					
007	経国美談②	日本	1883. 03	斉武名士 経国美談 (前篇)	政治小説	創作	日本	矢野龍溪	報知社	東京				
			1884. 02. 18	斉武名士 経国美談 (後篇)										
			1886. 09	斉武名士 経国美談 (合本)										
			1886. 09	斉武名士 経国美談 (合本)										
		中国	1900. 02. 20-1901. 01. 11	(政治小説)経国美談		翻訳	日→中	周宏業	『清議報』	横浜				
			1901	「経国美談」『佳人奇遇経国美談合刻』					広智書局	上海				
			1902	経国美談(政治小説)					商務印書館					
		韓国②	1908. 09	경국미담(経国美談)		翻訳	中→韓	玄公廉	玄公廉家・右文館	京城				
008	花心蝶思録	原作	(露)Pushkin, <i>Kapitanskaya Dochka</i> , 1836. 英訳: <i>The Captain's Daughter</i> .											
		日本	1883. 06	露国奇聞 花心蝶思録	言情小説?	翻訳	露→日	高須治助	法木書店	東京				
			1886. 11. 20	露国稗史 スミスマリー之伝					高崎書房					
		1903. 08. 07	俄国情史 (一名花心蝶夢録)	開明書店・文明書店										
		中国	1903	俄国情史 (又称斯密士瑪麗伝 花心蝶夢録)	翻訳	日→中	耿翼翬	大宣書局	上海					
			1903					小説林社						
009	月世界一周	原作	(佛) Jules Verne, <i>Autour de la lune</i> , 1869. 英訳: <i>A Trip Round The Moon</i> .											
		日本	1883. 07. 28	月世界一周	科学小説	翻訳	英→日	井上勤	博聞社	東京				
		中国	1904. 07	(科学小説)環遊月球	翻訳	日→中	商務印書館編訳所	商務印書館	上海					
010	空中旅行	原作	(佛) Jules Verne, <i>Cinq Semaines en Ballon</i> , 1863. 英訳: <i>Five Weeks In A Balloon</i> .											
		日本	1883. 09. 10-1884. 02	亜非利加内地三十五日間 空中旅行(巻1-7)	科学小説	翻訳	英→日	井上勤	絵入自由出版社	東京				
			1886. 11	亜非利加内地三十五日間 空中旅行					春陽堂					
		中国①	1903. 04. 27-05. 27	空中旅行記		翻訳	日→中	未詳	『江蘇』	東京				
011	紀文伝	中国②	1907. 05(旧暦)	飛行記 一名非洲内地飛行記		歴史伝記	創作	日	菊池三溪	小説林社	上海			
		日本	1883. 10	「紀文伝」(『本朝虞初新誌』)	松山堂書店					東京				
		韓国	1896. 08. 29-09. 04	紀文傳	『漢城新報』					京城				
012	魯敏孫漂流記	原作	(英) Daniel Defoe, <i>The Life and Strange Surprising Adventures of Robinson Crusoe</i> , 1719											
		日本	1883. 10. 23	絶世奇談 魯敏孫漂流記	冒険小説	翻訳	英→日	井上勤	博聞社	東京				
		韓国	1908. 09. 10	絶世奇談 羅賓孫漂流記		翻訳	日→韓	金楨	義進社	京城				
013	仏国美談	原作	不明											
		日本	1884. 02	仏国美談：回天偉績	政治小説 偉人小説 歴史伝記	翻訳	英→日	栗屋閑一	同盟書房	東京				
		1900	貞徳傳 (女子救国美談)	『開智録』					横浜					
		中国	1902. 07	偉人小説 女子救国美談		翻訳	日→中	馮自由	広智書局	上海				
		1907. 10. 03	신소설 애국부인전(新小説 愛國婦人傳)	翻訳		中→韓	張志淵	広学書舗	京城					
韓国	1908	「여안(如安)」 (『녀자독본(女子読本)』)												
014	海底旅行	原作	(佛) Jules Verne, <i>Vingt Mille Lieues Sous Les Mers</i> , 1869-1870. 英訳: <i>Twenty Thousand Leagues Under the Sea</i> .											
		日本	1884. 06, 1885. 03	(五大洲中)海底旅行(上編・下編)	科学小説 冒険小説	翻訳	英→日	大平三次	覚張栄三郎	東京				
			1884. 10、 11						四通社					
			1887. 03	(五大洲中)海底旅行(上篇・下篇)					辻本九兵衛					
			1887. 09						文事堂					
		中国	1902	(泰西最新科学小説) 海底旅行		翻訳	日→中	盧籍東	新小説社	横浜 上海				
			1902. 11. 14-1905. 07						『新小説』					
			不明	「海底旅行」(『新小説彙編之一』)					新小説社					
韓国	1907. 03. 24-1908. 05. 12	海底旅行(奇譚)	翻訳	日→韓		朴容喜	『太極學報』	東京						
015	世路日記	日本	1884. 06	慘風悲雨世路日記	才子佳人 小説	創作	日	佐藤菊亭(蔵太郎)	東京稗史出版社	東京				
			1895. 11. 25	(訂正増補) 慘風悲雨世路日記					偉業館					
		中国①	1903	恨海春秋		翻訳	日→中	僕木恨人	開明書店	上海				
		中国②	1913. 09. 09-1913. 09. 30	(域外白話短篇才子佳人小説) 苦情緣					『盛京時報』	瀋陽				
016	アラビヤンナイト	原作	(波斯) <i>Arabian Nights</i>											
		日本	1884. 07. 07	全世界一大奇書(原名アラビヤンナイト)	民話・民譚	翻訳	英→日	井上勤	報告堂	東京				
		韓国①	1895. 07? (中秋)	유옥역전(유옥역傳)					筆写本					
		韓国②	1913. 09. 06-1914. 02. 22	神泣驚天萬古奇談					『毎日申報』		京城			
		原作	(佛) Jules Verne, <i>Voyage Au Centre De La Terre</i> , 1864. 英訳: <i>Journey to the Center of the Earth</i> .											

017	地底旅行	日本	1885. 02	(拍案驚奇)地底旅行	科学小説	翻訳	英→日	三木愛華 高須墨浦	九春社	東京	
		中国	1903. 12. 08	地底旅行		翻訳	日→中	鲁迅	『浙江潮』	東京	
			1906. 04. 22						啓新書局	南京	
018	闊秀美談	原作	(米) John S. C. Abbott, ?	(那翁外伝) 闊秀美談 拿破倫帝後之臨終	歴史伝記	翻訳	英→日	秋庭濱太郎	山本秀雄 (出版人)	愛知	
		日本	1885. 05			翻訳	日→中	陳景韓	『時報』	上海	
		中国	1908. 11. 19-21			歴史伝記	創作	日	西村三郎 (芝山)	春陽堂	東京
中国	1885. 05	翻訳	日→中	趙必振	広智書局		上海				
中国	1902	日本維新慷慨史									
020	回天綺談	原作	(英) 不明	英国名士回天綺談(前編) 英国名士回天綺談(後編) (政治小説)回天綺談	政治小説	編訳	英→日	加藤政之助	岡島支店	東京	
		日本	1885. 10			翻訳	日→中	麦仲華	『新小説』	上海	
			1886. 11								
		中国	1903. 06. 10-08. 07			翻訳	中→韓	玄公廉	塔印社	京城	
			1905								
021	佳人之奇遇	日本	1908. 06. 21	회턴귀담(回天綺談)	政治小説 国権小説	創作	日	柴四朗	博文堂	東京	
			1885. 10. 28	佳人之奇遇 (初編・巻一〜巻二)							
			1886. 01. 13	佳人之奇遇 (二編・巻三〜巻四)							
			1886. 08. 03	佳人之奇遇 (三編・巻五)							
			1887. 02. 04	佳人之奇遇 (三編・巻六)							
			1887. 12. 24	佳人之奇遇 (四編・巻七)							
			1888. 03. 24	佳人之奇遇 (四編・巻八)							
			1891. 11. 24	佳人之奇遇 (五編・巻九)							
			1891. 12. 09	佳人之奇遇 (五編・巻十)							
			1897. 07. 30	佳人之奇遇 (六編・巻十一〜巻十二)							
			1897. 09. 14	佳人之奇遇 (七編・巻十三〜巻十四)							
			1897. 10. 19	佳人之奇遇 (八編・巻十五〜巻十六)							
		中国	1898. 12. 23-1900. 02. 10	(政治小説)佳人奇遇	翻訳	日→中	梁啓超	『清議報』	横浜		
			1901	「佳人奇遇」『佳人奇遇経国美談合刻』				広智書局	上海		
			1902	(政治小説)佳人奇遇				商務印書館	上海		
			1902?	「佳人奇遇」『清議報全編 (第三集)』				新民社	横浜		
022	伊蘇普物語	原作	(希) Aesop, <i>Αἰσώπου οὐ Μόθοι</i> . 英訳: <i>Aesop's Fables</i> .	伊蘇普物語 (『尋常小学読本』) 이솝 이야기 (『新訂尋常小學』)	寓話・童話	翻訳	英→日	文部省	文学社	東京	
		日本	1886. 07			翻訳	日→韓	学部編輯局	学部編輯局	京城	
		韓国	1896. 02								
023	雪中梅	日本	1886. 08. 11	(政治小説)雪中梅 (上編)	政治小説 民権小説	創作	日	末広鉄腸	博文堂	東京	
			1886. 11. 30	(政治小説)雪中梅 (下編)					青木嵩山堂		
			1890. 05. 14	(政治小説)雪中梅							
		中国	1903	雪中梅		翻訳	日→中	熊垓	尊業書局	江西	
		韓国	1908. 05	설중매 (雪中梅)		翻案	日→韓	具然学	匯東書館	京城	
024	花間鶯	日本	1887. 02	(政治小説)花間鶯 (上篇)	政治小説 民権小説	創作	日	末広鉄腸	金港堂	東京	
			1887. 09	(政治小説)花間鶯 (中篇)							
			1888. 03	(政治小説)花間鶯 (下篇)							
			1888. 03. 23	(政治小説)花間鶯 (合本)							
			1892. 12. 30	(政治小説)花間鶯 (合本)							
			中国①	1903					花間鶯		翻訳
		中国②	1908. 09. 15-1909. 05. 09	(政治小説)花間鶯		翻訳	梁繼棟	『福建法政雜誌』	福州		
025	谷間乃鶯	原作	(西) Cervantes, <i>La Fuerza de la Sangre, Novelas Ejemplares</i> , 1613. 佛訳: <i>Les Nouvelles de Cervantes</i> , 1867. 英訳: <i>The Power of Blood, Exemplary Novels</i> .	(政治小説)谷間鶯	政治小説	翻訳	佛→日	斉藤良恭	共隆社	東京	
		日本	1887. 04	(歐洲新話) 谷間乃鶯		翻訳	日→中	逸民	翔鸞社印刷所	東京	
		中国	1904. 07. 15 (旧暦)	(政治小説)谷間鶯							
026	訥耳遜傳	原作	(英) ロベルト・ソーセイ, 作品名不明	『(軍人必讀) 訥耳遜傳』?	歴史伝記	翻訳	英→日	内田成道	土屋書店	東京	
		日本	1887. 04			翻訳	日→中	中村左美・何震彝	商務印書館	上海	
		中国	1903. 09 (旧暦)			納爾遜傳	翻訳	日→韓	不明	不明	不明
		韓国	不明			蕭爾遜傳					
027	那波列翁一代記	原作	不明	(軍記) 那波列翁一代記 拿破崙戦史 拿破崙傳	歴史伝記 軍記	編訳	英?→日	清水市次郎 野々村金五郎	春陽堂 博文館	東京	
		日本①	1887. 06. 01			翻訳	日→韓	未詳	『漢城新報』		
		日本②	1894. 12. 04								
		韓国	1895. 11. 07-1896. 01. 26								
028	世界列国の行く末	日本	1887. 06	世界列国の行く末	政治小説	創作	日	高安亀次郎	金松堂	東京	
		中国	1903. 02. 22	未来戦国志(原名世界列国之行末)		翻訳	日→中	馬仰禹	広智書局	上海	
029	鉄世界	原作	(佛) Jules Verne, <i>Les Cinq Cents Millions de la Béguin</i> , 1879. 英訳: <i>The Begum's Fortune</i> , 1879	仏曼二学士の譚 鉄世界 「仏曼二学士の譚」(『才子妙案 天外奇談』) (科学小説) 鉄世界	科学小説	翻訳	英→日	森田思軒	『郵便報知新聞』 集成社	東京	
		日本	1887. 03. 26-05. 10			翻訳	日→中	包天笑	大庭和助		
			1887. 09						文明書局		
		中国	1903. 06 (旧暦)			翻訳	日→中	包天笑	文明書局		
		韓国	1908. 11. 20			델세계 (鐵世界)	翻訳	中→韓	李海朝		匯東書館
030	瞽使者	原作	(佛) Jules Verne, <i>Michel Strogoff De Moscou A Irkoutsk</i> , 1876. 英訳: <i>Michael Strogoff</i> .	盲目使者 瞽使者 (前編) 瞽使者 (後編) (地理小説) 秘密使者 (上巻) (地理小説) 秘密使者 (下巻)	科学小説 地理小説	翻訳	英→日	森田思軒	『郵便報知新聞』 報知社	東京	
		日本	1887. 09. 16-12. 30			翻訳	日→中	包天笑	小説林社		
			1888. 05. 15								
			1891. 11. 02								
		中国	1904. 06			翻訳	日→中	包天笑	小説林社		
			1904. 08								
031	回天之弦声	原作	(独) Friedrich Von Schiller, <i>The Founding of The Swiss Republic</i> .	(字句血涙) 回天之弦声 瑞士建国誌 (政治小説) 瑞士建国誌 경치쇼열서사건국지 (政治小説瑞士建国誌)	政治小説 歴史伝記	翻訳	独?→日	芦田東雄	一光堂	東京	
		日本	1887. 11			翻訳	日→中	鄭哲 (鄭貴公)	中国華洋書局	香港	
		中国	1902			翻訳	中→韓	朴殷植	大韓毎日申報社	京城	
		韓国①	1907. 08			金炳鉉		博文書館			
		韓国②	1907. 11. 10								
032	滑稽旅日記	原作	(英) William Combe, <i>Tour of Dr. Syntax in search of the pictures-que</i> , 1809	滑稽旅日記	滑稽小説	翻訳	英→日	井上勤	『文学之花』 博文館	東京	
		日本	1887. 12. 15			翻訳	日→中	包天笑	『時報』		
			1912								
		中国	1907. 02. 21-05. 07			翻訳	日→中	包天笑	『時報』		

		中国	1907	原書原刊		翻訳	日→中	西人訳	有正書局	上海
033	東洋之佳人	日本	1888. 01. 15	東洋之佳人	政治小説	創作	日	柴四朗	博文堂	東京
		中国	1903. 02 (旧暦)	東洋之佳人		翻訳	日→中	馬汝賢	文明書局	上海
034	人耶鬼耶①	原作	(佛) Émile Gaboriau, <i>L's Affaire Lerouge</i> , 1863. 英訳 : Fred. Williams and George A. O. Ernst, <i>The Widow Lerouge</i> , 1873							
		日本	1888. 03/04	(裁判小説) 人耶鬼耶	偵探小説 裁判小説	翻訳	英→日	黒岩涙香	『今日新聞』	東京
			1888. 12. 04						小説館・銀花堂	
			1893. 11. 18			「(裁判小説) 人耶鬼耶」(『探偵文庫』)	翻訳	日→中	文碩甫	
		中国	1903. 10	(偵探小説) 奪嫡奇案		翻訳	中→韓	李海朝	普及書館	京城
		韓国	1913. 06	누구의 죄 (罪)						
035	人耶鬼耶②	原作	(佛) Émile Gaboriau, <i>L's Affaire Lerouge</i> , 1863. 英訳 : Fred. Williams and George A. O. Ernst, <i>The Widow Lerouge</i> , 1873							
		日本	1888. 03/04	(裁判小説) 人耶鬼耶	偵探小説 裁判小説	翻訳	英→日	黒岩涙香	『今日新聞』	東京
			1888. 12. 04						小説館・銀花堂	
			1893. 11. 18			「(裁判小説) 人耶鬼耶」(『探偵文庫』)		銀花堂		
		中国	1909. 12. 14-1910. 4. 17	奇冤案		翻訳	日→中	劉	『盛京時報』	瀋陽
036	警世奇話	原作	(佛) François Fénelon, <i>Fables de Fénelon</i> , 1712. ?							
		日本	1888. 07. 05	警世奇話	寓言・寓話	翻訳	佛→日	加藤幹雄	イーグル書房	東京
		中国	1903. 01. 08-1904. 10. 28	警世奇話		翻訳	日→中	未詳	『大陸報』	上海
037	フハンティーンのもと	原作	(佛) Victor Hugo, <i>Les Misérables</i> Les, 1862							
		日本	1888. 07. 20	フハンティーンのもと	文芸小説	翻訳	英→日	森田思軒	『国民之友』	東京
			1898. 06. 04	「フハンティーンのもと」(『ユーゴー小品』)					民友社	東京
			中国	1903. 06. 15		哀塵	翻訳	日→中	魯迅	『浙江潮』
038	あひびき	原作	(露) Ivan S. Turgenev, <i>С вид а н и е</i> . 英訳 : The Tryst ?							
		日本	1888. 07-08	あひびき	未区分	翻訳	露→日	二葉亭四迷	『国民之友』	東京
			1896. 11. 13	「あひびき」『片恋』					春陽堂	
			韓国	1919. 02		밀회 (密會)	翻訳	日→韓	金億	『泰西文芸新報』
039	有罪無罪	原作	(佛) Émile Gaboriau, <i>La corde au cou</i> , 1873. 英訳 : <i>Within An Inch Of His Life</i> , 1874							
		日本	1888. 09. 09-11. 28	有罪無罪	偵探小説	翻訳	英→日	黒岩涙香	『絵入自由新聞』	東京
			1889. 11. 05	(仏蘭西小説) 有罪無罪					魁真樓書店	
			中国	1906. 02 (旧暦)		(偵探小説) 寒桃記 (上・下巻)	翻訳	日→中	呉櫓	商務印書館
		韓国	1913. 01. 20	桃李園		翻訳	中→韓	盧益亨	博文書館	京城
040	仮死偽葬	原作	(米) George Mcwatters, <i>The Experience of John Spindler, The London Detective, With A Gang of Coiners, Detectives of Europe and America</i> , 1879							
		日本	1888. 11. 30	「仮死偽葬」(『摘陰発微 奇獄』)	偵探小説	翻訳	英→日	千原伊之吉	日本同盟法学会	京都
		中国	1904. 11 (旧暦)	「仮死偽葬」(『偵探小説 奇獄 第1冊』)		翻訳	日→中	林蓋天	小説林社	上海
041	郵書ノ奇禍	原作	(米) George Mcwatters, <i>Experiences of Mr. Breitenfeld, The Austrian Detective, Detectives of Europe and America</i> , 1879							
		日本	1888. 11. 30	「郵書ノ奇禍」(『摘陰発微 奇獄』)	偵探小説	翻訳	英→日	千原伊之吉	日本同盟法学会	京都
		中国	1904. 11 (旧暦)	「郵書之奇禍」(『偵探小説 奇獄 第1冊』)		翻訳	日→中	林蓋天	小説林社	上海
042	金剛石ノ頸鏈	原作	(米) George Mcwatters, <i>A Clever Diamond Swindle, Detectives of Europe and America</i> , 1879							
		日本	1888. 11. 30	「金剛石ノ頸鏈」(『摘陰発微 奇獄』)	偵探小説	翻訳	英→日	千原伊之吉	日本同盟法学会	京都
		中国	1904. 11 (旧暦)	「金剛石之頸鏈」(『偵探小説 奇獄 第1冊』)		翻訳	日→中	林蓋天	小説林社	上海
043	籤票	原作	(米) George Mcwatters, <i>Lottery Ticket, No. 1719, Detectives of Europe and America</i> , 1879							
		日本	1888. 11. 30	「籤票」(『摘陰発微 奇獄』)	偵探小説	翻訳	英→日	千原伊之吉	日本同盟法学会	京都
		中国	1904. 11 (旧暦)	「籤票」(『偵探小説 奇獄 第1冊』)		翻訳	日→中	林蓋天	小説林社	上海
044	金網	原作	(米) George Mcwatters, <i>Lewellyn Payne And The Counterfeiters, Detectives of Europe and America</i> , 1879							
		日本	1888. 11. 30	「金網」(『摘陰発微 奇獄』)	偵探小説	翻訳	英→日	千原伊之吉	日本同盟法学会	京都
		中国	1904. 11 (旧暦)	「金網」(『偵探小説 奇獄 第1冊』)		翻訳	日→中	林蓋天	小説林社	上海
045	万金ノ革袋	原作	(米) George Mcwatters, <i>The Cool-Blooded Gold Robber, And The Way He Was Tracked, Detectives of Europe and America</i> , 1879							
		日本	1888. 11. 30	「万金ノ革袋」(『摘陰発微 奇獄』)	偵探小説	翻訳	英→日	千原伊之吉	日本同盟法学会	京都
		中国	1904. 11 (旧暦)	「万金之革帯」(『偵探小説 奇獄 第1冊』)		翻訳	日→中	林蓋天	小説林社	上海
046	悪党紳士	原作	(佛) Fortune Du Boisgobey, <i>Bouche Cousue</i> , 1883. 英訳 : <i>Sealed Lips</i> .							
		日本	1888. 12. 04-1889. 01. 24	悪党紳士	偵探小説	翻訳	英→日	黒岩涙香	『絵入自由新聞』	東京
		中国	1908. 10. 23-12. 01	(偵探小説) 決闘 (一名金裏罪人)		翻訳	日→中	陳景韓	『時報』	上海
047	セリダン將軍普仏戦争手記	原作	不明							
		日本	1889. 01. 02-02. 02	セリタン將軍、普仏戦争の手記	歴史伝記	翻訳	英→日	徳富蘆花	『国民之友』	東京
			1893. 07. 09	「セリダン將軍普仏戦争手記」(『歴史之片影』)					民友社	
中国	1903. 08. 06	西里但普法戦争筆記 歴史之片影	翻訳	日→中		魯庵	『新民叢報』	横浜		
048	探偵ユーベル	原作	(佛) Victor Hugo, <i>Hubert, The Spy, Choses vues (英訳: Things Seen)</i> , 1887.							
		日本	1889. 01. 02-03. 02	探偵ユーベル	探偵小説	翻訳	英→日	森田思軒	『国民之友』	東京
			1889. 06. 19						民友社	
			1898. 06. 04						「探偵ユーベル」(『ユーゴー小品』)	
		中国	1903. 08. 27	「(第一 民賊) 遊皮」(『探偵譚』(一))		翻訳	日→中	陳景韓	時中書局	上海
049	海底の重罪	原作	(佛) Fortune Du Boisgobey, <i>Une Affaire Mystérieuse</i> , 1878. 英訳 : <i>The Nameless Man</i> .							
		日本	1889. 01. 03-03. 10	海底の重罪	探偵小説	翻訳	英→日	黒岩涙香	『都新聞』	東京
		中国	1910. 09. 26-1911. 03. 14	怪人		翻訳	日→中	陳景韓	『時報』	上海
050	銀行の賊	原作	(米) Harry Lockwood, 原作名未詳。(Donald・ダイキ)							
		日本	1889. 01. 16-02. 16	銀行奇談 魔術の賊	偵探小説	翻訳	英→日	黒岩涙香	『絵入自由新聞』	東京
			1889. 07. 30						小説館	
			1889. 08. 30						(探偵談) 銀行の賊	
		中国	1905. 03	(美国偵探小説) 銀行之賊		翻訳	日→中	謝慎氷	小説林社	上海
051	指環	原作	(佛) Fortune Du Boisgobey, <i>L'Oeil Du Chat</i> , 1888. 英訳 : <i>The Cat's-Eye Ring</i> .							
		日本	1889. 03. 12-05. 31	指環	偵探小説	翻訳	英→日	黒岩涙香	『都新聞』	東京
			1889. 11. 04			金桜堂				
		中国	1905. 10	(偵探小説) 指環党		翻訳	日→中	商務印書館編訳所	商務印書館	上海
韓国	1912. 01. 27	지환당 (指環党)	翻訳	中→韓		閔清鎬	普及書館	京城		
052	日本政海新波瀾	日本	1889. 05. 03	日本政海新波瀾	政治小説	創作	日本	佐佐木龍	藝光堂	大阪
		中国	1903. 06. 05	政海波瀾(日本小説)		翻訳	日→中	頼子	作新社	上海
		韓国	1907. 07. 09-1908. 06. 19	국치전 (国恥傳)		翻訳	中→韓	未詳	『大韓毎日申報』	京城

070	クラウド	日本	1890. 01-02	クラウド	探偵小説	翻訳	英→日	森田思軒	『国民之友』	東京			
			1891. 10. 03	「クラウド」（『探偵ユーベル及クラウド』）					民友社				
			1898. 06. 04	「クラウド」『ユーゴー小品』									
		中国	1903	「格児奇特」（『偵探譚』（二））	翻訳	日→中	陳景韓	時中書局	上海				
071	星界想遊記	日本	1890. 02. 24	星界想遊記	理想小説	創作	日本	井上円了	哲学書院	東京			
		中国	1903	(理想小説) 星球遊行記					翻訳	日→中	戴贊	彪蒙訳書局	未詳
072	塔上の犯罪	原作	(佛) Fortune Du Boisgobey, <i>La Voilette Bleue</i> , 1855. 英訳: <i>The Blue Veil, or The Angel Of The Belfry</i> , 1886										
			日本	1890. 04. 25	此曲者	言情小説 偵探小説	翻訳	英→日	黒岩涙香	井上勝五郎	東京		
		1891. 10. 12		塔上の犯罪	井上 勝五郎・薫志堂								
		中国①		1908. 05（旧曆）	(言情小説) 天際落花					褚雪宸		商務印書館	上海
中国②	1911. 02. 09-1911. 0608	(域外長篇白話偵探小説) 豪俠姻縁録	翻譯	日→中	劉	『盛京時報』	瀋陽						
073	探偵	原作	(米) 不明	偵探小説	翻訳	英→日	黒岩涙香	扶桑堂	東京				
		日本	1890. 07. 07					探偵	『新小説』	横浜			
		中国	1902. 11. 14-1903. 08. 07					偵探小説 離魂病	翻譯	日→中	羅普	広智書局	上海
074	小公子	原作	(米) Frances Eliza Burnett, <i>Little Lord Fauntleroy</i> , 1886										
			日本	1890. 08-1892. 01	小公子	家庭小説	翻訳	英→日	若松賤子	『女学雑誌』	東京		
		1891		博文館									
		中国		1905. 07						(家庭小説) 小公子（上冊）		翻譯	日→中
中国	1905. 11	(家庭小説) 小公子（下冊）	翻譯	日→中	小説林総訳所	小説林社	上海						
075	大叛魁	原作	(佛) Jules Verne, <i>La Maison à vapeur</i> , 1879-1880. 英訳: <i>The Steam House</i>	科学小説 新小説	翻訳	英→日	森田思軒	和田篤太郎	東京				
		日本	1890. 09. 21					(新小説) 大叛魁	翻譯	日→中	包天笑	『小説時報』	上海
		中国	1910. 11. 2-1911. 06. 11					秘密党魁	翻譯	日→中	包天笑	『小説時報』	上海
076	クロンウエル	原作	(英) Thomas Carlyle, <i>On Heros, Hero-Worship, and The Heroic in History</i> , 1841. + Thomas Carlyle, <i>Letters and Speeches of Oliver Cromwell Cromwell</i> , 1845等	歴史伝記	翻訳	英→日	竹越与三郎	民友社	東京				
		日本①	1890. 11. 07				格朗空	松岡国男		博文館			
		日本②	1901. 07. 18				クロンウエル	梁啓超		『新民叢報』	横浜		
		中国	1903. 02. 11、22, 1904. 10. 09				新英巨人克林威爾傳	翻譯		日→韓	朴容喜・崇古生・淑梅	『太極學報』	東京
韓国	1907. 11. 24-1908. 07. 24	(歴史譚) 크롬웰傳	翻譯	日→韓	朴容喜・崇古生・淑梅	『太極學報』	東京						
077	少年軍	原作	(佛) Edmondo De Amicis, <i>Il Tamburino Sardo, Cuore</i> , 1886	軍事小説 歴史伝記	翻訳	英?→日	徳富蘆花	『国民之友』	東京				
		日本	1890. 12. 13-23				南北戦争の少年軍	『国民之友』		民友社			
		1893. 07	「少年軍（南北戦争の花）」『歴史之片影』				『浙江潮』	東京					
中国	1903. 02. 17	(軍事小説) 少年軍(一)	翻譯	日→中	喋血生	『浙江潮』	東京						
078	愛国精神譚	原作	(佛) Émile-Charles Lavissee, <i>Tu seras soldat, histoire d'un soldat francais</i> , 1888	政治小説	翻訳	佛→日	大立目寛 板橋次郎	『偕行社記事』	東京				
		日本	1891. 01-02				愛国精神譚	偕行社					
			1891. 05. 04				愛国精神譚	広智書局		上海			
		中国	1902				愛国精神譚	愛国逸人		『朝陽報』	京城		
		韓国①	1906. 11. 10-1907. 01. 25				愛國精神談	未詳		廣智書局			
		韓国②	1907. 06. 01-09. 01				愛國精神談	盧伯麟		『西友』			
韓国③	1908. 01. 01	愛國精神	李採雨	中央書館									
韓国④	1908. 01. 01	애국정신담(愛國精神談)	李採雨	中央書館									
079	玉手箱	原作	(佛) Fortuné du Boisgobey, <i>Porte Close</i> , 1886. 英訳: <i>The Closed Door</i> .	社会小説	翻訳	英→日	黒岩涙香	三友社・鈴木金舗	東京				
		日本	1891. 05. 19				玉手箱	翻譯	日→中	商務印書館編訳所	商務印書館	上海	
		中国	1905. 10				(社会小説) 巴黎繁華記	翻譯	日→中	商務印書館編訳所	商務印書館	上海	
080	世界末日記	原作	(佛) Camille Flammarion, <i>La Fin du Monde</i> , 1893. 英訳: <i>The Last Days of the World</i> . 1894	科学小説 哲理小説	翻訳	英→日	徳富蘆花	『国民之友』	東京				
		日本	1891. 05. 23-06. 03				世界の末日	民友社					
			1893. 07. 09				「世界の末日」（『歴史之片影』）	『新小説』		横浜			
			中国				1902. 11. 14	(哲理小説) 世界末日記			新小説社		
		1905	「世界末日記」（『説部腋』）				群学社						
		1905	「世界末日記」（『新小説集編(一)』）				廣智書局						
		1905. 12. 21	「世界末日記」（『飲水室文集』（下））				廣智書局						
		1915. 10	「世界末日記」（『評点四大名家小説』）				商務印書館						
1916. 09	「世界末日記」（『小説零簡』）	商務印書館											
081	車中の毒針	原作	英国作品。原作不明。Henry James Black?	探偵小説	翻訳	英→日	快樂亭ブラック 今村次郎	三友社	東京				
		日本	1891. 10. 19				(探偵小説) 車中の毒針	翻譯	日→中	呉構	商務印書館	上海	
		中国	1906. 01				(探偵小説) 車中毒針(説部叢書)	翻譯	日→中	呉構			
中国	1912. 08	(探偵小説) 車中毒針 (小本小説叢書)	翻譯	日→中	呉構								
082	死美人	原作	(佛) Émile Gaboriau, <i>The Old Age of Monsieur Lecoq</i> , 1866	偵探小説	翻訳	英→日	黒岩涙香	『都新聞』	東京				
		日本	1891. 11. 08-1892. 04				死美人	『時報』	上海				
		中国	1904. 12. 31-1905. 11. 09				(偵探奇談) 火裏罪人	陳景韓					
中国	1906. 03	(偵探小説) 火裏罪人	翻譯	日→中	陳景韓	有正書局							
083	如夜叉	原作	(佛) Fortune Du Boisgobey, <i>Margot la balafrée</i> , 1884. 英訳: <i>The Sculptor's Daughter</i> , 1884.	偵探小説	翻訳	英→日	黒岩涙香	町田宗七	東京				
		日本	1891. 11. 27				如夜叉	翻譯	日→中	小説林総編訳所	小説林社	上海	
		中国	1905. 04				(偵探小説) 母夜叉	創作	日	北村紫山	博文館	東京	
084	維新三傑	日本	1891	歴史伝記	創作	日	北村紫山	博文館	東京				
		中国	清末				日本維新三傑傳	翻譯	日→中	馬汝賢	勵学訳社	蘇州	
085	俠男児	原作	(英) Maria Edgeworth, <i>The Grateful Negro, Popular Tales</i> , 1804	義俠小説	翻訳	英→日	尾崎紅葉	博文館	東京				
		日本	1892. 06				俠男児	翻譯	日→中	呉構	『東方雜誌』	上海	
		中国	1906. 02. 18-04. 18				(短篇小説) 俠黑奴	翻譯	日→中	呉構	商務印書館		
中国	1906. 06	(義俠小説) 俠黑奴	翻譯	日→中	呉構								
086	両美人①	日本	1892. 09. 07-11. 15	義俠小説	創作	日	村井弦斎	『郵便報知新聞』	東京				
		1897. 06. 19	両美人				春陽堂						
		中国①	1906. 06				血簍衣(義俠小説)	翻譯	日→中	商務印書館編訳所	商務印書館	上海	
韓国	1912. 06. 05	현미경(顕微鏡)	翻案	中→韓	金教済	東洋書院	京城						
087	両美人②	日本	1892. 09. 07-11. 15	義俠小説	創作	日本	村井弦斎	『郵便報知新聞』	東京				
		1897. 06. 19	両美人				春陽堂						
		中国②	1906				双美人	翻譯	日→中	未詳	群学社	上海	
		原作	(英) I. A. R. Marriott. <i>The Makers of Modern Italy: Mazzin-Cavour-Garibaldi</i> . 1889										

088	伊太利建国三傑	日本①	1892. 10. 06	伊太利建国三傑	歴史伝記	編訳	英→日	平田久	民友社	東京	
		日本②	1898. 01. 01-20 1900. 02	カミロ、カプール 「カミロ、カプール」『近世世界十偉人』				松村介石	『太陽』 文武堂		
		日本③	1900. 03. 23	ガリバルデー				岸崎昌	博文館		
		中国	1902. 06. 06-12. 14 1902. 10	意大利建国三傑傳 「意大利建国三傑傳」『飲冰室文集』		翻訳	日→中	梁啓超	『新民叢報』 広智書局	横浜 上海	
		韓国①	1905. 12. 14-21	이태리건국아마치전				未詳	『大韓毎日申報』	京城	
		韓国②	1906. 12. 18-28	讀意大利建國三傑傳		未詳	『皇城新聞』				
		韓国③	1907. 10. 25	伊太利建国三傑傳		申采浩	広学書舗				
		韓国④	1908. 06. 13	이태리건국삼걸전 (伊太利建国三傑傳)		周時経/李炫碩	博文書館				
089	幻灯	原作	不明								
		日本	1892. 12	探偵小説 幻灯 (一名岩出銀行血汐の手形)	探偵小説	翻訳	英→日	快樂亭ブラック 今村次郎	三友舎	東京	
		中国	1906	血手痕		翻訳	日→中	笑我生	『江西』	東京	
090	鉄仮面	原作	(佛) Fortune Du Boisgobey, <i>Les Deux Merles De Monsieur De Saint-Mars</i> , 1878. 英訳: <i>The Iron Mask</i> , 1884.								
		日本	1892. 12. 25-1893. 06. 12	鉄仮面	歴史小説 冒険小説	翻訳	英→日	黒岩涙香	『万朝報』	東京	
			1893. 05. 23	鉄仮面 正史実歴 (上編)					扶桑堂		
			1893. 06. 12	鉄仮面 正史実歴 (中編)							
			1893. 07. 12	鉄仮面 正史実歴 (下編)							
		中国	1906. 10. 09	(歴史小説)鉄仮面 (上巻)		翻訳	日→中	聴荷女士	広智書局	上海	
			1907. 04 (旧暦)	(歴史小説)鉄仮面 (中巻)							
			1907. 05 (旧暦)	(歴史小説)鉄仮面 (下巻)							
091	大金塊	原作	(英) George Manvill Fenn, <i>The Dark House</i> , 1885. + A. L. Harris, <i>The Fatal Request</i> .								
		日本	1893. 02	大金塊	偵探小説	翻訳	英→日	黒岩涙香	扶桑堂	東京	
		中国	1905. 05. 04	(法国著名之偵探譚 偵探小説) 双金球		翻訳	日→中	中国祥文社	清国留学生会館	東京	
092	ワシントン伝	原作	(米?) 不明								
		日本	1893. 02. 13	ワシントン伝	歴史伝記	翻訳	英→日	漢北生	警醒社	東京	
		韓国	1907. 03. 03	華盛頓傳		翻訳	日→韓	崔南善	『大韓留学生会学報』	東京	
093	維新活歴史	日本	1893. 04. 15	維新活歴史	歴史伝記	創作	日	阪東宣雄	公明館	東京	
		中国	1902	日本維新活歴史		翻訳	日→中	陸規亮	訳書匯編社	東京	
094	美人狩	原作	不明								
		日本	1893. 04. 17	「(探偵小説)美人狩」(『探偵小説第8編』)	探偵小説	翻訳	?→日	芙蓉生	春陽堂	東京	
		中国	1904. 10 (旧暦)	「美人狩」(『探偵譚 (四)』)		翻訳	日→中	陳景韓	開明書店	上海	
095	白髮鬼	原作	(英) Marie Corelli, <i>Vendetta, A Story Of One Forgotten</i> , 1886								
		日本	1893. 06. 23-12. 29	白髮鬼	言情小説 写情小説 偵探小説	翻訳	英→日	黒岩涙香	『万朝報』	東京	
			1894	白髮鬼 (初編・後編)					扶桑堂		
		中国	1905. 11. 10-12. 19	(言情小説)新蝶夢		翻訳	日→中	陳景韓	『時報』	上海 北京	
			1906	(写情小説)新蝶夢					有正書局		
096	吉田松陰	日本	1893. 12. 23	吉田松陰		歴史伝記	創作	日	徳富蘇峰	民友社	東京
		中国	1903	吉田松陰	翻訳		日→中	王純	通雅書局	上海	
097	ローラン夫人の伝	原作	(英) Grace Wharton, Philip Wharton, <i>The Queens of Society</i> , 1860								
		日本	1893. 12-1894. 02	佛国革命の花 (ローラン夫人の伝)	歴史伝記	翻訳	英→日	徳富蘆花	『家庭雑誌』	東京	
			1898. 04	「佛国革命の花」(『世界古今名婦鑑』)					民友社		
		中国	1902. 10. 2、10. 16	近世第一女傑羅蘭夫人傳		翻訳	日→中	梁啓超	『新民叢報』	横浜	
			1904. 05. 02	『羅蘭夫人伝』『飲冰室文集類編 (下)』					下河辺半五郎	東京	
		韓国	1907. 05. 23, 07. 03、04、06	근세 데일녀 중영 웅라관 부인전 (近世第一女中英雄羅蘭夫人傳)		翻訳	中→韓	未詳	『大韓毎日申報』	京城	
			1907. 08						大韓毎日申報社		
098	明日の戦争	原作	(佛) Émile Driant, <i>La Guerre de Demain</i> , 1889. 英訳: <i>The War of Tomorrow</i> .								
		日本	1894. 02. 04	(軍事小説) 明日の戦争	軍事小説	翻訳	佛→日	吉村鐘一	兵事新報社	東京	
		中国	1903. 07. 24-10. 20	明日之戦争		翻訳	日→中	陳景韓	『江蘇』	東京	
099	千人会	原作	(英) Maria Edgeworth, <i>The Lottery</i> , 1799.								
		日本	1894. 04. 12	「千人会」(『第四国民小説』)	国民小説	翻訳	英→日	森田思軒	民友社	東京	
			1907. 05. 01	「千人会」(『思軒全集 (一)』)					石割書店		
		韓国	1912. 09. 06	만인계 (萬人契)		翻訳	日→韓	未詳	新文館	京城	
100	桃太郎	日本	1894. 07. 11	桃太郎		民話・民譚	創作	日	巖谷小波	博文堂	東京
		韓国①	1905. 07. 23	韓文日本豪傑桃太郎傳	翻訳		日→韓	金島苔水	青木嵩山堂	東京	
		韓国②	1912. 11. 25	박천남전 (朴天男傳)	翻案			朴健会	朝鮮書館	京城	
		101	捨小舟	原作	(英) Mary Elizabeth. Braddon, <i>Diavola: Or Nobody's Daughter</i> , 1866						
日本	1894. 10. 25-1895. 07. 04			捨小舟	家庭小説 探偵小説	翻訳	英→日	黒岩涙香	『万朝報』	東京	
	1895. 08. 05、09. 26, 11. 15			捨小舟 (上・中・下編)					扶桑堂		
中国①	1907. 10. 15			(短編小説) 乞食女兒		翻訳	日→中	陳景韓	『月月小説』	上海	
中国②	1908. 06. 29-1909. 08. 29			梅花落		翻訳	日→中	包天笑	『時報』	上海	
	1910								有正書局		
韓国	1914. 10. 29-1915. 05. 19			정부원 (貞婦怨)		翻訳	日→韓	李相協	『毎日申報』	京城	
	1916. 03. 05								博文書館		
102	ABC組合	原作	(佛) Victor Hugo, <i>Les Misérables</i> Les, 1862								
		日本	1894. 11. 03-1895. 04. 18	ABC組合	文芸小説 歴史小説 軍事小説	翻訳	英→日	原抱一庵	『少年園』	東京	
			1902. 02. 03						内外出版協会		
		中国	1903. 11. 09	(軍事小説) 少年軍 (三)		翻訳	日→中	喋血生	『浙江潮』	東京	
韓国	1910. 07. 15	(歴史小説) ABC契	翻訳	日→韓		崔南善	『少年』	京城			
103	拿破崙戦史	原作	不明								
		日本	1894. 12. 04	拿破崙戦史	歴史伝記	翻訳	英→日	野々村金五郎	博文館	東京	
		韓国	1908. 08. 09	拿破崙戦史 (上)		翻訳	日→韓	劉文相	義進社	京城	
104	花咲爺	日本	1894. 12	花咲爺	民話・古話	創作	日	巖谷小波	博文館	東京	
		中国	1906. 06. 13	(日本古話・日清対訳) 花笑翁		翻訳	日→中	梅秀峯	東亜公司	東京	
		105	普奥戦史	原作		(英) H. M. Hozier, <i>The Seven Weeks' War</i> ?					
日本	1895. 05. 16			普奥戦史	歴史伝記	編訳	英→日	渋江保	博文館	東京	
中国	1902			普奥戦史		翻訳	日→中	趙天驥	商務印書館	上海	

106	波蘭衰亡戦史	原作	Fletcher, <i>History of Poland.</i> + Kohlrausch, <i>History of Germany.</i> + Carlyle, <i>History of Friedrich.</i> + Kelly, <i>History of Russia</i> ？								
		日本	1895. 07. 18	波蘭衰亡戦史	歴史伝記	編訳	英→日	洪江保	博文館	東京	
		韓国①	1899. 11. 10	波蘭末年戦史		翻訳	日→韓	魚瑤善	塔印社	京城	
		韓国②	1905. 10. 20-12. 10	(歴史要要) 波蘭末年史		翻訳	日→中	未詳	『大韓毎日申報』	東京	
		中国①	1901	波蘭衰亡戦史(第一冊)				訳書匯編社			
		中国②	1904	波蘭衰亡史				鏡今書局	上海		
中国③	清末	波蘭遺史		陳澹然	『江西官報』	南昌					
107	クリミヤ戦史	原作	不明								
		日本	1895. 08. 20	クリミヤ戦史	歴史伝記	編訳	英→日	洪江保	博文館	東京	
		韓国	1908. 06. 30	英法露土諸国哥利米亜戦史		翻訳	日→韓	俞吉濬	広学書舗	京城	
108	印度蚕食戦史	原作	(英) Wheeler, <i>History of India.</i> Gasseli, <i>History of India.</i> Charles Rathbone Low, <i>Battles of the British Army.</i> など								
		日本	1895. 09. 20	印度蚕食戦史	歴史伝記	編訳	英→日	洪江保	博文館	東京	
		中国	清末	印度蚕食戦史		翻訳	日→中	汪鬱年	訳林社	杭州	
			1903	印度史 一名印度蚕食戦史				王本祥	啓文社	上海	
清末	印度滅亡戦史		夏清馥	群宜訳社							
109	女の顔切	日本	1895. 10. 27	新作小説 女の顔切	探偵小説	創作	日	江見水蔭・關戸浩園	青木嵩山堂	東京	
		中国	1906. 01 (旧暦)	一捻紅		翻訳	日→中	包天笑	小説林社	上海	
		韓国	1906. 01. 23-02. 18	一捻紅		翻案？	日？→韓	一鶴散人	『大韓日報』	京城	
110	鄭成功	日本	1895. 11. 10	台湾開創 鄭成功	歴史伝記	創作	日	丸山正彦	嵩山房	東京	
		中国	1903	台湾開創 鄭成功		翻訳	日→中	張錫六	四素寄廬	東京	
111	伊太利独立戦史	原作	不明								
		日本	1895. 11. 22	伊太利独立戦史	歴史伝記	編訳	英→日	洪江保	博文館	東京	
		中国①	1902	義大利独立戦史		翻訳	日→中	東京留学生	商務印書館	上海	
		中国②	1903. 10. 05	意大利独立戦史				作新社図書局	作新社図書局		
		中国③	1903	意大利独立史				張仁普	広智書局		
		中国④	未詳(清末)	意大利興国依士傳				橋本太郎？	上海訳書局		
韓国	1907. 05	意大利獨立史	翻訳	日→韓		金徳均	日韓図書印刷株式会社	京城			
112	珊瑚美人	日本	1895. 12. 21	珊瑚美人	政治小説 言情小説	創作	日	三宅彦弥	三文堂	東京	
		中国	1904. 06. 14-1905. 01. 06	(政治小説)珊瑚美人		翻訳	日→中	未詳	『繡像小説』	上海	
			1905. 04(旧暦)	(政治小説)珊瑚美人							
			1914. 07	(政治小説)珊瑚美人				商務印書館編訳所	商務印書館		
123	米国独立戦史	原作	(米) Bancroft, <i>History of The United States.</i> + <i>History of The American Revolution.</i> + J. A. Doyles, <i>History of the United States.</i> など								
		日本	1895. 12. 21	米国独立戦史	歴史伝記 歴史小説	翻訳	英→日	洪江保	博文館	東京	
		韓国①	1899. 06	美國獨立史		翻訳	日→韓	玄采	皇城新聞社	京城	
		韓国②	1909. 09. 11-1910. 03. 05	소설미국독립사(小説美國獨立史)				未詳	『大韓毎日申報』		
		中国	1903	美国独立戦史		翻訳	日→中	作新社図書局	作新社	上海	
			1911					東京留学生	商務印書館		
114	希臘独立戦史	原作	不明								
		日本	1896. 01. 23	希臘独立戦史	歴史伝記	編訳	英→日	柳井綱斎	博文館	東京	
		中国	1902	希臘独立史		翻訳	日→中	秦嗣宗	広智書局	上海	
115	英国革命戦史	原作	不明								
		日本	1896. 02. 17	英国革命戦史	歴史伝記	編訳	英→日	洪江保	博文館	東京	
		中国	1903	英国革命戦史		翻訳	日→中	薩憂敵	支那翻訳会社	上海	
116	十五少年	原作	(佛) Jules Verne, <i>Deux ans de vacances</i> , 1888. 英訳: A Two Year's Vacation.								
		日本	1896. 03. 01-10. 01	(冒険奇談) 十五少年	科学小説 冒険小説	翻訳	英→日	森田思軒	『少年世界』	東京	
			1896. 12. 19	十五少年					博文館		
		中国	1901. 10. 12-？	(小説) 十五小豪傑		翻訳	日→中	梁啓超・羅普	『春江花月報』	横浜 上海	
			1902. 02. 02-1903. 01. 13						『新民叢報』		
			1903. 05 (旧暦)						新民社・広智書局		
			1903						小説林社		
韓国	1912. 02. 05	冒険小説 十五小豪傑	翻訳	中→韓		閔溶鎬	東洋書院	京城			
117	毒美人	原作	(米) LAWRENCE L. LYNCH								
		日本	1896. 03. 10	探偵小説 毒美人	探偵小説 偵探小説	翻案？	英→日	多田省軒	盛花堂	東京	
		中国	1904. 03. 11-09. 04	偵探小説 毒美人		翻訳	日→中	佚名	『東方雜誌』	上海	
1904. 11	偵探小説 黄金血		商務印書館編訳所	商務印書館							
118	佛國革命戦史	原作	(英) Carlyle, <i>The French Revolution:A History.</i> + Burk, <i>Reflections on the French Revolution.</i> Mallet, <i>The French Revolution.</i> など								
		日本	1896. 03. 20	佛國革命戦史	歴史伝記	翻訳	英→日	洪江保	博文館	東京	
		韓国	1900. 06	法國革新戦史		翻訳	日→韓	未詳	皇城新聞社	京城	
		中国①	1900. 12-1901. 03	法国革命史		翻訳	日→中	未詳	『開智録』	横浜	
		中国②	1903. 01	法国革命戦史				趙天驥	広智書局	上海	
			1903. 04						商務印書館		
中国③	1903. 05	佛国革命戦史	上海人演社	文明書局・人演社							
119	レデリック大王七年戦	原作	不明								
		日本	1896. 05. 21	フレデリック大王七年戦史	歴史伝記	翻訳	英→日	洪江保	博文館	東京	
		韓国	1908. 05. 10	普魯士国厚礼關益大王七年戦史		翻訳	日→韓	俞吉濬	広学書舗	京城	
120	死刑前の六時間	原作	(佛) Victor Hugo, <i>Le Dernier Jour d' un condamné</i> , 1829. 英訳: <i>The Last Day of a Condemned Man.</i>								
		日本	1896. 08. 15-1897. 02. 13	死刑前の六時間	哲理小説	翻訳	英→日	森田思軒	『国民之友』	東京	
			1898. 06. 04	「死刑前の六時間」 (『ユーゴー小品』)					民友社	東京	
		中国	1906. 11. 01-1908. 07	(哲理小説)鉄窓紅淚記		翻訳	日→中	包天笑	『月月小説』	上海	
1910	群学社										
121	伊太利建国紀略	原作	不明								
		日本	1896. 08. 16(版權免許)	伊太利建国紀略	歴史伝記	編訳	英→日	田中健三郎	博聞社	東京	
		中国	1902	意大利建国史		翻訳	日→中	徐省三	一新書局	上海	
122	ダーウィン	原作	不明								
		日本	1896. 10. 01	チャールス・ダーウィン	歴史伝記	翻訳	英→日	三宅驥一	民友社	東京	
		中国	1903	達爾文		翻訳	日→中	夏清馥	開明書店	上海	
123	伊藤博文	日本	1896. 11. 12	伊藤博文	歴史伝記	創作	日	渡邊修二郎	民友社	東京	
		中国	1903	伊藤博文		翻訳	日→中	未詳	一新書局	上海	

124	金色夜叉 (+ 金色夜叉終篇)	日本①	1897. 01. 01-1902. 05. 11	金色夜叉	家庭小説	創作	日	尾崎紅葉	『読売新聞』	東京			
			1898. 07. 06	金色夜叉 (前編)					春陽堂				
			1899. 01. 01	金色夜叉 (中編)					春陽堂				
			1900. 01. 01	金色夜叉 (後編)					春陽堂				
			1902. 04. 27	金色夜叉 (続編)					春陽堂				
			1903. 06. 12	金色夜叉 (続々)					春陽堂				
			1903. 6. 12	金色夜叉 (新続)					春陽堂				
		日本②	1909. 04	金色夜叉終篇				小栗風葉	新潮社				
			韓国	1913. 05. 13-10. 01				長恨夢	翻案	日→韓	趙重恒	『毎日申報』	京城
		1913. 09		長恨夢 (上)		匯東書館							
		1916. 12. 20		長恨夢 (中)		漢城書館・惟一書館 (後)							
		1916. 12. 20		長恨夢 (下)		朝鮮圖書株式会社							
125	新聞売子	原作	(英) 不明		科学小説 写情小説	翻訳	英→日	菊池幽芳	『大阪毎日新聞』	大阪			
		日本	1897. 01. 01-03. 25	新聞売子					駿々堂				
			1900. 09. 12	新聞売子 (前編)					『新小説』				
			1900. 10. 30	新聞売子 (後編)							広智書局・新小説社		
		中国	1903. 10. 05-1905. 07	(写情小説) 電術奇談 (一名催眠術)		翻訳	日→中	方慶周・呉趺人	中亜書局	北京			
			1911						群学社	上海			
			1905						『電術奇談』 (『新小説彙編 (第4冊)』)	普及書館	京城		
			韓国						1913. 02. 10	(写情小説) 紅宝石	普及書館		
		126	人外境	原作		(佛) Adolphe Belot, <i>La Venus Noire : Voyage Dans l'Afrique Centrale.</i> 英訳: <i>The Black Venus : A Tale of The Dark Continent</i> , 1896.		探偵小説	翻訳	英→日	黒岩涙香	『万朝報』	東京
				日本		1896. 03. 07-1897. 02. 26	人外境					扶桑堂	
						1897. 02. 22	人外境 (上編)						
						1897. 05. 18	人外境 (中編)						
1897. 08. 02	人外境 (下編)												
中国①	1903. 01. 29-02. 27			人外境	翻訳	日→中	未詳		『翻訳世界』	上海			
中国②	1911. 03. 15-1912. 05. 31			非洲石壁	翻訳	日→中	陳景韓		『時報』				
127	秘密袋	原作	(佛) Fortune Du Boisgobey, <i>Les Cachettes De Marie-Rose</i> , 1880. 英訳: <i>Marie-Rose;Or The Mystery.</i>		俠客談	翻訳	英→日	黒岩涙香	『万朝報』	東京			
		日本	1897. 02. 27-08. 31	武士道 (一名秘密袋)					扶桑堂				
			1897. 12. 28	武士道上編 (一名秘密袋)									
			1898. 04. 01	武士道下編 (一名秘密袋)									
中国	1904. 12. 07-1905. 04. 05	秘密囊 (法国俠客談)	翻訳	日→中	小造	『新新小説』	上海						
128	伯爵と美人	原作	不明		探偵小説 偵探小説	?	?	有明山樵	弘文館	東京			
		日本	1897. 06	(探偵小説) 伯爵と美人					『時報』		上海		
		中国	1904. 06. 12-1905. 01. 31	伯爵と美人 (多情之偵探)					時報館				
			1904. 12. 24	(偵探小説) 多情之偵探 俠恋記									
129	露國探偵秘聞	原作	不明		探偵小説	翻訳	英→日	徳富蘆花	『国民新聞』	東京			
		日本	1897. 10. 10-22	露國探偵秘聞					民友社				
			1901. 11. 24	「毒藥」 (『探偵異聞』)					『新小説』				
		中国①	1903. 04. 17	攝魂花					日→中		羅普	新小説社	
		中国②	1907. 04. 07-26	偵探奇譚								新小説社	
130	白糸	原作	(英) Allen Upward, <i>The White Thread, Secrets of The Courts of Europe</i> , 1897		外交小説 推理	翻訳	英→日	徳富蘆花	『国民新聞』	東京			
		日本	1897. 10. 27-11. 12	白糸					民友社		東京		
			1898. 10. 13	「白糸」 (『外交奇譚』)					『新小説』	上海			
		中国	1903. 08. 07	(外交小説) 白糸線記					日→中		羅普	新小説社	
			1903									新小説社	
			1905	「白糸線記」 (『説部腋』)								群学社	
			1905	「白糸線記」 (『新小説彙編 (第3冊)』)									
		韓国	1908. 04. 17-28	白絲線		翻訳	中→韓	東籬子	『大韓毎日申報』	京城			
131	ビスマルクの伝	原作	(英) チャールス・ロウ		歴史伝記	編訳	英→日	吉川潤二郎	開拓社	東京			
		日本	1897. 11. 27	鉄血宰相伝				蛭庵	『新民叢報』	横浜			
		中国①	1903. 06. 24, 08. 21	鉄血宰相俾斯麥傳		翻訳	日→中	銭応清・丁晴隠	文明書局	上海			
		中国②	1903	鉄血宰相									
132	心と心	原作	不明		軍事談	翻訳	英→日	黒岩涙香	『万朝報』	東京			
		日本	1898. 01. 02-12. 31	心と心					『新新小説』		上海		
		中国	1905. 04. 05, 05. 04	(軍事談) 錯恨									
133	土京の一夜	原作	(英) Allen Upward, <i>A Seraglio Secret, Secrets of The Courts of Europe</i> , 1897		外交小説	翻訳	英→日	徳富蘆花	『国民之友』	東京			
		日本	1898. 01-02	土京の一夜					民友社				
			1898. 10. 13	「土京の一夜」 (『外交奇譚』)					『外交報』		上海		
			中国	1904. 11. 21-12. 01								(外交小説) 波斯剪	日→中
134	百合の花	原作	(英) Allen Upward, <i>A Scandal at The Elysee, Secrets of The Courts of Europe</i> , 1897		外交小説 政治小説 国魂小説	翻訳	英→日	徳富蘆花	『国民新聞』	東京			
		日本	1898. 01. 16-23	百合の花					民友社				
			1898. 10. 13	「百合の花」 (『外交奇譚』)					『新民叢報』	横浜			
		中国①	1902. 07. 19	百合花 (海外奇譚)					日→中		未詳	新小説社	
			1905	「百合花 (海外奇譚)」『説部腋』						『小説月報』		上海	
		中国②	1911. 04. 23	(麦瑪韓辞職記 政治小説) 百合魔						『公益叢報』			
			1911. 06. 25	(麦瑪韓辞職記) 百合魔					周瘦鵑			商務印書館	上海
			1914. 01	「百合魔 (麦瑪韓辞職記)」 (『説林』第3集)								国魂叢編社	上海
			未詳	「百合魔」 (『国魂小説集』)									
135	冬宮の怪談	原作	(英) Allen Upward, <i>The Ghost of The Winter Palace, Secrets of The Courts of Europe</i> , 1897		外交小説 語怪小説	翻訳	英→日	徳富蘆花	『国民新聞』	東京			
		日本	1898. 01. 23-03. 01	冬宮の怪談					民友社				
			1898. 10. 13	「冬宮の怪談」 (『外交奇譚』)					『新小説』	横浜			
			1902. 12. 14						日→中		梁啓超	『童子世界』	
		中国	1903. 04. 09-06. 16	(語怪小説) 俄皇宮中之人鬼						『萃新報』		上海	
			1904. 06. 27-07. 26							新小説社			
			1905	「俄皇中之人鬼」 (『説部腋』)									
			1916. 09	「俄皇中之人鬼」 (『小説零簡』)						商務印書館			

		韓国	1908. 03. 29-04. 05	俄皇宮中の人鬼		翻訳	中→韓	冬青山人	『大韓毎日申報』	京城	
136	大隠謀	原作	不明								
		日本	1898. 2. 10-13	大隠謀	偵探小説	翻訳	英→日	徳富蘆花	『国民新聞』	東京	
			1901. 11. 24	「大隠謀」（『探偵異聞』）				民友社			
		中国①	1903. 2. 17-4. 17	（偵探小説）専制虎		翻訳	日→中	喋血生	『浙江潮』	東京	
		中国②	1904	「綺羅沙夫人」（『虚無党』）				陳景韓	文明書局	上海	
137	一億万法	原作	(英) Allen Upward, <i>The Perfidy of Monsieur Disraeli, Secrets of The Courts of Europe</i> , 1897								
		日本	1898. 03. 16-22	一億万法の賭博	外交小説	翻訳	英→日	徳富蘆花	『国民新聞』	東京	
			1898. 10. 13	「一億万法」（『外交奇譚』）				民友社	東京		
		中国	1904. 05. 19-10. 23	（外交小説）埃及妃		翻訳	日→中	未詳	『外交報』	上海	
138	鞭の痕	原作	(英) Allen Upward, <i>The Honour Of An Empress, Secrets of The Courts of Europe</i> , 1897								
		日本	1898. 03. 23-04. 02	鞭の痕	外交小説	翻訳	英→日	徳富蘆花	『国民新聞』	東京	
			1898. 10. 13	「鞭の痕」（『外交奇譚』）				民友社			
		中国	1904. 12. 01-11	（外交小説）一条鞭		翻訳	日→中	未詳	『外交報』	上海	
139	歐洲政界の三女傑	原作	不明								
		日本	1898. 04. 19	「歐洲政界の三女傑」『世界古今名婦鑑』	歴史伝記	翻訳	英→日	徳富蘆花	民友社	東京	
		中国	1917. 09. 05	歐洲政界之女傑		翻訳	日→中	雲五	『小説海』	上海	
140	王の紛失	原作	(英) Allen Upward, <i>A Stolen King, Secrets of The Courts of Europe</i> , 1897								
		日本	1898. 04	王の紛失	外交小説	翻訳	英→日	徳富蘆花	『国民新聞』	東京	
			1898. 10. 13	「王の紛失」（『外交奇譚』）				民友社			
		中国①	1903. 10. 10	返魂香		翻訳	日→中	喋血生	『浙江潮』	東京	
		中国②	1903. 06. 09-06. 24	窮皇案		翻訳		羅普	『新民叢報』	横浜	
			1905	「窮皇案」『説部腋』					新小説社	上海	
141	三刺客	原作	(英) Allen Upward, <i>A Royal Freemason, Secrets of The Courts of Europe</i> , 1897								
		日本	1898. 05. 01-17	北欧朝廷異聞	外交小説	翻訳	英→日	徳富蘆花	『国民新聞』	東京	
			1898. 10. 13	「三刺客」『外交奇譚』				民友社			
		中国	1904. 12. 11-1905. 01. 10	（外交小説）三刺客		翻訳	日→中	未詳	『外交報』	上海	
142	法王殿の墓	原作	(英) Allen Upward, <i>The Tomb In The Vatican, Secrets of The Courts of Europe</i> , 1897								
		日本	1898. 07. 07-13	法王殿の墓	外交小説	翻訳	英→日	徳富蘆花	『国民新聞』	東京	
			1898. 10. 13	「法王殿の墓」（『外交奇譚』）				民友社			
		中国	1904. 03. 31、05. 19	（外交小説）瑪瑙印		翻訳	日→中	未詳	『外交報』	上海	
143	とりかへ子	原作	(英) Allen Upward, <i>Prince Citron, Secrets of The Courts of Europe</i> , 1897								
		日本	1898. 07. 15-21	とりかへ子	外交小説	翻訳	英→日	徳富蘆花	『国民新聞』	東京	
			1898. 10. 13	「とりかへ子」（『外交奇譚』）				民友社			
		中国	1904. 12. 11-21	（外交小説）易児説		翻訳	日→中	未詳	『外交報』	上海	
144	無名氏	原作	(佛) Jules Verne, <i>Famille-sans-nom</i> , 1888. 英訳: <i>A Family Without a Name</i> , 1889								
		日本	1898. 09. 11	無名氏	国民小説 科学小説	翻訳	英→日	森田思軒	春陽堂	東京	
			1904. 08	(国民小説)無名之英雄（上冊）							
		中国	1905. 03	(国民小説)無名之英雄（中冊）		翻訳	日→中	包天笑	小説林社	上海	
			1905. 06	(国民小説)無名之英雄（下冊）							
145	大使夫人	原作	(英) Allen Upward, <i>Madame the Ambassador, Secrets of The Courts of Europe</i> , 1897								
		日本	1898. 10. 13	「大使夫人」（『外交奇譚』）	外交小説	翻訳	英→日	徳富蘆花	民友社	東京	
		中国	1904. 10. 23、11. 21	（外交小説）紅花球		翻訳	日→中	未詳	『外交報』	上海	
146	鉄公の退隱	原作	(英) Allen Upward, <i>Prince Bismarck's Fall, Secrets of The Courts of Europe</i> , 1897								
		日本	1898. 10. 13	「鉄公の退隱」（『外交奇譚』）	外交小説	翻訳	英→日	徳富蘆花	民友社	東京	
			1903. 03. 12-04. 11	外交家之狼狽		翻訳	日→中	羅普	『新民叢報』	横浜	
		中国	1905	「俾斯麦之狼狽」『説部腋』		翻訳			新小説社	上海	
			韓国	1908. 04. 07-15		俾斯麦之狼狽	翻訳	中→韓	二喜堂主人	『大韓毎日申報』	京城
147	ビスマーク公清話	原作	(英) Charles Lowe, <i>Bismarck's Table-Talk</i> , 1895								
		日本	1898. 10	ビスマーク公清話	歴史伝記	翻訳	英→日	村上俊蔵	裳華房	東京	
		韓国	1906. 07-1907. 01	비스마르크公清話		翻訳	日→韓	未詳	『朝陽報』	京城	
148	累卵の東洋	日本	1898. 11	累卵の東洋	政治小説	創作	日	大橋乙羽	博文館	東京	
		中国	1901. 05. 20	累卵東洋		翻訳	日→中	憂重子	訳書匯編社	東京	
149	不如帰	日本	1898. 11. 29-1899. 05. 24	不如帰	家庭小説 哀情小説 戦争文学	創作	日本	徳富蘆花	『国民新聞』	東京	
			1900. 01. 15						民友社		
		中国	1908. 10. 30	不如帰（哀情小説）（説部叢書）		翻訳	日→中	林紓・魏易	商務印書館	上海	
			1913. 11	不如帰（哀情小説）（小本小説叢書）							
			1914. 06	不如帰（哀情小説）（林訳小説叢書）							
		韓国①	1912. 08. 20	불여귀(不如歸)（上・下）		翻訳	日→韓	趙重桓	警醒社	東京	
		韓国②	1912. 02. 20、09. 20	두견성(杜鵑声)（上・下）				鮮于日	普及書館	京城	
		韓国③	1912. 09. 15	유화우(榴花雨)		翻案		金宇鎮	東洋書院		
150	胡蝶船旅行	日本	1898. 11. 01-15	（科学のお伽噺）胡蝶船旅行	科学小説	創作	日	木村小舟	『少年世界』	東京	
		中国	1903. 03(旧暦)	胡蝶書生漫遊記		翻訳	日→中	茂原築江・王本詳	『科学世界』	上海	
151	五色の石	日本	1899. 02. 16	五色の石・指南車	民話・民譚						
			1908. 06. 25	「五色の石」（『世界お伽噺合本（第1集）』）		編作	日本	巖谷小波	博文館	東京	
		中国	1907. 06. 16	五色石（日華対訳）		翻訳	日→中	湯淑成	東亜公司	東京	
152	絵姿	原作	不明								
		日本	1899. 01. 01-02. 25	絵姿	言情小説	翻訳	英→日	黒岩浜香	『万朝報』	東京	
		中国	1906. 01. 28-03. 03	（言情小説）秋雲娘		翻訳	日→中	陳景韓	『時報』	上海	
153	古王宮	原作	(米/英) Bertha Clay, <i>At War With Herself</i> , 1894								
		日本	1899. 02. 26-05. 13	古王宮	探偵小説 言情小説	翻訳	英→日	黒岩浜香	『萬朝報』	東京	
			1900. 08. 01						扶桑堂		
		中国	1908. 11, 1909. 01	（言情小説）古王宮		翻訳	日→中	包天笑	『月月小説』	上海	
1913. 01	「古王宮」（『冷笑叢談』）		群学社								
154	己が罪	日本	1899-1900	己が罪	創作	日		菊池幽芳	『大阪毎日新聞』	大阪	
			1901	己が罪（前、中、後編）					春陽堂	東京	
		中国	1909. 09. 24						『夏声』	東京	

154	己の罪	中国	1909. 10. 12-15	浮城	水原正治訳	翻訳	日→中	徐生	『民呼日報』	上海
		韓国	1912. 07. 17-1913. 02. 04 1913. 06. 20	쌍옥루 (双玉淚)		翻案	日→韓	趙重桓	『毎日申報』	京城
155	地中の秘密	日本	1899. 04. 28-07. 08 1902. 04	(探検実記) 地中の秘密	偵探小説	創作	日	江見水蔭	『山陽新報』	岡山
		中国	1906. 09. 03	地中秘 (偵探小説)		翻訳	日→中	鳳仙女史	青木嵩山堂	大阪
156	ビスマルクの伝	原作	(英) George Bullen, <i>The Story of Count Bismarck's Life: For Popular Perusal</i> , 1871. など?							
		日本	1899. 04. 30	ビスマルック	歴史伝記	編訳	英→日	笹川潔	博文館	東京
		中国	不明 (1911年以降)	卑士麦傳		翻訳	日→中	上海普通学書室	上海普通学書室	上海
		韓国①	1906. 12. 31-1907. 05. 24	(歴史譚) 비스마르크 (比斯麦) 傳		翻訳	日→韓	朴容喜	『太極学報』	東京
		韓国②	1907. 08. 25	比斯麥傳				黃潤徳	普成館	京城
157	無人島大王	原作	(英) Daniel Defoe, <i>The Life and Strange Surprising Adventures of Robinson Crusoe</i> , 1719							
		日本	1899. 5. 29	無人島大王 ロビンソン漂流記	冒険小説	翻訳	英→日	巖谷小波	博文館	東京
		中国	1909. 06. 13-27 1909	無人島大王 『無人島大王』 (『紅絨女史三種』)		翻訳	日→中	湯紅紱	『民呼日報 (図画)』	上海
158	コッシュートの伝	原作	(米) P.C.Headly, <i>The Life of Louis Kossuth</i> , 1852.							
		日本	1899. 10. 05-11. 05 1900. 02	ルイ、コッスート 「ルイ、コッスート」 (『近世世界十偉人』)	歴史伝記	翻訳	英→日	石川安次郎	『太陽』	東京
		中国	1902. 03. 24-05. 02 1904. 05. 02	匈牙利愛國者噶蘇士傳 「匈牙利愛國者噶蘇士傳」 (『飲冰室文集類編』)		翻訳	日→中	梁啓超	『新民叢報』	横浜
		韓国	1906. 10. 25, 11. 25 1908. 04	匈牙利愛國者噶蘇士傳		翻訳	中→韓	李補相	帝国印刷株式会社	東京
									『朝陽報』	京城
									博文書館	
159	漢民拔	原作	不明							
		日本	1899. 07. 01	ハンニバル (漢民拔)	歴史伝記	編訳	?→日	大町芳衛	博文館	東京
		中国	1903	漢民拔		翻訳	日→中	丁錦	文明書局	上海
160	エミール抄	原作	(佛) Jean-Jacques Rousseau, <i>Émile ou De l' éducation</i> , 1762							
		日本	1899. 07. 13	エミール抄	教育小説	翻訳	英→日	山口小太郎 島崎恒五郎	開発社	東京
		中国	1903. 07-08 不明	愛美耳鈔 教育小説		翻訳	日→中	中島端?	『教育世界』	上海
									教育世界社	
161	法螺先生	原作	(独) Burger Gottfried August, <i>Abenteuer des Freiherrn von Münchhausen</i> , 1786?	英訳: <i>The Adventures Of Baron Munchausen.</i>						
		日本	1899. 07. 17 1908. 06	法螺先生 「法螺先生」 (『世界お伽噺合本第1集』)	科学小説	翻訳	英→日	巖谷小波	博文館	東京
		中国	1905. 06	「法螺先生譚」 (『新法螺 (科学小説)』)		翻訳	日→中	包天笑	小説林社	上海
162	小人島	原作	(英) Jonathan Swift, <i>Gulliver's Travel</i> , 1726							
		日本	1899. 10. 18 1908	小人島 「小人島」 (『世界お伽噺第1集』)	冒険小説 海事小説	翻訳	英→日	巖谷小波	博文館	東京
		韓国	1909. 02. 12	「小人国漂着觀光録」 『걸녀버유람기 (葛利賓遊覽記)』		直訳	日→韓	崔南善	新文館	京城
163	大人国	原作	(英) Jonathan Swift, <i>Gulliver's Travel</i> , 1726							
		日本	1899. 12 1908. 06. 20	大人国 「大人国」 『世界お伽噺第2集』	冒険小説 海事小説	訳・意	英→日	巖谷小波	博文館	東京
		韓国	1908. 11. 01-1908. 12. 01 1909. 02. 12	거인국표류기 (巨人国漂流記) 「巨人国漂着觀光録」 『걸녀버유람기』 (葛利寶遊覽記)		直訳	日→韓	崔南善	『少年』	京城
									新文館	
164	コロンブス	原作	不明							
		日本	1899. 12	コロンブス (閑竜)	歴史伝記	編作	?→日	桐生政次	博文館	東京
		韓国	1906. 10-11	(歴史譚) 콜럼버스傳		翻訳	日→韓	朴容喜	『太極学報』	京城
165	瑣克刺底	原作	不明							
		日本	1899	瑣克刺底	歴史伝記	翻訳	?→日	久保天随	博文館	東京
		中国	不明 (清末)	蘇格拉底		翻訳	日→中	張相	合衆書局	杭州
166	成吉思汗	日本	1899	成吉思汗	歴史伝記	創作	日	大田三郎	博文館	東京
		中国	1903	成吉思汗傳		翻訳	日→中	作新社	作新社	上海
167	楊貴妃	日本	1899	楊貴妃	歴史伝記	創作	日	宮崎繁吉 (來城)	大学館	東京
		中国	1903	楊貴妃		翻訳	日→中	雲隠	開明書局	上海
168	海上大冒険談	原作	(米) James Fenimore Cooper, <i>The Story Of The Sea.</i>							
		日本	1900. 01. 01	海上大冒険談	冒険小説	翻訳	英→日	村上俊藏	春陽堂	東京
		中国	1902. 12. 01-1903. 02. 27 1903. 07	海上大冒険談		翻訳	日→中	未詳	『翻訳世界』	上海
									支那翻訳会社	
169	寒牡丹	原作	(露) 原作不明							
		日本	1900. 01. 01-05. 10 1901. 02. 06 1904. 09. 16 1910. 04. 25	寒牡丹 「寒牡丹」 『紅葉全集』 (第5巻) 「寒牡丹」 『紅葉集』 (第4巻)	哀情小説	翻訳	英→日	尾崎紅葉 長田秋涛	『読売新聞』	東京
		中国	1906. 03 (旧暦)	寒牡丹 (哀情小説) (上・下巻)		翻訳	日→中	吳禱	春陽堂	上海
170	多情の豪傑	日本	1900. 02. 11 1901. 12. 17	多情の豪傑 続多情の豪傑	歴史伝記	創作	日	宮崎來城	商務印書館	東京
		中国	1904 不明	多情の豪傑		翻訳	日→中	詹憲慈?	大学館	上海
								詹憲慈	大同書局	広州
171	曾国藩	日本	1900. 02 1903. 06. 20	「曾国藩」 『近世世界十偉人』 東邦之偉人	歴史伝記	創作	日	川崎三郎 (紫山)	文武堂	東京
		中国	1903	曾国藩		翻訳	日→中	顧学成・唐重威	文求堂	上海
172	野の花	原作	(英・米) Bettha M. Clay, <i>A Woman's Error.</i> ?							
		日本	1900. 03. 10-11. 09 1909. 01. 02. 1909. 05. 02 1908	野の花 野の花 (前篇) 野の花 (後篇)	家庭小説	翻訳	英→日	黒岩涙香	『万朝報』	東京
		中国	1910. 04. 11-1911. 01. 18	空谷蘭		翻訳	日→中	包天笑	扶桑堂	上海
									有正書局	
									『時報』	
		原作	(独) Burger Gottfried August, <i>Abenteuer des Freiherrn von Münchhausen</i> , 1786?	英訳: <i>The Adventures Of Baron Munchausen.</i>						
		ロシア	1900. 03	続法螺先生		翻訳	英→日	巖谷小波	博文館	東京

173	続法螺先生	口平	1908. 06	『続法螺先生』『世界お伽噺:合本第2集』	科学小説	翻訳	英→日	飯谷小波	博文館	東京
		中国	1905. 06	「法螺先生統譚」『新法螺(科学小説)』	冒険小説	翻訳	日→中	包天笑	小説林社	上海
		韓国	1913. 05. 20	『하종선이모험기담(嘘風扇이冒險奇談)』(第20-22篇)		翻訳	日→韓	金与济	新文館	京城
174	彼得大帝	原作	(波) K. Waliszewski, 原作名不明. 英訳: Lady Mary Loyd, <i>Peter the Great</i> , 1897.							
		日本	1900. 05. 04	彼得大帝	歴史伝記	翻訳	英→日	佐藤信安	博文館	東京
		中国	1902	彼得大帝		翻訳	日→中	愈愚斎主	文明書局	上海
		韓国①	1907. 04. 30-1907. 10	彼得大帝傳		翻訳	日→韓	趙種観	『共修学報』	東京
		韓国②	1908. 05. 25-07. 25	彼得大帝傳				玩市生	『大韓学会月報』	
韓国③	1908. 11. 05	聖彼得大帝傳			金演昶	広学書舗	京城			
175	華聖頓①	原作	(英・米) John S. C. Abbott, <i>Lives of Presidents</i> , 1867. + W. M. Thayer, <i>George Washington</i> , 1890. など							
		日本	1900. 05. 20	華聖頓	歴史伝記	翻訳	英→日	福山義春	博文館	東京
		中国①	1903. 08	華盛頓		翻訳	日→中	丁錦	文明書局	上海
韓国	1908. 04	華盛頓傳		翻訳	中→韓	李海朝	滙東書館	京城		
176	華聖頓②	原作	(英・米) John S. C. Abbott, <i>Lives of Presidents</i> , 1867. + W. M. Thayer, <i>George Washington</i> , 1890. など							
		日本	1900. 05. 20	華聖頓	歴史伝記	翻訳	英→日	福山義春	博文館	東京
中国②	1903. 11	華盛頓		翻訳		日→中	湯濟滄	開明書店	上海	
177	聖人か盗賊か	原作	(英) Lord Lytton, <i>Eugene Aram</i> , 1832							
		日本	1900. 05. 15-11. 15	聖人か盗賊か	心理小説	翻訳	英→日	原抱一庵	『東京朝日新聞』	東京
		1903. 03. 05				今古堂				
中国	1904. 09. 10-12. 07	(心理小説 英国第一名著 謠詐談) 聖人欺盜賊欺	翻訳	日→中		陳景韓	『新新小説』	上海		
178	北氷洋	原作	不明							
		日本	1900. 07. 17	北氷洋?	冒険小説	翻訳	仏?→日	長田秋濤	春陽堂	東京
		中国	1903. 09. 08 (09?)	(最新小説) 北氷洋冒険得新地記		翻訳	日→中	支那某某	『国民日日報』	上海
179	活地獄	原作	不明							
		日本	1900. 07. 22-10. ?	活地獄 (一名「大金の争ひ」)	偵探小説	翻訳	英→日	黒岩浪香	『都新聞』	東京
		中国	1906. 11. 29-1907. 03. 25	(偵探之偵探) 土裏罪人		翻訳	日→中	陳景韓	『時報』	上海
1908	土裏罪人			有正書局						
180	百万年後之地球	原作	(佛) Camille Flammarion 著、原作不明. <i>La Fin du Monde</i> , 1893? 英訳: <i>The Last Days of the World</i> , 1894							
		日本	1900. 08. 01-09. 01	百万年後之地球	科学小説	翻訳	佛→日	長田秋濤	『太陽』	東京
		中国	1906. 06. 19-?	大地球未来記		翻訳	日→中	未詳	『順天時報』	北京
181	海運橋	日本	1900. 08. 18	「海運橋」(『自然と人生』)	社会小説	創作	日本	徳富蘆花	民友社	東京
		中国	1910. 01. 01	(社会小説) 富者と貧民		翻訳	日本	未詳	『盛京時報』	瀋陽
182	歴山大王	日本	1900. 09. 12	歴山大王	歴史伝記	創作	日本	幸田成友	博文館	東京
		中国	1903	亜歴山大		翻訳	日→中	趙必振	新民訳印書局	上海
183	犯人追蹕の失敗	原作	(英) アラン・フーカー、原作名不明							
		日本	1900. 09. 22	「犯人追蹕の失敗」(『探偵叢話』)	探偵小説	翻訳	英→日	菊池幽芳	駁々堂	大阪
		中国	1904	「塔尖之自縊」(『(泰西奇談) 偵探新語』)		翻訳	日→中	索公	昌明公司	上海
184	郵便切手の秘密	原作	(英) ワイズマン、原作名不明							
		日本	1900. 09. 22	「郵便切手の秘密」(『探偵叢話』)	探偵小説	翻訳	英→日	菊池幽芳	駁々堂	大阪
		中国	1904	「郵票毒」(『(泰西奇談) 偵探新語』)		翻訳	日→中	索公	昌明公司	上海
185	富豪の誘拐	原作	(英) レビー、原作名不明							
		日本	1900. 09. 22	「富豪の誘拐」(『探偵叢話』)	探偵小説	翻訳	英→日	菊池幽芳	駁々堂	大阪
		中国	1904	「誘拐公司」(『(泰西奇談) 偵探新語』)		翻訳	日→中	索公	昌明公司	上海
186	異様の腕	原作	(英) モルス、原作名不明							
		日本	1900. 09. 22	「異様の腕」(『探偵叢話』)	探偵小説	翻訳	英→日	菊池幽芳	駁々堂	大阪
		中国	1904	「異形之腕」(『(泰西奇談) 偵探新語』)		翻訳	日→中	索公	昌明公司	上海
187	二千三百四十三	原作	(英) 不明							
		日本	1900. 09. 22	「二千三百四十三」(『探偵叢話』)	探偵小説	翻訳	英→日	菊池幽芳	駁々堂	大阪
		中国	1904	「復仇」(『(泰西奇談) 偵探新語』)		翻訳	日→中	索公	昌明公司	上海
188	暗殺倶楽部	原作	(英) キスク、?							
		日本	1900. 09. 22	「暗殺倶楽部」(『探偵叢話』)	探偵小説	翻訳	英→日	菊池幽芳	駁々堂	大阪
		中国	1904	「暗殺党」(『(泰西奇談) 偵探新語』)		翻訳	日→中	索公	昌明公司	上海
189	少寡婦	原作	(英) ガードルストーン、?							
		日本	1900. 09. 22	「少寡婦」(『探偵叢話』)	探偵小説	翻訳	英→日	菊池幽芳	駁々堂	大阪
		中国	1904	「石炭窟中之偵探」(『(泰西奇談) 偵探新語』)		翻訳	日→中	索公	昌明公司	上海
190	試金室の秘密	原作	(英) ボーランド、?							
		日本	1900. 09. 22	「試金室の秘密」(『探偵叢話』)	探偵小説	翻訳	英→日	菊池幽芳	駁々堂	大阪
		中国	1904	「試金室の秘密」(『(泰西奇談) 偵探新語』)		翻訳	日→中	索公	昌明公司	上海
191	二男少年	原作	(英) George Alfred Henth, <i>Orange And Green:A Tale of The Boyne and Limerick</i> , 1888							
		日本	1900. 10. 08	二男少年	冒険小説	翻訳	英→日	桜井彦一郎	文武堂	東京
		中国	1902. 11. 14-1906. 09. 06	(冒険小説) 二男少年		翻訳	日→中	南野浣白子	『新小説』	横浜 上海
			1905							
中国	1904	(冒険小説) 青年鏡								
192	日露戦争未来記	原作	不明							
		日本	1900. 11. 01	(愉快 快絶) 日露戦争未来記	戦争小説	翻訳	英→日	法令館	法令館	大阪
		中国	1904. 01. 15-02. 10	未来日俄戦争小説		翻訳	日→中	扶桑	『俄事警聞』	上海
193	海底軍艦	日本	1900. 11. 15	(海島冒険奇譚) 海底軍艦	冒険小説 科学小説	創作	日	押川春浪	文武堂・博文館・東京堂	東京
		中国	1906. 04	(科学小説) 秘密電光艇		翻訳	日→中	金石・椿嘉猷	商務印書館	上海
194	巴黎の秘密	原作	(佛) Eugène Sue, <i>Les Mystères de Paris</i> , 1842.							
		日本	1900. 11. 19-1901. 08. 18	パリの秘密	世界奇談	翻訳	英→日	原抱一庵	『東京朝日新聞』	東京
		1904. 01	巴黎の秘密	富山房					東京	
中国	1904. 11. 26-1906. 06. 22	(世界奇談第二) 巴黎之秘密		翻訳	日→中	陳景韓	『新新小説』	上海		
		原作	(英) Alice M. Williamsn, <i>A Woman In Grey</i> , 1898							
		1901. 01. 01	(奇中奇談) 幽霊塔 (前編)							

195	幽霊塔	日本	1901.05.17	(奇中奇談) 幽霊塔 (後編)	偵探小説	翻訳	英→日	黒岩涙香	扶桑堂	東京
			1901.09.15	(奇中奇談) 幽霊塔 (続編)		翻訳	日→中	無欲美斎	広智書局	上海
		中国	1906.03.14	(偵探小説) 妖塔奇談 (上巻)						
			1906.05.21	(偵探小説) 妖塔奇談 (下巻)						
196	書物製造法	原作	(米) Washington Irving, <i>The Art Of Book-making, The Sketch Book Of Geoffrey Crayon, Gent</i> , 1820							
		日本	1901.01.27	「書物製造法」『スケッチブック』(上巻)	紀行・遊記	翻訳	英→日	浅野和二郎	大日本図書株式会社	東京
		中国	1904.10	製造書籍術 (訳阿文格随筆)		翻訳	日→中	未詳	『教育世界』	上海
		韓国	1915.03.01	書籍製造法		翻訳	日→韓	崔南善	『青春』	京城
197	幽霊婿	原作	(米) Washington Irving, <i>The Spectre Bridegroom, The Sketch Book Of Geoffrey Crayon, Gent</i> , 1820							
		日本	1901.01.27	「幽霊婿」『スケッチブック』(上巻)	紀行・遊記	翻訳	英→日	浅野和二郎	大日本図書株式会社	東京
		中国	1904.10	鬼婿 (訳阿文格随筆)		翻訳	日→中	未詳	『教育世界』	上海
			1915.11.01	鬼婿			日?→中	仙舟	『婦女時報』	
198	リップ、ブアン、ウインクル	原作	(米) Washington Irving, <i>Rip Van Winkle, The Sketch Book Of Geoffrey Crayon, Gent</i> , 1820							
		日本	1901.01.27	「リップ、ブアン、ウインクル」『スケッチブック』(上巻)	紀行・遊記	翻訳	英→日	浅野和二郎	大日本図書株式会社	東京
		中国	1906.08-09	新黄梁 (訳阿文格随筆)		翻訳	日→中	未詳	『教育世界』	上海
199	殖民少年	原作	(英) Mary Anne Barker, <i>Harry Treverton</i> , 1889							
		日本	1901.02.10	殖民少年	冒険小説	翻訳	英→日	桜井彦一郎	文武堂・博文堂	東京
		中国	1906.04 (旧暦)	(冒険小説) 澳洲歴險記		翻訳	日→中	金石・褚嘉猷	商務印書館	上海
200	虞美人	日本	1901.02.18	虞美人	歴史伝記	創作	日本	宮崎来城	大学館	東京
		中国	1906.10 (旧暦)	虞美人 (国色史叢之一)		翻訳	日→中	呉人達	時中書局	上海
201	南洋之風雲	原作	(比) Mariano Ponce							
		日本	1901.02.23	南洋之風雲	歴史伝記	翻訳	?→日	宮本平九郎・藤田季子	博文館	東京
		中国	1902.11	飛獵濱独立戦史		翻訳	日→中	同是傷心人	商務印書館	上海
		韓国	1907.11	比律賓戦史		翻訳	日→韓	安国善	普成館	京城
202	敵窟王	原作	(佛) Alexandre Dumas, <i>Le Comte de Monte-Cristo</i> , 1845-1846. 英訳: <i>The Count of Monte Cristo</i> .							
		日本	1901.03.18-1902.06.14	(史外史伝) 敵窟王	史外史伝 奇情小説 復讐小説	翻訳	英→日	黒岩涙香	『万朝報』	東京
			1905.07	(史外史伝) 敵窟王 (上下合本)					扶桑堂	
		中国	1907.11.15, 12.15 (旧暦)	破産		翻訳	日→中	陳景韓	『月月小説』	上海
			1913.01	「破産」(『冷笑叢談』)					群学社	
			1908.01.24-08.14, 1912.07.15-1913.03.01 (旧暦)	(奇情小説 復讐小説) 窟中人					『時報』	
			1915.08.23	窟中人之妻					『毎日申報』	
		韓国	1916.02.10-1917.03.31	海王星		翻案	日→韓	李相協	博文書館	京城
			1920.07.30	海王星 (合編)						
		203	維新豪傑の情事	日本	1901.04.18	維新豪傑の情事	艶情小説	創作	日	長田偶得
中国①	1901.09			日本維新英雄兒女奇遇記	翻訳	日→中		逸人後裔	広智書局・愛国社	上海
中国②	1909.01.27			(艶情小説) 英雄兒女伝略				霞若	『中外日報』	
	1909.07.16-08.05			兒女英雄伝略					『広益叢報』	
204	那破翁	原作	不明							
		日本	1901.04	那破翁	歴史伝記	翻訳	→日	土井晚翠	博文館	東京
		中国	1903	拿破倫		翻訳	日→中	趙必振	益新訳社	上海
205	航海少年	原作	(英) James Grant, <i>Jack Manly: his adventures by sea and land</i> , 1861							
		日本	1901.04.30	航海少年	冒険小説	翻訳	英→日	桜井彦一郎	文武堂・博文館	東京
		中国	1907.08	(冒険小説) 航海少年		翻訳	日→中	商務印書館編訳所	商務印書館	上海
206	酔人の妻	原作	(瑞) Johann Heinrich Pestalozzi, <i>Lienhard und Gertrud</i> , 1783. 英訳: <i>Leonard And Gertrude</i>							
		日本	1901.04.30	酔人の妻	教育小説	翻訳	英→日	久保天随	育成会	東京
			1914.12.01	酔人の妻と隠者の夕暮						
		中国	1905.04-1906.01	(教育小説) 酔人妻		翻訳	日→中	未詳	『教育世界』	上海
207	銀山王	日本	1901.06	(伝奇小説) 銀山王		伝奇小説 享情小説	創作	日	押川春浪	東京堂
		1903.06.10		博文館						
		中国①	1905.04	(享情小説) 銀山女王	翻訳		日→中	黄摩西	小説林社	上海
		中国②	1905.04.13-06.21	白雲塔 (新紅楼)					『時報』	
			1905.10.18	(享情小説) 白雲塔 (新紅楼)					時報館・有正書局	
			1918.4.19以降?-1918.5?	白雲塔					『笑舞台報』	
208	戈登將軍	原作	不明							
		日本	1901.08.15	戈登將軍	歴史伝記	編訳	日	赤松紫川	博文館	東京
		中国	1903	戈登將軍		翻訳	日→中	趙必振	新民訳印書局	上海
209	朽木乃舟	原作	(英) William Henry Giles Kingston, <i>The Wanderers; Or, Adventures In The Wilds Of Trinidad And Up The Orinoko</i> , 1876							
		日本	1901.09.01	朽木乃舟	冒険小説	翻訳	英→日	桜井彦一郎	文武堂	東京
		中国	1907.07	(冒険小説) 朽木舟		翻訳	日→中	商務印書館編訳所	商務印書館	上海
210	夢が窟の村夫子	原作	(米) Washington Irving, <i>The Legend Of Sleepy Hollow, The Sketch Book Of Geoffrey Crayon, Gent</i> , 1820							
		日本	1901.09.13	「夢が窟の村夫子」『スケッチブック』(下巻)	紀行・遊記	翻訳	英→日	浅野和二郎	大日本図書株式会社	東京
		中国	1905.02-04	村学究 (訳阿文格随筆)		翻訳	日→中	未詳	『教育世界』	上海
			1913.06.15	村学究 (見聞雑誌)			日?→中	覚民	『湖南教育雑誌』	
211	西施	日本	1901.10.11	西施		歴史伝記	創作	日	宮崎来城	大学館
212	塔中の怪	中国	1906	世界上尤物之西施	翻訳		日→中	陳去病	灌文編訳社	上海
		日本	1901.10.19	(海島探険) 塔中の怪	冒険小説	創作	日	押川春浪	文武堂	東京
		中国	1906.08	大魔窟 (原名塔中之怪)		翻訳	日→中	呉弱男	小説林社	上海
213	大統領マッキンレー	原作	不明							
		日本	1901.11.01	大統領マッキンレー	歴史伝記	翻訳	→日	根岸馨井	日東館	東京
		中国	1903	米利堅大統領麦荊来 一名米利堅近世史		翻訳	日→中	張冠瀛	通雅書局	上海
214	再婚	原作	(英) Arthur Conan Doyle, <i>The Yellow Face</i> , 1893							
		日本	1901.11.05	再婚	探偵小説	翻訳	英→日	上村左川	『太陽』	東京
		中国	1904.08.04-09	黄面 (滑震筆記之一 短篇)		翻訳	日・英→中	滑震記	『時報』	上海
215	メッテルニツヒ	原作	不明							
		日本	1901.11.15	メッテルニツヒ	歴史伝記	翻訳	?→日	森山守治	博文館	東京

		中国	不明（清末）	梅特涅	歴史伝記	翻訳	日→中	陳時夏	競化書局	上海			
216	惹安達克	原作	不明										
		日本	1901. 12. 23	惹安達克	歴史伝記	翻訳	英→日	中内義一	博文館	東京			
		中国	1903	仏国奇女 惹安達克		翻訳	日→中	国民叢書社	新民訳印書局	上海			
217	三十三年の夢	日本	1902. 01. 31-06. 14 1902. 08. 21	三十三年の夢	歴史伝記	創作	日	宮崎滔天	『二六新報』 国光書房	東京			
		中国①	1903. 秋（10. 12以後）	大革命家孫逸仙		翻訳	日→中	章士釗	支那第一蕩虜社	不明			
		中国②	1904. 01. 12	三十三年落花夢		翻訳		金松岑	国学社	上海			
			1904. 03（旧暦）						鏡今書局				
218	灯台守	原作	(波) Henryk Sienkiewicz, <i>Latarnik</i> , 1881. 英訳: <i>The Light-House Keeper of Aspinwall</i> .										
		日本	1902. 02. 05	灯台守	文芸	翻訳	英→日	田山花袋	『太陽』	東京			
		中国	1906. 02. 08-23	灯台卒		翻訳	日→中	呉禎	『繡像小説』	上海			
219	シーザー（該撤）	原作	不明										
		日本	1902. 02. 09	シーザー（該撤）	歴史伝記	編訳	英→日	柿山清	博文館	東京			
		韓国	1907. 06-10	(歴史譚) 시어-(該撤) 傳		翻訳	日→韓	朴容喜	『太極学報』	東京			
220	明治百傑伝	日本	1902. 03. 16	明治百傑伝	歴史伝記	編作	日	干河岸貫一	青木嵩山堂	東京			
		中国	1903	日本維新百傑傳		翻訳	日→中	開明書店	開明書店	上海			
221	空中大飛行艇	日本	1902. 03. 23	(日欧競争) 空中大飛行艇	科学小説	創作	日本	押川春浪	大学館	東京			
		中国	1903. 07(陰暦)	(科学小説) 空中飛艇		翻訳	日→中	海天独嘯子	明権社	上海			
222	五里霧中	原作	(佛) Maupassant, <i>Monsieur Parent</i> , 1885.										
		日本	1902. 04. 05-05. 05	五里霧中	言情小説	翻訳	英→日	上村左川	『太陽』	東京			
		中国	1907. 07（旧暦）	(言情小説) 五里霧		翻訳	日→中	呉禎	商務印書館	上海			
223	兆民先生	日本	1902. 05. 28	兆民先生	歴史伝記	創作	日	幸徳秋水	博文館	東京			
		中国	1903	東洋盧梭 中江篤介傳		翻訳	日→中	黄以仁	国学社	東京			
224	絶島奇譚	原作	(英) Frederick Marryat, <i>Masterman Ready, or the Wreck of the Pacific</i> , 1841										
		日本	1902. 07. 13	絶島奇譚	冒険小説	翻訳	英→日	桜井彦一郎	博文館	東京			
		中国①	1903. 10	(冒険小説) 海外天		翻訳	日→中	徐念慈	海虞図書館	上海			
			1903						文明書局				
			不明						小説林社				
中国②	1906. 04（旧暦）	(冒険小説) 絶島英雄	從龜	広益書局									
225	世界十二女傑	原作	不明										
		日本	1902. 07. 05	世界十二女傑	歴史伝記	翻訳	英→日	岩崎徂堂・三上寄風	広文堂	東京			
		中国	1903. 02	世界十二女傑		翻訳	日→中	趙必振	広智書局	上海			
226	新社会	日本	1902. 07. 05	新社会	政治小説 理想小説	創作	日	矢野龍溪	大日本図書	東京			
		中国	1903. 03. 29	(理想小説) 極楽世界		翻訳	日→中	披雪洞主	広智書局	上海			
227	殖民偉績	原作	(米)										
		日本	1902. 09. 28	殖民偉績ウィリアムベン	政治小説 歴史伝記	翻訳	英→中	久松義典	警醒社	東京			
		中国	1902. 11. 14-12. 14	殖民偉績		翻訳	日→中	未詳	『新民叢報』	横浜			
228	噫無情	原作	(佛) Victor Hugo, <i>Les Misérables</i> , 1862. 英訳: <i>The Wretched</i>										
		日本	1902. 10. 08-1903. 08. 22	噫無情		翻案	英→日	黒岩涙香	『万朝報』	東京			
			1906. 01. 02	噫無情（前篇）					扶桑堂				
			1906. 04. 25	噫無情（後篇）									
		中国	1907. 08. 16-09. 04	哀史之一節 逸犯		翻訳	日→中	陳景韓	『時報』	上海			
		韓国①	1914. 10. 01	너참불상타		翻訳	日→韓	崔南善	『青春』	京城			
		韓国②	1918. 07. 28-1919. 02. 08	哀史				閔泰瑗	『毎日申報』				
			1922. 06. 15		翻訳			博文書館					
229	無政府党と一夜	原作	(英) Arthur Conan Doyle, <i>A Night Among The Nihilists</i> , 1881										
		日本	1902. 11. 08-21	無政府党の（と）一夜	探偵小説	翻訳	英→日	原抱一庵	『東京朝日新聞』	東京			
			1903. 09. 10	「無政府党と一夜」（『（小説）泰西奇文』）		翻訳	日→中	陳景韓	知新館				
		中国	1904. 02（旧暦）	「白格」（『（偵探談増刊）虚無党』）					開明書店	上海			
230	学童日誌	原作	(伊) Edmondo De Amicis, <i>Cuore</i> , 1886. 英訳: Isabel F. Hapgood, <i>Cuore: An Italian Schoolboy's Journal</i> , 1887										
		日本	1902. 12	(教育小説) 学童日誌（上・下）	教育小説	翻案	英→日	杉谷代水	春陽堂	東京			
		中国	1905	児童修身之感情		翻訳	日→中	包天笑	文明書局	上海			
			1909. 02-1910. 02	(教育小説) 馨児就学記									
			1910. 08	商務印書館									
231	武俠の日本	韓国	1908. 11	(教育小説) 伊太利少年	軍事小説 英雄小説 科学小説	翻訳	中→韓	李補相	中央書館	京城			
		日本	1902. 12. 17	(英雄小説) 武俠の日本		創作	日	押川春浪	博文館	東京			
		中国	1904. 06	新舞台（第一編）（軍事小説）		翻訳	日→中	徐念慈	小説林社	上海			
232	山家の恋	原作	(米) Mark Twain, <i>The Californian's Tale</i> , 1893										
		日本	1903. 01. 01	山家の恋	文芸小説	翻訳	英→日	原抱一庵	『太陽』	東京			
		中国	1906. 03. 09	山家奇遇		翻訳	日→中	呉禎	『繡像小説』	上海			
233	千年後の世界	日本	1903. 01. 15	千年後の世界	科学小説 理想小説	創作	日	押川春浪	大学館	東京			
		中国	1904. 12(旧暦)	(理想小説) 千年後之世界		翻訳	日→中	包天笑	群学社・鏡今書局	上海			
234	米風欧雲録	日本	1903. 02. 12	米風欧雲録	歴史伝記	創作	日本	松本君平	広文堂	東京			
		中国	1903. 10	美風欧雲録		翻訳	日→中	鍾樓岑	鏡今書局	上海			
235	少年智囊	日本	1903. 03. 01	少年智囊（歴史篇）	歴史伝記	編作	日	佐藤小吉	育英舎	東京			
		韓国	1907. 05	五偉人小歴史		翻訳	日→韓	李能雨	普成館	京城			
236	学生の苦心	日本	1903. 03. 05	学生の苦心	教育小説	創作	日	山上上泉	文学同志会	東京			
		中国	1903	苦学生		翻訳	日→中	中国之苦学生	作新社・開明書店	上海			
237	女海賊	日本	1903. 04. 23	(小説) 女海賊	偵探小説	創作	日	江見水蔭	青木嵩山堂	東京			
		中国	1908	女海賊(偵探小説)		翻訳	日→中	商務印書館編訳所	商務印書館	上海			
238	想夫憐	日本	1903. 06. 23-09. 04	想夫憐	家庭小説	創作	日	渡辺霞亭	『読売新聞』	東京			
			1904. 02			翻案	日→韓	李相協	古今堂書店				
		韓国	1912. 08. 15	再逢春					東洋書院	京城			
239	食人会	原作	(米) Mark Twain, <i>Cannibalism In The Cars</i> , 1868.										
		日本	1903. 06	食人会	怪異小説	翻訳	英→日	原抱一庵	『新小説』	東京			
		中国	1904. 09. 10	(世界奇談第一 怪異小説) 食人会		翻訳	日→中	陸星韓	『新新小説』	上海			

		中国	1910. 09 (旧暦)	「食人会」 (『俠客談』)		翻訳	日→中	陳京輝	秋星社、時中書局	上海					
240	乳姉妹	原作	(英・米) Bertha M. Clay, <i>Dora Thorne</i> , 1871												
		日本	1903. 08. 24-12. 26	乳姉妹	家庭小説	翻案	英→日	菊池幽芳	『大阪毎日新聞』	大阪					
			1904. 01. 01	乳姉妹 (前編)					春陽堂	東京					
			1904. 01. 01	乳姉妹 (後編)											
		中国	1916. 06	乳姉妹		翻訳	日→中	韵琴	中国図書公司	上海					
		韓国①	1913. 02. 25	寶環縁		翻案	日→韓	博学書院	博学書院	京城					
		韓国②	1919. 09. 03-11. 18	虚栄					『毎日申報』						
1922. 01. 20	博文書院														
241	月と人	原作	(露) Anton Chekhov, <i>Да ч н и к и (Dachniki)</i> , 1899.												
		日本	1903. 08	月と人	短篇小説	翻訳	露→日	瀬沼夏葉	『新小説』	東京					
			1908. 10. 28	「月と人」 (『チエホフ傑作集:露国文豪』)					獅子吼書房						
		中国	1905. 02. 26	(短篇小説) 火車客艙		翻訳	日→中	包天笑	『時報』	上海					
			1910. 01. 11	(短篇小説) 火車客					『小説時報』						
			1910. 10. 20-21	(短篇新訳小説) 火車客					『中西日報』		桑港				
242	造人術	原作	(米) Louise J. Strong, <i>An Unscientific Story</i> , 1903												
		日本	1903. 09. 10	「造人術」 (『泰西奇文 小説』)	科学小説	翻訳	英→日	原抱一庵	知新館	東京					
		中国①	1905	(短篇小説) 造人術					魯迅		『女子世界』				
		中国②	1906. 05. 20	(短篇小説) 造人術		翻訳	日→中	包天笑	『時報』	上海					
			1910. 08. 05	新造人術					『小説時報』						
243	女探偵	原作	(佛) Maupassant ?, <i>IN VARIOUS ROLES ? / AN EXOTIC PRINCE ?</i>												
		日本	1903. 09. 10	「女探偵」 (『泰西奇文 小説』)	探偵小説	翻訳	英→日	原抱一庵	知新館	東京					
		中国	1915. 12. 01	女偵探 (上)					翻譯		日→中	徐大純	『小説海』	上海	
244	再び女探偵	原作	(佛) Maupassant ?, <i>DELILA</i> .												
		日本	1903. 09. 10	「再び女探偵」 (『泰西奇文 小説』)	探偵小説	翻訳	英→日	原抱一庵	知新館	東京					
		中国	1915. 12. 01	女偵探 (下)					翻譯		日→中	徐大純	『小説海』	上海	
245	写真帖	原作	(露) Anton Chekhov, 原作名未詳.												
		日本	1903. 10	写真帖	短篇小説	翻訳	露→日	瀬沼夏葉	『新小説』	東京					
			1908. 10. 28	「写真帖」 『チエホフ傑作集:露国文豪』					獅子吼書房						
中国	1909. 11. 13	写真帖	翻譯	日→中					包天笑		『小説時報』	上海			
246	椿姫	原作	(佛) Alexandre Dumas fils, <i>La dame aux camélias</i> , 1848.		世界名作 言情小説	翻訳	佛→日	長田秋濤	早稲田大学出版部	東京					
		日本	1903. 11	椿姫					翻譯		日→韓	秦学文	『毎日申報』	京城	
		韓国	1917. 09. 21-1918. 01. 16	紅涙											
247	王妃怨	原作	不明		史談 歴史小説	翻訳	英→日	黒岩涙香	『万朝報』	東京					
		日本	1903. 11-1904. 03	(史談) 王妃怨					翻譯		日→中	陳景韓	『時報』	上海	
		中国	1907. 09. 05-11. 06	(史談) 王妃怨											
248	魯国奇聞虚無党	原作	(露) 不明		政治小説 偵探小説	翻訳	?→日	田口掬汀	『文芸倶楽部』	東京					
		日本	1903. 12. 01	(露国奇聞) 虚無党					翻譯		日→中	陳景韓	開明書店	上海	
		中国	1904	「加須克夫」 (『虚無党 (偵探談増刊) 』)											
249	鋼鉄大王カーネギー	原作	(米) 不明		歴史伝記	編訳	英→日	石井勇	実業之日本社	東京					
		日本	1903. 12. 02	「鋼鉄大王カーネギー」 (『最近米国成功十傑』)					翻譯		日→韓	金溶俊	普及書館	京城	
		韓国	1912. 03. 25	鋼鉄大王傳					創作		日本	大沢天仙	文禄堂	東京	
250	催眠術	日本	1903. 12	催眠術	科学小説	翻訳	日→中	金為・呉樸	『新世界小説社報』	上海					
		中国	1906. 08. 14-?	(科学小説) 新魔術											
			1907												
251	大晦日	原作	(独) Johann Heinrich Daniel Zschokke, <i>Das Abenteuer Der Neujahresnacht</i> , 1818. 英訳: <i>Zschokke's New-Year's Night (A Tale from the German)</i> .		喜劇小説 滑稽小説	翻訳	英→日	小松月陵	金港堂	東京					
		日本	1903. 12. 24	大晦日					翻譯		日→中	徐卓杲	小説林社	上海	
		中国	1906. 01	(滑稽小説) 大除夕											
252	百年後の社会	原作	(米) Edward Bellamy, <i>Looking Backward from 2000 to 1887</i> , 1888		政治小説	翻訳	英→日	平井広五郎	警醒社書店	東京					
		日本	1903. 12. 31	百年後の社会					翻訳		日→中	未詳 商務印書館編訳所	『繡像小説』	上海	
		中国	1904. 05. 15-10. 23	(政治小説) (理想小説) 回頭看											
253	奴隸トム	原作	(米) Harriet Beecher Stowe, <i>Uncle Tom's Cabin</i> , 1852			翻訳 抄訳	英→日	堺枯川 百島冷泉	内外出版協会	東京					
		日本①	1903	仁慈博愛の話											
		日本②	1907. 12	奴隸トム							翻訳	日→韓	李光洙	新文館	京城
		韓国	1913. 02. 20	검둥이 설움											
254	新造軍艦	日本	1904. 01. 05	(海国冒険奇譚) 新造軍艦	軍事小説 冒険小説 科学小説	創作	日	押川春浪	博文館	東京					
		中国	1905. 05	(軍事小説) 新舞台 (第二編)					翻譯		日→中	徐念慈	小説林社	上海	
255	理想の美人	原作	(英) Charles Garvice, 原作不明			翻訳	英→日	中内蝶二	『太陽』	東京					
		日本	1904. 03. 01	理想の美人					翻譯		日→中	呉樸	『繡像小説』	上海	
		中国	1906. 03. 25-04. 08	理想美人											
256	日露戦記	日本①	1904. 03. 17	日露戦記 (第1冊)	歴史伝記 戦争文学	創作	日	場恒吾 安孫子貞次	有楽社	東京					
		日本②	1904. 04. 18	日露戦争実記					翻訳		日→韓	稲野秋蝶	名倉昭文館		
		韓国	1904. 06	日露戦記								朴永武	博文社	京城	
257	当代の露西亜人	原作	(露) Mikhail Lermontov, <i>ерой нашего времени</i> , 1840. 英訳: <i>A Hero of Our Time</i> .		言情小説	翻訳	露?→日	嵯峨の家主人	『太陽』	東京					
		日本	1904. 04. 01	当代の露西亜人					翻譯		日→中	呉樸	商務印書館	上海	
		中国	1907. 06 (旧暦)	(言情小説) 銀紐碑											
258	露国の宫廷	原作	不明		時事小説	翻訳	?→日	天野節	東生亀次郎	東京					
		日本	1904. 05. 03	(時事講談) 露国の宫廷					翻譯		日→中	傅蘭甫	普益書局	南昌	
		中国	1904. 09 (旧暦)	(時事小説) 俄官怨											
259	暗黒星	原作	(米) Simon Newcomb, <i>The End of The World</i> , 1903		科学小説	翻訳	英→日	黒岩涙香	『万朝報』	東京					
		日本	1904. 05. 06-25	暗黒星					翻訳		日→中	徐念慈	朝報社		
			1904. 09. 07	(英和对訳科学小説) 暗黒星									小説林社	上海	
260	禽獣会議人類攻撃	中国	1905. 07	黒行星	政治小説 寓言小説	翻訳	日→中	徐念慈	小説林社	上海					
		日本	1904. 06	禽獣会議人類攻撃					創作		日本	佐藤蔵太郎	金港堂	東京	
		韓国	1908. 02	禽獣会議録					翻案		日→韓	安国善	皇城書籍業組合	京城	
		中国	1913. 05. 20-08. 20	禽獣会議人類攻撃記					翻譯		日→中	未詳	『国是』	北京	

		原作	(英) Arthur Conan Doyle, <i>How The Brigadier Slew The Fox, Adventures Of Gerard</i> , 1903								
261	大佐の罪	日本	1904. 07. 01	(軍事小説) 大佐の罪 (斥候の滑稽談)		軍事小説	翻訳	英→日	高須梅溪	『太陽』	東京
		中国	1906. 04. 08	(軍事小説) 斥候美談			翻訳	日→中	呉樗	『繡像小説』	上海
262	ついを枕	原作	(露) Leo Tolstoy, <i>Р у б к а л е с а (Rubka Iesa)</i> , 1855, 英訳: <i>The Wood-Felling.</i>								
		日本	1904. 07	ついを枕		軍事小説	翻訳	露→日	二葉亭四迷	金港堂	東京
		中国	1905. 05、06、11	枕戈記(軍事小説)			翻訳	日→中	未詳	『教育世界』	上海
263	虚無党の女	原作	不明								
		日本	1904. 08. 01	虚無党の女		科学小説 虚無党小説	翻訳	? → 日	柳川春葉	『太陽』	東京
		中国	1907. 06	(科学小説) 薄命花			翻訳	日→中	呉樗	商務印書館	上海
264	虚無党奇談	原作	(英) William Tufnell Le Queux, <i>Strange Tales Of A Nihilist</i> , 1892								
		日本	1904. 09. 20	虚無党奇談		政治小説 虚無党小説	翻訳	英→日	松居松葉	警醒社	東京
		中国①	1904. 12. 07-1905. 05. 12	俄国俠客談 虚無党奇話			翻訳	日→中	陳景韓	『新新小説』	上海
		中国②	1909. 10. 03-10. 29	虚無党奇談			翻訳		帝召	『民吁日報』	
265	わが友伯爵夫人	原作	(佛) William Le Queux 『Strange Tales of a Nihilist』(1892)中の「III. My Friend, The Princess」								
		日本	1904. 09. 20	「わが友伯爵夫人」(『虚無黨奇談』)		虚無党小説	翻訳	英→日	松居松葉	警醒社	東京
		中国	1908. 2. 8-4月	(虚無黨叢談之一 短篇小説) 女偵探			翻訳	日→中	陳景韓	『月月小説』	上海
266	露國皇帝の生命	原作	(英) William Tufnell Le Queux, <i>The Burlesque of Death, Strange Tales Of A Nihilist</i> , 1892								
		日本	1904. 09. 20	「露國皇帝の生命」(『虚無黨奇談』)		虚無党小説	翻訳	英→日	松居松葉	警醒社	東京
		中国	1908. 04. 01, 06. 01 (旧暦)	(虚無党小説) 爆烈弾							
			1908. 07, 09 (旧暦)	(虚無党小説) 俄国皇帝							
			1909. 10. 14	(各国時間) 俄国之偵探術							
267	武侠艦隊	日本	1904. 09	(戦時英雄小説) 武侠艦隊		軍事小説 英雄小説 科学小説	創作	日	押川春浪	文武堂	東京
		中国	1907. 03-1908. 10	(軍事小説) 新舞台 (第三編)							
			1907. 04. 28-1907. 05. 12	(戦時英雄小説) 武侠艦隊							
			1909. 03	(軍事小説) 武侠艦隊							
		268	売国奴	原作	(独) Hermann Sudermann, <i>Der Katzensteg</i> , 1889						
日本	1904. 09. 15			(小説) 売国奴		軍事小説 政治小説	翻案	独→日	登張竹風	金港堂	東京
中国	1905. 02-12?			売国奴(軍事小説)							
	1905. 04										
韓国	1908. 10. 25-1909. 07. 14			매국노(賣国奴):나라파논놈							
269	黒衣僧	原作	(露) Anton Chekhov, <i>Чёрный монах</i> , 1894, 英訳: <i>The Black Monk.</i>								
		日本	1904. 10. 01-11. 01	黒衣僧		神怪小説	翻訳	露→日	薄田斬雲	『太陽』	東京
		中国	1907. 06	(神怪小説) 黒衣教士							
270	義勇軍	原作	(佛) Maupassant, <i>Les Prisonniers.</i>								
		日本	1904. 10. 01	義勇軍		戦争小説	翻訳	英? → 日	橋本青雨	『太陽』	東京
		中国	1904. 11. 26	(戦争小説) 義勇軍							
271	龍宮の使者	日本	1904. 11. 12	龍宮の使者(『世界お伽噺』第64編)		民話・民譚	編作	日	巖谷小波・李人植	博文館	東京
		中国	1909. 05. 16-30	(朝鮮故事) 龍宮使者							
		272	良人の自白	日本	1904. 12. 20	良人の自白(上篇)		社会小説	創作	日	木下尚江
1905. 07. 02	良人の自白(中篇)										
1905. 11. 12	良人の自白(下篇)										
1906. 07. 25	良人の自白(続篇)										
273	露探の妻	中国	1906. 06. 10	(原名良人之自白 社会小説) 苦海余生説		軍事小説	翻訳	日→中	洽恂	『江西』	東京
		日本	1904	露探の妻			創作	日	押川春浪	未詳	未詳
		中国	1905. 11	俄探			翻訳	日→中	鱸鱸子	『鵲声』	東京
274	第二軍從征日記	日本	1905. 01	第二軍從征日記		戦記文学	創	日本	田山花袋	博文館	東京
		中国	1907. 10. 07	遼陽投筆記			翻訳	日→中	候毅	『震旦學報』	北京
		日本	1905. 01. 15	「女露兵」『女学世界定期増刊/家庭小説小天地』			創作	日	真龍齋貞水	博文館	東京
275	女露兵	中国	1909	「女露兵」(『旅順双傑伝』)		政治小説 戦争小説	翻訳	日→中	湯紅紱	世界社	上海
			1917. 08	「女露兵」(『愛国英雄小史』)						交通図書館	
			1919. 02	「女露兵」(『中国女子小説』)						広智書局	
276	土牢の勇士	日本	1905. 01-02	土牢の勇士		軍事小説	創作	日	押川春浪	『中学生世界』	東京
		中国	1909	「旅順土牢之勇士」『旅順双傑伝』			翻訳	日→中	湯紅紱	世界社	上海
277	猶太人の浮世	原作	(露) Maksim Gorki, <i>К а и н и А р т е м</i> , 1899, 英訳: <i>Kain and Artem.</i>								
		日本	1905. 02. 01, 03. 01	猶太人の浮世		種族小説	翻訳	露→日	二葉亭四迷	『太陽』	東京
		中国	1907. 03. 09-06. 05	(原名猶太人之浮生 種族小説) 憂患余生			翻訳	日→中	呉樗	『東方雜誌』	上海
278	橘英男	日本	1905. 04	(軍事小説) 橘英男		探偵小説 軍事小説	創作	日	町田柳塘	読売新聞日就社	東京
		中国	1907. 01. 14-03. 14	(軍事小説) 橘英男			翻訳	日→中	汪廷襄	『法政学交通社雜誌』	東京
			1907. 12	(軍事小説) 橘英男						商務印書館	上海
279	鬼士官	日本	1905. 06. 19	鬼士官		写情小説	創作	日	小栗風葉	青木嵩山堂	東京
		中国	1907. 11 (旧暦)	(写情小説) 鬼士官			翻訳	日→中	商務印書館編訳所	商務印書館	上海
280	最近外交秘密	原作	不明								
		日本	1905. 09. 01	最近外交秘密		政治小説 外交小説	編訳	? → 日	千葉紫草	博文館	東京
		中国①	1908. 06	外交秘鑰 偽電案			翻訳	日→中	羅人驥	『小説林』	上海
		中国②	1912. 12	外交秘事							
1915. 10. 09	(政治小説) 外交秘事		翻訳	商務印書館編訳所	商務印書館						
281	美人萇	日本	1905. 09. 01-10. 01	美人萇		立志小説	創作	日	広津柳浪	『太陽』	東京
		中国	1906. 05. 18-08. 14	(立志小説) 美人煙草			翻訳	日→中	呉樗	『東方雜誌』	上海
			1906. 10							商務印書館	
282	秘密怪洞	日本	1905. 12	秘密怪洞		社会小説	創作	日	曉風山人	大学館	東京
		中国	1915. 07. 23	(社会小説) 秘密怪洞			翻訳	日→中	郭家声・孟文翰	商務印書館	上海
283	肉弾	日本	1906. 04. 25	肉弾(旅順実戦記)		軍事小説 戦争小説	創作	日	桜井忠良	英文新誌社・丁未出版社	東京
		中国	1909	旅順実戦記(一名肉弾)			翻訳	日→中	黄郛	武学編訳社	東京
			1909. 01							新学会社	上海 北京

284	六号室	原作	(露) Anton Chekhov, <i>Палата 6</i> , 1892. 英訳: <i>Ward No. 6</i> .				文芸小説	翻訳	露→日	瀬沼夏葉	『文芸界』	東京	
		日本	1906. 04	六号室	獅子吼書房								
			1908. 10. 28	「六号室」' 『チエホフ傑作集:露国文豪』)	『小説時報』								
		中国	1910. 04. 10	六号室			翻訳	日→中	包天笑	有正書局	上海		
			1915. 11										
285	食人国探険	日本	1906. 05. 09	(冒険小説) 食人国探険	冒険小説	創作	日	渋江保	大学館	東京			
			1906. 09. 11	(冒険小説) 続食人国探険									
		中国	1907	(冒険小説) 食人国					河北雑文書社	保定			
286	美人島探険	日本	1906. 06. 18	(探険小説) 美人島探険	冒険小説 探険小説 探奇小説	創作	日本	鹿島桜巷	大学館	東京			
		中国①	1907. 05. 12-08. 09	(探奇小説) 美人島					『編輯』	東京			
			1907. 10. 07-1908. 12	美人島(冒険小説)					『月月小説』	上海			
		中国②	1910. 03(旧暦)						張倫		群学社		
		中国③	1909. 01. 22-04. 20	美人島(女子探奇小説)					裘二楽		『女報』		
		原作	(露) ？										
287	トルストイ言行録	日本	1906. 07. 19	トルストイ言行録	歴史伝記	編訳	？→日	中里介山	内外出版協会	東京			
		中国	1910. 12. 01	톨스토이小傳					『少年』	京城			
288	世界發展倶楽部	日本	1906. 09	世界發展倶楽部	冒険小説	創作	日	渋江保	大学館	東京			
		中国	1914. 04. 25-08. 15	(冒険小説) 世界發展倶楽部					『法政学報』	北京			
289	人の妻	原作	(英) ？原作不明				言情小説	翻訳	英→日	黒岩涙香	扶桑堂	東京	
		日本	1906. 11. 10	人の妻	商務印書館	上海							
		中国	1907. 10	(言情小説) 鴛盟離合記									
290	滑稽女学生旅行	日本	1906	滑稽女学生旅行	滑稽小説	創作	日	五峯仙史	大学館	東京			
			1907	女学生旅行記					時報館	上海			
		中国	1908	女学生旅行					有正書局				
291	舌切雀	日本	1906	舌切雀	民譚民話	創作	日	杉房之助	東亜公司	東京			
		中国	1906	舌切雀					東亜公司	東京			
292	雪子嬢	日本	1907. 01	(冒険小説) 雪子嬢	冒険小説	創作	日	押川春浪	『写真画報』	東京			
			1907. 05. 19	「(冒険小説) 雪子嬢」(『冒険怪談]幽霊旅館』)					本郷書院				
		中国	1907. 10. 23-27	(冒険小説) 雪子嬢					『南方報』	上海			
293	女侠姫	日本	1907. 02. 01-09. 01	(冒険小説) 女侠姫	冒険小説	創作	日	押川春浪	『少年世界』	東京			
			1912. 09. 21	「(冒険小説) 女侠姫」(『英雄小説大復讐』)					本郷書院				
			1913. 01-02. 25						『小説月報』	上海			
		中国	1914. 07	(冒険小説) 侠女郎					『説林』				
			1915. 05. 26						商務印書館				
		原作	不明										
294	ガーフィールド言行録	日本	1907. 02. 07	ガーフィールド言行録	歴史伝記	編訳	？→日	中里介山	内外出版協会	東京			
		韓国	1908. 03	미국고대통령가귀일트전(美国故大統領가귀일트傳)					玄公廉	玄公廉家	京城		
		日本	1907. 03	無人島					冒険小説			成功雑誌社	東京
295	無人島	中国	1915. 09. 01-12. 01	無人島	翻訳	日→中	済中	『小説海』	上海				
		日本	1907. 04. 01	最貧者				『文藝倶楽部』	東京				
296	最貧者	中国	1910. 06(旧暦)	最貧者		翻訳	日→中	劍影蕭声館主人	書局・萃英山房・作新社	保定 北京			
297	新式イソップ物語	原作	(希) Aesop, <i>Αἰσώπου Μῦθοι</i> . 英訳: <i>Aesop's Fables</i> .				新式イソップ物語	童話・寓話	翻訳	英？→日	稲葉翠浪	厦文堂	東京
		日本	1907. 04. 16		崔南善	『少年』					京城		
		韓国	1908. 11. 01, 1909. 11. 01	이솝의 이야기									
298	大人と小兒	原作	(露) leo Tolstoy, <i>Short Stories and Legends</i> の1篇.				民話・民譚	翻訳	英？→日	百島冷泉	内外出版協会	東京	
		日本	1907. 04. 24	「大人と小兒」『トルストイ短篇集』	『少年』	京城							
		韓国	1909. 11. 01	어른과 아해(어른과 아이)	崔南善	『少年』					京城		
299	爾の隣	原作	(露) leo Tolstoy, <i>Short Stories and Legends</i> の1篇.				民話・民譚	翻訳	？→日	百島冷泉	内外出版協会	東京	
		日本	1907. 04. 24	「爾の隣」『トルストイ短篇集』	崔南善	『少年』					京城		
		韓国	1910. 12. 15	너의 이웃	同文館	東京							
300	棄石	日本	1907. 05. 17	棄石	教育小説	創作	日	小泉又一	『教育雑誌』	上海			
		中国	1911. 02. 08-03. 10	(教育小説) 埋石棄石記					商務印書館				
			1912					包天笑					
301	死人ヶ浜	原作	不明				怪奇小説 懸疑小説	翻訳	？→日	雨遇舎主人	大学館	東京	
		日本	1907. 05. 26	(怪奇小説) 死人ヶ浜	『盛京時報』	瀋陽							
		中国	1913. 04. 23-06. 05	(域外白話長篇懸疑小説) 色界魔									
302	桃太郎	日本	1907. 05	桃太郎	民謡民話	創作	日本	杉房之助	東亜公司	東京			
		中国	1907. 05	桃太郎					東亜公司	東京			
303	リンコンの人物及び其の事業	原作	(米) Joseph Choate, <i>The Career and Character of Abraham Lincoln</i> , 1901				歴史伝記	翻訳	英→日	山懸梯三郎	内外出版協会	東京	
		日本	1907. 06. 16	リンコンの人物及び其の事業	崔南善	『少年』					京城		
		韓国	1910. 01	린커인의 人物과 및 그事業	町田柳塘	晴光館・太平洋					東京		
304	空中軍艦	日本	1907. 07. 31	(探険小説) 空中軍艦	探険小説	創作	日	隠小説者	『神州日報』	上海			
		中国	1908. 01. 19-02. 18	(最新探険小説) 空中軍艦									
305	英独戦争未来記	原作	(英) William Le Queux, <i>The Invasion of 1910</i> , 1906				軍事小説	翻訳	英→日	高田知一郎 佐藤忍	博文館	東京	
		日本	1907. 08下旬	英独戦争未来記	葉	『競業旬報』					上海		
		中国	1908. 12. 04-1909. 01. 02	英徳戦争未来記	徐念慈	中国図書公司							
			1909	(軍事小説) 英徳戦争未来記(上下巻)									
306	地下戦争	日本	1907. 09	(探険小説) 地下戦争	探険小説 冒険小説	創作	日	町田柳塘	晴光館・太平洋	東京			
		中国	1914	(冒険小説) 地下戦争					張蘇	『繁華雑誌』	上海		
307	模範町村	日本	1907. 10. 10	(小説) 模範町村	政治小説	創作	日	横井時敬	読売新聞社	東京			
			1908. 12. 26	(政治小説) 模範町村					翻訳	日→中	唐人傑・徐鳳書	商務印書館	上海
		中国	1915. 05										
308	地獄村	原作	(佛) ？ 原作不明				探奇小説 奇情小説	翻訳	英→日	中村善平	大学館	東京	
		日本	1907. 12. 12	(探奇小説) 地獄村	『小説林』	上海							
		中国	1908. 02-10	(奇情小説) 地獄村	黄翠凝・陳信芳								
					1908								
		原作	(露) 不明										

309	クルロイフ譬喩譚	日本	1907. 12. 21	クルロイフ譬喩譚	童話・寓話	翻訳	？→日	昇曙夢	隆文館	東京
		韓国	1910. 02. 15	쿠루이로프譬喩談		翻訳	日→韓	崔南善	『少年』	京城
310	何処へ行く	原作	(波) Henryk Sienkiewicz, <i>Quo Vadis</i> , 1859							
		日本	1907. 12	何処へ行く クオヴァディス	宗教小説	翻訳	英→日	松本雲舟	三星社	東京
		中国	1911	你往何处去	歴史小説	翻訳	日→中	徐炳昶・喬曾劬	商務印書館	上海
		韓国	1916. 06. 05	夜半의 警鐘		翻訳	日→韓	白楽天子	『新文界』	京城
311	蟹ノ仇討	日本	1907	蟹ノ仇討	民謡民話	創作	日	杉房之助	東亜公司	東京
		中国	1907	蟹之仇討		翻訳	日→中	周頌彝	東亜公司	東京
312	後の不如帰	日本	1908. 03. 03	後の不如帰	家庭小説	創作	日	なにがし	紅葉堂	東京
		中国	1915. 06	(言情小説) 後不如帰	言情小説	翻訳	日→中	黄翼雲	商務印書館	上海
313	破天荒	原作	(独) Von Rudolf Martin, <i>Berlin-Bagdad:Das Deutsche Weltreich Im Zeitalter Der Luftschiffahrt, 1910—1931</i> , 1907							
		日本	1908. 04. 05	破天荒	軍事小説	翻訳	英→日	高野弦月	小川尚栄堂	東京
		中国	1910	(軍事小説) 破天荒		翻訳	日→中	徐鳳書・唐人傑	東亜訳書会・国光書局	上海
			1910. 02						東方書局	
314	殺人請負會社	原作	(独) Von Rudolf Martin, <i>Berlin-Bagdad:Das Deutsche Weltreich Im Zeitalter Der Luftschiffahrt</i> , 1907							
		日本	1908. 05. 05	(驚絶怪絶) 殺人請負會社	虚無党小説	翻訳	英→日	冷鐵居士	『冒険世界』	東京
			1908. 06	(虚無党小説) 殺人公司					『月月小説』	上海
		中国	1913. 01	「殺人公司」 (『冷笑叢談』)		翻訳	日→中	陳景韓	群学社	
315	太陽系統の滅亡	原作	(米) Simon Newcomb, <i>The End of The World</i> , 1903							
		日本	1908. 05. 05	太陽系統の滅亡	科学小説	翻訳	英→日	木村小舟	『冒険世界』	東京
			1908. 08	(科学小説) 科学末日記					『月月小説』	上海
		中国	1913. 01	「世界末日記」 (『冷笑叢談』)		翻訳	日→中	包天笑	群学社	
316	空中戦争未來記	原作	(独) Von Rudolf Martin, <i>Berlin-Bagdad:Das Deutsche Weltreich Im Zeitalter Der Luftschiffahrt</i> , 1910—1931, 1907							
		日本	1908. 05. 05?	空中戦争未來記	科学小説	翻訳	英→日	破天荒生	『冒険世界』	東京
		中国	1908. 10	(科学小説) 空中戦争未来記		翻訳	日→中	包天笑	『月月小説』	上海
			1913. 01	「空中戦争未来記」 (『冷笑叢談』)					群学社	
317	ロビンソン漂流記	原作	(英) Daniel Defoe, <i>The Life and Strange Surprising Adventures of Robinson Crusoe</i> , 1719							
		日本		ロビンソン漂流記	冒険小説	翻訳	英→日	百島冷泉	内外出版協会	東京
		韓国	1909. 02. 01—09. 01	로빈슨(魯賓孫)無人絶島漂流記		翻訳	日→韓	崔南善	『少年』	京城
318	余計者	原作	(露) Anton Chekhov, <i>Лишние люди</i> , 1886. 英訳: <i>Not Wanted</i> .							
		日本	1908. 10. 28	「余計者」『チエホフ傑作集:露国文豪』	社会小説	翻訳	露→日	瀬沼夏葉	獅子吼書房	東京
		中国	1909. 11. 13	(名著雑訳) 生計		翻訳	日→中	陳景韓	『小説時報』	上海
319	フランダースの犬	原作	(英) Louisa de la Ramee, <i>A Dog of Flanders</i> , 1872							
		日本	1908. 11. 20	フランダースの犬	童話	翻訳	英→日	日高善一	内外出版協会	東京
		韓国	1912. 06. 03	불쌍한동물		翻訳	日→韓	崔南善	新文館	京城
320	夜又美人	原作	不明							
		日本	1908. 11. 22—1909. 01. 17	(露国探偵實譚) 夜又美人	偵探小説	翻訳	？→日	宮田暢	『サンデー』	東京
			1915. 08. 21	「夜又美人」 (『露西亞探偵譚 夜又美人』)					サンデー社	
		中国	1912. 02. 27—05. 01	(域外白話長篇偵探小説) 夜又美人		翻訳	日→中	未詳	『盛京時報』	瀋陽
321	泥棒の泥棒	原作	(佛) Maurice Leblanc, <i>La Perle Noire</i> , 1907.							
		日本	1909. 01. 03	(巴里探偵奇譚) 泥棒の泥棒	偵探小説	翻訳	？→日	宮田暢	『サンデー』	東京
			1915. 08. 21	「泥棒の泥棒」 (『露西亞探偵譚 夜又美人』)					サンデー社	
		中国	1912. 05. 02—1912. 05. 12	(域外白話短篇偵探小説) 賊中賊		翻訳	日→中	未詳	『盛京時報』	瀋陽
322	新訳解説伊蘇普物語	原作	(希) Aesop, <i>Αἰσώπου Μῦθοι</i> . 英訳: <i>Aesop's Fables</i> .							
		日本	1909. 02. 20	新訳解説 伊蘇普物語 附日本名士逸話	童話寓言	翻訳	英→日	中村徳助	精華堂	東京
		韓国	1911. 10. 06	伊蘇普의 空前格言		翻訳	日→韓	宋憲爽	普及書館	京城
323	愛の勝利	原作	(露) leo Tolstoy, <i>Short Stories and Legends</i> の1篇.							
		日本	1909. 04. 03	「愛の勝利」『トルストイ小説集』	民話・民謡	翻訳	？→日	百島冷泉	内外出版協会	東京
			1909. 07. 01	(『露西亞探偵譚 夜又美人』)		翻訳	日→韓	崔南善	『少年』	京城
		韓国	1912. 07	사랑의 勝戦					『大道』	
324	親子三代	原作	(露) leo Tolstoy, <i>Short Stories and Legends</i> の1篇.							
		日本	1909. 04. 03	「親子三代」 (『トルストイ小説集』)	民話民謡	翻訳	？→日	百島冷泉	内外出版協会	東京
		韓国	1909. 08. 01	祖孫三代		翻訳	日→韓	崔南善	『少年』	京城
325	珈琲店	原作	(露) leo Tolstoy, <i>Short Stories and Legends</i> の1篇.							
		日本	1909. 04. 03	「珈琲店」 (『トルストイ小説集』)	民話民謡	翻訳	？→日	百島冷泉	内外出版協会	東京
		韓国	1910. 12. 15	茶館		翻訳	日→韓	崔南善	『少年』	京城
326	唯六尺	原作	(露) leo Tolstoy, <i>Short Stories and Legends</i> の1篇.							
		日本	1909. 04. 03	「唯六尺」 (『トルストイ小説集』)	民話民謡	翻訳	？→日	百島冷泉	内外出版協会	東京
		韓国	1910. 12. 15	한 사람이 얼마나 땅이 있어야 하나		翻訳	日→韓	崔南善	『少年』	京城
		中国	1914. 05. 25	六尺地		翻訳	日→中	包天笑	『小説月報』	上海
327	法螺男爵旅土産	原作	(独) Burger Gottfried August, <i>Abenteuer des Freiherrn von Münchhausen</i> , 1786. 英訳: <i>The Adventures Of Baron Munchausen</i> .							
		日本	1909. 04. 05	法螺男爵旅土産	科学小説	翻訳	英→日	佐々木邦	内外出版協会	東京
		韓国	1913. 05. 20	허풍선이모험기담(嘘風扇이冒険奇談) (第1-19篇)	冒険小説	翻訳	日→韓	金与济?	新文館	京城
328	怪人鉄塔	日本	1909. 05	怪人鉄塔	冒険小説	創作	日	押川春浪	東京堂	東京
		中国	1910. 10. 11—11. 23	怪人鉄塔		翻訳	日→中	感	『民立報』	上海
329	心	原作	(露) Leonid Nikolaievich Andreyev, <i>Мысль</i> , 1902. 英訳: <i>Thought</i> .							
		日本	1909. 06. 17	(小説) 心		翻訳	佛→日	上田敏	春陽堂	東京
		中国	1910. 08. 15	心		翻訳	日→中	陳景韓	『小説時報』	上海
330	ドン・キホーテ物語	原作	(西) Miguel de Cervantes Saavedra, <i>Don Quixote de la Mancha</i> , 1605. 英訳: <i>Don Quixote</i> .							
		日本	1909. 07. 26	ドン・キホーテ物語	世界名作	翻訳	英→日	佐々木邦	内外出版協会	東京
		韓国	1915. 01. 01, 02. 01	頓基浩伝奇		翻訳	日→韓	崔南善	『青春』	京城
331	動物の同盟罷業	原作	(米) <i>The Strike at Shane's</i> , 1893							
		日本	1910. 06. 08	動物の同盟罷業	人道小説	翻訳	英→日	丸山英観	内外出版協会	東京
		中国	1911. 09. 02	(人道小説 長篇名訳) 動物之同盟罷工	寓言小説	翻訳	日→中	包天笑	『小説時報』	上海
		日本	1910. 08. 25	結核菌物語		創作	日	広沢豊作	博文館	東京
332	結核菌物語	中国	1912. 01. 13—1912. 07. 26	(長篇名訳) 結核菌物語	科学小説	翻訳	日→中	包天笑	『小説時報』	上海

		中国	1913. 09. 01-1914. 06	結核菌物語		翻訳	日→中	包天笑	『中華実業叢報』	上海
333	水楼記	日本	1910. 08. 27	「水楼記」（『水蔭叢書』）	探偵小説	創作	日	江見水蔭	博文館	東京
		中国	1914. 09. 15-11. 15	水楼記		翻訳	日→中	孟文翰	『法政学報』	北京
334	イソプお伽噺	原作	(希) Aesop, <i>Αἰσώπου Μοθολογία</i> . 英訳: <i>Aesop's Fables</i> .							
		日本	1911. 09. 03	イソプお伽噺	童話寓言	翻訳	英→日	巖谷小波	三立社	東京
		韓国	1913. 06. 05-1914. 11. 05	寓意談		翻訳	日→韓	記者	『新文界』	京城
335	家なき児	原作	(佛) Hector Henri Malot, <i>SANS FAMILLE</i> , 1878							
		日本	1912. 01. 01	家なき児(前編)	教育小説	翻訳	英→日	菊池幽芳	春陽堂	東京
		日本	1912. 06. 10	家なき児(後編)						
		中国	1912. 07. 10-1914. 12. 15	(教育小説) 苦児流浪記		翻訳	日→中	包天笑	『教育雑誌』	上海
			1915. 03. 19	(教育小説) 苦児流浪記(上中下)					商務印書館	
336	形見のボタン	原作	(英) Amy Le feuivre, <i>Teddy's Button</i> , 1890							
		日本	1912. 02. 20	形見のボタン	宗教童話 児童文学	翻訳	英→日	百島冷泉	内外出版協会	東京
		韓国	1912. 10	자랑의 단추		翻訳	日→韓	金与済	新文館	京城
337	生さぬ仲	日本	1912. 08. 17-1913. 04. 24	生さぬ仲	家庭小説	創作	日	柳川春葉	『大阪毎日新聞』	大阪
			1913. 03. 14						堀田航盛館	
			1914. 01. 01-06. 09			翻案	日→韓	趙重桓	『毎日申報』	京城
			1916. 11. 30						書館・漢城書館・青松堂	
		韓国	1916. 11. 30	断腸録(下)					青松堂書店・唯一書館	
			1917. 02. 02	断腸録(中)						
338	大復讐	日本	1912. 09. 21	「(英雄小説) 大復讐」(『英雄小説大復讐』)	英雄小説	創作	日	押川春浪	本郷書院	東京
		中国	1913. 03. 25	(英雄小説) 大復讐		翻訳	日→中	吳椿	『小説月報』	上海
339	老愛國者	原作	(仏) Alphonse Daudet, <i>LE SIÈGE DE BERLIN</i> , 1873							
		日本	1912. 09. 21	「(巴里奇談) 老愛國者」『英雄小説大復讐』	歴史小説 愛国小説	翻訳	英→日	押川春浪	本郷書院	東京
		中国①	1913. 07. 25	(歴史小説) 指髀記		翻訳	日→中	吳椿	『小説月報』	上海
		中国②	1916. 10	「(愛国小説) 老将愛国談」(『小説名画大観』)				周瘦鵬	文明書局・中華書局	
			未詳	「老将愛国談」(『愛国英雄』(下編))					未詳	
340	不思議の白砂	原作	Richard Austin Freeman, <i>A Message From The Deep Sea, John Thorndyke's Cases</i> , 1909.							
		日本	1912. 07. 03	「不思議の白砂」(『探偵奇譚 呉田博士 第二篇』)	偵探小説	翻訳	英→日	三津木春影	中興館	東京
		中国	1916. 04. 01	(偵探小説) 呉田博士偵探案		翻訳	日→中	石生	『礼拜六』	上海
341	渦巻	日本	1913. 07. 26-1914. 02. 15	渦巻	家庭小説	創作	日	渡辺霞亭	『大阪朝日新聞』	大阪
			1913. 09-1914. 02	小説 渦巻(全4巻)					隆文館	
			1915. 05. 25-12. 26	續篇 長恨夢		翻案	日→韓	趙重桓	『毎日申報』	京城
			1925. 03	李守一斗 沈順愛:長恨夢續(上・下)					朝鮮圖書株式会社	
342	獨逸皇帝の入獄	原作	(英) Allen Upward, <i>The Kaiser's Escapade</i> , 1906							
		日本	1913. 10. 05	「獨逸皇帝の入獄」『函中の密書』	捜奇小説	翻訳	英→日	三津木春影	磯部甲陽堂	東京
		中国	1915. 07. 24	(捜奇小説) 獄中皇帝		翻訳	日→中	秋夢	『礼拜六』	上海
343	呪われたパン	原作	(仏) Maupassant. 英訳: <i>The Accursed Bread</i>							
		日本	1913. 11. 30	「呪われたパン」『伊太利行外六篇』		翻訳	?→日	小形青村	正文館書店	東京
		韓国	1917. 06. 16	더러운麵包		翻訳	日→韓	秦学文	『青春』	京城
344	カンタベリ物語	原作	(英) Geoffrey Chaucer, <i>The Canterbury Tales</i> , 1387-1400							
		日本	1913	カンタベリ物語(上巻)		翻訳	英→日	金子健二	国際文献刊行会	東京
		韓国	1915. 03. 01-07. 26	캔터베리記		翻訳	日→韓	崔南善	『青春』	京城
345	袁世凱	日本	1913	(正伝) 袁世凱	歴史伝記	創作	日本	内藤順太郎	博文館	東京
		中国	1914	袁世凱正傳		翻訳	日→中	張振秋	不明	不明
346	復活	原作	(露) Leo Tolstoy, <i>Воскресение</i> , 1899. 英訳: <i>Resurrection</i> .							
		日本	1914. 05. 14	復活	世界名作 社会小説	翻訳	英→日	村上静人	赤城正蔵	東京
		韓国①	1914. 11. 01	更生		翻訳	日→韓	崔南善	『青春』	京城
		韓国②	1918. 04. 25	(賈珠謝哀話) 海棠花		翻訳		朴賢煥	新文館	
347	島の娘	原作	(英) Sir Walter Besant, <i>Armored of Lyonesse A Romance of To-day</i> , 1890							
		日本	1914. 07. 28	島の娘(初篇)	奇情小説	翻訳	英→日	黒岩浪香	扶桑堂	東京
			1914. 11. 12	島の娘(終篇)						
		中国	1915. 08. 01-12. 01	(奇情小説) 瓊島仙葩		翻訳	日→中	包天笑	『小説大観』	上海
348	此一票	日本	1914. 09. 20	(政治小説) 此一票	政治小説	創作	日	小笠原白也	春陽堂	東京
		中国	1916. 01. 20-12. 20	(政治小説) 此一票		翻訳	日→中	梅生	『大中華雑誌』	上海
349	幼い子	日本	1914	「幼い子」(『蛇つかひ』)		創作	日	江馬修	春陽堂	東京
		中国	1918. 12. 15	小小的一個人		翻訳	日→中	周作人	『新青年』	北京
350	貧しき人々	原作	(露) Fyodor Dostoyevsky, <i>Бедные люди</i> (<i>Bednye Lyudi</i>), 1846. 英訳: <i>Poor Folk</i> .							
		日本	1915. 10. 15	貧しき人々	社会	翻訳	英→日	広津和郎	天弦堂	東京
		韓国	1919. 02. 10-1920. 04. 15	「사랑하는 벗에게」→「貧人」		翻訳	日→韓	洪永厚	『三光』	東京
351	潛艇奇襲	原作	(英) Conan Doyle, 原作不明							
		日本	1916. 08	潛艇奇襲 大英国の危機	科学小説	翻訳	英→日	宮家寿男	如山堂書店	東京
		中国	1917. 03. 04	(理想小説) 潛艇戦争		翻訳	日→中	陳佐彤・祝平	『新申報』	上海
352	暗黒裏面の真相	原作	(米) 柏拉蒙, 原作名不明							
		日本	未詳	暗黒裏面の真相		翻訳	英→日	谷川澄一	未詳	未詳
		中国	1904. 03. 02-03. 23	蓬艾怪談		翻訳	日→中	震旦無競生	『警鐘日報』	上海
353	東郷平八郎評傳?	日本	不明	不明	歴史伝記	創作	日	井上哲次郎	不明	不明
		中国	1899	東郷平八郎評傳		翻訳	日→中	畢祖成	昌明公司	上海
354	比律賓志士独立伝?	日本	不明	不明	歴史伝記	不明	不明	西本昭崇	不明	不明
		中国	1902. 09	比律賓志士独立伝		翻訳	日→中	吳超	訳書匯編社	東京
355	俄彼得大帝傳?	原作	不明							
		日本	不明	不明	歴史伝記	翻訳	?→日	山崎敬一郎	不明	不明
		中国	1902	俄彼得大帝傳		翻訳	日→中	張稷光	江左書局	上海
356	光緒帝?	日本	不明	不明	歴史伝記	創作	日	大久平治郎	不明	不明
		中国	1902	光緒帝		翻訳	日→中	不明	横山会社	東京
357	徳相俾斯麥傳?	原作	不明							
		日本	不明	不明	歴史伝記	翻訳	?→日	不明	不明	不明
		中国	1902	徳相俾斯麥傳		翻訳	日→中	広智書局	広智書局	上海
		韓国	1907. 12-1908. 01	俾斯麥傳		翻訳	中→韓	玩市生	『洛東親睦会学報』	東京

358	大村善亮？	日本	不明	不明	探偵小説	創作	日	中村貞吉	不明	不明
		中国	1903. 08. 27	「(第二 君賊) 大村善亮」(『探偵譚 (一)』)		翻訳	日→中	陳景韓	時中書局	上海
359	少年軍？	原作	(意) De Amicis, <i>The Sardinian Drummer Boy, Cuore, 1886</i>			軍事小説	翻訳	？→日	不明	不明
		日本	不明	不明	翻訳		日→中	嘍血生	『浙江潮』	東京
360	関口太三郎？	日本	不明	不明	探偵小説	創作	日	渡辺為藏	不明	不明
		中国	1903. 12(旧曆)	「関口太三郎(第一)」(『探偵談 (二)』)		翻訳	日→中	陳景韓	時中書局	上海
361	松野貫一？	日本	不明	不明	探偵小説	創作	日	上野和夫	不明	不明
		中国	1903. 12(旧曆)	「松野貫一(附一)」(『探偵談 (二)』)		翻訳	日→中	陳景韓	時中書局	上海
362	成吉思汗少年史？	日本	不明	不明	歴史伝記	創作	日	坂口瑛次郎	不明	不明
		中国	1903	(支那帝国主人第一人) 成吉思汗少年史		翻訳	日→中	呉樺	上海人演説社	上海
363	遊俠風雲録？	日本	不明	不明	政治小説	不明	不明	佚名	不明	不明
		中国	1903. 04. 24(旧曆)	(政治小説) 遊俠風雲録		翻訳	日→中	独立蒼茫子	明權社	上海
364	狐狸夢？	日本	不明	不明	写情小説	創作	日	藤田豊山	不明	不明
		中国	1903	「狐狸夢」(『(写情小説) 三五夢因記』)		翻訳	日→中	笑笑生	文明書局	上海
365	西郷隆盛？	日本	不明	不明	歴史伝記	創作	日	不明	不明	不明
		中国	1903	西郷隆盛		翻訳	日→中	林志鈞	閩学会	東京
366	林肯傳？	原作	不明			歴史伝記	翻訳	英？→日	松村介石	不明
		日本	不明	不明	翻訳		日→中	錢增・顧乃珍	文明書局	上海
		中国	1903	林肯傳					文明書局	上海
367	血手印？	原作	(英) 原作不明			探偵小説	翻訳	英→日	茂原周輔	不明
		日本	不明	不明	翻訳		日→中	陶懋立	文明書局	上海
		中国	1904. 11	(英倫偵探奇案) 血手印		創作	日	不明	不明	不明
368	英雄儿女？	日本	不明	不明	戦争小説	創作	日	獅山吼	『第一晋話報』	東京
		中国	1906. 07. 06	(新訳日本戦勝紀念小説) 英雄儿女		翻訳	日→中	岩谷蘭軒	不明	不明
369	栖霞女侠？	日本	不明	不明	伝記	創作	日	彭俞	『申報』	上海
		中国	1907. 02. 18-03. 05	(黄種必読) 栖霞女侠小傳		翻訳	日→中	開明書店・集成図書公司		
			1907	栖霞女侠						
370	袖中剣？	日本	不明	不明		創作	日	高田三郎	不明	不明
		中国	1907. 02. 26-04. 17	袖中剣		翻訳	日→中	莽仙	『南方報』	上海
371	이솝스寓話？	原作	(希) Aesop, <i>Αἰσώπου Μῦθοι</i> . 英訳: <i>Aesop's Fables</i> .			童話寓言	翻訳	英？→日	不明	不明
		日本	不明	不明	翻訳		日→中	不明	不明	東京
		中国	不明	不明		翻訳	中→韓	李亨雨	『大韓留学生会学報』	東京
372	白絲巾？	韓国	1907. 03. 03-04. 07	이솝스寓話抄譯	愛情小説	翻訳	不明	奴之助	不明	不明
		日本	不明	不明		翻訳	日→中	箋籛	『中外日報』	上海
		中国	1907. 06. 20-07. 17	(愛情小説) 白絲巾						
373	世界一周？	原作	不明			冒険小説	翻訳	？→日	渡辺	不明
		日本	不明	不明	翻訳		日→中	商務印書館編訳所	商務印書館	上海
		中国	1907. 06(旧曆)	(冒険小説) 世界一周						
374	虚無党真相？	原作	(独) 摩哈森, 原作名不明			偵探小説	翻訳	？→日	不明	不明
		日本	不明	不明	翻訳		日→中	吳樺？	広智書局	上海
		中国	1907. 11	(偵探小説) 虚無党真相		創作	日	羅張氏	不明	不明
375	機器妻？	日本	不明	不明	言情小説 偵探小説	翻訳	日→中	横堅無尽室主人	新世界小説社	上海
		中国①	1907. 09 (旧曆)	(言情小説) 機器妻					改良小説社	上海
			1909. 02							
		中国②	1912. 10. 29-12. 06	(域外白話長篇偵探小説) 機器妻				未詳	『盛京時報』	瀋陽
376	法皇拿巴倫傳？	原作	不明			歴史伝記	翻訳	？→日	不明	不明
		日本	不明	不明	翻訳		日→韓	不明	博文書館？大韓毎日申報社？	京城
		韓国	1907	법황나파륜전 (法皇拿巴倫傳)						
377	哥崙布傳？	原作	不明			歴史伝記	翻訳	？→日	不明	不明
		日本	不明	不明	翻訳		日→韓	鄭錫鎔	『大韓学会月報』	東京
		韓国	1908. 02. 03	哥崙布傳		創作	日	不明	不明	不明
378	血指印？	日本	不明	不明	偵探小説	翻訳	日→中	田鑄	改良小説社	上海
		中国	1908. 02. 29	(偵探小説) 幻夢奇冤					中国小説社	香港
			1909. 09 (旧曆)	(偵探小説) 血指印						
379	美利堅의 愛國幼年會	原作	(英) Allen Upward, 原作名不明？			外交小説	翻訳	英→日	徳富蘆花	民友社
		日本	不明	「？」『外交奇譚』？	翻訳		日→中	不明	新小説社	上海
		中国	不明	「？」『説部』？		翻訳	中→韓	靑生	『大韓毎日申報』	京城
		韓国	1908. 04. 29-05. 01	(新譯海外稗談) 美利堅의 愛國幼年會						
380	페터大帝？	原作	不明			歴史伝記	翻訳	？→日	不明	不明
		日本	不明	不明	翻訳		日→韓	崔南善	『少年』	京城
		韓国	1908. 11. 01-1909. 02	(少年史傳) (러시아를中興시킨) 페터大帝						
381	나폴레옹大帝傳？	原作	不明			歴史伝記	翻訳	？→日	不明	不明
		日本	不明	不明	翻訳		日→韓	公六 (崔南善)	『少年』	京城
		韓国	1908. 12-1910. 06	나폴레옹大帝傳						
382	厭世之富翁？	原作	(英) 霍爾克尼, 原作名不明			社会小説	翻訳	英→日	右野良原	不明
		日本	不明	不明	翻訳		日→中	陶祐	『著作林』	上海
		中国	1908	(社会小説) 厭世之富翁		不明	不明	不明	不明	不明
383	꽃에 관한 童話？	日本	不明	不明	童話寓言	翻訳	日→韓	崔南善	『少年』	京城
		韓国	1909. 05. 01	꽃에 관 (関) 한 童話		不明	不明	遜幼生	不明	不明
384	千古之波音？	日本	不明	不明	愛国小説 政治小説	不明	不明	天末散人	『漢口中西報』	武漢
		中国	1909. 05. 09	(愛国小説) 千古之波音		翻訳	日→中			
385	페수다못지傳？	原作	不明			歴史伝記	翻訳	？→日	不明	不明
		日本	不明	不明	翻訳		日→韓	一笑生	『大韓興学报』	東京
		韓国	1909. 05. 20	페수다못지傳						
386	마제란傳？	原作	不明			歴史伝記	翻訳	？→日	不明	不明
		日本	不明	不明	翻訳		日→韓			

		韓國	1909. 06. 20-07. 20	마제란傳	歴史伝記	翻訳	日→中	岳裔	『大韓興学报』	東京
387	아스氏의鐵血의生涯	原作	不明		歴史伝記					
		日本	不明	不明		翻訳	?→日	不明	不明	不明
		韓國	1909. 11. 20-1910. 01. 20	大統領때아스氏의鐵血의生涯		翻訳	日→中	吳惠泳	『大韓興学报』	東京
388	까리밭떡?	原作	不明		歴史伝記					
		日本	不明	不明		翻訳	?→日	不明	不明	不明
		韓國	1909. 11	(少年史傳) (이달나라를統一식헌)까리밭떡		翻訳	日→韓	崔南善?	『少年』	京城
389	나의 평생?	原作	(米) Helen Keller, <i>The Story of My Life</i> , 1903		歴史伝記					
		日本	不明	不明		翻訳	英→日	不明	不明	不明
		韓國	1910. 05. 15	나의 평생		翻訳	日→韓	崔南善	『少年』	京城
390	小説世界歴史?	日本	不明	不明	歴史伝記	不明	不明	不明	不明	不明
		韓國	1910. 06. 03-09. 30	(小説) 世界歴史		翻訳	日→韓	不明	『大韓毎日申報』	京城
391	三寸舌?	原作	(波斯) <i>Arabian Nights</i>		民話・民譚	翻訳	英?→日	不明	不明	不明
		日本	不明	不明		翻訳	日→韓	閔潯鎬	東洋書院	京城
		韓國	1913. 04. 15	三寸舌 (上)		翻訳	日	田村松魚	不明	不明
392	少年囚?	日本	不明	不明	社会小説	創作	日	田村松魚	不明	不明
		中国	1913. 10. 25-1914. 02. 25	(社会小説) 少年囚		翻訳	日→中	孟文翰	『法政学报』	北京
393	怪僧蹤?	日本	不明	不明	革命小史	創作	日	押川春浪	不明	不明
		中国	1913. 11. 01	(革命小史) 怪僧蹤		翻訳	日→中	饒紅	『小説時報』	上海
394	莽和尚?	原作	不明		革命小説 政治小説	翻訳	?→日	押川春浪	不明	不明
		日本	不明	不明		翻訳	日→中	縛猿	『民口雜誌』	桑港
		中国	1914. 07. 10	(俄国革命小説) 莽和尚		翻訳	日→中	北村蓑人	不明	不明
395	疑案?	日本	不明	不明	偵探小説	不明	不明	北村蓑人	不明	不明
		中国	1914. 10. 18-22	(偵探小説) 疑案		翻訳	日→中	馬二小説	『申報』	上海
396	제임스 와트?	原作	不明		歴史伝記					
		日本	不明	不明		翻訳	英→日	不明	不明	不明
		中国	1915. 03	제임스 와트		翻訳	日→韓	不明	『青春』	京城
397	古井之屍?	日本	不明	不明	偵探小説	創作	日	不明	不明	不明
		中国	1915. 08. 27-09. 19	(日本偵探案之二) 古井之屍		翻訳	日→中	北山	『時事新報』	上海
		中国	1916. 10	「(偵探小説) 古井之屍」 (『小説名画大観』)					文明書局・中華書局	
398	人力車꾼?	日本	不明	不明	短編小説	不明	不明	不明	不明	不明
		韓國	1915	「인력거꾼 (人力車꾼)」 『共進会(短編小説)』		翻案	日→韓	安国善	修文書館	京城
399	人生?	日本	不明	不明	民譚民話	不明	不明	不明	不明	不明
		韓國	1916. 03	人生		翻訳	日→韓	白大鎮	『新文界』	京城
400	羅袴相思記?	日本	不明	不明	不明	創作	日	清風堂主人	不明	不明
		中国	1917. 11	羅袴相思記		翻訳	日→中	鈴痴	『小説時報』	上海
401	偉人린컨?	原作	(米) 不明		歴史伝記					
		日本	不明	不明		翻訳	英→日	不明	不明	不明
		韓國	1917	위인린컨 (偉人린컨)		翻訳	日→韓	張道斌	白山書院	京城
402	하느님은 진리를 보신 다마는 기다리신다?	日本	不明	不明	民譚小説 宗教小説	不明	不明	不明	不明	不明
		韓國	1918. 10-12	하느님은 진리를 보신다마는 기다리신다		翻訳	日→韓	朱耀翰	『基督青年』	東京